

大 学 院 履 修 案 内

平 成 18 年 度
(2 0 0 6 年 度)

慶 應 義 塾 大 学

文 学 研 究 科

本案内は、大学院文学研究科における履修の方法、手続きと講義内容を記載したものです。学生諸君は本案内を熟読したうえで、履修する授業科目を申告してください。

履修申告を期日に行わない者は、退学の処置にすることがあります（学則 161 条）。

申告後の履修科目変更、追加、取消は認めません。又、履修届の閲覧も認めませんので「履修届」の本人用控え（コピー）を手許に残し、後日送付する確認表と合わせて確認の上、年度末まで必ず保管して下さい。この確認を怠った為に生じた不利益（申告漏れ、科目間違い等）については学校側は一切責任を持ちません。確認期間は送付後約一週間（詳しくは提示により指示します）で、この期間経過後は、確認を終了したものと見做します。

申告をしていない授業科目を受験しても一切無効であり、単位は取得できません。

目 次

学事関連スケジュール	3
一般注意事項	4
履修申告方法	14
履修要項	25
講義要綱	31
修士課程設置	
哲学・倫理学専攻	32
美学美術史学専攻	43
史学専攻	54
国文学専攻	63
中国文学専攻	71
英米文学専攻	74
独文学専攻	84
仏文学専攻	87
図書館・情報学専攻	91
博士課程設置	
哲学・倫理学専攻	101
美学美術史学専攻	103
史学専攻	106
国文学専攻	109
中国文学専攻	111
英米文学専攻	112
独文学専攻	115
仏文学専攻	118
図書館・情報学専攻	120
全研究科共通（修士・博士課程共通）	124
他大学大学院との相互科目履修に関する協定	175
関係規程抜粋	177
学位請求論文製本表紙見本	185

平成18年度（2006年度）学事関連スケジュール（三田）

春 学 期	4月3日(月) 12:30～	成績証明書発行開始	
	3日(月) 10:45～12:15	情報処理教育室設置講座ガイダンス (516番教室)	
	5日(水) 13:00～14:30	国際センター在外研修プログラムガイダンス (519番教室)	
	14:45～15:45	教育実習事前指導Ⅰ(大学院2年以上の2006年度実習予定者) (517番教室)	
	6日(木) 18:30～	情報資源管理分野(修士), 図書館・情報学専攻(博士)ガイダンス (314番教室) ※図書館・情報学分野(修士)は4月7日(金)に行います。	
	7日(金) 9:00～	大学院入学式〈西校舎ホール〉	
	12:00～13:20	履修案内等資料配布 (110番教室)	
	13:30～	文学研究科全体ガイダンス (教室は掲示します)	
	18:30～	アート・マネジメント分野ガイダンス (313番教室)	
	16:30～18:00	教職課程ガイダンス(大学院生対象) (517番教室)	
	18:10～19:10	教育実習ガイダンス(2007年度実習予定者) (513番教室)	
	8日(土)	春学期授業開始	
	14日(金) 8:45～16:45	用紙による履修申告日	
	14日(金) 8:30～終夜	Webによる履修申告期間	
	15日(土) 終夜～15:00まで	Webによる履修申告期間	
	17日(月) 8:30～15:00まで	Webによる履修申告期間	
	20日(木) 9:00～(予定)	学事Webシステム履修科目確認画面稼働開始	
	～21日(金) ～16:45	Webによる履修申告科目一覧提出締切日(学事センター)	
	23日(日)	開校記念日【休校】	
	28日(金)	在学料等納入期限(全納または春学期分納)	
	5月初め	履修申告科目確認表送付(本人宛)	
	上・中旬	健康診断	
	8日(月)～	修士課程2年生修了見込証明書発行開始 博士課程3年生単位取得退学見込証明書発行開始	
	8日(月)～10日(水)〈予定〉	履修エラー修正期間(期間は履修申告科目確認表に記載)	
	下旬	早慶野球戦	
	7月10日(月)・11日(火)	春学期補講日	
	15日(土)	春学期授業終了	
	18日(火)～26日(水)	春学期末試験(この期間の授業はありません)	
	27日(木)～9月21日(木)	夏季休業(8月9日(水)～8月15日(火) 三田キャンパス一斉休業)	
	秋 学 期	9月22日(金)～23日(土)	秋学期ガイダンス ※文学研究科のガイダンスはありません
25日(月)		秋学期授業開始	
29日(金)		9月学位授与式	
10月31日(火)		在学料納入期限(秋学期分納)	
下旬		早慶野球戦	
11月21日(火) 1・2時限		秋学期補講日①	
11月21日(火) 3時限～27日(月)		三田祭(準備, 本祭, 後片付けを含む)【休講】	
30日(木)		休学願提出期限	
12月23日(土)～1月5日(金)		冬季休業(12月28日(木)～1月5日(金) 三田キャンパス一斉休業)	
1月6日(土)		授業開始	
10日(水)		福澤先生誕生記念日【休校】	
16日(火)・18日(木)		秋学期補講日②	
22日(月)		秋学期授業終了	
23日(火)～2月5日(月)		秋学期末試験(この期間の授業はありません)	
31日(水) 10:00～11:30, 12:30～14:00		修士学位論文提出	
期		2月3日(土)	福澤先生命日
		上旬～3月下旬	春季休業
	下旬	博士課程3年生 在学期間延長申請	
	下旬もしくは3月上旬	修士論文面接	
	3月9日(金)	修士課程修了者発表	
	中旬	学業成績表送付(本人宛)	
	29日(木)	3月学位授与式	

注意事項

- ① 土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および大学事務の休業期間については、学事センター窓口業務を執り行いません。証明書発行等も行わないので注意してください。なお期日については、決定次第掲示によってお知らせしますので、掲示板をご覧ください。
- ② 諸般の事情により、日程・教室等の変更が発生することがあります。変更があった場合は、学内掲示板にてお知らせします。掲示に注意しなかったために、自身が不利益をこうむることがありますので、必ず注意してください。

一 般 注 意 事 項

I 学 生 証 (身 分 証 明 書)

1. 学生証は、諸君が慶應義塾大学大学院生であることを証明する身分証明書です。同時に慶應義塾大学学生健康保険互助組合員証、および本塾図書館入館票を兼ねています。
2. 学生証は次のような場合に必要となるので登校の際常に携帯しなければなりません。
 - (1) 本塾教職員の請求があった場合
 - (2) 各種証明書および学割証の交付を受ける場合
 - (3) 各種試験を受験する場合
 - (4) 通学定期券または学生割引乗車券を購入の際、およびそれを利用して乗車船し係員の請求があった場合
3. 再交付手続
学生証を紛失したり、汚損した場合は、写真（縦4cm、横3cm カラー光沢仕上げ）1枚を添えて学事センターで再交付を受けてください。新しい学生証は原則、当日発行いたします。ただし、機械のメンテナンス、故障等により当日発行できないこともありますのでご了承ください。
学生証の紛失、裏面シールの紛失については、手数料として2,000円が必要です。
4. 返 却
再交付を受けた後、前の学生証が見つかった場合や退学・修了などで離籍した場合はただちに学事センターへ返却しなければなりません。

II 掲 示 板

1. 学生諸君への通達事項は、すべて大学院校舎1階の掲示板に掲示されます。毎日機会あるごとに、掲示板に注意してください。掲示に注意しなかったために、諸君自身が非常な不利益を被ることもあります。
なお、他研究科・学部設置科目を履修した場合は、その科目を設置している研究科・学部の掲示板に注意してください。諸研究所、各センター設置科目・講座等については、各研究科掲示板の右側にある共通掲示板および学部共通掲示板をご覧ください。
2. 主な掲示事項
授業の休講・補講、時間割の変更、教室の変更等毎日の授業に直接関係ある緊急通達、各試験の実施要領、学事日程、呼出し等です。休講・補講、呼出しについては、インターネットに繋がるパソコンまたは携帯電話により学事 Web システム (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) においても確認できます。また、試験の実施要領、各種発表・通達の一部については塾生ページ (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>) において確認できます。

Ⅲ 試験・レポート・成績

1. 試験

随時授業時間内に行われます。別途指示がある場合には掲示されることがありますので、掲示板にも留意してください。

2. レポート

レポート提出は、教室および研究室で直接教員に提出する場合と、学事センターに提出する場合があります。学事センター窓口への提出を指示された場合は、学事センター指定のレポート提出用紙（2枚複写）に必要事項を記入し、添付してください（2枚とも）。レポート提出用紙は学事センター窓口および西校舎1階学部掲示板前に備えてあります。

3. 学位請求論文（修士論文・博士論文）

履修要項24ページを参照してください。

4. 成績通知

修士課程・博士課程とも学業成績表は3月中旬に本人宛に発送します（ただし、取得した科目の成績が成績証明書に記載されるのは、翌年度の4月以降となります。）

Ⅳ 諸 届

下記事項はすべて学事センターで取り扱います。

1. 休学願・退学届・就学届

本年度休学する場合は、11月末日までに指導教授の許可を得たうえで休学願を学事センターに提出してください。病気を理由に休学する場合は、医師の診断書を添付してください。休学期間は当該年度末（3月31日）までとします。休学が次の年度に及ぶ時は、改めて許可を得なければなりません。

休学および留学の期間が終了した場合は、速やかに就学届を提出してください。

なお、病気を理由に休学をしていた場合には併せて復学を認める医師の診断書を提出してください。

退学予定者は、退学届に本人・保証人の署名捺印の上、学生証を添えて指導教授の許可を得たうえで学事センター窓口へ提出してください。

2. 留 学

「研究科委員会が教育上有益と認めたときは、休学することなく外国の大学の大学院に留学することを許可することがある。」（学則第124条）

詳しくは学事センター文学研究科係に問い合わせてください。

3. 住所変更届（本人・保証人）、保証人変更届、改姓（名）届

各届とも学事センター所定の用紙に記入のうえ速やかに学事センターへ届け出てください。学生証の記載事項変更も同時に行ってください。郵送および電話による届け出は受け付けません。

必要書類

・住所変更届：在学カード

・保証人変更届：変更届，在学カード，誓約書（本人・保証人押印），保証人住民票

・改姓（名）届：改姓（名）届，在学カード，誓約書（本人・保証人押印），戸籍抄本，学生証再交付願

また、学生総合センター学生生活支援窓口へ提出する「学生カード」に新住所等を記入しても、正式な届とは見なされません。必ず学事センターに所定の届を提出してください。

なお、履修上の連絡、あるいはその他の重要な事柄の処理に際し、これらの変更届が出されない場合は、極めて重要な支障をきたすことがありますので、十分に注意してください。

V 各種証明書

証明書の発行、申込み、受け取りいずれの場合でも学生証が必要です。

在学料等が未納の場合、すべての証明書が発行できません。

1. 証明書自動発行機で即時発行する証明書（和文）

証明書	発行開始日	金額
在学証明書	4月3日 12時30分～	1通 200円
成績証明書	4月3日 12時30分～	
修士課程修了見込証明書	5月8日～	
履修科目証明書	6月1日～	
修士課程修了見込証明付成績証明書	5月8日～	1通 400円
学割証（JR 各社共通）		無料
健康診断証明書	6月中旬～年度内	1通 200円

※料金は改定されることがあります。

(1) 稼働時間

学事センター事務室内発行機：学事センター事務取扱い時間内

南校舎 1階 設置発行機：9時～20時 [授業期間外の土曜日および休日・大学休業日は除く]
メンテナンス、故障等により、証明書発行機を停止することがあります。使用する時期や枚数に注意し、あらかじめ早めに準備してください。

(2) 学割証は1人1年間10枚まで発行。有効期限は発行日から3か月以内（有効期間内でも学籍を失った場合は無効）。各種学生団体の課外活動に必要な学割証は学事センター窓口に出してください。なお、定期健康診断を未受診の場合には、学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）の発行はできません。

(3) 各種証明書等で厳封を必要とする場合には、学事センター窓口に出してください。（自動発行機で発行した証明書は厳封できません。）

(4) 健康診断証明書は6月以降、定期診断受診者を対象に発行されます。なお、奨学金申請等で6月中旬以前に発行が必要な者は保健管理センター三田分室受付で相談してください。

2. 学事センター窓口で即時発行する証明書（英文）

証明書	発行開始日	金額
英文在学証明書	4月3日 12時30分～	1通 200円
英文成績証明書	4月3日 12時30分～	
修士課程英文修了見込証明書	5月8日～	

※料金は改定されることがあります。

※2003年4月以降の入学者は証明書自動発行機で発行できます。その他の学生については従来どおり窓口での発行となります。ただし、2004年4月以降、窓口で一度英文証明書の申請・交付を受ければ、その翌日から証明書自動発行機での発行が可能になります。

3. 学事センター窓口で日数を要して発行する証明書

前記以外の証明書・文書等（例：司法試験用単位取得証明書，公認会計士用証明書，英文履修科目証明書，他大学院受験等のための形式指定の調査書等）の発行に関しては，余裕をもって学事センター窓口で相談のうえ申請してください。

なお交付には和文書類は申請後標準3日，英文書類は申請後標準1週間日数を要します。

VI 学事センターの窓口

1. 学事センター事務取り扱い時間

月～金曜日……8時45分～16時45分

※土曜，日曜，祝日，義塾が定めた休日および大学事務の休業期間は閉室となります。

※事務取り扱い時間を変更する場合，および事務室の閉室については，掲示等でお知らせします。

2. 学事センター窓口業務

- (1) 学籍・成績・履修に関すること
- (2) 授業・試験・レポート等に関すること
- (3) 時間割に関すること
- (4) 休講・補講に関すること
- (5) 追加試験の申込み（学部設置の科目）
- (6) 休学願・国外留学申請・退学届・住所変更届・保証人変更届・改姓（名）届等
- (7) 学生証の発行
- (8) 成績証明書・在学証明書等各種証明書の発行（和文はおもに証明書自動発行機）
- (9) 教室に関すること
- (10) 通学証明書の発行

落し物・学生カード提出は学生総合センター学生生活支援窓口が取り扱います。

VII 教員を訪ねる場合

授業のある日に研究室または教員室を訪ねてください。

○専門科目担当（三田）専任教員（教授・助教授・専任講師・助手）……研究室（三田研究室棟）

○他地区専任教員および塾外からの出講者（講師）……教員室（南校舎2階）

VIII 学生総合センター窓口

学生総合センターには，主に課外活動・課外教養・奨学金および学生健康保険互助組合を担当する学生生活支援窓口，就職進路を行う就職・進路支援窓口があります。ここでは，学生生活を送るうえで何かと関係深い学生総合センターについて，窓口業務を中心に紹介します。

学生生活支援

○学生談話室 A・B の使用申込み受付

授業・ゼミ以外の会合のために学生談話室 A・B を使用したい時は，使用希望日の4日前までに申し込んでください。休日の使用はできません。

○山食・西校舎学生食堂ホール・北館学生食堂の使用申込み受付

公認学生団体・教職員・OB・研究会等が、山食・西校舎学生食堂ホール・北館学生食堂をパーティー等で利用したい場合は、学生生活支援窓口で使用申込みをし、予約してください。さらに、予約後1週間以内に学内集会届を提出し、許可を得る必要があります。学内集会届の提出を怠った場合、予約は取り消されますので注意してください。なお、日曜日・祝日は利用できません。

○学外行事届の受付

公認学生団体や研究会で、合宿、コンサート、パーティーなどの学外行事を行う場合には、その4日前までに届け出てください（学生教育研究災害傷害保険の項参照）。なお、団体割引、減税証明書等の必要があれば申し出てください。合宿等で団体割引が必要な場合についても学生生活支援窓口で受け付けています。

○学内における掲示・配布

ポスターやチラシ・パンフレット等を学内で掲示・配布する場合は、学生生活支援窓口へ届け出て、場所等の指示を受けることが必要です。

○備品使用申請の受付

公認学生団体で、ステッカー、ワイヤレスマイク、塾旗、水差、椅子、机等を借用したい場合は、使用希望日の4日前までに申請してください。

○車両入構申請の受付

塾生の車両入構は認められていませんが、やむを得ず車両入構の必要がある場合は、入構希望日の4日前までに申請してください。

○学生ラウンジの使用

南校舎1階の学生ラウンジは、個人での利用ができます。開室時間は8:45～21:00です。室内での飲食はできません。

○伝言板および「DENGON」の利用

学生ラウンジ横の黒板および、第一校舎南西角の伝言板「DENGON」は、塾生間の連絡用として自由に利用してください。A4用紙1枚のみ掲示可能ですが、必ず伝言者の研究科・学年・氏名・連絡先を明記してください。

○その他

学生総合センター「大学生生活懇談会」では見学会、講演会、討論会等の催物を随時行っていますので、積極的に参加してください。また、学生生活支援窓口には、財団法人大学セミナーハウス、展覧会の招待券・割引券等も置いてあります。

遺失物は学生生活支援窓口で取り扱っています。

○奨学金

学生生活支援窓口において、概ね4月初旬から奨学金案内を配布し、出願受付を行います。

●慶應義塾大学大学院奨学金〔給費〕

5月下旬に出願受付を行います。募集日程は西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

●日本学生支援機構奨学金〔貸費〕

4月中旬に出願受付を行います。第一種（無利子）と、第二種（きぼう21プラン）（有利子）があります。その他に家計急変者を対象とした緊急採用（第一種）・応急採用（第二種）があります。

●地方公共団体，社・財団法人等の各種奨学金

募集は主に4・5月に行います。募集日程はその都度，西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

●指定寄附奨学金〔給費〕

募集は主に4月に行います。募集日程はその都度，西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

○奨学融資制度（奨学金付き学費ローン）

学生諸君の学費の調達の手助けになるよう配慮した制度で，学生本人に金融機関が低金利で学費を直接貸し出しする方式です。在学生であれば，誰でも応募することが可能です。在学中の借りに伴う利子は，規程に従い，慶應義塾が奨学金として給付します。

入学年度等により，適用制度が異なりますので，詳細は学生生活支援窓口までお問い合わせください。

○学生健康保険互助組合

保険証を提示し，病院や診療所で受診した場合，健康保険が適用された自己負担分について，学生健保から医療費給付が受けられます。給付を受けるための手続きは，医療機関によって異なりますので，以下に従って手続きしてください。なお，給付方法は銀行振込となりますので，口座登録が必要です。

(1) 慶應病院で受診した場合

病院で診察を受ける際，保険証と学生証を提示してください。また「医療給付金振込口座届」を学生生活支援窓口へ提出し，振込口座を登録してください。通院は受診月の翌月20日に，入院は翌々月20日に，給付金が振り込まれます。

(2) 一般病院で受診した場合

学生生活支援窓口においてある「医療費領収証明書」に，病院で1か月ごとの診療内容を記入してもらい，塾生記入欄には各自記入して，学生生活支援窓口へ提出してください。ただし，「学生氏名」「保険点数または保険適用金額」「負担割合」の3点が明示された領収証が発行されている場合は領収証の添付でかまいませんが，必ず「医療費領収証明書」に保険者番号，傷病名等を記入して提出してください。受診月を含め，4か月以内に提出されない場合は無効となります。振込日は証明書を提出した月の翌月20日です。

組合ではこのほか，契約旅館に対する宿泊費補助や，海の家，スキーハウスの開設などを行っています。さらに，日吉塾生会館内にトレーニングルームも設置しています。詳しくは，入学時に配付した「健保の手引き」（学生総合センター窓口にも置いてあります）をご参照ください。

就職・進路支援

就職担当は，就職活動に関するさまざまな情報を収集して提供しています。企業からの求人票・説

明会案内をはじめ、会社案内、OB・OG 情報などを、南校舎地下1階の就職担当事務室、1階の就職資料室にて、自由な利用に供しています。就職担当のホームページには求人企業一覧やさまざまな説明会案内などを掲載しています。

また就職活動支援の一環として、1年生を対象に10月から2月にかけて多様な専門家等による講演会、就職ガイダンス、公務員志望者のための説明会、OB・OG や内定者によるパネルディスカッションなどを開催しています。

就職担当は就職活動の進め方を解説した『就職ガイドブック』を作成し、修士1年生全員に配布しています。また皆さんが就職活動をするなかでわからないこと、困ったことがあった場合など、いつでも個別相談に応じています。

就職担当を、皆さんの進路決定や就職活動におおいに利用してください。

学生相談室（西校舎地下2階）

学生相談室は、学生生活を送っていく中で出会うさまざまな事柄について、気軽に相談できる場所です。相談には、可能な限りその場で応じますが、原則として予約制となります(電話予約可)。相談内容については、固く秘密を守ります。友人や家族と一緒に来談されても結構です。また、相談内容によっては、必要に応じて他部署・他機関への紹介も行います。

また、学生相談室では、カウンセリングだけでなくより豊かで充実したキャンパスライフをおくれるよう、さまざまなグループ企画を用意しています。参加ご希望の方はお問い合わせください。

学生総合センター窓口取扱時間

—学生生活支援、就職・進路支援—

月～金曜日……8時45分～16時45分 ※都合により閉室することがあります。

土曜日……………閉室

—学生相談室—

月～金曜日……9時30分～16時30分

土 曜……………閉室

昼休み……………11時30分～12時30分

学生教育研究災害傷害保険について

皆さんの教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために、大学で保険料の全額を負担し、日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。この保険の適用を受ける「教育研究活動中」とは次の場合をいいます。

① 正課を受けている間

講義、実験・実習、演習または実技による授業（総称して以下「授業」といいます）を受けている間をいい、次に掲げる間を含みます。

イ. 指導教員の指示に基づき、卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。

ただし、もっぱら被保険者の私的生活にかかわる場所において、これらに従事している間を除きます。

ロ. 指導教員の指示に基づき、授業の準備もしくは後片付けを行っている間、または授業を行う場所、大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

② 学校行事に参加している間

大学の主催する入学式，オリエンテーション，卒業式などの教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

③ ①②以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有，使用または管理している施設内にいる間。ただし，寄宿舍にいる間，大学が禁じた時間もしくは場所にいる間，大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

④ 学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続きにより，大学の認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし山岳登山やハングライダーなどの危険なスポーツを行っている間を除きます。

保険金は本人（被保険者）の申請に基づき支払われますので，上記活動中に万一事故にあった場合は，学生生活支援窓口で相談のうえ，所定の手続きを行ってください。また，本保険の適用を円滑に行うため，ゼミ合宿を学外で行う場合，および学内学生団体が学外で活動する場合は，その都度「学外行事届」を提出してください。

その他この保険に関する詳細については，直接学生生活支援窓口で尋ねてください。

任意加入の補償制度について

任意加入の補償制度としては，保険と共済の2つがあり，加入希望の場合は直接それぞれに申し込むかたちになっています。

「学生総合補償」保険は，(株)慶應学術事業会（慶應義塾関連会社）に，「学生総合共済」保険は慶應生活協同組合に，資料請求してください。

連絡先 (株)慶應学術事業会 Tel. 03-3453-6098

慶應生活協同組合 Tel. 045-563-8489

学生カード・大学に対する要望カードの提出について（学生カードの提出によって住所変更の届けとすることはできません。）

次に従って提出してください。

1. 提出学年

全学生

2. 提出方法

提出日：4月末日まで

提出先：学生総合センター学生生活支援窓口

3. 記入上の注意

学生カードは諸君の在学中に活用する資料ですので必ず提出してください（やむをえず提出日に提出できなかった場合でも，後日必ず学生生活支援窓口に提出してください。）

IX 定期健康診断について

定期健康診断は、学校保健法に基づいて全学年を対象に年1回実施しています。

慶應義塾大学学則第179条にも「学生は毎年健康診断を受けなければならない」と定められていますので、必ず受診してください。

未受診の場合には、「体育実技」の履修および健康診断証明書・学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）の発行はできません。

X 緊急時における授業の取り扱いについて

交通機関ストライキ、台風・大雨・大雪・地震などの各種自然災害により鉄道等交通機関の運行が停止した場合や、政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合などの授業の取り扱いは次のとおりとします。

1. 鉄道等交通機関運行停止時の授業の取り扱い

【対象事由】

1. 交通機関のストライキ
2. 台風・大雨・大雪・地震などの各種自然災害によるもの

【対象路線】

・山手線 ・中央線（東京―高尾間） ・京浜東北線（大宮―大船間） ・東急（電車に限る）

のいずれか1路線の全区間または一部区間において運行停止となった場合は下記の通りとします。

【時間・対応策】

1. 午前6時30分までに運行を再開した場合は、平常どおり授業を行います。
2. 午前8時までに運行を再開した場合は、第2時限から授業を行います。
3. 午前10時30分までに運行を再開した場合は、第3時限から授業を行います。
4. 正午までに運行を再開した場合は、第4時限から授業を行います。
5. 正午を過ぎても運行が再開されない場合は、当日の授業を休講とします。

【その他】

授業開始後に運行停止となるような場合は、状況により授業の短縮や早退など別途措置を講じません。掲示や構内放送、下記のホームページによる大学からの指示に従ってください。

<http://www.gakuji.keio.ac.jp/index.html>

※交通機関の運行状況に係わらず、大規模な災害や事故等が発生した場合の授業の取り扱いについては、状況によりその都度指示することとします。

2. 政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合の授業の取り扱い

首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震発生が予想され、政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合の授業の取り扱いは下記のとおりとします。

[1] 「東海地震注意情報」が発せられた場合、ただちに全学休校とします。

[2] 地震が発生することなく「東海地震注意情報」が解除されたときの対応は、交通機関運行停止時の場合に準じます。

XI 早慶野球戦が行われる場合の授業について

授業は1時限のみとし、2時限以降は応援のため休講とします（3回戦以降もこれに準じます）。

ただし美学美術史学専攻（アート・マネジメント分野）および図書館・情報学専攻（情報資源管理分野）については、通常通り授業を行います。

雨天等により試合が中止になる時は、神宮球場の判断によります。

神宮テレフォンサービス TEL 03-3236-8000

履修申告方法

第1 履修申告について

履修申告は、指導教授の許可を得た上で指定された期日に必ず行うようにしてください。

1 履修申告方法について

履修申告は WEB もしくは申告用紙で行ってください。履修申告のしかたについては後述の「**学事 WEB システムによる方法**」および「**履修申告用紙による方法**」を参照してください。

2 学事 WEB システムによる方法

(1) はじめに

学事 WEB システムを使って履修するためには、新生はまず資料配布時に配られたパスワードを使って、インターネットにアクセスしてください。

(2) 学事 WEB システムによる履修申告の日程および URL

日程：4月14日（金）8時30分～終夜、15日（土）終夜～15時、17日（月）8時30分～15時
WEB による履修申告システムの URL は、<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/> です。

(3) 学事 WEB システムによる履修申告すすめ

履修申告は学事 WEB システムによる申告か、履修申告用紙による申告のできる限りどちらか一方で行ってください。

学事 WEB システムによる履修申告の大きなメリット

- ・申告期間中であれば、いつでも、何回でも履修の修正が可能
- ・期間内であればエントリーされている科目を画面で確認が可能

(4) その他

操作方法については、<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/> の画面内にマニュアルを用意してあります。また、後述「学事 WEB システムマニュアル」を参照してください。

3 履修申告用紙による方法

履修申告用紙は、下記の期日に必ず提出してください。

提出日：4月14日（金）8時45分～16時45分 学事センター（修士・博士同日）

なお、履修申告用紙（マークシート）の記入については、後述の説明を参照してください。

履修申告用紙提出後の履修科目の変更・追加・取消は認められません。また履修申告用紙の閲覧、履修科目の照会にも応じませんので、各自提出する履修申告用紙の控え（コピー）を必ず手元に残すようにしてください。

（学事 WEB システムによる申告であれば、履修の修正と確認が可能です。）

4 注意事項

- (1) 履修申告を期日に提出しない者は、退学の処置にすることがあります（学則第161条）。
- (2) 履修申告用紙提出後の科目登録の確認を5月上旬頃行います。学事センターから履修申告科目確

認表を郵送しますので、手元に残した履修申告用紙の控えと科目名，担当者名，曜日，時限，分野等を必ず確認のうえ，年度末まで大切に保管してください。履修の確認は修正期間（5月中旬予定）までに行い，修正すべき点または疑問点があれば，修正期間に必ず申し出なければなりません。この確認を怠ったために生じた不利（申告漏れ，科目間違いなど）は各自の責任となります。

- (3) 時間割は変更することがありますので，掲示を確認のうえ提出日直前に記入してください。
- (4) 履修申告をしていない授業科目を受験しても一切無効ですので，単位は取得できません。
- (5) 留学（学則 124 条）が認められた者および予定の者の履修申告については，学事センター文学研究科係まで問い合わせてください（P. 27「留学について」参照）。

第2 履修申告にあたっての注意事項

1 登録番号

1つの授業科目には1つの登録番号が付いています。

集中講義，外国語教育研究センター設置の口語外国語および実験を伴う科目等で複数の曜日・時限にわたって開講している授業科目についても，必ず登録番号は1か所のみ付いていますので，その登録番号で申告することで，他の時限についても登録されます。この場合，番号の付いていない曜日・時限に別の科目を登録することはできませんので注意してください。

早稲田大学大学院，学習院大学大学院，および上智大学大学院設置の科目は，P. 23「他大学大学院との相互科目履修」を読んで，別途履修申告をしてください（修士課程のみ）。

2 A欄・B欄について

履修申告欄は，A・B欄によって構成されています。どちらの欄で申告するかは以下のとおりです。ただし，同一科目をA欄およびB欄の両方で申告する必要はありません。

〈A欄に記入する科目〉

所属課程・所属専攻設置の科目

〈B欄に記入する科目〉

上記以外の科目（認定科目，研究所等設置科目，自由科目として申告する科目）

なおB欄で申告する際は，「3分野表」のB欄分野番号を指定の上，登録してください。

3 分野表

修士課程在籍者			
種類	分野番号	B欄分野番号	A欄・B欄の区別
文学研究科 修士課程所属専攻 設置科目 (履修案内 p. 32～参照)	01-01-01	—	A欄で申告すると自動的に01-01-01の分野で登録されます。
上記以外の認定科目 (指導教授の許可が必要です)	01-02-01	12	B欄でB欄分野番号を指定した上で登録してください。
自由科目	09-01-01	99	
他大学交流科目	01-03-01	—	他大学大学院設置科目履修申告用紙に記入してください。

博士課程在籍者			
種類	分野番号	B欄分野番号	A欄・B欄の区別
文学研究科 博士課程所属専攻 設置科目 (履修案内 p. 101～参照)	01-01-01	—	A欄で申告すると自動的に01-01-01の分野で登録されます。
上記以外の認定科目(指導教授の許可が必要です)	01-02-01	12	B欄でB欄分野番号を指定した上で登録してください。
自由科目	09-01-01	99	

〈認定科目〉(B欄分野番号12)

研究上適当と認められた場合に限り，大学院学則の修士は11条，博士は18条に定める以外の科目をこの分野で登録出来ます。課程修了に必要な単位として計算されますので，この登録には指導教

授の許可が必要となります。履修申告を行う時に、各科目の科目名欄に承認印*が必要です。許可が無い場合は、自由科目として登録になります。

〈自由科目〉(B欄分野番号99)

課程修了に必要な単位としては計算されません。

4 指導教授の承認印について

履修申告用紙の指導教授印欄に指導教授の承認印が必要です。WEBによる履修申告をした場合、画面を印刷し、その用紙の所定欄に承認印を受けたものを期日までに提出してください。承認印のないものは受けつけません。

*マークシートの場合は、承認印がマーク欄にかからないようにしてください。

B欄			B欄			B欄			B欄			B欄			B欄			B欄		
登録番号	分野	登録番号	分野	登録番号	分野	登録番号	分野	登録番号	分野	登録番号	分野	登録番号	分野	登録番号	分野	登録番号	分野	登録番号	分野	
000001	1	000002	2	000003	3	000004	4	000005	5	000006	6	000007	7	000008	8	000009	9	000010	10	
000011	11	000012	12	000013	13	000014	14	000015	15	000016	16	000017	17	000018	18	000019	19	000020	20	
000021	21	000022	22	000023	23	000024	24	000025	25	000026	26	000027	27	000028	28	000029	29	000030	30	
000031	31	000032	32	000033	33	000034	34	000035	35	000036	36	000037	37	000038	38	000039	39	000040	40	
000041	41	000042	42	000043	43	000044	44	000045	45	000046	46	000047	47	000048	48	000049	49	000050	50	
000051	51	000052	52	000053	53	000054	54	000055	55	000056	56	000057	57	000058	58	000059	59	000060	60	
000061	61	000062	62	000063	63	000064	64	000065	65	000066	66	000067	67	000068	68	000069	69	000070	70	
000071	71	000072	72	000073	73	000074	74	000075	75	000076	76	000077	77	000078	78	000079	79	000080	80	
000081	81	000082	82	000083	83	000084	84	000085	85	000086	86	000087	87	000088	88	000089	89	000090	90	
000091	91	000092	92	000093	93	000094	94	000095	95	000096	96	000097	97	000098	98	000099	99	000100	100	

第3 学事 WEB システムマニュアル

学内のパソコンからは無論のこと、自宅や海外からでもインターネットに繋がるパソコンがあれば、学事 WEB システム（以下 WEB システム）を利用して履修申告をすることができます。

WEB システムを利用するための ID（学籍番号）とパスワードは、入学時に学生証と一緒に配布されます。このパスワードは途中変更は可能ですが、卒業するまでの間、使用することになります。全て個人管理になるので忘れないように十分注意してください。

WEB システムには以下の5つの機能があります。

- ・履修申告
- ・登録済科目確認
- ・休講補講情報
- ・パスワード変更
- ・メールアドレス変更
- ・学生呼出情報

WEB システムを利用すれば、履修申告期間中に履修登録の修正を何度もすることが可能です。また、履修申告期間終了後は、ある一定の期間で自分の登録した科目を Web 上で確認することができます。さらに、全キャンパスの休講補講情報を、パソコンや携帯電話を使って確認することができます。

…注 意…

- ・学事 Web システムは、4月3日（月）から休講情報の確認ができます。必ず4月7日（金）までにログインできることを確認してください。
- ・もし学事 Web システムのパスワードを忘れてしまった場合には、4月7日（金）までに学事センターでパスワード変更申請の手続きを行ってください。（2005年度以前に入学した在学生の初期パスワードは、変更していない場合、2006年3月に送付した学業成績表に印字されています。）
- ・学内のパソコンを利用するための Windows パスワードを忘れてしまった場合には、三田インフォメーションテクノロジーセンター（三田 ITC：大学院棟地階）で変更申請の手続きを行ってください。
- ・学事 Web システムのユーザー名とパスワードは、三田 ITC 発行の Windows アカウントのユーザー名とパスワードとは異なりますので注意してください。

学事 Web システムのユーザー名：学籍番号 Windows アカウントのユーザー名：f*****

1 履修申告

WEB システムを利用しての履修申告日程と WEB システムの URL は以下の通りです。

日程：4月14日（金）8：30～終夜、15日（土）終夜～15：00、17日（月）8：30～15：00

学事 WEB システムの URL：http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/

※学事 WEB システムは、保守のため午前4時から1時間程度利用できません。

① 学事 Web システムトップページ

上記 URL にアクセスし [ブラウザ用] をクリックしてください。履修申告は「Internet Explorer」や「Netscape」などの標準ブラウザを使用してください。携帯端末用メニューからは操作できません。

② 学事 Web システムブラウザ用トップページ

学事 Web システムの操作方法（特にログインできない場合などの解説）や、よくある質問についての回答などは、このページに用意されています。[ログイン画面へ] ボタンをクリックしてください。

③ ログイン

「ID (学籍番号)」と、事前に通知したパスワードを入力し、[ログイン] ボタンをクリックしてください。画面がうまく表示されない場合は、前述②の画面の「ログインできない時は」のリンク先で、ブラウザの設定方法等を確認してください。

※この画面以降ブラウザの「進む」「戻る」ボタンは使用しないでください。

※複数のブラウザを起動して同時にログインしないでください。

④ トップメニュー画面

「メールアドレス登録・変更」で、必ず履修申告前に登録されているメールアドレスを確認してください。履修登録後に自動送信される受付確認メールの宛先となります。必要に応じ、メールアドレスを登録・変更してください。変更する場合には、新たに登録するメールアドレスを2箇所入力（再入力欄にも同じものを入力）し、[登録] ボタンをクリックしてください。メールアドレスの登録間違いにより、受付確認メールが届かないケースが多発しています。

学事 Web システムには大学配付のメールアドレス（*****@mita.cc.keio.ac.jp 等）を登録し、個人所有のメールアドレスに送りたい場合は転送設定を利用してください。

※メールアドレスのユーザー名（例：「*****@mita.cc.keio.ac.jp」の*****の部分）は変更できません。

またユーザー名（例：「*****@mita.cc.keio.ac.jp」の*****の部分のみ）登録しても届きません。すべて入力してください。

⑤ 履修申告メイン画面

[履修申告] ボタンをクリック後、[Web による履修申告上の注意] をクリックし、必ず注意文を熟読してください。その後、[履修申告メイン画面へ進む] ボタンをクリックしてください。

⑥ 科目の選択

(a) と (b) の2通りの方法で科目の選択ができます。

(a) 時間割から科目を選択する場合

履修申告メイン画面で、[時間割から選択] ボタンの右側のドロップダウンリストから設置学部・学科・学年を選択してから、[時間割から選択] ボタンをクリックしてください。（初期設定では、所属する学部・学科および学年が自動的に指定されています。）

科目選択画面（時間割選択）が表示されますので、曜日時限毎に科目および分野をドロップダウンリストから選択し、最後に[選択を終了]を押してください。

(b) 登録番号から科目を選択する場合

[登録番号で選択] ボタンをクリックしてください。科目選択画面（登録番号）が表示されますので、時間割表に記載されている5桁の登録番号を入力してください。[科目名を確認] ボタンを押し、<科目情報>欄に表示される科目名、曜日時限などの情報を確認したうえで、最後に [選択を終了] を押してください。

※(a)(b) いずれの方法も、分野（A・B欄）の選択はマークシート用紙による記入と同様です。

※(a)(b) の手順は、連続して行うことができます。

※「すでに登録されています」と表示される「研究会」については過年度分です。新学年分の研究会は新たに登録しなければなりません。

※同一の曜日時限に春学期と秋学期の科目を一度に選択することはできません。その場合、一度 [選択を終了] を押し、再度時間割または登録番号から科目を選択してください。

⑦ 選択した科目の確認

⑥ で選択した科目が、一覧表示されますので確認してください。ただし、[登録] ボタンを押すまで有効になりません。（各科目の右端の<状態>欄に「未登録」と表示されています。）

⑧ 選択した科目を取り消す場合

⑦ の画面から、取り消したい科目の登録 No. の左側にチェックをつけ、[選択の取消] ボタンをクリックしてください。その後、一覧表から削除されたことを確認してください。ただし、[登録] ボタンを押さなければ完全に削除されません。

⑨ 選択した科目の登録

選択されている科目を確認したら、画面一番下の [登録] ボタンを押してください。

⑥ (選択) および ⑧ (取消) で行った内容はこの [登録] ボタンを押すまで有効になりません。

⑩ 登録結果表示の確認

[登録] ボタンを押すと、選択した科目について、曜日時限の重複や不足科目等のエラーチェックが行われ、その結果が表示されます。各科目の「エラー」の欄にメッセージが表示されていないか確認してください。(エラーメッセージの詳細については、⑥の「履修申告メイン画面」のSTEP 2の右側にある「エラーの詳細説明」をクリックし、参照してください。)

次に、各科目の右端の「状態」欄が「登録済」と表示されていることを確認してください。エラーがある場合は、「状態」欄が「保留中」と表示されています。**「保留中」と表示されている科目は履修申告期間終了後に登録が取り消されます。**この画面を控としてプリントアウトしておくことをお勧めします。

登録内容を変更したい場合は、[履修申告画面へ戻る] ボタンをクリックし、⑥からの手続きを再び行ってください。登録内容がこれで良ければ、[履修申告を終了する] ボタンを押してください。

※ここで Web ブラウザーを終了しないでください。(ブラウザーの右上の×印をクリックして閉じないでください。)

⑪ 受付確認メール

[登録] ボタンを押した後、正常にログアウトする際、④で登録されているメールアドレスに受付確認メールが自動送信されます。

④でメールアドレスの登録を行っていない場合は、今回の受付確認メールのみの一時的な送信先を指定できる画面が表示されますので、メールアドレスを入力し [指定する] ボタンを押してください。受付確認メールの送信先が表示され、そのアドレス宛に送信されます。

メールアドレスの間違いにより受付確認メールが届かないことがあります。入力する際は注意してください。(この場合、メールアドレスは登録されません。)

今回のみの一時的な指定を行わず ④で登録を行っているメールアドレスに送信する場合は、[指定しない] ボタンを押してください。なお、hotmail (@hotmail.com) のアドレスを指定した場合、受付確認メールが文字化けすることがあります。また、携帯電話のメールアドレスを指定すると正しく送信されない場合があります。

⑫ ログアウト

[ログアウト] ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

2 登録済科目の確認

履修申告で正しく登録された科目は、以後ある一定の期間で学事 Web システムを利用して再度確認することができます。確認できる日程や詳細などは塾生ページ (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>) に掲載します。ただし、5月上旬に本人宛送付する「履修申告科目確認表」で必ず最終確認を行ってください。

前述 1 の ④ (トップメニュー画面) までは、同様の操作です。画面上の [登録済科目確認] ボタンを押して、履修申告科目を確認してください。

3 休講・補講情報の確認

学事 Web システムから、全キャンパスの休講・補講情報を確認することができます。またこのサービスは、携帯電話からも同様に見ることができます。

ただし、公式の情報は科目設置の各キャンパスの掲示板とします。休講・補講情報は変更することがありますので、必ず直前に掲示板を確認するようにしてください。

代替講義日の休講は、通常講義と異なり学事 Web システムの休講情報では対応していませんので、塾生ページ (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>) および各キャンパスの学部掲示板で確認してください。

[ブラウザー編]

① 1の①から③までを参照して、学事 Web システムにログインしてください。

② 1の④の画面 (トップメニュー画面) から [休講補講情報] ボタンをクリックしてください。

③ 自分の履修科目、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。また、検索期間の選択も同様に行ってください。選択が終了したら、[休講・補講情報を検索する] ボタンをクリックしてください。

④ 休講・補講情報を確認してください。科目名のヘッドに【取消】が入っているのは、休講が取り消された

(したがって通常通り実施する) 科目となりますので注意してください。確認後は [ログアウト] ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

[携帯端末編]

- ① 学事 Web システムの URL (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) を携帯電話の画面から入力し、前述 1 の①の画面上で [携帯端末用メニュー] を選択してください。以後、Web 休講補講情報を繰り返して利用する場合には、上記の学事 Web システムの URL をブックマーク等に登録しておくとう便利です。
- ② サーバの選択 ([i-mode 専用] もしくは [i-mode 以外の携帯端末] のいずれかを選択してください)
- ③ [サーバー 1] もしくは [サーバー 2] のどちらかを選択してください。選択は任意です。
- ④ 「学籍番号」と (1) で説明のあった「学事 Web システムパスワード」を入力し、[ログイン] ボタンを押してください。
- ⑤ この画面から [休講情報] [補講情報] ボタンを押してください。
※パスワードの変更もこの画面からできますが、ここでは説明を省きます。後述の 4 を参照してください。
- ⑥ 自分の履修科目の休講・補講情報、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。検索期間は検索日から 1 週間後までの情報が表示されます。休講・補講情報の確認が終了したら、[検索画面へ戻る] ボタンを押してください。

4 パスワードの変更

初期パスワードは紙面に印刷されているため、セキュリティ上パスワードを変更することを推奨しています。以下の操作で行ってください。

- ① 前述 1 の④の画面 (トップメニュー画面) から、[パスワード変更] ボタンをクリックしてください。
- ② 「現在のパスワード」を入力し、「新パスワード」を 2 箇所入力後 (再入力欄にも同じものを入力する)、[パスワード変更] ボタンをクリックしてください。

【注意】

パスワードは英数字半角で入力してください (大文字/小文字を区別します)。生年月日や学籍番号など、予想できそうなパスワードは設定しないでください。また変更したパスワードは、必ず忘れないようにしてください。特に、学内のパソコンを利用するための Windows アカウントのパスワードと混同しないよう注意してください。

第4 履修申告用紙（マークシート）の記入について

（記入には HB か B の鉛筆を使用）

1 記入時の注意事項

研究科，専攻（分野），学年，氏名，学籍番号および提出日を記入して下さい。学籍番号は数字で記入するとともに，該当する数字をマークしてください。修士または博士どちらかに○印をつけてください。なお，学科欄の記入は必要ありません。

- (1) 登録番号は，時間割に記載されている5桁の数です。科目名・教員名・番号が正しく書けていてもマークを間違えると登録されません。
- (2) 一度記入した科目の訂正・変更等は，消しゴムを使用せず，無効マーク欄を塗りつぶして改めて記入してください。
- (3) 提出期限外の受付は一切できません。
- (4) 提出前に必ずコピーを取ってください。

2 履修科目の記入方法

(1) A 欄記入上の注意

- ア 時間割に記載されている曜日時限・科目名・教員名・登録番号を記入します。
複数の教員が担当する科目は時間割上段に記載されている教員名を記入します。
- イ 形態〔春・秋・通年〕を○で囲み，登録番号をマークします。

(2) B 欄記入上の注意

- ア 時間割に記載されている曜日時限・科目名・教員名・登録番号を記入します。
複数の教員が担当する科目は時間割上段に記載されている教員名を記入します。
- イ 第2「3分野表」(p.16)を参照しB欄分野番号を記入します。
- ウ 形態〔春・秋・通年〕を○で囲み，登録番号・B欄分野番号をマークします。

(3) A・B欄共通の注意

科目名・教員名・登録番号などを記入しても，マークの塗り忘れがあると科目は登録されませんので注意してください。

(4) 無効マーク

無効マークをマークすると，その枠内の登録内容について無効にすることができます。訂正は消しゴムを使用して修正することができますが，跡が残ったり，黒くこすれたりした場合は，無効マークを利用してください。

(5) 履修申告用紙の再交付について

履修申告用紙提出前の科目の訂正および変更等は，なるべくこの欄無効マークを使用して無効にした上で正しい科目を登録してください。それでも訂正し切れない場合は交換しますので，その履修申告用紙を持参の上，学事センターに申し出てください。

交付された履修申告用紙では記入欄が足りない場合も学事センターに申し出てください。

第5 魅力ある大学院教育イニシアティブ「心に関する研究科横断プロジェクト型教育」プロジェクト科目Ⅰ，Ⅱ（修士課程・博士課程共通，文学研究科・社会学研究科共通）

文学研究科哲学・倫理学専攻と社会学研究科心理学専攻，教育学専攻が参加するプロジェクト型科目が開設されました。2研究科の心及び脳の研究に携わる複数専攻教員の共同指導のもとで，学生が主体となって参加するプロジェクト型の授業科目です。

半期ずつの科目となっていますが，併せて通年での登録を原則とします（プロジェクトⅠ（春学期），Ⅱ（秋学期））。今年度はつぎの4つのプロジェクトを実施します。

プロジェクトA（論理思考に関する論理，行動遺伝学，脳科学，情報科学の融合的学際研究）

担当者：岡田（哲学・倫理学），安藤（教育学），浜野（文学研究科特別研究教員）

プロジェクトB（動物とヒトの推論に関する脳科学）

担当者：岡田（哲学・倫理学），渡辺（心理学），伊澤（文学研究科特別研究教員）

プロジェクトC（倫理的判断と脳内機構）

担当者：樽井（哲学・倫理学），渡辺（心理学），伊澤（文学研究科特別研究教員）

プロジェクトD（ランダムネスの創発）

担当者：西脇（哲学・倫理学），坂上（心理学），浜野（文学研究科特別研究教員）

プロジェクトに登録するには担当教員の許可が必要です。各プロジェクトの遂行に必要な基礎分野のひとつを既に習得していること，および主体的にプロジェクトに参加できることを履修許可の条件としています。詳しくは本科目のガイダンスまたは掲示を参照してください。

この科目は「魅力ある大学院教育イニシアティブ」プログラムのひとつとして文部科学省に採択され平成18年度より開始されるものです。

第6 他大学大学院との相互科目履修

◇修士課程在学中に，8単位を限度として早稲田大学大学院文学研究科・学習院大学大学院人文科学研究科・早稲田大学大学院教育学研究科および上智大学大学院哲学研究科（哲学・倫理学分野のみ）の設置科目を履修することができます。

また，この科目は課程修了に必要な単位とすることができます。

巻末（P.175）に記載されている協定を参照してください。

◇大学院交流手続き方法について

1. 交流履修届（本塾学事センター窓口にあり）に必要な事項を記入して，指導教員の承認（サインをA・B・C三片にもらうこと）をうけてください。次に相手校へ赴き，講義担当者の当該授業に出席して承認をうけた後，（A・B・C三片にサインをもらうこと。ただし上智大学の場合は口頭で許可を

得ればよいこととする。) 早稲田大学・文学研究科事務室, 早稲田大学・教育学研究科事務室, 学習院大学・教務部, 上智大学・学事部へ指示された期間中に提出してください。

【履修届受付期間：4月10日(月)～17日(月)】

2. 履修が許可された場合, 本塾学事センター窓口にて, 本人用交流履修届(A片)を確認の上, 交流学生証を発行します。
3. 相手校の学科目を履修する場合は, 必ず予め指導教員の承認を受けてください。これは履修決定以前の聴講の場合でも同様です。
4. 万一, 履修を途中でやめるようなときは, 速やかに講義担当者, 相手方教務部および指導教員, 本塾学事センターに連絡してください。

履 修 要 項

第 1 課程修了にいたるまでの要件

課程修了の認定は、研究科委員会が行う。(学則第 109 条)

1. 修士課程

文学研究科修士課程に 2 年以上在籍し、32 単位以上の授業科目を修得し、かつ研究上必要な指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。(学則第 11 条・15 条・109 条参照)

2. 博士課程

文学研究科後期博士課程に 3 年以上在籍し、原則として各年度 2 科目 4 単位以上を 3 年にわたり履修、指導教授の担当する 2 科目を含め、合計 6 科目 12 単位以上の授業科目を修得した上、学位論文(博士論文)の審査及び最終試験に合格することとする。(学則第 18 条・19 条・109 条参照)

なお、上記要件のうち、学位論文の審査及び最終試験を除き、所定の教育課程を終えた段階で修了する場合「単位取得退学者」として扱われます。(第 8 単位取得退学及び在学期間延長について参照)

第 2 学位請求論文の提出について

1. 修士論文の提出と修士学位の授与

修士の学位は、大学院前期博士課程、大学院修士課程を修了した者に与えられる。(学位規程第 3 条)

第 3 条の規定に基づき修士学位を申請する者は、学位論文 3 部を指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。(同第 7 条 ①)

・ 修士論文提出及び学位申請に関する手順は次のとおりです。

(1) 修士論文題目届

指導教授と相談の上、修士論文の提出が許可された場合は、所定用紙にて論文題目を届出てください。詳細については 10 月中旬に掲示板にて指示します。

なお、この届を提出した後に論文提出を辞退する場合は、必ず学事センターに申し出てください。

(2) 論文提出 (1 月下旬予定)

提出日、提出方法については掲示板上にて指示します。なお、**論文題目については (1) で提出した題目 (副題目も含む) と同じもの**とします。

(3) 修士論文面接 (2 月下旬～3 月上旬予定)

提出された論文をもとに面接が行われます。面接時間等については論文提出時にお知らせします。

2. 博士論文の提出と博士学位の授与

(1) 課程による博士学位の授与（「課程博士」）

博士の学位は、大学院博士課程を修了したものに与えられる。（学位規定第4条）

第4条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。（同第7条②）

なお課程による博士学位は原則として、修了に必要な単位を取得し、在学中に学位論文を提出し、かつ文学研究科委員会にて受理され、合格した場合に与えられますが、博士課程入学後6年以内に学位論文が文学研究科委員会にて受理されれば、課程博士として申請することができます。

これは、在学期間内の文学研究科委員会にて論文受理後、審査の途中で退学を希望する場合や、博士課程入学後6年の期間内に学位論文が提出され、同期間内の文学研究科委員会にて受理された場合などが該当します。

(2) 論文による博士学位の授与（「論文博士」）

博士の学位は、研究科委員会の承認を得て学位論文を提出して論文の審査に合格し、かつ大学院博士課程の修了者と同等以上の学識があることを確認（以下「学識の確認」という）された者に与えられる。（学位規程第5条）

第5条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、その申請する学位の種類を指定して、学長に提出しなければならない。

（同第8条）

・博士論文を提出する場合は、学事センターで手続方法等について確認してください。

3. 論文体裁について

学位請求論文については三田メディアセンター（図書館）及び国立国会図書館（博士論文のみ）に所蔵しますので、なるべく下記の体裁に整えるよう協力をお願いします。なお、資料等の都合でどうしても規定の大きさに入らない場合は、これに従って表紙を付けて製本してください。

① 本文の縦書き・横書きにかかわらず、原則として縦A4版で製本してください。

（縦書きの場合は右綴じ、横書きの場合は左綴じとなります）

② 表書きは、本文が縦書きの場合は縦書き、横書きの場合は横書きとします。

③ 表紙はハードカバーで黒を原則とし、白文字を使用してください。

④ 製本の背文字は、本文の縦書き、横書きに係わらず縦書きとしてください。

一部英単語が入る場合は、英単語のみ横書きとし、他の日本語は縦書きとしてください。

⑤ 表紙の見本をこの案内の巻末に示します。既に公刊されている書物等を学位請求論文とする場合についてはこの限りではありません。

4. 三田メディアセンターからの修士論文複写許諾協力依頼

三田メディアセンター（図書館）では修士論文を保存し利用に供しています。利用者が修士論文を学術目的のために「複写する」ことに対し、現行の著作権法下では、事前に著作権者からの許諾を必要としています。

上記趣旨に賛同いただける方は必要事項を記入の上、修士論文と共に「修士論文複写許可回答」を

学事センターに提出してください。なお、今年度の学位授与名簿に記載されなかった場合は、メディアセンターが責任をもって廃棄します。<http://www.mita.lib.keio.ac.jp/info/masters-thesis.html>

第3 留学について（学則第124条）

留学を希望する場合は原則として、出発3ヶ月前までに次の学内手続きをしてください。

- ① 学事センター窓口で国外留学申請書の交付をうけ、必要事項を記入してください。
- ② 国外留学申請書に記載されている必要書類を用意してください。
- ③ ①と②を合わせて学事センターに提出して検印を受け、これらの書類をもとに国際センターで留学の認定を受けてください。（交換，奨学金，その他の認定）
- ④ 国際センターの認定後，①と②の書類を持参して指導教授と面接し，留学の許可を得てください。
- ⑤ ④による許可を受けた上で，①と②の資料を学事センターに再び提出してください。
- ⑥ 上記の手続きを経た外国の大学院またはそれに準ずる機関への留学が，研究科委員会で教育上有益であると判断された場合は，休学することなく留学することができます。（学則第124条1項）

また，この場合は1年間に限り留学期間を在学年数に算入することができます。（学則第124条2項）

なお，留学中に外国の大学院で履修した授業科目の単位のうち10単位を越えない範囲で，修得単位が課程修了に必要な単位として認定されることがあります。（学則第124条3項）

留学期間の在学年数への算入と単位の認定（いずれかひとつの場合も含む）を希望する場合は，帰国後，就学届を提出する際，その旨を所定用紙にて申し出て研究科委員会の承認を得なければなりません。なお，その際単位認定希望者は，単位修得を証明する書類を添付してください。

- ⑦ 研究科委員会で上記の留学として認定されなかった場合には，休学による留学になります。この場合には留学期間は在学年数に算入されず，外国の大学院で修得した単位も上記の単位認定はされません。
- ⑧ 留学期間を延長する場合，延長理由を詳細に明記したうえで，上記と同様の手続きをとってください。
- ⑨ 帰国した場合は，速やかに就学届等の必要書類を学事センターに提出してください。
- ⑩ 留学期間中の在学料等については学事センター窓口にお問い合わせください。

海外の教育機関に留学する場合の取り扱いについて（文学研究科）

- ・在学期間中に留学を希望する場合、「留学」と「休学」の2通りに分けられます。

		留 学	休 学
種 類		研究科委員会において適正と認められた海外の大学で正式な手続を経て正規生と同じ授業を受ける場合（「編入制度による留学」「STUDY ABROAD PROGRAM」等）。 なお、留学は①「交換留学」②「奨学金による留学」③「私費留学」の3つに区別しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・語学研修（その他左記の留学として認定されない海外研修など） ・病気による休学（医師の診断書が必要） ・一身上の都合による休学
期 間	申 請 期 間	「留学」の開始日から半年以上1年まで。 「留学」は年度途中に開始し、年度の途中で終了することが可能です。 (例) 2006. 9. 22~2007. 9. 21)	休学は1年単位の申請となります（4月1日～3月31日）。 * 休学の開始日がいつであってもその年度は在籍期間に算入されません。 * 複数年度に渡って休学する場合は、新年度に再度休学願を提出してください。 * 休学願の提出締切はその年度の11月末日です（但し、4月1日から休学する場合は、履修申告までに休学願を提出してください）。
	延 長	2回まで可能（最長で留学開始日から3年まで）それ以降は「休学」となります。 *「留学」を延長する場合は、「国外留学申請書（延長）」を提出してください。	留学の延長が出来ない場合（左記の延長期間を過ぎても留学継続を希望する場合など）の休学期間は、前回の留学申請期間終了日翌日より年度末までとなります。
学 費 ・ 渡 航 費	学 費 減 免 措 置	<ul style="list-style-type: none"> * 1年目：減免制度はありません。 * 2年目以降：減免される場合があります。 「留学」の延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して1年6カ月以上2年以内の場合は、留学開始日から1年を経過した日の属する年度の授業料（在学料）及び実験実習費の半額を免除します。また、留学の再延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して2年6カ月以上3年以内の場合は、留学開始日から2年を経過した日の属する年度の授業料（在学料）及び実験実習費の半額を免除します（減免額が返金されます。留学許可通知と共に申請書類を保証人宛に送付します）。	<ul style="list-style-type: none"> * 語学研修、その他留学と認定されない場合の減免制度はありません。 * 但し、上記以外で特別事情のある者及び1年以上の休学者については、別に定めるところにより授業料その他が減免される事があります。
	登 校 費 補	「交換留学」及び「奨学金による留学」の場合には渡航費が補助される場合があるので、国際センターで所定用紙を受け取ってください。	
単 位 認 定 ・ 取 得	は 留 学 期 間 履 修 を す る	年度の途中から「留学」する場合は、「留学」前に履修申告をした科目を「留学」後継続履修し、単位取得することが可能です（ただし、同一科目名・同一担当者に限る）。必ず「留学」前に各科目担当者へ「留学」終了後、継続して履修する意志があることを伝えてください。	休学中の年度は履修できません。 【年度始めに休学申請をした場合】履修申告は不要です。休学届を履修申告日までに提出してください。 【年度途中で休学申請をした場合】4月に履修申告した科目は全て削除されます。
	単 位 認 定	10単位を超えない範囲で、学則の規定する単位に認定することがあります。認定を希望する場合は、就学後学事センターで所定の用紙を受け取ってください。	単位認定はありません。
就 学 後		「留学」終了後は、速やかに就学届を提出してください。なお、就学後の行事日程については、年度末に郵送される行事日程表を参照してください。	「休学」終了後は、速やかに就学届を提出してください（病気による休学については、医師の診断書を添えてください）。なお、就学後の行事日程については、年度末に郵送される行事日程表を参照してください。
へ 在 籍 年 数 入 数	進 級 ・ 卒 業 (修 了)	「留学」の期間は1年間に限り在学年数に算入することができます。希望者は「留学」終了後、学事センター窓口に申し出てください。ただし、遡及卒業（修了）は認められません。	「休学」の期間は在学年数に算入されません。ただし、実質的な在学年数にかかわらず、休学中も最高学年まで進級します。

第4 休学について（学則第125条）

休学を希望する場合は、指導教授と面接の上、休学する年度の11月末までに休学届を学事センターに提出してください。

第5 退学について（学則第126条）

病気その他の事由により退学したい者は、指導教授と相談のうえ、速やかに「退学届」に学生証を添えて学事センターに提出してください。

第6 再入学について（学則第127条）

退学した者が再入学しようとする場合には、事情を考慮した上で認めることがあります。再入学にあたっては、入学考査料および入学金が必要となります。「再入学を伴う退学」が承認されても、無条件で再入学が認められることにはなりません。

文学研究科において、退学後再入学を希望する場合には、退学の時点で文学研究科委員会における承認が必要となります。具体的な手続きに関しては、指導教授および学事センターに問い合わせてください。

第7 退学処分について（学則第128条・第161条）

- (1) 修士課程において4年、後期博士課程において6年の在学最長年限を超える者は学則第128条により退学処分となります。ただし、休学期間は在学年数に算入しません。
- (2) 大学の学則もしくは諸規則に違反したと認められた場合、履修申告を期日までに提出せず休学・退学の願い出もなく修学の意志が確認できない場合などには学則第161条により退学処分となります。

第8 単位取得退学及び在学期間延長について（後期博士課程のみ）

1. 単位取得退学

大学院後期博士課程修了に必要な単位を取得し、規定の在学年数（3年）を満たした場合、単位取得退学者として修了することができます。

年度の途中で単位取得退学を希望する場合は、単位取得退学届を提出してください。年度末で「在学期間延長許可願」を提出し所定の手続きを取らない限り、単位取得退学者として扱われます。

なお、3年以内に博士論文を提出する目処がある場合に限り、三田メディアセンターの図書貸出を受けることができる「塾員貸出券」（有料）を発行しています。詳細は図書館1階メインカウンターまでお尋ねください。

有効期間：申込日より6ヶ月もしくは1年

サービス範囲：三田メディアセンターに関しては大学院生と同等の貸出規則を適用する。

日吉，理工学，湘南藤沢の各メディアセンター，白楽サテライトライブラリーへの入館・閲覧が可能。

他大学図書館への紹介状の発行。

2. 在学期間延長許可願について

3年間の在学中に博士課程修了に必要な単位を取得した者で，博士論文作成にまだ時間を要する場合，在学最長年限を超えない範囲で，1年を単位として在学期間の延長を許可することができます（通常3回まで）。例年2月末までに「在学期間延長許可願」を学事センターに提出することになっています。

講義要綱・シラバス

修士課程設置科目

哲学・倫理学専攻

哲学特殊講義Ⅰ（春学期）

科学と確率

教授 西脇 与作

授業科目の内容：

科学理論と観測の両方で確率が用いられる場合が多いが、この講義では確率のもつ様々な側面を昨年度と同じように取り上げたい。確率の基本を解説した上で、確率の哲学に関する論文を読みながら、議論したい。

哲学特殊講義Ⅱ（秋学期）

科学と確率

教授 西脇 与作

授業科目の内容：

春学期の継続で、確率に関する主要論文をさらに検討する。

哲学特殊講義Ⅲ（春学期）

教授 岡田 光弘

講師 浜野 正浩

授業科目の内容：

現代論理学の諸問題と修士課程（哲学特殊）との共通線形論理、証明論を中心とした現代論理学的手法の導入と、論理哲学、情報科学等への応用を行う。

又、これと並行して、フッサール論理学、現象学的論理学の検討会も月に1回のペースで組み入れる。

哲学特殊講義Ⅳ（秋学期）

教授 岡田 光弘

講師 浜野 正浩

授業科目の内容：

哲学特殊講義Ⅲと同じ。

哲学特殊講義Ⅴ（春学期）

あるコギトの系譜

講師 北村 晋

授業科目の内容：

2500年以上にもわたって連綿とその歴史を紡ぎ出してきた西洋の哲学思想は、現在、未曾有の局面を迎えつつあるようにも見える。事実、19世紀末のニーチェによる「神の死」と「ニヒリズムの到来」の宣告に次いで、今世紀に入ると「人間の死」（フーコー）や「哲学の終焉」（ハ

イデガー）までもが宣せられているのである。ところがその一方で、昨今の思想界では、「ポスト構造主義」「ポストモダン」「ポスト形而上学」といったさまざまなトレンドがファッションのごとくに喧伝されてもいる。このような状況を引き起こした哲学思想における近代とは、いったい何なのか。その近代の極北にあって、われわれは何を考え何を問題にすべきなのだろうか。そもそもロゴス（ことば・論理）の営むたる哲学は、現代において何を問題としうるのだろうか。

この授業では、一般にデカルトの「コギト・エルゴ・スム（私は考える、ゆえに私は在る）」という原理とともに始まったとされる西洋近代・現代の哲学思想を、主として「弁証法的媒介の論理」と「現象学的方法」という相反する二つの視座から再考してみたい。その際取り上げるのは、デカルトをはじめとしてカント、ヘーゲル、フッサール、ハイデガー、サルトル、レヴィナス、アンリ、デリダ、マリオンなどの思想家たちである。ただし、これらの思想家の全体像を扱う余裕はないので、実際にはいくつかの個別的テーマに即して検討することになる。

哲学特殊講義Ⅵ（秋学期）

講師 北村 晋

授業科目の内容：

哲学特殊講義Ⅴと同じ。

哲学特殊講義Ⅶ（春学期）

教授 斎藤 慶典

授業科目の内容：

フッサール現象学にかかわるドイツ語文献の精読を中心に、参加者による研究発表を随時おり込みながら授業を行ないます。使用テキストは、今年度も引き続き Jan Patocka, *Die Bewegung der menschlichen Existenz* (Klett-Catta, 1991) を用い、その第IV章 *Schriften zur asubjektiven Phänomenologie* 所収の諸論考を読み継ぎます。

また今年度より上記テキストと並行して、Husserliana Bd. XXXVI *Transzendentaler Idealismus* 所収の草稿をピックアップして検討していきたいと考えています。

哲学特殊講義Ⅷ（秋学期）

教授 斎藤 慶典

授業科目の内容：

「哲学特殊講義Ⅶ」に同じ。

哲学特殊講義Ⅹ（春学期）

モデル論と算術

講 師 照 井 一 成

授業科目の内容：

タルスキ流の意味論では、文の真偽は世界のありよう
に依存して定まる。そのような世界のありようを数学的
に抽象化したものがモデルである。本講義は一階述語論
理のモデル論の入門である。

サイエンスフィクションや思考実験が、現実ではあり
えない状況について考えることで 現実に対する示唆を与
えることができるように、数学でも、標準とは異なるよう
な状況（例えば無限に大きな“自然数”が存在したり無
限に小さな“実数”が存在したりするような状況）につ
いて考えることで 標準的な数学に対するよりよい理解が
得られることがある。モデル論が最も真価を発揮するの
はこのような超準モデル、あるいは“数学的フィクション”
の場面においてであると言ってもいいだろう。本講義の
後半では、この超準モデルの理論に少しだけ立ち入る予
定である。

哲学特殊講義Ⅹ（秋学期）

モデル論と算術

講 師 照 井 一 成

授業科目の内容：

タルスキ流の意味論では、文の真偽は世界のありよう
に依存して定まる。そのような世界のありようを数学的
に抽象化したものがモデルである。本講義は一階述語論
理のモデル論の入門である。

サイエンスフィクションや思考実験が、現実ではあり
えない状況について考えることで 現実に対する示唆を与
えることができるように、数学でも、標準とは異なるよう
な状況（例えば無限に大きな“自然数”が存在したり無
限に小さな“実数”が存在したりするような状況）につ
いて考えることで 標準的な数学に対するよりよい理解が
得られることがある。モデル論が最も真価を発揮するの
はこのような超準モデル、あるいは“数学的フィクション”
の場面においてであると言ってもいいだろう。本講義の
後半では、この超準モデルの理論に少しだけ立ち入る予
定である。

哲学特殊講義Ⅺ（春学期）

カント哲学の読解と分析

講 師 大 橋 容 一 郎

授業科目の内容：

例年通り、近代哲学の原点であるカント哲学の読解と
分析を行います。今年は初心に戻って『純粋理性批判』
を最初から読んでいきます。アプリアリな判断論、空間・
時間論、超越論的論理学、超越論的演繹などが主要な問

題となります。

哲学特殊講義Ⅻ（秋学期）

カント哲学の読解と分析

講 師 大 橋 容 一 郎

授業科目の内容：

例年通り、近代哲学の原点であるカント哲学の読解と
分析を行います。今年は初心に戻って『純粋理性批判』
を最初から読んでいきます。アプリアリな判断論、空間・
時間論、超越論的論理学、超越論的演繹などが主要な問
題となります。

哲学特殊講義ⅩⅢ（春学期）

中東キリスト教（シリア語）文献入門

講 師 高 橋 英 海

授業科目の内容：

中東で誕生した宗教であるキリスト教とその思想は主
にギリシア語とラテン語を介して世界に広まっていった
が、中東およびその周辺にはギリシア語、ラテン語では
なくシリア語、コプト語、アルメニア語、エチオピア語、
アラビア語等を媒体として広まっていったキリスト教が
ある。中でもその時間的、空間的な広がり（西は地中海
沿岸から東はインド、中国まで）において最も重要な
のはシリア語を媒体とするキリスト教であり、キリスト教
の発展の正確な理解にはシリア語文献の研究が欠かせな
い。また、シリア語およびシリア系キリスト教徒はギリ
シア哲学・科学のイスラム圏への伝達にも大きな役割を
果たしており、哲学史、科学史の分野でもシリア語文献
の研究が重要となる。本講ではシリア語が用いられた世
界の歴史と文化について概観するとともに、シリア語文
献の講読に必要な知識を習得し、受講者の関心に合わせ
て選んだ文献の講読を試みる。（シリア語はセム語の中
では比較的容易な言語であり、18世紀のオリエント研究者
の間ではアラビア語やヘブライ語を学ぶ際にはシリア語
から始めるのが適切であるとされていたこともここに付
け加えておく）。

哲学特殊講義ⅩⅣ（秋学期）

中東キリスト教（シリア語）文献入門

講 師 高 橋 英 海

授業科目の内容：

「哲学特殊講義ⅩⅢ」と同じ。

哲学特殊講義ⅩⅤ（春学期）

教 授 齋 藤 慶 典

授業科目の内容：

フッサール『純粋現象学と現象学的哲学のための諸考
案・第1巻』（通称『イデーニ I』, 1913年刊）より、そ

の第2編「現象学的基础考察」を取り上げ、「現象学」という発想がそもそもいかなるものなのか、その可能性と問題点を徹底して洗い出したいと思います。授業は、あらかじめ分担を定められた担当者によるテキスト当該部分のレジュメと問題提起をもとに、参加者全員によるディスカッションを中心に行ないます。テキストは以下の邦訳版を使用し、必要に応じて原著を参照します（ただし、受講者のドイツ語能力を前提にはしません）。

哲学特殊講義XVI（秋学期）

教授 齋藤慶典

授業科目の内容：

「哲学特殊講義XV」に同じ。

哲学特殊講義演習I（春学期）

教授 齋藤慶典
講師 荒金直人

授業科目の内容：

「哲学特殊研究III」に同じ。

哲学特殊講義演習II（秋学期）

教授 齋藤慶典
講師 荒金直人

授業科目の内容：

「哲学特殊研究III」に同じ。

哲学特殊講義演習III（春学期）

休講

哲学特殊講義演習IV（秋学期）

休講

哲学特殊講義演習V（春学期）

中世ユダヤ哲学研究

教授 堀江 聡

授業科目の内容：

アルベルトゥス・マグヌス、トマス・アキナス、マイスター・エックハルトなど西洋中世盛期スコラ哲学に対し少なからぬ刺激・影響を与えたにも拘らず、現今読まれることの余りない著作として、数年前演習で採り上げたイブン・ガビロール『生の泉』と同様に、マイモニデス（ラビ・モシェー・ベン・マイモン）（コルドヴァ 1138 年生れ — 旧カイロ 1204 年歿）『迷える人々の導き（の書）』（エジプトにて 1185 年 47 歳で執筆開始、1190 年 52 歳で完成）がある。「中世哲学文献の最高峰の一つ」と称される、その（ユダヤ）アラビア語原典を文字・文法未修者をも零から、辞書の引き方を教室で手取り足取り、それこそ「導き」つつ購読する。マイモニデスの生前にイブン・ティッ

ボンによって訳されたヘブライ語訳（1204 年）、並びに現代ヘブライ語訳（1996 & 2002 年）も必要とあらば眺めてみたい。ユダヤ教旧約聖書、タルムードの宗教的伝統に棹差しながらも、アリストテレス哲学を核に、新プラトン派の発出論、アフロディシアスのアレクサンドロスの能動知性論、フィロポノスの創造論、イスラーム哲学者・神学者の神名論をも総合した 3 部構成（76 章 + 48 章 + 54 章）の大著から抜粋して講読する。

哲学特殊講義演習VI（秋学期）

教授 堀江 聡

授業科目の内容：

春学期に同じ。

哲学原典研究I（秋学期）

教授 飯田 隆

授業科目の内容：

参加者による研究発表と討論から成る授業です。

哲学原典研究II（秋学期）

教授 飯田 隆

授業科目の内容：

参加者による研究発表と討論から成る授業です。

哲学原典研究III（春学期）

教授 中川 純男

授業科目の内容：

アウグスティヌス『告白』をラテン語で講読する。ラテン語の読解力と共に哲学文献の分析手法を身につけることを目的とする。

哲学原典研究IV（秋学期）

教授 中川 純男

授業科目の内容：

アウグスティヌス『告白』をラテン語で講読する。ラテン語の読解力と共に哲学文献の分析手法を身につけることを目的とする。

哲学原典研究V（春学期）

プラトン『国家』講読

教授 堀江 聡
講師 栗原 裕次

授業科目の内容：

『国家』はプラトン中期の代表作であり、正義論から教育論、文芸批評、心理学、存在論、認識論、政治学、学問論、快樂論ときわめて幅広いテーマを論じる、全 10 巻の大著である。昨年度に引き続き、第 2 巻の途中、第 8 章 365A4 からこの作品を読み進めるが、その際、J. Burnet や

J. Adam 以来一世紀を経て新たに出版された最新の校訂 (S. R. Slings の OCT 版) を用いる (旧版との異同に特に注意する)。ギリシア語の基本的な読解と内容の理解を柱とし、毎回相当量 (2 章ずつ) を読みながら、議論していく。

『国家』については、新プラトン主義者プロクロスによる註釈が残っており、本文と並行して関連箇所にあたる必要がある。Procli diadoci, *In Platonis Rem publicam commentarii*, ed., G. Kroll, vol.1, Amsterdam, 1965 (Leipzig, 1889). その翻訳・訳註として, Proclus. *Commentaire sur la République*, traduction et notes par A. J. Festugière, tome I: dissertations I-IV (p.1-111), Paris, 1970. *Proclo. Commento alla Repubblica di Platone*, a cura di Michele Abbate, Testo greco a fronte, Milano, 2004 を参照する

哲学原典研究VI (秋学期)

プラトン『国家』講読

教授 堀 江 聡
講師 栗 原 裕 次

授業科目の内容:

春学期に引き続いてプラトン『国家』を読みすすめる。第3巻は読み上げる予定である。

倫理学特殊講義 I A (春学期)

カントの哲学体系における倫理学の位置

教授 小 松 光 彦

授業科目の内容:

下記のテキストの講読を通じて、カントの批判的形而上学における倫理学の位置と意義を考察する。自由概念を基軸として、認識論、倫理学、宗教論、美学、歴史哲学にわたるカント哲学全般を見渡しうる視点を探ることをねらいとしたい。

倫理学特殊講義 I B (春学期)

近代ユダヤ宗教論: その1

講師 市 川 裕

授業科目の内容:

人類の宗教史を考えた場合、近代とはどういう時代かという問いを、ユダヤ人社会の激変を主たる題材として、さまざまな分析視点から考察する。個人と共同体の関係に着目して、宗教における所属の問題を identity の視点から考察するとどうなるか、国家と宗教の問題もその一環で問われることになる。また、近現代に特有の人間観、世界観を考える際に必ず触れねばならない二つの巨大思想、即ち、啓蒙主義とロマン主義、その延長で、科学思想も重要な主題である。日本の近代を世界全体の近代化プロセスの枠組みにおいてみると、どう捉えられるだろうか。

宗教儀礼や美術、歴史的事件などを知るために、できるだけビデオや CD など視聴覚教材を使いたい。

倫理学特殊講義 I C (春学期)

ケアの倫理と制度 I

講師 川 本 隆 史

授業科目の内容:

心理学者キャロル・ギリガンが話題作『もうひとつの声』(1982年)で「正義の倫理」と対置した「ケアの倫理」。これは「すべての人が他人から応えられ仲間に入れてもらえ、一人ぼっちで置き去りにされ傷つけられるような人はいない」状態を理想とするもので、葛藤状態にある複数の責任と人間関係のネットワークを重視し、「文脈を踏まえた物語的な思考様式」によって目の苦しみの緩和を図ろうとする。本講義ではギリガンの問題提起を受けて始まった「正義 vs ケア」論争を手がかりにしながら、両者の統合を心理的な成熟目標に定めるのではなく、正義を「正しい・まともな」という形容詞に差し戻すことによって、「まともなケア」あるいは「ケアの正しい分かち合い」をサポートする諸制度を構想する理路を探りたいと思う。可能な限り、日本の医療、教育、福祉の諸制度の検討も織り込むつもりである。

倫理学特殊講義 II A (秋学期)

カントの超越論的主観における想像力の意義

教授 小 松 光 彦

授業科目の内容:

倫理学特殊講義 I A と同じ。

倫理学特殊講義 II B (秋学期)

近代ユダヤ宗教論: その2

講師 市 川 裕

授業科目の内容:

春学期の項を参照。人類の宗教史を考えた場合、近代とはどういう時代かという問いを、ユダヤ人社会の激変を主たる題材として、さまざまな分析視点から考察する。冬学期は、20世紀におけるユダヤ民族史を通して、近現代社会の問題を抽出する。

倫理学特殊講義 II C (秋学期)

ケアの倫理と制度 II

講師 川 本 隆 史

授業科目の内容:

I に引き続き、ケアの倫理と制度との《つなぎ目》を探る。

倫理学特殊講義 III A (春学期)

教授 谷 寿 美

授業科目の内容:

“La Russie et l’Eglise Universelle” 1889 Paris: Savine 露訳
Россия и Вселенская Церковь 1911. Москваを中心とする宗教思想関連の文献を講読していきます。

倫理学特殊講義ⅢB (春学期)

Classic Accounts of Free Will: Molina's Theory of Middle Knowledge

助教授 エアトル, ヴォルフガング
Assoc. Prof. Wolfgang Ertl

授業科目の内容 :

The issue of freedom and determinism is one of the most intensively debated topics in philosophy, and yet some of the greatest contributions to this ongoing discussion have long been neglected in contemporary philosophy. One of these contributions is the theory of middle knowledge developed by Luis de Molina (1535–1600) in his book *Concordia*, which has received the attention it deserves only a few years ago.

Molina tries to reconcile divine knowledge as well as God's role as a provident creator of the world with a strong libertarian notion of human freedom. In order to do so he distinguished three types of divine knowledge, namely natural knowledge, free knowledge and middle knowledge.

Natural knowledge concerns all the necessary truths (including all the possible truths, which in the sense of S5 are necessarily possible), free knowledge concerns God's knowledge of his own will, and middle knowledge concerns the conditionals of freedom, which state how a free creature would act in a certain situation. It is called middle knowledge because it resembles both natural knowledge and free knowledge. On the one hand, it is similar to natural knowledge because the truths it is concerned with precede divine volition, i.e. God cannot do anything about them. On the other hand, it is like free knowledge insofar as it is concerned with something contingent.

Molina's theory is extremely powerful and it has far reaching implications. Nevertheless, it also faces a number of objections, such as the claim (brought forward by Leibniz already) that there is nothing in virtue of which conditionals of freedom could be true.

倫理学特殊講義ⅢC (春学期)

幸福をめぐる問題

商学部 教授 成田 和信

授業科目の内容 :

この授業では、「幸福」をめぐる問題を検討します。まず、Shelly Kagan や Derek Parfit の文献を読むことで、現代の英語圏の哲学においてこの問題がどのように扱われているかを概観し、議論の出発点となる枠組みを獲得します。その後、とりあえずはその枠組みを参考にしながら、アリストテレスと J. S. ミルの幸福論を検討します。

倫理学特殊講義ⅣA (秋学期)

教授 谷 寿美

授業科目の内容 :

倫理学特殊講義ⅢA と同じ。

倫理学特殊講義ⅣB (秋学期)

Values in a Material World: Introduction to Contemporary Meta-Ethics

助教授 エアトル, ヴォルフガング
Assoc. Prof. Wolfgang Ertl

授業科目の内容 :

Are there moral properties such as good, bad, reprehensible and the like? If yes, what precisely are they – ontologically speaking – and how do they fit into the fabric of the world? If not, what are we doing when we utter sentences such as “Henry is good”. Are we systematically wrong falling victim to surface parallels to sentences such as “Henry is pale” which is true, iff Henry is pale, and false, iff he is not. Some meta-ethicists say, we are just expressing our emotional attitude or the norms followed in the society we are living in. Others insist that moral properties are entities entirely different from those encountered in nature. Still others regard them as natural and either reducible or irreducible to other natural properties.

In this course we are going to address both sets of problems by asking whether moral judgments express beliefs, whether these are truth apt, what determines their truth value and how, epistemically speaking, we can track these truthmakers.

One of the intriguing features of meta-ethics (which makes it an attractive object of study) is that we find patterns of arguments there strikingly similar to those in the philosophy of mind and the philosophy of mathematics.

We shall closely follow Alexander Miller's excellent book, but occasionally we also need to look into classical texts from Moore to McDowell.

Literature:

Alexander Miller : *Introduction to Contemporary Metaethics*. Polity Press: Cambridge 2003.

倫理学特殊講義ⅣC (秋学期)

幸福をめぐる問題

商学部 教授 成田 和信

授業科目の内容 :

倫理学特殊講義Ⅲに引き続き「幸福」を検討します。とくに、Thomas Nagel, Bernard Williams, T. M. Scanlon, Stephen Darwall といった現代の哲学者の文献を読むことで、「幸福」ばかりでなく「生きがい」や「主観的価値」といった周辺概念へも話を拡大し、考察を深めていきます。

倫理学特殊講義演習 I A (春学期)

倫理学の諸問題

教授 小松光彦
教授 谷寿美
教授 樽井正義
助教授 エアトル, ヴォルフガング
助教授 柘植尚則

授業科目の内容 :

倫理学専攻のすべての教員と大学院生が参加し、学生による報告と全員による討論という形で授業を行う。学生は、論文の作成に向けた中間発表を行い、その成果を論文として提出することが求められる。

倫理学特殊講義演習 I B (春学期)

Virtue ethics

教授 樽井正義
助教授 エアトル, ヴォルフガング

授業科目の内容 :

The Movement of virtue ethics was initiated in the 1950s to correct the shortcomings of the then dominant strands of ethics, namely (what was taken to be) Kantian deontology and Utilitarian consequentialism. As an alternative, the virtue ethicists, inspired by the works of ancient philosophers, claimed to offer different accounts of morality, putting the emphasis on notions such as character and emotions.

This turned out to be very productive in that it led to a reconsideration of the standard classification of ethical theories and to a reinterpretation of the philosophers at issue. As far as Kant's moral philosophy was concerned, this led to a far more nuanced reading.

Moreover, the followers of virtue ethics triggered investigations on topics which have for a long time been neglected in moral philosophy.

We will closely follow Rosalind Hursthouse's book, which gives a very reliable overview of the relevant debates connected to virtue ethics, but we will also look into primary sources (such as Kant's *Grundlegung* and Aristotle's *Nicomachean Ethics*).

In addition to this, the seminar is meant to provide the opportunity to graduate students for presenting their own work in the field of ethics.

倫理学特殊講義演習 II A (秋学期)

教授 小松光彦
教授 谷寿美
教授 樽井正義
助教授 エアトル, ヴォルフガング
助教授 柘植尚則

授業科目の内容 :

倫理学特殊講義演習 I A と同じ。

倫理学特殊講義演習 II B (秋学期)

生命倫理学

教授 樽井正義

授業科目の内容 :

履修者が設定する生命倫理学の個別課題について、基本文献の講読とレポートの報告・討論を通じて、論文作成指導を行う。倫理学特殊講義演習 III (春学期) 近代イギリス道徳哲学研究

助教授 柘植尚則

授業科目の内容 :

この授業では 17 ~ 19 世紀の近代イギリス道徳哲学について考察する。近代イギリス思想が共通の課題としたのは「人間本性」であった。多くの思想家が人間本性について考察し、それに基づいて倫理・法・政治・経済・社会について考察を進めている。こうした考察は「道徳哲学」と呼ばれており、それが近代イギリス思想の一つの伝統であった。授業では、近代イギリス道徳哲学の古典を講読し、それについて議論しながら、人間本性論を中心に近代イギリス道徳哲学の諸潮流について検討する。本年度は、昨年度に引き続き、David Hume, *A Treatise of Human Nature* を取り上げる。

倫理学特殊講義演習 IV (秋学期)

近代イギリス道徳哲学研究

助教授 柘植尚則

授業科目の内容 :

倫理学特殊講義演習 III と同じ

倫理学原典研究 I (春学期)

ヘーゲルの社会哲学

教授 樽井正義

授業科目の内容 :

G. W. F. Hegel: Grundlinien der Philosophie des Rechts oder Naturrecht und Staatswissenschaft im Grundriss. 1821 を購読する。

倫理学原典研究Ⅱ（秋学期）

Kant's Political Philosophy

教授 樽井正義

助教授 エアトル、ヴォルフガング

授業科目の内容：

It is only recently that Kant has been recognized as a political thinker of the highest caliber, on a par with Aristotle, Plato and Hobbes. For a very long time, Kant's moral philosophy had been regarded as formalistic, ahistoric and aloof of the grim realities of the empirical world. Nothing could be further from the truth, however. Kant's moral philosophy consists of a sophisticated combination of foundational enquiries and the application these foundational principles to empirically given facts, including human beings of flesh and blood (not at all numerically distinct from the homo noumenon). Moreover, we find a second, more unusual combination in Kant, namely optimism as to human moral capabilities and extreme pessimism (bordering on the cynical) as to what human beings make of these capacities. Between these extremes lies the field of moral philosophy. Moral philosophy is meant to bridge the gap between these two poles and this is done in two complementary ways. Ethics requires a permanent inner revolution to perfect one's moral character, the sphere of law, by contrast, champions the provisional as far as rights and institutions are concerned in order to provide the framework in which this perfection can occur. The sphere of the political is on the one hand described as applied doctrine of law, but on the other hand it is also the sphere in which the ethical and the legal are connected and history, regarded as legal progress, is generated.

One particular problem in the sphere of the political is how the basic principles of morality can be applied in concrete circumstances without compromising the sense of the politically feasible.

In the seminar we are going to read and discuss Kant's essay *Ueber den Gemeinspruch: das mag in der Theorie richtig sein, taugt aber nicht fuer die Praxis* of 1793, in which he is examining this issue, as well as important recent secondary literature on Kant's political philosophy in general.

倫理学原典研究Ⅲ（春学期）

講師 杉山直樹

授業科目の内容：

ベルクソンの『時間と自由』を原書で精読する。第2章から始める。

倫理学原典研究Ⅳ（秋学期）

講師 杉山直樹

授業科目の内容：

ベルクソンの『時間と自由』を原書で精読する。第2章から始める。

美学美術史学専攻

美学特殊講義Ⅰ（春学期）

美学における基礎概念の研究Ⅰ

講師 佐々木 健一

授業科目の内容：

参考書に挙げてある『美学辞典』の内容を発展させる形で、美学上の基礎概念を講ずる。すなわちこの本でとり上げていない重要概念を毎回1つずつ取り上げる。各人の研究上の指針となることが狙いである。

美学特殊講義Ⅱ（秋学期）

美学における基礎概念の研究Ⅱ

講師 佐々木 健一

授業科目の内容：

参考書に挙げてある『美学辞典』の内容を発展させる形で、美学上の基礎概念を講ずる。すなわちこの本でとり上げていない重要概念を毎回1つずつ取り上げる。各人の研究上の指針となることが狙いである。

美学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

教授 大石昌史

授業科目の内容：

美学に関する一定のテーマについて専門的な内容の講義を行う。大学院生を対象とする講義の目的は、定説化した知識の整理や伝達にではなく、参考文献の批判的な紹介やテキスト解釈上の問題点の指摘を通じて、美学研究の具体例を示すことにある。修士論文の作成については随時指導する。

本年度のテーマは、ガイダンスおよび第1回目の授業時に説明する。

美学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

教授 大石昌史

授業科目の内容：

美学・芸術学における基本的な文献の講読・注釈演習、および、参加者による各自の研究テーマに関する口頭発表という授業形態をとる。参加者各人の関心を考慮しながら、美学および芸術学諸分野から著作・論文を選択し、その講読を通じて、翻訳・注釈の実践的な訓練を行う。

また、各人の修士論文のテーマに即した口頭発表の原稿作成に際して、事前事後に、その主張・構成・表現等に関する助言・添削指導を行う。

美術史特殊講義Ⅰ（春学期）

日本美術史における絵画と工芸

教授 河合正朝
講師 室瀬和美

授業科目の内容：

現在わたしたちが使っている「美術」という語は、1873年にウイーンで開催された万国博覧会への参加を機会に、日本で使われるようになった、ヨーロッパからもたらされた翻訳語であることが、近年の研究によって明らかにされています。絵画、彫刻、工芸などという概念もまた、明治政府の殖産興業や当時の教育政策のなかで行われた制度的な分離によって生まれた語であるとされます。これは、絵画や彫刻を純粋美術とし、工芸をそれより下位の応用美術とする西洋の芸術論に従うものですが、日本では元来そうした区分といったものは、明確であったとは言えません。日本美術は、伝統的に日常生活のなかで、飾られることでその機能を果たしてきたため、ことさらに絵画と工芸を区別する必要がなかったのです。この授業では、この点に注目し、絵画および工芸の諸分野においてそれぞれに研究を専門とする講師が、相互にその技法や表現、機能や美的性格などに就いて解説し、分析を行うことで、新たな視点から日本美術の諸特徴について考え、学んでいきます。

美術史特殊講義Ⅱ（秋学期）

日本美術史における絵画と工芸

教授 河合正朝
講師 吉岡明美

授業科目の内容：

現在わたしたちが使っている「美術」という語は、1873年にウイーンで開催された万国博覧会への参加を機会に、日本で使われるようになった、ヨーロッパからもたらされた翻訳語であることが、近年の研究によって明らかにされています。絵画、彫刻、工芸などという概念もまた、明治政府の殖産興業や当時の教育政策のなかで行われた制度的な分離によって生まれた語であるとされます。これは、絵画や彫刻を純粋美術とし、工芸をそれより下位の応用美術とする西洋の芸術論に従うものですが、日本では元来そうした区分といったものは、明確であったとは言えません。日本美術は、伝統的に日常生活のなかで、飾られることでその機能を果たしてきたため、ことさらに絵画と工芸を区別する必要がなかったのです。この授業では、この点に注目し、絵画および工芸の諸分野においてそれぞれに研究を専門とする講師が、相互にその技

法や表現、機能や美的性格などに就いて解説し、分析を行うことで、新たな視点から日本美術の諸特徴について考え、学んでいきます。

美術史特殊講義Ⅲ（春学期）

西洋美術史研究の視点と方法

教授 末吉雄二

授業科目の内容：

今日、美術史研究の領域は作品・作家研究にとどまらず、拡大・多様化しており、さまざまな研究テーマが重層・錯綜している。研究テーマと研究方法には密接な関連があるので、研究者は自らの研究関心・視点を自覚的に把握し、それにもっとも相応しい方法を選択する必要がある。授業は、担当者および履修者が各自の研究テーマとその研究方法を発表し、履修者全員がそれぞれの視点と比較検討する、質疑応答・討論を通じて、よりの確なテーマと有効な方法を探求する。

美術史特殊講義Ⅳ（秋学期）

西洋美術史研究の視点と方法

教授 末吉雄二

授業科目の内容：

美術史特殊講義Ⅲと同様

美術史特殊講義Ⅴ（春学期）

美術と宗教

教授 前田富士男

授業科目の内容：

20世紀美術の制作ならびに作品の大きな特徴として、宗教性への接近があげられる。ボルタンスキーの祭壇的インスタレーションをはじめ、キーフアーやライナーあるいはライブやヴィリケンス、さかのぼってベーコンやカンディンスキーなど、作品例に事欠かない。芸術の終焉、宗教の終焉——べつだん現代にあって、かつて19世紀に終焉を予告された二つの領域が寄り添って終わりの床についているわけではあるまい。美的価値と聖なるもの、記念碑と聖遺物、制作と儀礼、驚きと信、崇高と帰依、そしてケリュグマ、あるいはグノーシス。昨年度にひきつづいて、近現代美術に特有なこうした諸問題を多面的に検討したい。参加者の能動的な思索と積極的な提言を期待する。授業の素材は、この5年間にドイツほか欧米で発表された論考である。もちろん、ドイツ語に知識がないことはなんら問題にならない。

美術史特殊講義Ⅵ（秋学期）

美術と宗教

教授 前田 富士男

授業科目の内容：

美術史特殊講義Ⅴの受講を前提とする。参加者の研究領域に即して、美術と宗教をめぐる考察を発表して、討議する。テキストの講読もつづける。

美術史特殊講義演習Ⅰ（春学期）

教授 林 温

授業科目の内容：

美術史の研究には古文書の読解が不可欠である。適当な古文書を選定し、参加者の輪読と討議、さらに記事内容に関連する遺品・文書の検討等を通して、美術史研究の方法を習得する。さらに、修士論文作成の指導を行う。

美術史特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

教授 林 温

授業科目の内容：

美術史の研究には古文書の読解が不可欠である。適当な古文書を選定し、参加者の輪読と討議、さらに記事内容に関連する遺品・文書の検討等を通して、美術史研究の方法を習得する。さらに、修士論文作成の指導を行う。

美術史特殊講義演習Ⅲ（春学期）

ルネサンスのヒストリオグラフィー

教授 遠山 公一

授業科目の内容：

ダンテからヴァザーリまでの美術批評史

美術史特殊講義演習Ⅳ（秋学期）

美術批評史

教授 遠山 公一

授業科目の内容：

美術に関する近代の言質を取り上げる。履修者の発表を中心にして授業を組み立てていきたい。

音楽学特殊講義Ⅰ（春学期）

音楽学の方法論

教授 三宅 幸夫

授業科目の内容：

本講義は、音楽学で修士論文を書くための研究会と理解してください。論文の題目は自由ですが、学問的方法論を身につけるためには、批判に値する先行研究がある分野が望ましいと思います。また必要な場合は、修士論文の個別指導もおこないます。

音楽学特殊講義Ⅱ（秋学期）

音楽学の方法論

教授 三宅 幸夫

授業科目の内容：

本講義は、音楽学で修士論文を書くための研究会と理解してください。論文の題目は自由ですが、学問的方法論を身につけるためには、批判に値する先行研究がある分野が望ましいと思います。また必要な場合は、修士論文の個別指導もおこないます。

音楽学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

音楽文献学の方法

助教授 西川 尚生

授業科目の内容：

音楽作品を扱う上で重要な、いわゆる資料批判（Quellenkritik）の方法についての講義と実習をおこなう。手稿譜（自筆譜、筆写譜）と歴史的印刷譜の調査・読解の方法、および楽譜校訂の方法を身につけてもらうことが目的だが、具体的には以下のような項目を含むものとなるだろう。

講義

- ・自筆譜の文献学的調査：用紙（透かし）、インク、ラストラール
- ・筆跡と作曲年代の問題（筆跡年代学）
- ・自筆譜（スケッチ、草案譜、浄書譜）の読解
- ・筆写譜におけるオーセンティシティ
- ・楽譜出版社と版番号
- ・歴史的印刷譜におけるオーセンティシティ
- ・音楽作品の真偽判定
- ・「全集版」の校訂

実習等

- ・校訂報告書の読解
- ・三田メディアセンター所蔵の楽譜資料（リストの歌曲自筆譜、ベートーヴェンの第9交響曲初版譜等）と担当者所蔵の手稿譜を使つての調査実習
- ・各自の研究テーマに沿った課題によるレポートないし口頭発表

音楽学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

音楽文献学の方法

助教授 西川 尚生

授業科目の内容：

音楽作品を扱う上で重要な、いわゆる資料批判（Quellenkritik）の方法についての講義と実習をおこなう。手稿譜（自筆譜、筆写譜）と歴史的印刷譜の調査・読解の方法、および楽譜校訂の方法を身につけてもらうことが目的だが、具体的には以下のような項目を含むものとなるだろう。

講義

- ・自筆譜の文献学的調査：用紙（透かし）、インク、ラストラール
- ・筆跡と作曲年代の問題（筆跡年代学）
- ・自筆譜（スケッチ、草案譜、浄書譜）の読解
- ・筆写譜におけるオーセンティシティー
- ・楽譜出版社と版番号
- ・歴史的印刷譜におけるオーセンティシティー
- ・音楽作品の真偽判定
- ・「全集版」の校訂

実習等

- ・校訂報告書の読解
- ・三田メディアセンター所蔵の楽譜資料（リストの歌曲自筆譜、ベートーヴェンの第9交響曲初版譜等）と担当者所蔵の手稿譜を使っての調査実習
- ・各自の研究テーマに沿った課題によるレポートないし口頭発表

芸術学研究Ⅰ（A）（春学期）

音楽分析

講師 小鍛冶 邦 隆

授業科目の内容：

バッハ〈フーガの技法〉BWV 1080 中のカノン諸作品、および〈音楽の捧げもの〉を取り上げ、バッハ晩年のカノン作品の原理をさぐる。

芸術学研究Ⅰ（B）（春学期）

16～17世紀の北イタリアおよびフランスにおける芸術パトロネージの実際とその研究

教授 美 山 良 夫

授業科目の内容：

近年、丹念な文献、古文書調査によって16～17世紀の北イタリアおよびフランスにおける芸術パトロネージの実態が明らかにされてきた。フランスにおける制度化の過程は、北イタリアの宮廷のパトロネージとは際違ってことなつた様相を呈した。その比較をつうじて、芸術作品のかれた社会的なコンテクストを検討し、それを解明した先行研究の方法を学ぶ。

芸術学研究Ⅱ（A）（秋学期）

音楽分析

講師 小鍛冶 邦 隆

授業科目の内容：

ウェーベルンの後期作品中、〈眼の光〉op26、〈カンタータ第1番〉op29、〈カンタータ第2番〉op31の3つのカンタータ作品を分析し、ルネサンスからバッハに至る声楽ポリフォニーの伝統と12音技法の原理の結びつきを解明する。

芸術学研究Ⅱ（B）（秋学期）

近代における芸術パトロネージの諸問題

教授 美 山 良 夫

授業科目の内容：

現在芸術支援の位置づけ、意義について転換期を迎えているとされながら、それに対応した十分なプログラムが用意されているとはいえない。この問題意識にたちながら、近代の芸術支援を形成してきた諸構造を反省的に考察することにする。

芸術学研究Ⅲ（春学期）

講師 西 田 宏 子

授業科目の内容：

各自の修士論文のための研究を聞きながら、それに沿った作品が見られるように調整してゆきたい。発表と見学を中心に行なう。

芸術学研究Ⅳ（秋学期）

講師 西 田 宏 子

授業科目の内容：

各自の修士論文のための研究を聞きながら、それに沿った作品が見られるように調整してゆきたい。発表と見学を中心に行なう。

芸術学研究Ⅴ（春学期）

美術と先端技術

講師 布 山 毅

授業科目の内容：

美術分野の研究やプロジェクトにおける、デジタルメディアの利用方法の解説と、実践的な技術の習得。「対象をいかにアーカイヴ化するか？」という視点と、「コンセプトやアイデアをいかに他者に伝えるか？」という二つの視点から、デジタルメディアの活用方法をつくりながら考えてゆく。また、美術と先端技術の境界領域におけるさまざまな事例を紹介し、それらの意味と可能性についてディスカッションを行う。

芸術学研究Ⅵ（秋学期）

美術と先端技術

講師 布 山 毅

授業科目の内容：

美術分野の研究やプロジェクトにおける、デジタルメディアの利用方法の解説と、実践的な技術の習得。「対象をいかにアーカイヴ化するか？」という視点と、「コンセプトやアイデアをいかに他者に伝えるか？」という二つの視点から、デジタルメディアの活用方法をつくりながら考えてゆく。また、美術と先端技術の境界領域におけるさまざまな事例を紹介し、それらの意味と可能性に

ついてディスカッションを行う。

アート・マネジメント特殊講義Ⅰ（春学期）

休 講

アート・マネジメント特殊講義Ⅱ（春学期）

休 講

アート・マネジメント特殊講義Ⅲ（春学期）

教授 美 山 良 夫

授業科目の内容：

アートを社会にひらき、その力を活かすとともに、アートの創造につなげるためには、さまざまなフェーズで、リソース（資源）のより高度なマネジメントが必要です。ここではそのリソースを、人と組織、場と施設、ファイナンス、情報とコミュニケーションに集約し、これらの柱のひとつにかかわる、あるいはこの4つの柱を横断するマネジメントの基本と今日的課題、その克服について検討します。

文化装置としての美術館・劇場の運営／経営、プログラム評価の理念と実践、各セクターによるアート支援の根拠とプログラムの更新、文化施設・団体の会計管理、パブリック・リレーションとコミュニケーション戦略などが切り口になります。

基本的な文献と事例の理解と検討のほか、ゲストを招聘して討論を予定しています。具体的な内容は、学生のバックグラウンドを勘案して決定します。

アート・マネジメント特殊講義Ⅳ（春学期）

美術館（博物館）は生き残れるか？

講 師 鈴 木 隆 敏

授業科目の内容：

独立行政法人に移行した国立美術館、博物館、指定管理者制度の導入で経営形態や運営方法が大きく変わろうとしている地方の公立美術館、博物館、園、さらには経営危機に直面している多くの私立美術館…等々がはたして生き残っていけるのか？そのためには、何をどうすればいいのか。まさに「アート・マネジメント」の原点をさぐり、今後のあるべき方向をさぐっていく。

アート・マネジメント特殊講義演習Ⅰ（春学期）

休 講

アート・マネジメント特殊講義演習Ⅱ（春学期）

休 講

アート・マネジメント特殊講義演習Ⅲ（春学期）

教授 美 山 良 夫

授業科目の内容：

アート・マネジメントにおけるリソースを人と組織、場と施設、ファイナンス、情報とコミュニケーションに集約し、これらの柱にかかわる、あるいはこの4つの柱を横断するマネジメントの基本と今日的課題、その克服について、検討します。

問題・課題の抽出、分析、まとめサイクルの繰り返しになりますが、受講者はあらかじめ、指示されるケース、データを読み込んだり、ゲストを迎えてのディスカッションの前には関連領域について一定の理解をもつことが求められます。

アート・マネジメント特殊講義演習Ⅳ（春学期）

都市と共存する美術館のあり方をめぐって

DMC 機構特別研究教授 上 山 信 一

DMC 機構特別研究教授 岩 淵 潤 子

授業科目の内容：

昨今、美術館のあり方がしばしば議論になる。収支や入館者数、さらにもちろん内容についてである。しかしこれらは単に「美術館の問題」として片づけられない。実は行政の組織や制度、あるいは日本人の社会意識や経済構造と深くかかわっている場合が多い。この授業ではこうした広い文脈の中で美術館と都市の共存のあり方、都市の資源としての美術館のあり方を多角的に探る。

アート・マーケティング特殊講義Ⅰ（秋学期）

休 講

アート・マーケティング特殊講義Ⅱ（秋学期）

経営管理研究科 教授 和 田 充 夫

講 師 渋 谷 覚

授業科目の内容：

マーケティングの戦略体系の基礎を学んだ上で、美術、音楽、演劇などのアート分野におけるマーケティング実践を事例（ケース）で学ぶことによって、アート・マネジャーとしてのノウハウ、能力を高めることを目的とした科目。講義、ケース分析、グループ・フィールド・ワークを中心に授業を進める。

アート・マーケティング特殊講義演習Ⅰ（秋学期）

休 講

アート・マーケティング特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

経営管理研究科 教授 和田 充 夫
講師 渋谷 寛

授業科目の内容：

アート・マーケティング特殊講義Ⅱと同じ。

知的資産特殊講義（春学期）

アートのリスクマネジメントと保険

講師 箱守 栄一

授業科目の内容：

美術展、舞台芸術、オペラ等のアートに係るリスクマネジメントと保険につき解説します。特にリスクマネジメント手法の確立されている美術展を中心に解説します。契約書の中の Liability 条項につき理解し、保険条件との関係を解説します。

知的資産特殊講義演習（春学期）

著作権及び周辺領域に関する発展的検討

講師 伊藤 真

授業科目の内容：

著作権やその周辺領域（主にミュージアム・グッズで問題となりやすい肖像権やパブリシティ権）について、いわば発展的・応用問題的な検討を行う。

講義の進め方については、事前に架空の具体的な事例を設定した課題を事前に出題し、それについて順番に数名の受講者に報告（レポート）していただき、受講者の間で討議・検討を行う形を考えている。

また、後半では、事例演習として、屋外モニュメントの製作依頼契約を想定して、発注者と作者との間の契約書の作成を試みる。受講者に発注者と制作者との間に立つディレクター的立場に立っていただき、私が仮想の発注者やアーティストを演じて、どのような事柄に注意を払って交渉を進め、契約書にまとめていくかを模擬体験していただく形で講義を進行させてみたい。

いずれも、答えの存在する問題を学習するのではなく、受講者間の討議・検討を通じて、著作権法等の理解を進めるとともに問題解決のための思考能力を身につけていくことを目標とする。

芸術著作権演習Ⅰ（春学期）

著作権に関する基礎

講師 北村 行夫
講師 大井 法子

授業科目の内容：

著作権及び著作隣接権について基本的な理解を身につけることを本講義の目標とします。

芸術著作権演習Ⅱ（春学期）

芸術著作権に関する契約

講師 北村 行夫
講師 大井 法子

授業科目の内容：

アートマネジメントにおいて必要な契約を理解することを本講義の目標とします。

芸術資源デザイン演習Ⅰ（秋学期）

休講

芸術資源デザイン演習Ⅱ（春学期）

芸術関連文献資料検索および目録記述をめぐって

教授 美山 良夫

授業科目の内容：

美術及び舞台芸術とそれらの運営研究に必要な情報（統計データ、内外の研究論文その他）、データベース、資料アーカイブおよび研究機関アクセスなどについての実習。また芸術作品の目録（カタログ）の種類とその理解についての演習をおこなう。資料所蔵機関への見学（履修者の状況を勘案）を別途おこなうことがある。

芸術資源デザイン演習Ⅲ（アート・アーカイブの構築・運用・展開）（秋学期）

教授 前田 富士男
教授 林 温
教授 三宅 幸夫

授業科目の内容：

慶應義塾大学アート・センターは、土方巽アーカイブを中心に、アート・アーカイブを構築、さらに拡充を図りつつある。土方巽アーカイブを例にしながら、アート・アーカイブの理念と使命、ヨーロッパにおける事例、アーカイブの運用と関連した実践的問題、アート・アーカイブを軸とした展開可能性を多角的に、すなわち感性教育、芸術教育、デジタル化とアーカイブとの間にある問題、文化財の保存と活用の観点なども含め検討する。

また今後重視されなくてはならないアート・アーカイブのための人材とその養成について、海外事例をふまえ、検討することとしている。

芸術資源デザイン演習Ⅳ（秋学期）

芸術運営研究の構築

教授 美山 良夫

授業科目の内容：

各領域における先行研究の解析、問題の抽出と方法論の検討、論文作成に向けてのリサーチに関する演習を、個別事例の発表をもとにおこなう。

アート・プロジェクト総合演習Ⅰ（秋学期）

休 講

アート・プロジェクト総合演習Ⅱ（秋学期）

休 講

アート・プロジェクト総合演習Ⅲ（秋学期）

教授 美山良夫
特別研究教授 金子哲理
講師 桜井武

授業科目の内容：

この演習は、アート・マネジメント、アート・マーケティング、芸術資源デザイン、知的資産の科目群を学びながら、その知識の確認と実践的な展開をトレーニングする場として位置づけられます。各自が具体的なプロジェクトを構想し提案、その提案についてさまざまな角度から検討します。

この演習は、修士論文のテーマ策定にもつながります。

アート・プロジェクト総合演習Ⅳ（秋学期）

教授 美山良夫
特別研究教授 金子哲理
講師 桜井武

授業科目の内容：

アート・プロジェクト総合演習Ⅰと同等の内容です。修士論文のテーマの検討や指導を含むことがあります。

史学専攻

史学特殊講義Ⅰ（春学期）

助教授 神崎忠昭

授業科目の内容：

ヨーロッパ中世のラテン語文献を講読します。なおテキストについては、受講者と相談して決めます。

史学特殊講義Ⅱ（秋学期）

助教授 神崎忠昭

授業科目の内容：

ヨーロッパ中世のラテン語文献を講読します。なおテキストについては、受講者と相談して決めます。

史学特殊講義Ⅲ（春学期）

休 講

史学特殊講義Ⅳ（秋学期）

休 講

古文書学特殊講義Ⅰ（春学期）

教授 田代和生

授業科目の内容：

江戸時代古文書の解読、特に初見での「速読能力」を高めることを目的にしている。加えて、未整理文書の分類、整理法などを実習する。

本授業でテキストとする『伊丹家文書』は、津山藩大坂藩邸の文書で、一紙文書だけである。特に難解な近世書状の解読能力を高める指導を行う。

古文書学特殊講義Ⅱ（秋学期）

教授 田代和生

授業科目の内容：

古文書学特殊講義Ⅰに同じ。

日本史特殊講義ⅠA（春学期）

教授 長谷山 彰

授業科目の内容：

『令集解』の講読を中心に律令制の成立過程や諸制度の運用の実態について考える。

日本史特殊講義ⅠB（春学期）

助教授 中島圭一

授業科目の内容：

中世史料の講読を進めながら、中世社会の特質について考えていきます。

日本史特殊講義ⅡA（秋学期）

教授 長谷山 彰

授業科目の内容：

日本史特殊講義ⅠAと同じ。

日本史特殊講義ⅡB（秋学期）

助教授 中島圭一

授業科目の内容：

日本史特殊講義ⅠBに同じ。

日本史特殊講義ⅢA（春学期）

キリシタン史

助教授 浅見雅一

授業科目の内容：

キリシタン関係史料の講読を行なう。修士論文の指導も併せて行う。

日本史特殊講義ⅢB(2)（春学期）

教授 井奥成彦

授業科目の内容：

近代日本の社会経済史関係史料の講読。

日本史特殊講義ⅢC（春学期）

英国からみた幕末・維新期の日本

経済学部 教授 杉山伸也

授業科目の内容：

英国議会報告書をテキストとして使用し、幕末・維新期の日本について考察する。

日本史特殊講義ⅣA（秋学期）

キリシタン史

助教授 浅見雅一

授業科目の内容：

日本史特殊講義ⅢAと同じ。

日本史特殊講義ⅣB（2）（秋学期）

教授 井奥成彦

授業科目の内容：

日本史特殊講義ⅢBと同じ。

日本史特殊講義ⅣC（秋学期）

経済学部 教授 杉山伸也

授業科目の内容：

日本史特殊講義ⅢCと同じです。

日本史特殊講義演習ⅠA（春学期）

教授 三宅和朗

授業科目の内容：

『播磨国風土記』の講読。『播磨国風土記』を手がかりに、古代の在地社会の具体像を点検していきたい。本年度は、昨年度に引き続き、宍粟郡条の後半から読み進めていく。

日本史特殊講義演習ⅠB（春学期）

講師 尾上陽介

授業科目の内容：

平信範の日記『兵範記』を講読し、古記録についての理解を深めつつ、転換期の社会を考える。

日本史特殊講義演習ⅡA（秋学期）

教授 三宅和朗

授業科目の内容：

日本史特殊講義演習ⅠAと同じ。

日本史特殊講義演習ⅡB（秋学期）

講師 尾上陽介

授業科目の内容：

日本史特殊講義演習ⅠBと同じ。

日本史特殊講義演習ⅢA（春学期）

教授 田代和生

授業科目の内容：

受講者による研究進行状況の報告と修士論文作成に向けての指導を行う。

日本史特殊講義演習ⅢB（春学期）

教授 柳田利夫

授業科目の内容：

近代国家の「国民」としての海外在住日本人移民について検討する。素材として運動会と葬送を取りあげる予定である。また修士論文の準備も併せて行なう。

日本史特殊講義演習ⅣA（秋学期）

教授 田代和生

授業科目の内容：

日本史特殊講義演習ⅢAと同じ。

日本史特殊講義演習ⅣB（秋学期）

教授 柳田利夫

授業科目の内容：

日本史特殊講義演習ⅢBと同じ

東洋史特殊講義ⅠA（春学期）

『周易』の講読

教授 桐本東太

授業科目の内容：

『周易』の講読を通して、幅広く中国古代文化全般について考えてみたい。

東洋史特殊講義ⅠB（春学期）

東南アジアの華人社会におけるエスニシティ

教授 吉原和男

授業科目の内容：

タイ、マレーシア、シンガポールの中国系住民の任意加入組織、たとえば同郷団体や同姓団体あるいは宗教団体などを事例にして、「マイグレーションとエスニシティ」について歴史人類学的、文化人類学的な考察を行う。

東洋史特殊講義ⅠC（春学期）

西周青銅器銘文と殷代甲骨文

講師 武者章

授業科目の内容：

殷・西周時代の文字の用法を探求します。

2003年1月、陝西省寶鶏市眉県楊家村窖藏出土の青銅器群を史料とし、一器ずつ字釋を加え、用法の検証を行います。西周青銅器銘文と殷代甲骨文における用法の違いを一覧する予定です。

東洋史特殊講義Ⅱ A (秋学期)

『周易』の講読

教授 桐本 東太

授業科目の内容：

『周易』の講読を通して、幅広く中国古代文化全般について考えてみたい。

東洋史特殊講義Ⅱ B (秋学期)

東南アジアの華人社会におけるエスニシティ

教授 吉原 和男

授業科目の内容：

タイ、マレーシア、シンガポールの中国系住民の任意加入組織、たとえば同郷団体や同姓団体あるいは宗教団体などを事例にして、「マイグレーションとエスニシティ」について歴史人類学的、文化人類学的な考察を行う。

東洋史特殊講義Ⅱ C (秋学期)

西周青銅器銘文と殷代甲骨文

講師 武者 章

授業科目の内容：

春学期の継続です。

東洋史特殊講義Ⅲ A (春学期)

イラン現代社会論

講師 鈴木 均

授業科目の内容：

イランの現代社会を描く映画作品のシナリオをテキストとして用いる。今年度はビデオCDを用いてのディクテーションも適宜試みる。テキストとして用いるのは Bahram Beyzai, *Sag·koshi* [Filmnameh], Tehran, 1380. である。

東洋史特殊講義Ⅲ B (春学期)

オスマン帝国における宗教と民族

講師 石丸 由美

授業科目の内容：

オスマン帝国を特徴づけるものとして、多民族、多宗教世界であることをあげることができる。こうしたオスマン社会の特性を、特に非ムスリム、非トルコの側からみることで、明らかにしていく。

具体的にはトルコ語文献講読を通して、オスマン社会の多民族性、多宗教性を考察する。

東洋史特殊講義Ⅲ C (春学期)

中世アラビア語史料講読①

助教授 長谷部 史彦

授業科目の内容：

1) 後期マムルーク朝のアラビア語年代記を内容的にも掘

り下げて読み進める。昨年度に引き続き、マクリーゾーの『諸王朝知識の旅』をテキストとする。

2) エルサレムの「ハラム文書」に関する D. P. リトルをはじめとしたこれまでの研究成果を丁寧に把握しつつ、校訂史料の講読も行ないたい。

東洋史特殊講義Ⅳ A (秋学期)

イラン現代社会論

講師 鈴木 均

授業科目の内容：

春学期の「東洋史特殊講義Ⅲ A」の続き。但し出席者が大幅に入れ替わった場合はテキストの変更を含めて検討する。

東洋史特殊講義Ⅳ B (秋学期)

講師 石丸 由美

授業科目の内容：

東洋史特殊講義Ⅲ A と同じ。

東洋史特殊講義Ⅳ C (秋学期)

中世アラビア語史料講読②

助教授 長谷部 史彦

授業科目の内容：

春学期に引き続き、下記の内容で進める。

- 1) 後期マムルーク朝のアラビア語年代記を内容的にも掘り下げて読み進める。昨年度に引き続き、マクリーゾーの『諸王朝知識の旅』をテキストとする。
- 2) エルサレムの「ハラム文書」に関する D. P. リトルをはじめとしたこれまでの研究成果を丁寧に把握しつつ、校訂史料の講読も行ないたい。

東洋史特殊講義演習Ⅰ A (春学期)

近代中国東北地域における在地勢力の台頭と土地問題

講師 江夏 由樹

授業科目の内容：

20世紀初頭以降の中国東北地域における伝統的な旗地官荘制度の解体とそれに伴う在地勢力台頭の問題を論じていきます。そうした議論のなかで、中国近代史研究のなかでとりあげられるいくつかの重要な問題にも触れていきます。

東洋史特殊講義演習Ⅰ B (春学期)

近代中国の政治と社会

講師 並木 頼寿

授業科目の内容：

近・現代中国の歴史をみると、国家としては「清朝」、「中華民国」について「中華人民共和国」が存在して、現在にいたっています。現在の中国では民族主義が強調されま

すが、その民族主義は近・現代の歴史のなかで形作られてきたものです。同様に、「国家」(国民国家)という存在自体も、歴史のなかで形成されてきて現在にいたり、また「社会」という概念も、近代に外部からの文化的影響のなかで使用されるようになり、それに応じて実際に社会が発見される、ということがありました。ここには、中国独自の伝統的な社会秩序についての考え方が、外部からの影響を受けて変化・変容しながら、新たなものを模索してきた経緯が潜んでいます。とくに、清末から中華民国の時期に試行され、その後の革命でいったんは否定されたようにみえることがらの可能性、方向性に着目しつつ、現在の諸状況とも対比しながら、考えてみたいと思います。

東洋史特殊講義演習ⅠC (春学期)

休 講

東洋史特殊講義演習ⅡA (秋学期)

近代中国東北地域における土地問題と日本の企業活動

講 師 江 夏 由 樹

授業科目の内容：

中国東北地域において、清末以降、伝統的な旗地官荘制度が解体され、これら土地は「民有地」化されていった。土地が市場で「自由」に売買されるようになるなかで、この地域に進出した日本企業等がこの土地問題にどのように関わっていったのかといった点を中心に議論を進めます。

東洋史特殊講義演習ⅡB (秋学期)

講 師 並 木 頼 寿

授業科目の内容：

東洋史特殊講義演習ⅠBと同じ。

東洋史特殊講義演習ⅡC (秋学期)

休 講

東洋史特殊講義演習ⅢA (春学期)

中東・イスラーム史研究文献講読

商学部 教 授 湯 川 武

授業科目の内容：

本授業は、中東・イスラーム史の研究文献の講読を通じて、専門的な知識と幅広い分野の理解を広め深めるとともに、歴史研究のさまざまな視点や方法についても学ぶことを目的とする。

履修者の問題関心に応じて、テキストは順次いくつか読むが、史料や方法論についても検討する。中世史、近現代史についての論文集的なものを選んで読むことになる。

また、内容の理解とともに、発表の仕方、レジュメの書き方、論文書き方などを身に付けることも本授業の目的の一つである。

東洋史特殊講義演習ⅢB (春学期)

パン・イスラミズムから考える中東イスラーム世界史

教 授 坂 本 勉

授業科目の内容：

同じ中東イスラーム世界の歴史を研究するといっても受講者はそれぞれの関心にしたがって地域と時代について専門をもっている。この授業ではそうした各自の専門領域を踏まえながら、それを越えて中東イスラーム世界とは何かについて、パン・イスラミズムの思想と行動を手がかりに考えていくことにしたい。テキストを選んで、レジュメに切って発表するというかたちをとるが、授業と議論の内容をたんなる「イズム」の解釈に終わらせず、受講者それぞれに豊かな中東イスラーム世界のイメージを語ってもらうことをめざしたい。

東洋史特殊講義演習ⅢC (春学期)

明清時代の文献研究

教 授 山 本 英 史

授業科目の内容：

明清の社会を描いた史料の講読を行い、文献読解の基礎能力を養成する。

東洋史特殊講義演習ⅣA (秋学期)

中東・イスラーム史研究文献講読

商学部 教 授 湯 川 武

授業科目の内容：

本授業は、春学期の東洋史特殊講義演習ⅢCの継続として行う。したがって、内容・目的ともにそれに準じる。

中東・イスラーム史の研究文献の講読を通じて、専門的な知識と幅広い分野の理解を広め深めるとともに、歴史研究のさまざまな視点や方法についても学ぶことを目的とする。

履修者の問題関心に応じて、テキストは順次いくつか読むが、史料や方法論についても検討する。春学期の進み方を見ながら。その後は中世史、近現代史についての専論的なものを選んで読むことになる。

また、内容の理解とともに、発表の仕方、レジュメの書き方、論文書き方などを身に付けることも本授業の目的の一つである。

東洋史特殊講義演習ⅣB (秋学期)

中東イスラーム社会史自由研究

教 授 坂 本 勉

授業科目の内容：

受講者がそれぞれの研究テーマに応じて実際に読み進めている史料を訳出し、それをレジュメに切って紹介するというかたちで授業を進めていくことにしたい。歴史研究を志す者にとって何よりも重要なのは自分の頭で原典史料を解釈し、オリジナルな構想を打ちだしていくことである。この授業ではこれまでの研究史、その蓄積を無視するわけではないが、実証的な事実をまず大事にし、それを踏まえて自分の言葉で歴史を語り、理論について考えていくことをめざしたい。

東洋史特殊講義演習ⅣC（秋学期）

教授 山本英史

授業科目の内容：

東洋史特殊講義演習ⅢCと同じ。

西洋史特殊講義演習Ⅰ（春学期）

教授 吉武憲司

授業科目の内容：

Guibert de Nogent, *Autobiographie* (Paris, 1981) のラテン語テキストを講読します。

西洋史特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

教授 吉武憲司

授業科目の内容：

Guibert de Nogent, *Autobiographie* (Paris, 1981) のラテン語テキストを講読します。

西洋史特殊講義演習ⅢA（春学期）

プロイセン改革の研究

教授 神田順司

授業科目の内容：

下記の文献の講読を中心に、プロイセン改革の歴史的意義について考察する。

西洋史特殊講義演習ⅢB（春学期）

教授 清水祐司

授業科目の内容：

テューダ朝期の内政・外交に関わる文献を講読しつつ、修士論文執筆の指導をする。

西洋史特殊講義演習ⅣA（秋学期）

教授 神田順司

授業科目の内容：

西洋史特殊講義演習ⅢAと同じ。

西洋史特殊講義演習ⅣB（秋学期）

教授 清水祐司

授業科目の内容：

テューダ朝期の内政・外交に関わる文献を講読しつつ、修士論文執筆の指導をする。

西洋史特殊講義Ⅰ（春学期）

スペイン近現代政治文化史

助教授 山道佳子

授業科目の内容：

19世紀後半から20世紀のバルセローナという街を舞台として、様々な政治勢力がどのような闘いを繰り上げたのか、また当時の都市の生活の実態はいかなるものだったのかということ、文献を読みながら考えていきます。当然、スペイン史を専門に研究するために必要な語学力をつけることや、文献や史料の探し方を学ぶことも目標とします。スペイン史で修論を作成する場合には、論文作成のための個別指導も行います。

西洋史特殊講義Ⅱ（秋学期）

スペイン近現代政治文化史

助教授 山道佳子

授業科目の内容：

春学期の西洋史特殊講義Ⅰの内容を継続。

西洋史特殊講義Ⅲ（春学期）

初期アメリカ史・リーディング・セミナー

教授 大森雄太郎

授業科目の内容：

初期アメリカ史をフィールドとする大学院初級のリーディング・セミナーです。一時史料を読むか、二次文献を読むか、あるいはいずれの場合でもどのような文献を読むかについては、参加メンバーと相談の上で決めます。いずれにせよ文献は英語（むしろアメリカ語）で書かれたものを使用します。一週間のリーディングの要求量は、二次文献であれば100頁程度です。

西洋史特殊講義Ⅳ（秋学期）

初期アメリカ史・リーディング・セミナー

教授 大森雄太郎

授業科目の内容：

西洋史特殊講義Ⅲと同じ。

民族学考古学特殊講義Ⅰ（春学期）

休講

民族学考古学特殊講義Ⅱ（秋学期）

休講

民族学考古学特殊講義Ⅲ（春学期）

休 講

民族学考古学特殊講義Ⅳ（秋学期）

休 講

民族学考古学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

助教授 佐 藤 孝 雄

授業科目の内容：

修士論文の作製に向けて指導を行う。受講者には年数回、自身の調査・研究成果を発表することを課す。また、各発表の内容については全員で討議する形をとるので、自らの発表時以外にも積極的な発言を期待する。

民族学考古学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

助教授 佐 藤 孝 雄

授業科目の内容：

修士論文の作製に向けて指導を行う。受講者には年数回、自身の調査・研究成果を発表することを課す。また、各発表の内容については全員で討議する形をとるので、自らの発表時以外にも積極的な発言を期待する。

民族学考古学特殊講義演習Ⅲ（春学期）

教 授 阿 部 祥 人

授業科目の内容：

この50年間に膨大な資料を蓄積してきた日本の先史時代研究は、同時に多くの問題点を抱えている。それら今日的な問題点を受講者と共に取り上げ、その解決策・今後の有効な分析方法について、検討していく。

民族学考古学特殊講義演習Ⅳ（秋学期）

教 授 阿 部 祥 人

授業科目の内容：

この50年間に膨大な資料を蓄積してきた日本の先史時代研究は、同時に多くの問題点を抱えている。それら今日的な問題点を受講者と共に取り上げ、その解決策・今後の有効な分析方法について、検討していく。

国 文 学 専 攻

国文学研究Ⅰ（春学期）

古代の民俗と説話 播磨国風土記の世界

教 授 藤 原 茂 樹

授業科目の内容：

播磨国風土記は三条西家本により残された貴重な記録であるが、広げられた土地の個々の記事は、簡略だが個性

の強い性質のものが多い。ここにみる習俗や信仰のあり方は、まれにまったくわが国の文献や習俗に同例を見出さない質をもつものがある。そのことは放り出されたように孤立するわが国古代の地方の記憶にすぎないものか、時代の進歩によって失われた広がりのある異端だったのか。それを探り当てる手段を現今研究がもたない場面にでくわすことが少なくない。そのこと自体がこの風土記の最大の魅力と同時に割り切れないまま読み終えてしまう原因ともなっている。播磨国風土記の研究は文献に残された文献以前の記憶の想定を、目前の一本からのみ探求する困難のなかで掘み取っていく作業である。ただ、目前の説話記事は文字の不確かさや記事の位置の錯綜を抱えてある。これまで繰り返されてきた探求と知による改変の衝動に一定の制御をかけながら、記事に意味を見出すかが問われている。この授業でなされることは、意識的な先注の思惟にどのようなフィルターをかけて、原文と対峙できるかを、調査の詳細と考察の綿密をもっておこなうことである。

国文学研究Ⅱ（秋学期）

教 授 藤 原 茂 樹

授業科目の内容：

国文学研究Ⅰと同じ。

国文学研究Ⅲ（春学期）

教 授 川 村 晃 生

授業科目の内容：

古典文学と近代文学とを問わず、わが国の文字作品を対象として、自然や環境について、受講者のレポートを中心に考察する。

国文学研究Ⅳ（秋学期）

教 授 川 村 晃 生

授業科目の内容：

国文学研究Ⅲに同じ。

国文学研究Ⅴ（春学期）

教 授 岩 松 研 吉 郎

授業科目の内容：

和歌読解法の演習。

新風歌人の定数歌をとりあげる。今年度は、藤原良経『秋篠月清集』の「正治二年初度百首」の「恋」より。

春・秋学期継続履修のこと。

国文学研究Ⅵ（秋学期）

教 授 岩 松 研 吉 郎

授業科目の内容：

和歌読解法の演習。

新風歌人の定数歌をとりあげる。今年度は、藤原良経『秋篠月清集』の「正治二年初度百首」の「恋」より。
春・秋学期継続履修のこと。

国文学研究Ⅶ（春学期）

古典資料研究

教授 石川 透

授業科目の内容：

古典文学の資料を、写本を翻刻し、読み進めていく。

国文学研究Ⅷ（秋学期）

古典資料研究

教授 石川 透

授業科目の内容：

古典文学の資料を、写本を翻刻し、読み進めていく。

国文学研究Ⅸ（春学期）

近代文学を対象とする論文批判

教授 松村 友視

授業科目の内容：

受講者各自が40枚程度の論文を提出・発表し、出席者間の厳密な批判と討議によって、さまざまな角度から詳細に分析・検討する。

国文学研究Ⅹ（秋学期）

近代文学を対象とする論文批判

教授 松村 友視

授業科目の内容：

受講者各自が40枚程度の論文を提出・発表し、出席者間の厳密な批判と討議によって、さまざまな角度から詳細に分析・検討する。

国文学研究Ⅺ（春学期）

『源氏物語』賢木の巻を読む

講師 原岡 文子

授業科目の内容：

六条御息所との別れ、藤壺の出家、そして桐壺院崩御など、光源氏の運命が曲り角にさしかかる賢木の巻を、研究史を踏まえ、受講生と共に考えながら精読する。担当箇所を割り当て、演習の形で進めたいと考えている。

国文学研究Ⅻ（秋学期）

『更級日記』を読む

講師 原岡 文子

授業科目の内容：

小さな作品ながら、様々な謎を抱える『更級日記』を、研究史を踏まえ、受講生と共に考えながら精読する。担当箇所を割り当て、演習の形で進めたいと考えている。

国文学研究ⅩⅢ（春学期）

色道大鏡の世界（1）

講師 渡辺 憲司

授業科目の内容：

元禄初年（一六八八～）に成立した「色道大鏡」は、遊里の存在に体系的な視野を与えるとともに、江戸時代の風俗を知る上で、最も重要な書物である。阿部次郎は本書のよき理解者の一人であるが、彼は「志すところの珍しさとこれに捧げられた努力の真摯な点とに於て、天下稀に見る書」（『徳川時代の芸術と社会』）であるという。「色道大鏡」はたしかに珍本・稀書である。遊蕩への好事家的精神がなかったならば本書は成立し得なかったであろう。世間は彼の所業を片腹いたく思うかもしれない。しかし、彼の捨身の実証的精神（学問への情熱）を誰も笑うことは出来まい。この授業では、作者藤本箕山の家を捨て故郷を離れ「破家去国の身」となり「色道の開基」ならんとした類い希な実証的且つ真摯な姿勢を学ぶとともに、江戸時代の風俗を知る上での基本的な文献の読みこなしの訓練を行う。

国文学研究ⅩⅣ（秋学期）

色道大鏡の世界（2）

講師 渡辺 憲司

授業科目の内容：

元禄初年（一六八八～）に成立した「色道大鏡」は、遊里の存在に体系的な視野を与えるとともに、江戸時代の風俗を知る上で、最も重要な書物である。阿部次郎は本書のよき理解者の一人であるが、彼は「志すところの珍しさとこれに捧げられた努力の真摯な点とに於て、天下稀に見る書」（『徳川時代の芸術と社会』）であるという。「色道大鏡」はたしかに珍本・稀書である。遊蕩への好事家的精神がなかったならば本書は成立し得なかったであろう。世間は彼の所業を片腹いたく思うかもしれない。しかし、彼の捨身の実証的精神（学問への情熱）を誰も笑うことは出来まい。この授業では、作者藤本箕山の家を捨て故郷を離れ「破家去国の身」となり「色道の開基」ならんとした類い希な実証的且つ真摯な姿勢を学ぶとともに、江戸時代の風俗を知る上での基本的な文献の読みこなしの訓練を行う。

国文学研究ⅩⅤ（春学期）

ジェンダーの日本近代文学

講師 小平 麻衣子

授業科目の内容：

文学は、一般的なジェンダー規範に対する批判の場として機能もしてきたが、そうした営為と、社会からの女性の排除がどのような関係を結んでいるのか、テキストを通じて分析していく。あわせて、〈女性の主体化〉が言

われる際の問題を考える。

具体的には、女性の文学の中でも傍流であり続けた生田花世を視座として、『女子文壇』『青鞥』『反響』『女人芸術』『若草』などの雑誌の概観を目的としたい。

国文学研究XVI（秋学期）

セクシュアリティの日本近代文学

講師 小平 麻衣子

授業科目の内容：

ジェンダーやセクシュアリティによる集団について、文化的承認をめぐるポリティクスと、経済的な再配分の問題はどのような関係を結んでいるのだろうか。田村俊子などの女性が〈文学〉で収入を得るようになり、しかし表舞台から消えた後、再び女性作家が現れるとき、何が起こっているのか。平林たい子などを軸に考えたい。

国文学研究XVII（春学期）

アンソロジーの研究

講師 宗像 和重

授業科目の内容：

ここでは「アンソロジー」を、「詞華集」より広義の「作品集」の意味で用いる。近代の文学テキストの多くは、いわゆる個人全集や文学全集の類を含めて、自選・他選のアンソロジーとして編まれ、読まれる。その編集の文法と力学、そして受容の種々相を考えてみたい。まずは、それぞれの研究対象に関わりのあるアンソロジーについて、分析・報告してもらう予定。

国文学研究XVIII（秋学期）

『国民小説』の研究

講師 宗像 和重

授業科目の内容：

『国民小説』は、民友社の雑誌「国民之友」に掲載された小説を集めたアンソロジーで、明治二十年代に八冊刊行された。ここでは、幸田露伴「一口剣」、坪内逍遙「細君」、森鷗外「舞姫」などが収録された初編（明治二十三年十月刊）を対象として、さまざまな角度から検討を加えていきたい。

国文学研究XIX（春学期）

休講

国文学研究XX（秋学期）

休講

国文学研究XXI（春学期）

教授 岩松 研吉郎

授業科目の内容：

12～17世紀の散文テキスト諸種につき、調査・分析の演習をおこなう。あわせて、履修者の研究主題の発表・討論を随時おこなう。

春・秋学期継続履修のこと。

国文学研究XXII（秋学期）

教授 岩松 研吉郎

授業科目の内容：

12～17世紀の散文テキスト諸種につき、調査・分析の演習をおこなう。あわせて、履修者の研究主題の発表・討論を随時おこなう。

春・秋学期継続履修のこと。

国語学研究I（春学期）

教授 関場 武

授業科目の内容：

仮名草子の中から数点を取り上げ講読・演習を行う。その際、書誌学的研究方法の修得も併せ目指す。本学は、古典をパロディ化した作品を中心とする。

国語学研究II（秋学期）

教授 関場 武

授業科目の内容：

仮名草子の中から断本系統のものを選び、その特性を探る。今学期は「百物語」「しかた断」を中心に、講読・演習を行う。

芸能史I（春学期）

教授 野村 伸一

授業科目の内容：

東アジア祭祀芸能の歴史について考えます。この講義は春学期、秋学期とひとつながりのものです。

祭祀芸能は、地域共同体および個々のイエの祭祀、儀礼のなかで育まれた思想、価値観の象徴体系であり、身体表現です。その解読は仏教や道教、民俗宗教（巫俗に代表される）についての一定の認識を必要とします。ここでは何よりも国家の枠をはずして、中国、朝鮮、日本の基層に潜む特質を考えていきます。それはすなわち東アジア各地の民衆文化との具体的な接点を探求することに通じます。

芸能表現は必ずしも年表に従って展開しませんが、ここでは歴史的な順序を追って考察していきます。

授業は、講義形式で進めますが、途中で課題を出して、受講生に発表してもらいます。学期中に1回は発表することになります。

芸能史Ⅱ（秋学期）

教授 野村 伸一

授業科目の内容：

東アジア祭祀芸能の歴史について考えます。この講義は春学期、秋学期とひとつながりのものです。

祭祀芸能は、地域共同体および個々のイエの祭祀、儀礼のなかで育まれた思想、価値観の象徴体系であり、身体表現です。その解説は仏教や道教、民俗宗教（巫俗に代表される）についての一定の認識を必要とします。ここでは何よりも国家の枠をはずして、中国、朝鮮、日本の基層に潜む特質を考えていきます。それはすなわち東アジア各地の民衆文化との具体的な接点を探求することに通じます。

芸能表現は必ずしも年表に従って展開しませんが、ここでは歴史的な順序を追って考察していきます。

授業は、講義形式で進めますが、途中で課題を出して、受講生に発表してもらいます。学期中に1回は発表することになります。

演劇史Ⅰ（秋学期）

日本の古典演劇

教授 石川 透

授業科目の内容：

日本の古典演劇について、具体的な作品を取り上げて、さまざまな種類の演劇の姿を考察する。

演劇史Ⅱ（春学期）

西洋演劇史概説

理工学部 教授 小菅 隼人

授業科目の内容：

西洋演劇史の羅列的な知識よりも、具体的な作品を知る方が有益だと考えますので、各回、各時代の代表的な戯曲を取り上げ概説します。講義のうち、30分程度を受講者による報告にあてます。その後、その作品を中心に、演劇思潮の流れを概説します。受講生は、各講義のために、毎週1作品（日本語）を読んでくれることが求められます。

斯道文庫書誌学講座Ⅰ（春学期）

斯道文庫 教授 川上 新一郎

授業科目の内容：

主として歌書・物語書の書誌のとり方を解説する。具体的には履修者と相談の上決める。

斯道文庫書誌学講座Ⅱ（秋学期）

教授 関場 武

授業科目の内容：

さまざまな形態の書物を使い、日本の文芸を研究する際に必須の書誌学的研究手法の修得をめざす。時代は中

世から近・現代に至る。特に版本・印刷本を中心に、各種文献の実物を使い、講義と演習を行う。

斯道文庫書誌学講座Ⅲ（春学期）

漢籍目録著録法

斯道文庫 教授 山城 喜憲

授業科目の内容：

書誌学の基礎的な知識を修得した上で、出来るだけ広く漢籍（中国人の著作）、準漢籍（漢籍に対する日本人の注釈書類）の多様な伝本に接しながら、調査の方法・著録の要領を習得することを目標として、実修を行います。受講者個々の研究状況に応じて、対象書目を選択することも可能です。実修と平行して、日本における漢籍の受容と伝流について概説します。

斯道文庫書誌学講座Ⅳ（秋学期）

斯道文庫 助教授 高橋 智

授業科目の内容：

中国の目録学・版本学の概要

斯道文庫書誌学講座Ⅴ（春学期）

校べ勘える

斯道文庫 助教授 大沼 晴暉

授業科目の内容：

書誌学とはどういう学問か、その基盤となる考え方を説明します。

斯道文庫書誌学講座Ⅵ（春学期）

書誌学入門（写本）

斯道文庫 助教授 佐々木 孝浩

授業科目の内容：

文学に限らず、日本の古典籍（特に写本）を対象あるいは材料・資料として研究に用いたいと考える学生に対する講義です。なるべく多くの現物に触れながら、古典籍の知識やその接し方、見方を学びます。

日本漢文学Ⅰ（春学期）

教授 佐藤 道生

授業科目の内容：

平安時代の駢文についての研究

『日本後紀』、『本朝文粹』、『本朝続文粹』などに収められている駢文作品を受講者の会読というかたちで読み進める。

日本漢文学Ⅱ（秋学期）

教授 佐藤 道生

授業科目の内容：

平安時代の駢文についての研究

『日本後紀』、『本朝文粹』、『本朝続文粹』などに収められている駢文作品を受講者の会読というかたちで読み進める。

中国文学専攻

中国文学研究Ⅰ（春学期）

閨怨詩の変遷

講師 詹 満 江

授業科目の内容：

閨怨詩は中国古典詩に特有のジャンルであり、独特の発展をとげた文学である。女性に成り代わって男性詩人が詠じる女性の男性に対する思慕の情は、六朝詩にその典型が確立し、唐詩において、さらなる展開をみせる。とくに、中唐以降顕著になる閨怨詩の寄託は、いかなる背景をもって誕生したのであろうか。実際にそうした詩を読みながら検討していきたい。

中国文学研究Ⅱ（秋学期）

閨怨詩の変遷

講師 詹 満 江

授業科目の内容：

中国文学研究Ⅰと同じ。

中国文学研究ⅢA（春学期）

助教授 杉 野 元 子

授業科目の内容：

20世紀の中国文学作品を講読する。テキストについては、受講生と相談のうえ決める。

あわせて、随時受講生の研究主題の発表・検討をおこなう。

中国文学研究ⅢB（春学期）

教授 関 根 謙

授業科目の内容：

博士課程、中国文学特殊研究Ⅰと同じ。

中国文学研究ⅣA（秋学期）

助教授 杉 野 元 子

授業科目の内容：

中国文学研究ⅢAと同じ。

中国文学研究ⅣB（秋学期）

教授 関 根 謙

授業科目の内容：

博士課程、中国文学特殊研究Ⅱと同じ。

中国文学研究Ⅴ（春学期）

中国古白話文献を読む（変文から明清白話小説）

教授 洪 谷 誉 一 郎

授業科目の内容：

本講はいわゆる古白話文献をあつかう際の基礎知識を習得することを目的として、敦煌変文から宋元平話・明清小説にいたるまでの文学作品を選んで講読します。今年度は宋・元・明の短篇・中篇小説を読む予定。まず、古白話の史的展開の概述を聴講することによってそのアウトラインを理解し、その上で実際に作品を精読し、古白話の特徴や問題点等を把握してもらいます。

作品は輪番で読み進めます。担当者は事前に担当箇所について、テキスト上の問題点・語句の解釈・翻訳等を含めた詳細なレジュメを準備してください。授業時にはそのレジュメに基づいて内容の検討を行います。

中国文学研究Ⅵ（秋学期）

中国古白話文献を読む（変文から明清白話小説）

教授 洪 谷 誉 一 郎

中国文学研究Ⅴと同じ。

中国文学研究Ⅶ（春学期）

教授 八 木 章 好

授業科目の内容：

『聊齋志異』を読む。

任篤行輯校『全校会注集評聊齋志異』（齐鲁書社刊）を用いて、特定の数篇を清人の注評を含めて精読する。

中国文学研究Ⅷ（秋学期）

教授 八 木 章 好

授業科目の内容：

中国文学研究Ⅶと同じ。

中国文学研究Ⅸ（春学期）

中国中世文学批評史研究

講師 門 脇 廣 文

授業科目の内容：

今年度（2005年度）は、唐の釈皎然の『詩式』（原本五卷。今本一卷）を読みます。『詩式』は、両漢及び唐詩人の名篇麗句を摘録し、五格・十九体に分けたもので、唐代の詩論の代表的著作です。五卷本の第一巻は、詩歌言論について総論的に論じ、また「五格」のうちの第一格について述べています。「五格」とは、詩の五つの格調を言い、同時にそのランクを表わしています。第二巻以降は、「五格」の内の第二格から第五格について論じています。「五格」は、詩を評価するには典故を用いないものを第一としています。「十九体」は詩の風格を論じたもので、「貞」「忠」「節」「志」「徳」「誠」「悲」「怨」「意」などの表現

内容にかかわるものと、「高」「逸」「気」「情」「思」「閑」「達」「力」「静」「遠」などの芸術的な特徴についてのものに分けられます。皎然は、「十九体」の中では「高」と「逸」とを高く評価しており、「冲淡」や「自然」なる風格を貴んでいます。

中国文学研究Ⅹ（秋学期）

中国中世文学批評史研究

講師 門脇 廣文

授業科目の内容：

中国文学研究Ⅸと同じ。

中国文学研究Ⅺ（春学期）

李漁研究

名誉教授 岡 晴夫

授業科目の内容：

李漁の作品（戯曲・小説・随筆・尺牘等）の中から適宜選んで講読する。何を取りあげるかについては、受講生と相談のうえ決める。

中国文学研究Ⅻ（秋学期）

李漁研究

名誉教授 岡 晴夫

授業科目の内容：

中国文学研究Ⅺと同じ。

中国語学研究Ⅰ（春学期）

中国文法論Ⅰ

講師 内藤 正子

授業科目の内容：

趙元任は、構造主義隆盛期における世界的言語学者であり、また卓越した翻訳家でもあります。この授業では、趙元任の著作を読みながら、中国語の文法、表現についてホリスティックに考察してゆきます。

中国語学研究Ⅱ（秋学期）

中国文法論Ⅱ

講師 内藤 正子

授業科目の内容：

中国語学研究Ⅰと同様に趙元任の著作や譯文を読みながら、中国語の文法、表現についてホリスティックに考察してゆきます。

中国語学研究Ⅲ（春学期）

中国語を言語学的に考える

教授 山下 輝彦

授業科目の内容：

中国語研究で重要と思われる文献を読み、それについ

てディスカッションをする。中国語で研究発表をする力を身につけるために議論はすべて中国語で行う。

中国語学研究Ⅳ（秋学期）

中国語を言語学的に考える

教授 山下 輝彦

授業科目の内容：

中国語研究で重要と思われる文献を読み、それについてディスカッションをする。中国語で研究発表をする力を身につけるために議論はすべて中国語で行う。

中日比較文学研究Ⅰ（春学期）

講師 胡 志昂

授業科目の内容：

「格調莊嚴，氣象宏麗，最為可法」（胡応麟・詩藪）といわれる李嶠の五言律詩の中でもその詠物詩『百二十詠』（『李嶠雜詠』または『百詠』ともいう）が「大手筆」と称せられる。この類書の性格を兼ね備える詠物詩集は、いわゆる「文章四友」時代の詩論『唐朝新定詩格』（崔融著）等に提案された新しい律詩の作法を反映する書物でもあった。両書とも早くから日本に伝わり、王朝の歌論と新しい歌風の展開に刺激を与えたと見られる。この時間では『百二十詠』を『唐朝新定詩格』と併せて精読し議論を加えると共に、それと関連する平安時代の歌論と歌風の展開にも留意し、双方の共通点と相違点を検討していく。

中日比較文学研究Ⅱ（秋学期）

講師 胡 志昂

授業科目の内容：

中日比較文学研究Ⅰと同じ。

英米文学専攻

中世英語英文学特殊講義Ⅰ（春学期）

教授 高宮 利行

授業科目の内容：

国内外の学会発表、修士・博士論文の準備に必要なディシプリンに関する講義

中世英語英文学特殊講義Ⅱ（秋学期）

教授 高宮 利行

授業科目の内容：

中世英語英文学特殊講義Ⅰと同じ。

中世英語英文学特殊講義演習 I (春学期)

教授 松田 隆美

授業科目の内容:

13 - 16 世紀のテキストを精読し、中世研究の方法論を実践的に体得することを目的とする。本年度は、ロマンス、散文フィクション、寓意文学などに注目し、中世のナラティブ・ジャンルの多様性を考える。

中世英語英文学特殊講義演習 II (秋学期)

教授 松田 隆美

授業科目の内容:

春学期の「中世英語英文学特殊講義演習 I」の続き。

近代英米文学特殊講義 I (春学期)

18 世紀英文学を通じて、近・現代の出発点を確認する

講師 原田 範行

授業科目の内容:

イギリス 18 世紀は、詩、小説、伝記、批評など、さまざまな文学ジャンルが、変化・分化・確立してくる時代であり、またジャーナリズムや著作権論争も含め、印刷出版文化が今日的な相貌を帯び始める時期でもあります。本講義の目的は、こうした 18 世紀の英文学作品を精読しながら、作品解釈と研究のための基礎的事項を確認し、その方法論を検討していくことにあります。特殊講義 I (春学期) では、原典を精読して作品解釈の問題点を整理し、特殊講義 II (秋学期) では、関連する研究書の多読を通じて、研究のためのさまざまな視点を整備して行きます。これらの講義や演習を通じて、履修者の皆さんは、私たち自身も少なからずその一部を構成している、近・現代文学と文化の出発点を確認することができると思います。

近代英米文学特殊講義 II (秋学期)

18 世紀英文学を通じて、近・現代の出発点を確認する

講師 原田 範行

授業科目の内容:

イギリス 18 世紀は、詩、小説、伝記、批評など、さまざまな文学ジャンルが、変化・分化・確立してくる時代であり、またジャーナリズムや著作権論争も含め、印刷出版文化が今日的な相貌を帯び始める時期でもあります。本講義の目的は、こうした 18 世紀の英文学作品を精読しながら、作品解釈と研究のための基礎的事項を確認し、その方法論を検討していくことにあります。特殊講義 I (春学期) では、原典を精読して作品解釈の問題点を整理し、特殊講義 II (秋学期) では、関連する研究書の多読を通じて、研究のためのさまざまな視点を整備して行きます。これらの講義や演習を通じて、履修者の皆さんは、私たち自身も少なからずその一部を構成している、近・現代文学と文化の出発点を確認することができると思います。

近代英米文学特殊講義演習 I A (春学期)

Shakespeare, *The Sonnets* を読む

講師 高田 康成

授業科目の内容:

Shakespeare, *The Sonnets* を読む作業です。OED と各種注釈書を手がかりに、理解を進めるとというのが趣旨ですが、各々のソネットの主題に応じて、それに関連した劇作品を取り上げて論じることもしたいと思います。

近代英米文学特殊講義演習 I B (春学期)

休講

近代英米文学特殊講義演習 II A (秋学期)

Shakespeare, *The Sonnets* を読む

講師 高田 康成

授業科目の内容:

Shakespeare, *The Sonnets* を読む作業です。OED と各種注釈書を手がかりに、理解を進めるとというのが趣旨ですが、各々のソネットの主題に応じて、それに関連した劇作品を取り上げて論じることもしたいと思います。

近代英米文学特殊講義演習 II B (秋学期)

休講

現代英米文学特殊講義 I A (春学期)

世紀末からモダニズムへ

講師 富士川 義之

授業科目の内容:

イギリス世紀末からモダニズムにいたる過渡期の文学について、小説と批評を中心に考察する。

現代英米文学特殊講義 I B (春学期)

Reading In, and Against, Modernism 1922

講師 メアリ, ナイトン A.

授業科目の内容:

With a critical eye, we will regard the pivotal year of 1922 as a key year for Anglo-American Modernism; however, we will also read against the grain of canon formations to question periodization and its political, aesthetic, and historical categories. The global context will also be taken into account as we read Michael North's *Reading 1922* throughout the course. Primary texts in poetry and prose will include literature by colonial and Harlem Renaissance writers, manifesto texts, and works by major Modernists (chosen according to student research interests whenever possible).

現代英米文学特殊講義 I C (春学期)

休講

現代英米文学特殊講義 II A (秋学期)

世紀末からモダニズムへ

講 師 富 士 川 義 之

授業科目の内容 :

イギリス世紀末からモダニズムにいたる過渡期の文学について、小説と批評を中心に考察する。

現代英米文学特殊講義 II B (秋学期)

世紀末からモダニズムへ

講 師 メアリ, ナイトン A

授業科目の内容 :

現代英米文学特殊講義 I B と同じ

現代英米文学特殊講義 II C (秋学期)

休 講

現代英米文学特殊講義演習 I (春学期)

19 世紀末から 1930 年代までのイギリス文学

教 授 河 内 恵 子

授業科目の内容 :

Modern Literature について考える。

英米の批評家たちの意見を概観してから、主たる作家たちの作品を検討する。

現代英米文学特殊講義演習 II (秋学期)

19 世紀末から 1930 年代までのイギリス文学

教 授 河 内 恵 子

授業科目の内容 :

現代英米文学特殊講義演習 I を参照。

英語学特殊講義 I A (春学期)

Elementary Old English

教 授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容 :

This course introduces the pronunciation, spelling and grammar of Old English through reading simple prose.

英語学特殊講義 I B (春学期)

言語人類学

教 授 唐 須 教 光

授業科目の内容 :

意味論を扱います。

英語学特殊講義 I C (春学期)

認知文法研究

講 師 西 村 義 樹

授業科目の内容 :

下記の書物を教科書にして、認知文法の言語理論における位置づけ、理論的基盤と特徴、この理論による重要な言語現象の具体的分析、等を詳しく検討する。テーマによっては他の文献も併用する。教科書以外の文献のマスター・コピーはこちらで用意する。評価は平常点とレポートによる。

英語学特殊講義 I D (春学期)

教 授 唐 須 教 光

授業科目の内容 :

語彙意味論を扱う予定であるが、詳細は最初の授業時に述べる。

英語学特殊講義 I E (秋学期)

Chomsky on Language, Democracy, and Education 1

言語文化研究所 助教授 北 原 久 嗣

授業科目の内容 :

言語、民主主義、教育に関するチョムスキーのインタビュー、講演、また論文を読む。「これまでの傑出した思想家の一人」(*New York Times Book Review*, February 25, 1979) の影響最たる思想の幾つかを網羅的に紹介する。

英語学特殊講義 I F (春学期)

言語の認知科学

言語文化研究所 教 授 大 津 由 紀 雄

授業科目の内容 :

言語の認知科学の主要論点のいくつかをとりあげ、文献を読んだり、議論したりする。認知言語学の講義ではないので誤解のないよう。受講予定者は第一回目の講義に必ず出席のこと。やむをえない都合で出席できない場合は、必ず事前に担当者に連絡のこと。

英語学特殊講義 I G (春学期)

発話解釈に関する語用論的研究

講 師 西 山 佑 司

授業科目の内容 :

われわれは言葉を使って情報を伝達するが、そこで用いられた言葉の意味は、伝達内容という点ではきわめて不完全である。人間は、なぜかとも不完全な言葉を用いて意図を伝達できるのか、言葉によって伝達される内容は何か、を論じる。とくに、言葉によって明示的に伝達される部分と非明示的に伝達される部分の区別は何か、メタファーやアイロニー、メトニミーなどの解釈はいかにして生じるか、詩的言語の解釈は何か、という問題を

現代語用理論として注目されている関連性理論 (Relevance Theory) の立場から論じる。

英語学特殊講義 II A (秋学期)

Elementary Old English

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容:

In this course, we shall read Old English prose and verse from a variety of genres.

英語学特殊講義 II B (秋学期)

教授 唐 須 教 光

授業科目の内容:

意味論を扱う。

英語学特殊講義 II C (秋学期)

認知文法研究

講師 西 村 義 樹

授業科目の内容:

英語学特殊講義 I C と同じ。

英語学特殊講義 II D (秋学期)

教授 唐 須 教 光

授業科目の内容:

前期と同一

英語学特殊講義 II E (秋学期)

Chomsky on Language, Democracy, and Education 2

言語文化研究所 助教授 北 原 久 嗣

授業科目の内容:

英語学特殊講義 I E の内容を継続します。

英語学特殊講義 II F (秋学期)

言語の認知科学

言語文化研究所 教授 大 津 由 紀 雄

授業科目の内容:

英語学特殊講義 I F の継続

英語学特殊講義 II G (秋学期)

発話解釈に関する語用論的研究

講師 西 山 佑 司

授業科目の内容:

われわれは言葉を使って情報を伝達するが、そこで用いられた言葉の意味は、伝達内容という点ではきわめて不完全である。人間は、なぜかくも不完全な言葉を用いて意図を伝達できるのか、言葉によって伝達される内容は何か、を論じる。とくに、言葉によって明示的に伝達される部分と非明示的に伝達される部分の区別は何か、

メタファーやアイロニー、メトニミーなどの解釈はいかにして生じるか、詩的言語の解釈は何か、という問題を現代語用理論として注目されている関連性理論 (Relevance Theory) の立場から論じる。

英語学特殊講義演習 I (春学期)

Informed Argument

教授 アーマー, アンドルー J.
Armour, Andrew

授業科目の内容:

This course is primarily designed for students who are preparing to write M.A. dissertations. It will focus on the techniques required to produce a logical, concise presentation of an academic argument. After receiving instruction in the theory and practice of English rhetoric, students will be expected to present papers for discussion in class.

英語学特殊講義演習 II (秋学期)

Informed Argument

教授 アーマー, アンドルー J.
Armour, Andrew

授業科目の内容:

This course is primarily designed for students who are preparing to write M.A. dissertations. It will focus on the techniques required to produce a logical, concise presentation of an academic argument. After receiving instruction in the theory and practice of English rhetoric, students will be expected to present papers for discussion in class.

英語史特殊講義演習 I (春学期)

史的資料による英語の通時的研究

講師 小 倉 美 知 子

授業科目の内容:

古英語の詩の中では *Beowulf* の次に読む必要があると思われる *Genesis* のうち、*Genesis B* (ll. 235-851) を精読する。Old Saxon との比較を行うため、Doane の edition を用いる。古英詩の韻律、formula、語彙等に興味のある学生の参加を特に歓迎する。

英語史特殊講義演習 II (秋学期)

史的資料による英語の通時的研究

講師 小 倉 美 知 子

授業科目の内容:

Genesis A を読む。春学期に読んだ *Genesis B* との比較のために Doane の版を用いるが、当然 *ASPR* はじめ他の版も参照する。今回も古英詩の韻律、formula、語彙等に興味のある学生の参加を特に歓迎する。

米文学特殊講義Ⅰ（春学期）

アメリカ文学思想史

教授 巽 孝之

授業科目の内容：

旧来の文学史的言説を意識しながらアメリカ文学思想史の可能性を考える。

米文学特殊講義Ⅱ（秋学期）

アメリカ文学思想史

教授 巽 孝之

授業科目の内容：

旧来の文学史的言説を意識しながらアメリカ文学思想史の可能性を考える。

米文学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

18世紀アメリカ文化研究

講師 折島 正司

授業科目の内容：

Jay Fliegelman, *Prodigals and Pilgrims: The American Revolution against Patriarchal Authority, 1750-1800* を読み、独立革命期前後のアメリカ文芸文化の背景を考える。

Charles Brockden Brown をはじめとする共和主義の時代のアメリカ小説についての知識あるいは関心が前提となる。

米文学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

18世紀アメリカ文化研究

講師 折島 正司

授業科目の内容：

Jay Fliegelman, *Declaring Independence: Jefferson, Natural Language, & the Culture of Performance* を読み、独立革命期前後のアメリカ文芸文化の背景を考える。

Charles Brockden Brown をはじめとする共和主義の時代のアメリカ小説についての知識あるいは関心が前提となる。

比較文学Ⅰ（春学期）

小説はどのように書かれているか

講師 菅原 克也

授業科目の内容：

比較文学的アプローチに親んでもらうため、春学期は理論的な枠組みについて講義する。

小説を、その思想やメッセージの側からではなく、「かたち」の側から読んでゆくところのようなことが分かるか、あるいは、小説とはどのような書かれ方をしているか、ということを考える。テクニクの構造に着目する様々な批評理論を参照しつつ、具体的な小説作品を「かたち」の面から読み解いてみる。主に英米文学と日本文学から例

を引く。

比較文学Ⅱ（秋学期）

俳句はいかにして世界文学となったか

講師 菅原 克也

授業科目の内容：

比較文学的アプローチに親んでもらうため、秋学期には具体的な影響研究について講義する。

明治期以降、日本の詩歌が欧米にどのように紹介され、どのように理解されたかを、実証的受容研究の立場から紹介する。とりわけ注目すべきは、日本の俳諧／俳句がいかにして欧米に受け入れられ、やがて haikai / haiku として世界文学の一ジャンルとなりえたかという問題である。欧米文学の受容研究の蓄積の厚い日本の比較文学研究において、これは影響・受容の方向がまったく逆となる興味深い例である。

古典文学ⅠA（春学期）

教授 西村 太良

授業科目の内容：

昨年に続いて異色の古典学者 John Gould の論文集 *Myth, Ritual, Memory, and Exchange: Essays in Greek Literature and Culture* (Oxford University Press, 2001) の中から受講者の関心のありそうな論文を選び、さまざまな角度から問題にアプローチしてみたい。受講に際して古典語の知識は不可欠ではないが、邪魔になることもない。

古典文学ⅠB（春学期）

教授 中川 純男

授業科目の内容：

アリストテレスの『詩学』を読み、その作品論をとおして、古典古代世界における文学の役割を考える。初回に発表担当者を決め、毎時間その発表を中心に『詩学』のテクニクを分析する。参加者はギリシャ語テクニク、あるいは最低二カ国語の近代語訳（日本語訳を含む）を用意することが求められる。

古典文学ⅡA（秋学期）

教授 西村 太良

授業科目の内容：

Sourvinou-Inwoodの近著 *Greek Tragedy and Athenian History* (2004) の中から前期の授業内容と関連がある部分を選んで、そこで取り上げられている諸問題について考えてみたい。

古典文学ⅡB（秋学期）

教授 中川 純 男

授業科目の内容：

アリストテレスの『弁論術 (Rhetorica)』を輪読し、古典古代世界における教養としてきわめて重要な役割をはなした弁論とは何かを考える。参加者はギリシア語テキスト、あるいは最低二カ国語の近代語訳（日本語訳を含む）を用意することを求められる。

文芸批評史Ⅰ（春学期）

教授 巽 孝 之

授業科目の内容：

文学批評理論はきわめて学際的な分野である。現代に限っても、ロシア・フォルマリズムや新批評、脱構築、ひいては構造主義から新歴史主義やポスト・コロニアリズム、クイア・リーディングへ至る歴史において、文学批評は何よりも自らの属する枠組み自体をたえまなく再検討し、その結果、今日では文学史と文化史を切り離して考えることはできなくなっている。そこには、いかなる文芸批評史の流れが作用していたのかを、根本に立ち戻って考え直す。

文芸批評史Ⅱ（秋学期）

教授 巽 孝 之

授業科目の内容：

文芸批評史Ⅰの応用篇。

言語学特殊講義Ⅰ（春学期）

日本語の意味論研究

講師 西山 佑 司

授業科目の内容：

主として日本語表現を材料にして意味論の問題を検討するが、必要に応じて他の言語との比較もおこなう。

言語学特殊講義Ⅱ（秋学期）

日本語の意味論研究

講師 西山 佑 司

授業科目の内容：

言語学特殊講義Ⅰと同じ。

独 学 術 専 攻

ドイツ文学研究Ⅰ（春学期）

ゲーテ時代研究XVII

教授 柴田 陽 弘

授業科目の内容：

「ノヴァーリス思想研究」
「ザイスの弟子たち」を精読しながらノヴァーリス思想と十八世紀の自然観を考察する。

ドイツ文学研究Ⅱ（秋学期）

ゲーテ時代研究XVII

教授 柴田 陽 弘

授業科目の内容：

春学期に同じ。
学術論文執筆の実践的訓練。

ドイツ文学研究Ⅲ（2）（春学期）

教授 和泉 雅 人

授業科目の内容：

昨年度と同じくティークの『ウィリアム・ラブル』を読んでいきます。本年度は発表もしていただきたいと思っています。

ドイツ文学研究Ⅳ（2）（秋学期）

教授 和泉 雅 人

授業科目の内容：

ドイツ文学研究Ⅲに同じ。

ドイツ文学研究Ⅴ（春学期）

ドイツ語教育研究Ⅰ

経済学部 教授 境 一 三

授業科目の内容：

これまでの外国語学習の経験を踏まえ、21世紀のドイツ語学習・教育のあるべき姿を探ります。内容は以下の通りです。

- 1) 外国語教育の歴史を概観する
- 2) 教材のコンセプトと実際を研究する

ドイツ文学研究Ⅵ（秋学期）

ドイツ語教育研究Ⅱ

経済学部 教授 境 一 三

授業科目の内容：

春学期に続き、21世紀のドイツ語学習・教育のあるべき姿を探ります。内容は以下の通りです。

- 1) 教授法と教材の関係を探る
- 2) 教材を作成する（紙ベースの教材，オンライン教材）
- 3) 教材の活用方法を考える

ドイツ文学演習Ⅰ（春学期）

Germanistische Propädeutik

教授 フュルンケース，ヨーゼフ

授業科目の内容：

Das Schreiben von Examensarbeiten, z.B. Magisterarbeiten, will gelernt und geübt sein. Es genügt nicht, das Thema zu bedenken, die Werke zu lesen, die Literatur zu konsultieren, den eigenen Interpretationsideen zu folgen. Es geht auch darum, sich den Standards und Normen zu stellen, die mit dem Anspruch auf wissenschaftliches Schreiben verbunden sind. Germanistische Propädeutik will hier gezielt Hilfen anbieten.

Examenskandidaten wird die Möglichkeit gegeben, den Fortschritt ihrer Arbeiten durch konstruktive Kritik kontinuierlich überprüfen zu lassen.

ドイツ文学演習Ⅱ（秋学期）

Germanistische Propädeutik

教授 フュルンケース，ヨーゼフ

授業科目の内容：

Das Schreiben von Examensarbeiten, z.B. Magisterarbeiten, will gelernt und geübt sein. Es genügt nicht, das Thema zu bedenken, die Werke zu lesen, die Literatur zu konsultieren, den eigenen Interpretationsideen zu folgen. Es geht auch darum, sich den Standards und Normen zu stellen, die mit dem Anspruch auf wissenschaftliches Schreiben verbunden sind. Germanistische Propädeutik will hier gezielt Hilfen anbieten.

Examenskandidaten wird die Möglichkeit gegeben, den Fortschritt ihrer Arbeiten durch konstruktive Kritik kontinuierlich überprüfen zu lassen.

ドイツ文学演習Ⅲ（春学期）

講師 ループレヒター，ヴァルター

授業科目の内容：

Witz, Humor, Lachen

Im Seminar soll das Lachen als kulturelles Phänomen behandelt werden.

Anhand von Texten über das Lachen (Jean Paul, Henri Bergson, Sigmund Freud, Helmuth Plessner, Marvin Minski u.a.) sowie an Texten, Bildern, Filmen zum Lachen (Georg Christoph Lichtenberg, Jean Paul, Wilhelm Busch, Joachim Ringelnatz, Karl Valentin, Johann Nestroy, Robert Gernhard, Ernst Jandl, der Nonsense-Poesie, Witzen u.a.) soll diskutiert werden, was man wo und warum witzig findet. An gelungenen Einzelbeispielen werden ästhetische, semiotische,

psychoanalytische und anthropologische Aspekte sowie Mechanismen und Funktionen des Witzigen und Komischen aufgezeigt und nach kulturellen Differenzen im Umgang damit gefragt. Lacht man in Deutschland anders und über anderes als in Österreich oder in Japan?

Die Texte werden in Kopien im Unterricht verteilt.

ドイツ文学演習Ⅳ（秋学期）

講師 ループレヒター，ヴァルター

授業科目の内容：

ドイツ文学演習Ⅲと同じ。

ドイツ文学演習Ⅴ（春学期）

ベンヤミンの旅行のテキスト

教授 大宮 勘一郎

授業科目の内容：

Walter Benjamin (1892-1940) は、不断の旅行者でもあった。その彼が訪れた様々な都市や場所についての中期テキストを細かく読んでゆく。

ドイツ文学演習Ⅵ（秋学期）

ベンヤミンの旅行のテキスト

教授 大宮 勘一郎

授業科目の内容：

Walter Benjamin (1892-1940) は、不断の旅行者でもあった。その彼が訪れた様々な都市や場所についての中期テキストを細かく読んでゆく。（ドイツ文学演習Ⅴと継続した内容）

ドイツ語学研究Ⅰ（春学期）

教授 中山 豊

授業科目の内容：

ドイツ語学に関する最近の研究論文を講読します。具体的な内容については参加者と相談の上決定します。

ドイツ語学研究Ⅱ（秋学期）

教授 中山 豊

授業科目の内容：

ドイツ語学に関する最近の研究論文を講読します。具体的な内容については参加者と相談の上決定します。

ドイツ語学研究Ⅲ（春学期）

中高ドイツ語入門

講師 香田 芳樹

授業科目の内容：

中高ドイツ語は、現代ドイツ語の知識があれば、誰でも読めます。この演習では、中高ドイツ語の初級文法を学びながら、中世の文学作品を原典で少しずつ読んでい

きます。新しい(古い?)言葉にふれれば、あなたの文学世界もきっと広がるでしょう。

ドイツ語学研究Ⅳ(秋学期)

中高ドイツ語入門

講師 香田 芳樹

授業科目の内容:

ドイツ語学研究Ⅲを参照。

ドイツ語学演習Ⅰ(春学期)

Einführung in die Textinterpretation I

訪問講師(招聘) ドウツペルータカヤマ, メヒティルド

授業科目の内容:

In diesem Seminar werden Methoden der Interpretation fiktionaler Texte (Prosa und Lyrik) vermittelt. Nach der Vorstellung von Basisfragen wie Autor-Text-Epoche und Text-Kontext steht das Beschreiben von Texten im Mittelpunkt: Grundlegende Aspekte der Formanalyse sowie der Analyse der literarischen Darstellung werden vorgestellt und anhand von Beispielen eingeübt. Dabei sollen auch wissenschaftliche Arbeitsweisen erlernt werden.

ドイツ語学演習Ⅱ(秋学期)

Einführung in die Textinterpretation II

訪問講師(招聘) ドウツペルータカヤマ, メヒティルド

授業科目の内容:

Fortsetzung der Veranstaltung "Einführung in die Textinterpretation I".

Am Beispiel der in den fünfziger Jahren entstandenen Konkreten Dichtung werden Möglichkeiten der Interpretation experimenteller Lyrik vorgestellt und diskutiert.

仏文学専攻

中世仏語仏文学特殊講義Ⅰ(春学期)

中世フランス語入門

教授 川口 順二

授業科目の内容:

13世紀の散文を使って中世フランス語の入門をします。同時に文献学の基本を学び、フランス語に対する感受性を養い、文学作品を読解していく上で必要な知識をつけてもらいます。

中世仏語仏文学特殊講義Ⅱ(秋学期)

中世フランス語演習

教授 川口 順二

授業科目の内容:

春学期に学習した、または他所で勉強した中世フランス語の知識を基にして、12世紀の韻文を読みます。13世紀の散文より難度の高いテキストですが、学年末には思ったより以上に中世語が読めるようになっているはずです。

中世仏語仏文学特殊講義演習Ⅰ(春学期)

ルネサンス文学

教授 荻野 安奈

授業科目の内容:

- ① 16世紀のフランス語に慣れる。
- ② *Gargantua* の構造から、小説の可能性と限界を考える。

中世仏語仏文学特殊講義演習Ⅱ(秋学期)

ルネサンス文学

教授 荻野 安奈

授業科目の内容:

Gargantua を続けて読みながら、先行作品(*Pantagruel*)との比較に入る。

近代仏語仏文学特殊講義Ⅰ(春学期)

ベルギー象徴派の文学(1)

教授 宮林 寛

授業科目の内容:

ベルギー象徴派の詩人シャルル・ヴァン・レルベルグの作品を読みながら韻文の解釈を「実践的に」学んでもらう授業です。

近代仏語仏文学特殊講義Ⅱ(秋学期)

ベルギー象徴派の文学(2)

教授 宮林 寛

授業科目の内容:

港湾都市アントウェルペンに取材した詩と小説をとりあげ、都市と文学の関係を考えてみようと思います。

近代仏語仏文学特殊講義演習Ⅰ(春学期)

古典フランス語入門Ⅰ

教授 片木 智年

授業科目の内容:

古典フランス語の入門です。ラシーヌについて、「人間の言語においてこれほど美しい詩句」が書かれたことはないといったのはジードで、悲劇『アンドロマック』をして世界最高の戯曲といったのは浅利慶太です。この時代のフランス語は現代にいたるまで様々な作家のお手本となり、フランス人学生はみんな学校で一通りの作品を

学びます。文字通り「クラシック」な教養となっているのです。したがって、フランス文化に親しみたい、あるいは将来的にフランス語・文学の専門家への道を考えているといった方に開かれた演習であり、現代フランス語さえできればよいという方には無益な努力を強いられる辛いだけの授業です。なお、授業では現代語つづりに書き直した古典悲劇の抜粋を題材としますが、徐々に16、7世紀のエディションも紹介していきます。

近代仏語仏文学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

古典フランス語入門Ⅱ

教授 片木 智 年

授業科目の内容：

前期の授業の続きです。前期で古典フランス語の入門を終えた方、もしくはすでにその知識を持っている方が履修可能です。授業で扱われる資料は当時のフランス語そのまま（現代語つづりに直していないもの）です。人文劇、バロック劇を通じてどんな風にフランスの演劇＝幻想産業が立ち上がってきたかを通史的に追っていくことになるでしょう。

現代仏文学特殊講義Ⅰ（春学期）

Explication de textes littéraires

訪問助教授（招聘） ブランクール、ヴァンサン

授業科目の内容：

Le semestre de printemps sera consacré à l'étude du *Chiendent*, premier roman de Raymond Queneau, publié en 1933. On procédera à l'étude d'extraits choisis en accordant une attention particulière à la manière dont l'auteur retravaille les conventions du genre – le personnage, la narration, le réalisme – pour créer un univers propre. L'accent sera mis, par ailleurs, sur la technique de l'explication littéraire, linéaire ou thématique.

現代仏文学特殊講義Ⅱ（秋学期）

Explication de textes littéraires

訪問助教授（招聘） ブランクール、ヴァンサン

授業科目の内容：

Le semestre d'automne sera consacré à l'étude du théâtre de Bernard-Marie Koltès (1948-1989). A travers l'étude de *Roberto Zucco* (1989), dernière pièce de cet auteur, nous nous intéresserons aux formes contemporaines du théâtre. Dans ce cours, l'accent sera, par ailleurs, mis sur la technique de l'explication littéraire, linéaire ou thématique.

現代仏文学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

文学におけるパリの表象

教授 小倉 孝 誠

授業科目の内容：

昨年に続いて、文学におけるパリの表象について考察する。おそらくパリほど頻繁に文学の主題となり、絵や版面に描かれ、映画の舞台になった都市はない。この講義では、19世紀以降の近代都市パリの変遷をたどりながら、文学、回想録、ジャーナリズム的著作などにおいてパリがどのように語られ、表象されてきたかを検証する。バルザック、フロベール、ボードレール、ゾラ、プルースト、ブルトン、アラゴン、ジュリアン・グリーンなどの作品を取り上げる。また今年度は、パリと文学に関する批評テキストも読む予定である。必要に応じて絵画、版画、写真、ビデオなどの視覚資料を使用する。

現代仏文学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

教授 小倉 孝 誠

授業科目の内容：

春学期の続き。

仏語仏文学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

ディドロの作品講読

教授 鷲見 洋 一

授業科目の内容：

授業はフランス語で行い、ディドロの傑作を抜粋で丁寧に読む。18世紀のフランス語、とりわけディドロの個性的な文体を、日本語を介在させずに味わうことが目的で、読み解きに必要なさまざまなツールの利用技術を併せて習得して貰う。

日本人同士がフランス語で考え、喋るのは、けっこうきついものだが、キャンパスでフランス語に接する機会があまりない以上、お互いの訓練だと思って付き合っていたきたい。初めは辛いですが、慣れると、最後はメモ程度でけっこう話すようになるから不思議である。

仏語仏文学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

18世紀文学講読

教授 鷲見 洋 一

授業科目の内容：

授業はフランス語で行い、ディドロ以外の18世紀フランス文学の散文傑作を抜粋で読む。

仏語仏文学特殊講義演習Ⅲ

フランス象徴派詩人の詩と演劇

名誉教授 立 仙 順 朗

授業科目の内容：

Thierry Alcoloumbre: Mallarmé, la poétique du théâtre et

l'écriture を読みながら、マラルメにおける詩と演劇、書物と劇場の関係について考察します。

仏語仏文学特殊講義演習Ⅳ

フランス象徴派詩人の詩と演劇

名誉教授 立 仙 順 朗

授業科目の内容：

春学期に引き続き、Thierry Alcoloumbre: Mallarmé, la poétique du théâtre et l'écriture を読みながら、マラルメにおける詩と演劇、書物と劇場の関係について考察します。

仏語仏文学特殊講義演習Ⅴ（春学期）

ブルーストとワーグナーの『パルシファル』

教授 牛 場 暁 夫

授業科目の内容：

「ブルーストとワーグナーの『パルシファル』」

同名の学術論文が、来年刊行予定のフランスのレフェリー付きの論叢集「Marcel Proust 6」（レットル・モデルヌ ミナール社）に掲載されますが、この論文がどのような経緯をえて学術論文という形をとっていったかを語ります。テキストをいかに尊重するか、先行研究にいかに配慮するか、ワグナーの台本をいかに読んだか、また翻訳本の重要性についても語りた。

仏語仏文学特殊講義演習Ⅵ（秋学期）

ブルーストとワーグナーの『パルシファル』

教授 牛 場 暁 夫

授業科目の内容：

国際シンポジウムで発表し、ブルースト研究では代表的な研究論叢『Marcel Proust 7』に掲載されることになった上記論文について論じたい。

この研究が形を取るまでのプロセスを追いつつ、どのように資料を集めたか、どのように分析したか、先行研究をどう使ったか、実証研究だけに終わらせないための視野をどう獲得したか、どのように発表したか、などについてくわしく話したい。

文学研究全般になんらかのヒントが提供できれば幸いである。

図 書 館 ・ 情 報 学 専 攻

情報学特殊講義Ⅰ（春学期）

教授 田 村 俊 作

授業科目の内容：

Rayward W.B. “The development of library and information science.” *The Study of Information*, ed. by F. Machlup; U.

Mansfield. New York, Wiley, 1983, p.343-363 を講読することを通じて、図書館情報学の歴史、「図書館学」と「情報学」、関連分野、最近の動向とその背景などについて考えたい。

情報学特殊講義Ⅱ（秋学期）

教授 田 村 俊 作

授業科目の内容：

昨年度に続き Rubin, R.E. *Foundations of Library and Information Science*. 2nd ed. Neal Schuman, 2004 の講読を通じて、図書館情報学について考えてみたい。

情報学特殊講義Ⅲ（秋学期）

教授 田 村 俊 作

授業科目の内容：

三田メディアセンターとの連携の下に、図書館利用者サービスの実施に係わる諸問題を、実習を交え実際に即して検討するインターンシップ科目である。

情報学特殊講義Ⅳ（秋学期）

休 講

情報学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

教授 田 村 俊 作

授業科目の内容：

図書館情報サービスに関連する諸問題について、論文作成の指導を行う。

情報学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

教授 田 村 俊 作

授業科目の内容：

情報学特殊講義Ⅰに引き続き、図書館情報サービスに関連する諸問題について、論文作成の指導を行う。

情報メディア特殊講義Ⅰ（春学期）

休 講

情報メディア特殊講義Ⅱ（秋学期）

休 講

情報メディア特殊講義Ⅲ（春学期）

学術コミュニケーション論の電子化

教授 倉 田 敬 子

授業科目の内容：

学術コミュニケーションに関する基本的認識について確認した上で、現代における最大の関心事である電子化がもたらした現状と課題について、文献の講読と議論を通して考えていく。

情報メディア特殊講義Ⅳ（秋学期）

学術コミュニケーションにおけるオープンアクセス

教授 倉田 敬子

授業科目の内容：

学術コミュニケーションにおいて現在話題になっているオープンアクセス運動に関して、その動向と意義を検討するために、最近刊行されたオープンアクセスに関する図書の輪読と討論を行う。概念と動向理解のために、適宜必要な資料や情報を提供する。

情報メディア特殊講義演習Ⅰ（春学期）

情報メディアに関する研究会

教授 倉田 敬子

授業科目の内容：

情報メディアに関する調査研究の実践的な指導を行います。研究テーマの設定、基本文献の講読と主要内容の発表、調査計画、調査の実施、成果の発表を行ってまいります。

情報メディア特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

情報メディアに関する研究会

教授 倉田 敬子

授業科目の内容：

情報メディア特殊講義Ⅰで行った調査研究のまとめを行うとともに、修士論文作成に向けての指導を行う。

情報検索特殊講義Ⅰ（春学期）

教授 岸田 和明

授業科目の内容：

情報検索の基本的な理論や技法を、文献の講読を通じて身に付けることを目的とします。

情報検索特殊講義Ⅱ（秋学期）

教授 岸田 和明

授業科目の内容：

情報検索システムの実装の方法、およびそのシステムの性能を評価・検証するための検索実験の方法を身に付けることを目的とします。

情報検索特殊講義Ⅲ（春学期）

名誉教授 細野 公男

授業科目の内容：

情報検索手法、情報検索システム、デジタルライブラリーの開発・利用に関わる基本的な考え方・アプローチや問題点、さらに現在話題になっているトピックを取り上げます。

情報検索特殊講義Ⅳ（秋学期）

名誉教授 細野 公男

授業科目の内容：

「情報検索特殊講義Ⅲ」で取り上げた話題を種々の側面からさらに展開します。

情報検索特殊講義演習Ⅰ（春学期）

休講

情報検索特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

休講

情報システム特殊講義Ⅰ（秋学期）

高等教育システムと大学・学術図書館

教授（有期） 三浦 逸雄

授業科目の内容：

現在、さまざまな形で進行している大学改革のなかで大学図書館はどのように対応すべきなのか、またデジタル時代に大学図書館は生き残っていけるのであろうか。あたらしい時代における図書館員にはいかなる知識や技能が求められているのであろうか。このような問題意識から大学・学術図書館にかかわる諸問題を高等教育システムという広いコンテキストの中で、構造的に検討する。さらに日米比較という視点から歴史的・制度的な考察も加える。

情報システム特殊講義Ⅱ（春学期）

情報サービスにおける図書館と公文書館（アーカイヴズ）

名誉教授 高山 正也

授業科目の内容：

出版という大量複製技術が確立するまで、図書館とアーカイヴズは一体でした。電子的記録が盛んになった現在、カナダのように、図書館とアーカイヴズを再統合した国も出現しています。そこで、出版物と文書、図書館とアーカイヴズの類似点・相違点を把握することで、図書館とアーカイヴズ、更には情報サービスのより深い理解を目指します。

情報システム特殊講義Ⅲ（秋学期）

休講

情報システム特殊講義Ⅳ（秋学期）

図書館の〈公共性〉

教授 糸賀 雅児

授業科目の内容：

図書館経営や図書館行政、図書館政策に関わる問題を取りあげます。今年度も図書館＝無料貸本屋批判や図書館民営化論をうけて、図書館がもつ〈公共性〉とは何かを、

引き続き考えることにします。

館種を問わず、多くの図書館には公的な資金が投入されていますし、「無料の原則」も貫かれています。一昨年の著作権法改正により、書籍や雑誌にも貸与権が認められたにもかかわらず、図書館では従前通り、無許諾の貸出が許されています。さらに複製権に関しても、著作権法第31条は図書館に対し権利制限を認めています。これらは、図書館が〈公共性〉を有していることの端的な表れと考えることができます。

その一方で、図書館経営に民間活力の導入が叫ばれ、業務のアウトソーシングはもとより、運営面での住民（利用者）参加や大学図書館の地域開放、そして自己評価の公表が当然とされる時代です。図書館がもつ〈公共性〉は〈公益性〉と重なりつつも、時代とともにその内容を変えてきたように思われます。例えば、公共図書館は英語で public library と表現されますが、〈公共性〉は public の意味だけではなく、open や common、あるいは civic や governmental の意味をも帯びて用いられているのが実態です。

そこでこの授業では、ハーバーマスの〈公共圏〉ないし「公共空間」に依拠しながら、現代日本における図書館の〈公共性〉の再構築を試みることにします。

情報システム特殊講義演習Ⅰ（春学期）

教授 糸賀雅児

授業科目の内容：

修士論文の執筆に向けて、テーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行なっていきます。

情報システム特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

教授 糸賀雅児

授業科目の内容：

修士論文の執筆に向けて、テーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行なっていきます。

調査研究法Ⅰ（春学期）

図書館・情報学の基本的な研究方法を学ぶ

教授 糸賀雅児

授業科目の内容：

図書館・情報学の基本的な研究方法について学びます。国内外の具体的な研究事例をもとに、主な研究方法の概要、意義、限界などを検討する予定ですが、特に「統計的方法」について、有意差検定の基本的な考え方が修得できることを目的とします。また、図書館・情報学の主要な専門雑誌についても、それぞれの特徴を理解してもらいたいと考えています。

調査研究法Ⅱ（秋学期）

休講

情報分析論Ⅰ（春学期）

教授 岸田和明

授業科目の内容：

図書館・情報学の最近の海外研究論文の中から履修者各自が選択したものについて、その概要を発表し、全員で討議します。原則として、秋学期の情報分析論Ⅱとあわせて継続して履修してください。

情報分析論Ⅱ（秋学期）

教授 岸田和明

授業科目の内容：

情報分析論Ⅰと同じ内容です。原則として、春学期の情報分析論Ⅰとあわせて継続して履修してください。

情報資源管理特殊講義Ⅰ（秋学期）

図書館マネジメントの諸問題

教授 糸賀雅児

授業科目の内容：

公共図書館や大学図書館のマネジメントのあり方について最新の知識を身につけるとともに、可能な限り具体的な事例に即して検討し、個々の図書館の状況に応じた対処法や解決策を探り出すことがねらいです。なおテーマに応じて、外部の専門家を特別招聘講師に迎える予定です。今年度は、以下のような事項を用意していますが、履修者の要望も聞きながらこの中から3つの事項を選ぶことにします。

- ・図書館におけるマーケティングのあり方
- ・図書館の経営評価
- ・図書館の危機管理
- ・図書館が行うファンド・レイジング（資金調達）
- ・図書館業務におけるICタグの活用
- ・図書館業務委託における要求水準書の作成

情報資源管理特殊講義Ⅱ（春学期）

教授（有期） 三浦逸雄

授業科目の内容：

現在、高等教育のユニバーサル化による学力低下、18歳人口減による入学者数の減少傾向、生涯学習の拡大による学生層の多様化、情報化の進展による学習機会の拡大、財政逼迫による大学経営の悪化など、大学をめぐる内外の環境は大きく変化している。このような状況に対応して大学図書館が大学の使命を達成するためにどのような役割を果たすことが出来るかが厳しく問われている。とりわけ情報技術の進展と電子情報源の拡大により21世紀に大学図書館が生き残っていくための課題は大きいと

いえる。このような問題認識に基づいて大学図書館の運営をめぐる様々な問題について日米比較をまじえながら検討する。講義は受講者の問題意識とクロスするような形で進める予定である。

情報資源管理特殊講義Ⅲ（春学期）

休 講

情報資源管理特殊講義Ⅳ（春学期）

休 講

情報資源管理特殊講義Ⅴ（秋学期）

コレクション構築方針：図書館の自己表現はどうあるべきか
講 師 中 野 捷 三

授業科目の内容：

図書館のコレクション構築には、収集方針、受贈方針、廃棄方針、保存方針、評価方針など、その館の基本的な考え方を内外に示すドキュメントの存在が不可欠です。図書館先進国アメリカにおける事例及び理論の展開、わが国の館界の現状を踏まえながら、各方針の考え方、意義、機能、内容構成、表現方法などについて学習します。

情報資源管理特殊講義Ⅵ（秋学期）

大学図書館と電子化

教 授 倉 田 敬 子

授業科目の内容：

現在、大学図書館は大きな変革の時期にあると言われている。それは、研究・教育を行う大学自体の変化、大学図書館がその一翼を担ってきた学術コミュニケーションの電子化に伴う根本的変容が要因であろう。大学図書館が抱える課題は数多くあるが、その中でも特にこれまでの大学図書館の機能の根幹を支えてきた学術情報の提供とそのアクセス手段の提供に関わる問題を中心に、いくつかのトピックを取り上げ、受講生による調査・発表と外部から講師を招いての講義・討論を通じて考察していく。

情報資源管理特殊講義Ⅶ（春学期）

電子メディア論

教 授 倉 田 敬 子

授業科目の内容：

これまで長年の間、情報や知識の流通の媒体となってきた印刷物が電子メディアによるものへと変化しつつある。この情報メディアの変化は、人々のコミュニケーションの形態の変化をもたらし、図書館においても、単にサービス提供方法の変化だけでなく、組織のあり方やさらには図書館の機能や役割の再検討の必要性さえも主張されだしている。この授業では主として学術コミュニケーション

ンにおける情報メディアの電子化がもたらした動向と影響を考える。

情報資源管理特殊講義Ⅷ（秋学期）

レファレンス・サービス論

教 授 田 村 俊 作

授業科目の内容：

レファレンス・サービスを提供する際に課題となる事項について、実際に即して検討します。それにより、レファレンス・ライブラリアンとしての知識・技能の向上をめざします。

情報資源管理特殊講義Ⅸ（秋学期）

休 講

情報資源管理特殊講義Ⅹ（秋学期）

休 講

情報資源管理特殊講義ⅩⅠ（春学期）

講 師 池 内 淳

授業科目の内容：

図書館情報学の調査研究を行う際に必要とされる基本的な情報リテラシーを修得するとともに、電子図書館サービスに関連する基礎的な技術や知識について、講義と演習を行います。

情報資源管理特殊講義ⅩⅡ（秋学期）

休 講

情報資源管理特殊講義ⅩⅢ（秋学期）

データベース構築の理論

教 授 岸 田 和 明

授業科目の内容：

この講義は、大量の情報（データまたはテキスト）をデータベースとして構築、管理・検索するための理論について学ぶことを目的とします。具体的には、図書館システムにおける大規模データベースの現況・機能を学び、さらに、データベース構築のための要素技術としての、(1) データ管理の基本的なツールである関係データベース、(2) テキストを効率よく管理するための言語であるXML、(3) 蓄積された全文を検索する技術の3つを勉強していきます。

情報資源管理特殊講義ⅩⅣ（春学期）

図書館をめぐる法と制度

教 授 糸 賀 雅 児

授業科目の内容：

図書館をとりまく法律や諸制度が急速に変容しようとしています。その動向と課題を把握し、個々の図書館の状

況に応じた対処法や解決策を探り出すことがねらいです。今年度は、以下のような事項を用意していますが、履修者の要望も聞きながらこの中から3つの事項を選ぶことにします。

- ・図書館にとっての個人情報保護法
- ・図書館にとっての著作権制度
- ・独立行政法人における会計制度
- ・地方自治法による「指定管理者制度」
- ・国際標準化機構（ISO）による図書館関連規格
- ・自治体再編と市町村合併

情報資源管理特殊講義ⅩⅤ（春学期）

公共図書館の諸問題

教授 田村俊作

授業科目の内容：

公共図書館に関連する今日的な問題を取り上げます。関係者を講師として招き、そのお話と討論とを通じて、問題に対する理解を深めます。考えられるテーマには以下のようなものがありますが、実際にどのテーマにするか、および、誰をお招きするかについては、履修者のご意見も聞きながら決めることにします。

情報資源管理特殊講義ⅩⅥ（秋学期）

休講

情報資源管理特殊講義ⅩⅦ（春学期）

休講

情報資源管理特殊講義ⅩⅧ（春学期）

休講

情報資源管理特殊講義演習ⅠⅠ（春学期）

教授 田村俊作

授業科目の内容：

レファレンスサービスを中心とする利用者サービスをテーマに、院生の論文指導をします。

情報資源管理特殊講義演習ⅠⅡ（春学期）

教授 糸賀雅児

授業科目の内容：

修士論文の執筆に向けて、テーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行なっていきます。主要な指導領域は、公共図書館政策、公共図書館経営、図書館の測定・評価などを中心とした公共図書館の諸問題になりますが、その他のテーマについては、その都度検討させていただきます。

情報資源管理特殊講義演習ⅡⅠ（秋学期）

教授 田村俊作

授業科目の内容：

レファレンスサービスを中心とする利用者サービスをテーマに、ⅠⅠに引き続き院生の論文指導をします。

情報資源管理特殊講義演習ⅡⅡ（秋学期）

教授 糸賀雅児

授業科目の内容：

情報資源管理特殊講義演習ⅠⅡに引き続いて、修士論文の執筆に向けたテーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行なっていきます。

情報資源管理特殊講義演習Ⅲ（春学期）

抄読会

教授 倉田敬子

授業科目の内容：

毎回3人程度を受講生に図書館情報学分野の最新の論文に関して読んできたものを発表してもらい、出席者全員で討論を行う。

情報資源管理特殊講義演習Ⅳ（秋学期）

抄読会

教授 倉田敬子

授業科目の内容：

毎回3人程度を受講生に図書館情報学分野の最新の論文に関して読んできたものを発表してもらい、出席者全員で討論を行う。

博士課程設置科目

哲学・倫理学専攻

哲学特殊研究Ⅰ（秋学期）

教授 飯田 隆

授業科目の内容：

参加者による研究発表と討論から成る授業です。

哲学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 飯田 隆

授業科目の内容：

参加者による研究発表と討論から成る授業です。

哲学特殊研究Ⅲ（春学期）

教授 斎藤 慶典

講師 荒金 直人

授業科目の内容：

Emmanuel Levinas と Jacques Derrida によって提起された「他者」にかかわる問題を、彼らの原著にあたりながら議論します。今年度も、Jacques Derrida, *Psyché—Inventions de l'autre* (Galilée, 1987) 所収の論考からいくつかを読みながら、議論を重ねたいと思います。なお、時間割表に掲載されている授業時間は暫定的なものですので、受講希望者はガイダンス時に担当者に確認してください。

哲学特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 斎藤 慶典

講師 荒金 直人

授業科目の内容：

「哲学特殊講義演習Ⅲ」に同じ。

哲学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

教授 中川 純男

授業科目の内容：

修士課程の哲学原典研究Ⅲと共通。講義内容は修士課程の項、参照。

哲学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

古典的世界観

教授 西脇 与作

授業科目の内容：

古典力学を基礎にして作られた古典的世界観を多面的に検討する。

哲学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

教授 中川 純男

授業科目の内容：

修士課程の哲学原典研究Ⅲと共通。講義内容は修士課程の項、参照。

哲学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

古典的世界観

教授 西脇 与作

授業科目の内容：

古典力学を基礎にしてつくられた古典的世界観を多面的に検討する。

哲学特殊研究演習Ⅲ（春学期）

教授 岡田 光弘

授業科目の内容：

論理学を専門とする学生に対して論理学関係の研究論文の作成の指導を演習形式で行う。

哲学特殊研究演習Ⅳ（秋学期）

教授 岡田 光弘

授業科目の内容：

論理学を専門とする学生に対して論理学関係の研究論文の作成の指導を演習形式で行う。

倫理学特殊研究Ⅰ（春学期）

批判哲学の形而上学的基底

教授 小松 光彦

授業科目の内容：

カントの『純粹理性批判』（A版1781年、B版1787年）原理論第2部門第1部「超越論的分析論」のテキストの精読に加えて、ハイデガーによる存在論的解釈を検討することによって、カントにおける主観性の存在論的構制について考察する。

倫理学特殊研究Ⅱ（秋学期）

批判哲学の形而上学的基底

教授 小松 光彦

授業科目の内容：

倫理学特殊研究Ⅰ（春学期）と同じ。

倫理学特殊研究Ⅲ（春学期）

教授 谷 寿美

授業科目の内容：

ロシア、ソフィオロジーの文献の講読を通してロシア宗教思想の核心に迫る。扱う思想家はP.フロレンスキー、S.ブルガーコフら。

倫理学特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 谷 寿 美

授業科目の内容：

倫理学特殊研究Ⅲと共通

倫理学特殊研究演習ⅠA（春学期）

倫理学の諸問題

教授 小 松 光 彦

教授 谷 寿 美

教授 樽 井 正 義

助教授 エアトル, ヴォルフガング

助教授 柘 植 尚 則

授業科目の内容：

倫理学専攻のすべての教員と大学院生が参加し、学生による報告と全員による討論という形で授業を行う。学生は、論文の作成に向けた中間発表を行い、その成果を論文として提出することが求められる。

倫理学特殊研究演習ⅠB（春学期）

教授 樽 井 正 義

助教授 エアトル・ヴォルフガング

授業科目の内容：

The Movement of virtue ethics was initiated in the 1950s to correct the shortcomings of the then dominant strands of ethics, namely (what was taken to be) Kantian deontology and Utilitarian consequentialism. As an alternative, the virtue ethicists, inspired by the works of ancient philosophers, claimed to offer different accounts of morality, putting the emphasis on notions such as character and emotions.

This turned out to be very productive in that it led to a reconsideration of the standard classification of ethical theories and to a reinterpretation of the philosophers at issue. As far as Kant's moral philosophy was concerned, this led to a far more nuanced reading.

Moreover, the followers of virtue ethics triggered investigations on topics which have for a long time been neglected in moral philosophy.

We will closely follow Rosalind Hursthouse's book, which gives a very reliable overview of the relevant debates connected to virtue ethics, but we will also look into primary sources (such as Kant's *Grundlegung* and Aristotle's *Nicomachean Ethics*).

In addition to this, the seminar is meant to provide the opportunity to graduate students for presenting their own work in the field of ethics.

倫理学特殊研究演習ⅡA（秋学期）

教授 小 松 光 彦

教授 谷 寿 美

教授 樽 井 正 義

助教授 エアトル, ヴォルフガング

助教授 柘 植 尚 則

授業科目の内容：

倫理学特殊研究演習ⅠAと同じ。

倫理学特殊研究演習ⅡB（秋学期）

生命倫理学

教授 樽 井 正 義

授業科目の内容：

履修者が設定する生命倫理学の個別課題について、基本文献の購読とレポートの報告・討論を通じて、論文作成指導を行う。

美学美術史学専攻

美学特殊研究Ⅰ（春学期）

休 講

美学特殊研究Ⅱ（秋学期）

休 講

美学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

エルンスト・ブロッホと表現主義美術

教授 前 田 富 士 男

授業科目の内容：

近現代美術の問題点を、エルンスト・ブロッホの論考を基盤に討議する。

美学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

エルンスト・ブロッホと表現主義美術

教授 前 田 富 士 男

授業科目の内容：

エルンスト・ブロッホの論考を基盤に、ドイツ表現主義美術の諸問題を検討する。

美術史特殊研究Ⅰ

日本・東洋美術史研究法

教授 河 合 正 朝

授業科目の内容：

日本および東洋美術史を研究する履修者に対して、各自の専門領域に関する研究指導を行う。また、研究方法を学ぶための文献の購読を行うとともに、史資料の取り

扱い方に関しても学ぶ。

美術史特殊研究Ⅱ

日本・東洋美術史研究法

教授 河合正朝

授業科目の内容：

日本および東洋美術史を研究する履修者に対して、各自の専門領域に関する研究指導を行う。また、研究方法を学ぶための文献の購読を行うとともに、史資料の取り扱い方に関しても学ぶ。

美術史特殊講義演習Ⅰ（春学期）

教授 林 温

授業科目の内容：

美術史の研究には古文書の読解が不可欠である。適当な古文書を選定し、参加者の輪読と討議、さらに記事内容に関連する遺品・文献の検討等を通して、美術史研究の方法を習得する。さらに、修士論文作成の指導を行う。

美術史特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

教授 林 温

美術史特殊講義演習Ⅰ（春学期）と同じ。

美術史特殊研究演習Ⅲ（春学期）

イタリア・ルネサンス研究

教授 末吉雄二

授業科目の内容：

Only Connect: art and the spectator in the Italian Renaissance, John Shearman, Princeton Univ. Press 1988.のうちから Chapter1 A More engaged spectator を読んで、その内容をまとめ、履修者は著者の指摘・主張に対応する各自のテーマを設定して、著者に反論する、もしくは著者の見解を補強する。発表形式で授業を進める。

美術史特殊研究演習Ⅳ（秋学期）

イタリア・ルネサンス研究

教授 末吉雄二

授業科目の内容：

Only Connect: art and the spectator in the Italian Renaissance, John Shearman, Princeton Univ. Press 1988.のうちから Chapter 6 Imitation and the slow fuse を読んで、その内容をまとめ、履修者は著者の指摘・主張に対応する各自のテーマを設定して、著者に反論する、もしくは著者の見解を補強する。発表形式で授業を進める。

美術史特殊研究演習Ⅴ（春学期）

コロキウム

教授 前田 富士男
教授 大石 昌史
教授 河合正朝
教授 末吉雄二
教授 遠山 公一
教授 林 温
教授 三宅 幸夫
教授 美山 良夫
助教授 西川 尚生

授業科目の内容：

博士課程は、各自の専門的研究を深めるとともに、ひろく近似した研究主題や隣接する学問領域の方法論などにふれ、互いに切磋琢磨して、自分自身の観点、問題提起、対象分析、作品解釈、論証、表現方法などをたえず改善し、磨きあげるコースにはほかならない。この授業は、本専攻が美学・日本東洋美術史・西洋美術史・音楽史から構成される特性をふまえ、博士課程院生と教員の全員が参加し、各回、院生の口頭研究発表をもとに討議をおこなう（ときに教員、招聘講師の発表もある）。

美術史特殊研究演習Ⅵ（秋学期）

コロキウム

教授 前田 富士男
教授 大石 昌史
教授 河合正朝
教授 末吉雄二
教授 遠山 公一
教授 林 温
教授 三宅 幸夫
教授 美山 良夫
助教授 西川 尚生

授業科目の内容：

博士課程は、各自の専門的研究を深めるとともに、ひろく近似した研究主題や隣接する学問領域の方法論などにふれ、互いに切磋琢磨して、自分自身の観点、問題提起、対象分析、作品解釈、論証、表現方法などをたえず改善し、磨きあげるコースにはほかならない。この授業は、本専攻が美学・日本東洋美術史・西洋美術史・音楽史から構成される特性をふまえ、博士課程院生と教員の全員が参加し、各回、院生の口頭研究発表をもとに討議をおこなう（ときに教員、招聘講師の発表もある）。

音楽学特殊研究Ⅰ（春学期）

音楽学の実践

教授 三宅幸夫

授業科目の内容：

「音楽学特殊研究」は博士論文を書くための研究会です。受講生の選択した研究題目にしたがって、口頭発表、質疑応答、そして意見交換をおこないます。

音楽学特殊研究Ⅱ（秋学期）

音楽学の実践

教授 三宅幸夫

授業科目の内容：

音楽学特殊研究Ⅰ（春学期）と同じ。

音楽学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

音楽学の口頭発表と論文執筆

教授 三宅幸夫

授業科目の内容：

「音楽学特殊研究演習」は博士論文を書くための研究会です。受講生の選択した研究題目にしたがって、具体的に学会における口頭発表、および学会誌への投稿についてサポートします。

音楽学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

音楽学の口頭発表と論文執筆

教授 三宅幸夫

授業科目の内容：

音楽学特殊研究演習Ⅰ（春学期）と同じ。

史学専攻

日本史特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 三宅和朗

授業科目の内容：

日本古代史の諸問題に関して、史料や論文を通して具体的に検討していきたい。

日本史特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 三宅和朗

授業科目の内容：

日本史特殊研究Ⅰと同じ。

日本史特殊研究Ⅲ（春学期）

教授 田代和生

授業科目の内容：

博士論文作成のための指導を行う。受講者個々の研究

発表を中心に、近世史研究についての諸問題を討論する。史料収集・調査の方法や分析、整理法、さらに専門誌への発表を前提とする論文指導も行う。

日本史特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 田代和生

授業科目の内容：

日本史特殊研究Ⅲと同じ。

日本史特殊研究演習Ⅰ（春学期）

教授 長谷山 彰

授業科目の内容：

受講者による研究報告をもとに、日本古代史上の諸問題について検討する。

日本史特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

教授 長谷山 彰

授業科目の内容：

日本史特殊研究演習Ⅰと同じ。

日本史特殊研究演習Ⅲ（春学期）

ナショナリズムの生成

教授 柳田利夫

授業科目の内容：

近代日本のナショナリズムの立ちあがりについて、具体的な事例を共同研究によって分析する。

日本史特殊研究演習Ⅳ（秋学期）

ナショナリズムの生成

教授 柳田利夫

授業科目の内容：

日本史特殊研究演習Ⅲと同じ

東洋史特殊研究ⅠA（春学期）

教授 山本英史

授業科目の内容：

受講者が各自行っている研究について報告をしてもらい、発表能力の鍛錬に努めるとともに、研究論文執筆に関する指導も併せて行う。

東洋史特殊研究ⅠB（春学期）

タイにおける華人社会の歴史

教授 吉原和男

授業科目の内容：

受講者の現地調査報告に関連した研究文献や史料の講読を行う。

東洋史特殊研究ⅡA（秋学期）

教授 山本 英史

授業科目の内容：

受講者が各自行っている研究について報告をしてもらい、発表能力の鍛錬に努めるとともに、研究論文執筆に関する指導も併せて行う。

東洋史特殊研究ⅡB（秋学期）

教授 吉原 和男

授業科目の内容：

受講者の現地調査報告に関連した研究文献や史料の講読を行う。

東洋史特殊研究演習Ⅰ（春学期）

近代イスラームの史料講読

教授 坂本 勉

授業科目の内容：

トルコ語の研究書、史料の講読。春学期では現代トルコ語で書かれたものを読みながらオスマン・トルコ語について入門的な手ほどきをし、秋学期に簡単なアラビア文字で書かれたトルコ語史料を講読したい。

東洋史特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

近代イスラーム史関係の史料講読

教授 坂本 勉

授業科目の内容：

春学期の「東洋史特殊研究演習Ⅰ」を引き継いで近代史にかかわるトルコ語史料を講読する。

西洋史特殊研究演習ⅠA（春学期）

若きマルクスにおけるヘーゲル受容の研究

教授 神田 順司

授業科目の内容：

若きマルクスはヘーゲルの思想をどう理解しどう受容したのか、あるいはどう誤解しどう批判したのか。本演習ではマルクスの「ヘーゲル法哲学批判」を取り上げ、そのヘーゲル受容の特徴と限界を同時代的コンテクストに即して分析する。参加者はヘーゲル法哲学およびフォイエルバッハ、バウアー、ガンズなどの思想について多少なりとも予備知識を持っていることが望ましい。

西洋史特殊研究演習ⅠB（春学期）

初期アメリカ史・リーディング・セミナー

教授 大森 雄太郎

授業科目の内容：

初期アメリカ史をフィールドとする大学院上級のリーディング・セミナーです。一時史料を読むか、二次文献を読むか、あるいはいずれの場合でもどのような文献を

読むかについては、参加メンバーと相談の上で決めます。いずれにせよ文献は英語（むしろアメリカ語）で書かれたものを使用します。一週間のリーディングの要求量は、二次文献であれば100頁程度です。

西洋史特殊研究演習ⅡA（秋学期）

教授 神田 順司

授業科目の内容：

春学期に同じ。

西洋史特殊研究演習ⅡB（秋学期）

初期アメリカ史・リーディング・セミナー

教授 大森 雄太郎

授業科目の内容：

初期アメリカ史をフィールドとする大学院上級のリーディング・セミナーです。一時史料を読むか、二次文献を読むか、あるいはいずれの場合でもどのような文献を読むかについては、参加メンバーと相談の上で決めます。いずれにせよ文献は英語（むしろアメリカ語）で書かれたものを使用します。一週間のリーディングの要求量は、二次文献であれば100頁程度です。

西洋史特殊研究演習Ⅲ（春学期）

教授 清水 祐司

授業科目の内容：

16・17世紀の治安判事の活動に関する史料を読みながら、当時の中央と地方の関係について考察する。

西洋史特殊研究演習Ⅳ（秋学期）

教授 清水 祐司

授業科目の内容：

「春学期」と同じ。

民族学考古学特殊研究Ⅰ（春学期）

休講

民族学考古学特殊研究Ⅱ（秋学期）

休講

民族学考古学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

教授 阿部 祥人

授業科目の内容：

先史時代、石器文化に関する研究者を志す人のための研究・論文指導や主に旧石器文化の共同研究を行う。

民族学考古学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

教授 阿部 祥人

授業科目の内容：

先史時代、石器文化に関する研究者を志す人のための研究・論文指導や主に旧石器文化の共同研究を行う。

国文学専攻

国文学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 藤原 茂樹

授業科目の内容：

歌謡と信仰の研究

国文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 藤原 茂樹

授業科目の内容：

歌謡と信仰の研究

国文学特殊研究Ⅲ（春学期）

休講

国文学特殊研究Ⅳ（秋学期）

休講

国文学特殊研究Ⅴ（春学期）

教授 岩松 研吉郎

授業科目の内容：

院政期の寺社巡礼記、寺社縁起とその関連資料をよみながら、中世文芸の基盤を検討する。研究史・研究方法に留意しつつ、履修者各自の研究主題の発表・討論を随時まじえつつすすめる。

春・秋学期継続履修のこと。

国文学特殊研究Ⅵ（秋学期）

教授 岩松 研吉郎

授業科目の内容：

院政期の寺社巡礼記、寺社縁起とその関連資料をよみながら、中世文芸の基盤を検討する。研究史・研究方法に留意しつつ、履修者各自の研究主題の発表・討論を随時まじえつつすすめる。

春・秋学期継続履修のこと。

国文学特殊研究Ⅶ（春学期）

教授 関場 武

授業科目の内容：

為永春水作の「意見早引大善節用」、柳亭種彦の「考

訂やまと詞」を取り上げ、講読ならびに演習を行う。その際、書誌学的研究の基礎知識や、各種参考文献の活用法も併せて学ぶ。

国文学特殊研究Ⅷ（秋学期）

教授 関場 武

授業科目の内容：

近世前期の文芸の中から、教訓・訓導を旨とする仮名草子およびその周辺の作品を取り上げ、その諸相を眺める。あわせて、学位論文作成へ向けての個別指導も行う。

国文学特殊研究Ⅷ（春学期）

統一テーマに基づく論文の相互批判

教授 松村 友視

授業科目の内容：

年間の共通テーマにもとづく論文発表の形式で進める。テーマおよび具体的手順については履修者との合議によって決定する。

国文学特殊研究Ⅸ（秋学期）

統一テーマに基づく論文の相互批判

教授 松村 友視

授業科目の内容：

年間の共通テーマにもとづく論文発表の形式で進める。テーマおよび具体的手順については履修者との合議によって決定する。

国語学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 関場 武

授業科目の内容等：

修士課程設置「国語学研究」Ⅰ（春学期）に同じ。

国語学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 関場 武

授業科目の内容等：

修士課程設置「国語学研究」Ⅱ（秋学期）に同じ。

中日比較文学特殊研究Ⅰ（春学期）

講師 胡 志昂

授業科目の内容：

「格調荘厳、氣象宏麗、最為可法」（胡応麟・詩藪）といわれる李嶠の五言律詩の中でもその詠物詩『百二十詠』（『李嶠雜詠』または『百詠』ともいう）が「大手筆」と称せられる。この類書の性格を兼ね備える詠物詩集は、いわゆる「文章四友」時代の詩論『唐朝新定詩格』（崔融著）等に提案された新しい律詩の作法を反映する書物でもあった。両書とも早くから日本に伝わり、王朝の歌論と新しい歌風の展開に刺激を与えたと見られる。この時

間では『百二十詠』を『唐朝新定詩格』と併せて精読し議論を加えると共に、それと関連する平安時代の歌論と歌風の展開にも留意し、双方の共通点と相違点を検討していく。

中日比較文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

講師 胡 志 昂

授業科目の内容：

中日比較文学特殊研究Ⅰ（春学期）と同じ。

中国文学専攻

中国文学特殊研究Ⅰ（春学期）

中国 30 年代都市のメディアと文学

教授 関 根 謙

授業科目の内容：

20 年代後期から 30 年代の都市を風靡した文学雑誌を読んでいく。今期は昨年にひきつづき、「新月」を読み進める。

中国文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

中国 30 年代都市のメディアと文学

教授 関 根 謙

授業科目の内容：

中国文学特殊研究Ⅰと同じ。

中国文学特殊研究Ⅲ（春学期）

教授 渋 谷 誉一郎

授業科目の内容：

修士課程の中国文学研究Ⅴと同じ。

中国文学特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 渋 谷 誉一郎

授業科目の内容：

修士課程の中国文学研究Ⅵと同じ。

中国文学特殊研究Ⅴ（春学期）

中国中世文学批評史研究

講師 門 脇 廣 文

授業科目の内容：

今年度（2006 年度）は、唐の嵇皎然の『詩式』（原本五卷。今本一卷）を読みます。『詩式』は、両漢及び唐詩人の名篇麗句を摘録し、五格・十九体に分けたもので、唐代の詩論の代表的著作です。五巻本の第一巻は、詩歌言論について総論的に論じ、また「五格」のうちの第一格について述べています。「五格」とは、詩の五つの格調を言い、同時にそのランクを表わしています。第二巻以降は、

「五格」の内の第二格から第五格について論じています。「五格」は、詩を評価するには典故を用いないものを第一としています。「十九体」は詩の風格を論じたもので、「貞」「忠」「節」「志」「徳」「誠」「悲」「怨」「意」などの表現内容にかかわるものと、「高」「逸」「気」「情」「思」「閑」「達」「力」「静」「遠」などの芸術的な特徴についてのものに分けられます。皎然は、「十九体」の中では「高」と「逸」とを高く評価しており、「冲淡」や「自然」なる風格を貴んでいます。

中国文学特殊研究Ⅵ（秋学期）

中国中世文学批評史研究

講師 門 脇 廣 文

授業科目の内容：

中国文学特殊研究Ⅴと同じ。

中国文学特殊研究Ⅶ（春学期）

李漁研究

名誉教授 岡 晴 夫

授業科目の内容：

李漁の作品（戯曲・小説・随筆・尺牘等）の中から適宜選んで講読する。何を取りあげるかについては、受講生と相談のうえ決める。

中国文学特殊研究Ⅷ（秋学期）

李漁研究

名誉教授 岡 晴 夫

授業科目の内容：

中国文学特殊研究Ⅶと同じ。

中国語学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 山 下 輝 彦

授業科目の内容：

中国語研究で重要と思われる文献を読み、それについてディスカッションをする。中国語で研究発表をする力を身につけるために議論はすべて中国語で行う。

中国語学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 山 下 輝 彦

授業科目の内容：

中国語学特殊研究Ⅰと同じ。

中日比較文学特殊研究Ⅰ（春学期）

講師 胡 志 昂

授業科目の内容：

「格調莊嚴，氣象宏麗，最為可法」（胡応麟・詩藪）といわれる李嶠の五言律詩の中でもその詠物詩『百二十詠』（『李嶠雜詠』または『百詠』ともいう）が「大手筆」と

称せられる。この類書の性格を兼ね備える詠物詩集は、いわゆる「文章四友」時代の詩論『唐朝新定詩格』（崔融著）等に提案された新しい律詩の作法を反映する書物でもあった。両書とも早くから日本に伝わり、王朝の歌論と新しい歌風の展開に刺激を与えたと見られる。この期間では『百二十詠』を『唐朝新定詩格』と併せて精読し議論を加えると共に、それと関連する平安時代の歌論と歌風の展開にも留意し、双方の共通点と相違点を検討していく。

中日比較文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

講師 胡 志 昂

授業科目の内容：

中日比較文学特殊研究Ⅰに同じ。

英米文学専攻

中世英文学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 松 田 隆 美

授業科目の内容：

中世研究の様々な方法論を示唆してくれる最近の文献を選んで、批判的に検討する。

中世英文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 松 田 隆 美

授業科目の内容：

春学期の「中世英文学特殊研究Ⅰ」の続き。

中世英文学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

教授 高 宮 利 行

授業科目の内容：

中世後期からルネサンスにかけてのイギリスの書物史の諸相を扱う演習。前年度からの続き。

中世英文学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

教授 高 宮 利 行

授業科目の内容：

中世英文学特殊研究演習Ⅰに同じ

近代英文学特殊研究Ⅰ（春学期）

商学部 教授 英 知 明

授業科目の内容：

写本時代の中世からシェイクスピアが活躍したエリザベス朝にかけての最新の書誌学研究について、論文及び研究書を輪読して考察を深める。また学会における優れた研究発表のための研鑽の場と位置づけ、リサーチの質

の向上とプレゼンテーション能力の養成も行う。

近代英文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

商学部 教授 英 知 明

授業科目の内容：

近代英文学特殊研究Ⅰの内容を継続して行う。

近代英文学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

Sir Gawain and the Green Knight 講読

教授 高 宮 利 行

授業科目の内容：

Tolkien も *The Lord of the Rings* の執筆に影響を受けたアーサー王ロマンスの傑作を4年かけて講読します。本年度は第3部分を読みます。

近代英文学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

Sir Gawain and the Green Knight 講読

教授 高 宮 利 行

授業科目の内容：

近代英文学特殊研究演習Ⅰに同じ

現代英文学特殊研究Ⅰ（春学期）

Albion 及び London 研究

教授 河 内 恵 子

授業科目の内容：

昨年に引き続き Peter Ackroyd の *Albion* を読む。その後、*London : The Biography* に入り、都市と文学について考えたい。

現代英文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

Albion 及び London 研究

教授 河 内 恵 子

授業科目の内容：

現代英文学特殊研究Ⅰを参照

現代英文学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

教授 高 宮 利 行

教授 松 田 隆 美

教授 河 内 恵 子

授業科目の内容：

学会発表に関する情報検索の discipline を身につけさせる演習。

現代英文学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

教授 高 宮 利 行

教授 松 田 隆 美

教授 河 内 恵 子

授業科目の内容：

現代英文学特殊研究演習 I に同じ

米文学特殊研究 I (春学期)

教授 巽 孝之

授業科目の内容 :

博士号請求論文執筆中の者を中心に、論文作成法を徹底指導する。その結果出来上がる論文は、あらゆる意味で模範的でなくてはならない。仮に模範を根底から転覆する方法論を採るものであっても、それは例外ではない。博士1年には年間50冊程度の代表的批評書・研究書を課し、年間2本の英文レポート(2,000～2,500語程度)提出を要求する。博士2年には全国規模の学会での発表に向けた計画を立てさせる。最終的には、博士3年の段階にて、レフェリー制度を持つ内外の代表的学術誌の審査をゆうに通過する高水準の論文が輩出することを望む。学位論文をいかに一冊の研究書にまとめあげ出版するか、その際の具体的な編集技術についても、根本的に再検討する。

米文学特殊研究 II (秋学期)

教授 巽 孝之

授業科目の内容 :

博士号請求論文執筆中の者を中心に、論文作成法を徹底指導する。その結果出来上がる論文は、あらゆる意味で模範的でなくてはならない。仮に模範を根底から転覆する方法論を採るものであっても、それは例外ではない。博士1年には年間50冊程度の代表的批評書・研究書を課し、年間2本の英文レポート(2,000～2,500語程度)提出を要求する。博士2年には全国規模の学会での発表に向けた計画を立てさせる。最終的には、博士3年の段階にて、レフェリー制度を持つ内外の代表的学術誌の審査をゆうに通過する高水準の論文が輩出することを望む。学位論文をいかに一冊の研究書にまとめあげ出版するか、その際の具体的な編集技術についても、根本的に再検討する。

米文学特殊研究演習 I (春学期)

教授 巽 孝之

授業科目の内容 :

文学研究と文化研究の交差する地点を扱った古典的著作に親しむ。テキストは追って指示する。

米文学特殊研究演習 II (秋学期)

教授 巽 孝之

授業科目の内容 :

文学研究と文化研究の交差する地点を扱った古典的著作に親しむ。テキストは追って指示する。

英語学特殊研究 I (春学期)

教授 唐 須 教 光

授業科目の内容 :

言語人類学を扱います。

英語学特殊研究 II (秋学期)

教授 唐 須 教 光

授業科目の内容 :

言語人類学を扱う。

英語学特殊研究演習 I (春学期)

Beowulf

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容 :

This course will combine close reading of part of *Beowulf* with a study of the poem as a whole, paying particular attention to metre, paleography and Germanic legend.

英語学特殊研究演習 II (秋学期)

Beowulf

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容 :

This course will combine close reading of part of *Beowulf* with a study of the poem as a whole, paying particular attention to metre, paleography and Germanic legend.

独文学専攻

ドイツ文学特殊研究 I (春学期)

ゲーテ時代研究XVII

教授 柴 田 陽 弘

授業科目の内容 :

「ノヴァーリス研究」

ドイツ文学研究 I に同じ。

ドイツ文学特殊研究 II (秋学期)

ゲーテ時代研究XVII

教授 柴 田 陽 弘

授業科目の内容 :

春学期に同じ。

ドイツ文学特殊研究 III (2) (春学期)

教授 和 泉 雅 人

授業科目の内容 :

昨年度と同じくティークの『ウィリアム・ラブル』を読んでいます。本年度は発表もしていただきたいと思っ

ています。

ドイツ文学特殊研究Ⅳ (2) (秋学期)

教授 和 泉 雅 人

授業科目の内容 :

春学期に同じ。

ドイツ文学特殊研究Ⅴ (春学期)

休 講

ドイツ文学特殊研究Ⅵ (秋学期)

休 講

ドイツ文学特殊演習Ⅰ

Peter Sloterdijk : Metaphorik der Globalisierung

教授 フュルンケース, ヨーゼフ

授業科目の内容 :

Nicht erst seit der vollständigen Publikation der dreibändigen "Sphärologie" der "Blasen", "Globen" und "Schäume" ist Peter Sloterdijk, geb.1947, Ästhetik-Professor in Karlsruhe und Wien, der meistdiskutierte "neue" Philosoph in Deutschland. Man kann vom intellektuellen Medienphänomen Sloterdijk sprechen, das sich transversal im akademischen Hörsaal, im exquisiten Tagungshotel, Verlagshaus, Presse-Büro und Fernseh-Studio manifestiert (z.B. "Philosophisches Quartett" im ZDF). Diesseits der "alten" Geschichtsphilosophien bietet Sloterdijks dreibändiges Hauptwerk der "Sphären" nun nichts weniger als eine "neue" Erzählung der ganzen Menschheitsgeschichte. Es geht um eine morphologisch-immunologische Extraversionsgeschichte, die vom intimen Minimum, dem exklusiven Raum der dualen Blase, zum imperialen Maximum, dem inklusiven Rundkosmos des Globus, fortschreitet, um sich schließlich in unsere (biotechnologisch bestimmte!) Gegenwart der polysphärischen Welten und luftigen Schäume zu zerstreuen. In der kapitalistisch entfalteten Endphase der Globalisierung schlägt universelle Inklusivität unvermeidlich in multiple Exklusivitäten um, wie Sloterdijks Schlüsselmetapher des Treibhauses und seiner insularen Komfortsphäre zeigt: Der Londoner Kristallpalast, Ort der ersten Weltausstellung 1851, ist Sloterdijks ausdrucksstärkste Metapher für den "Weltinnenraum des Kapitals".

Im Mittelpunkt des Seminars steht einerseits Sloterdijks makrosphärologische Theorie der Globalisierung. D.h. ihre Rede von "terrestrischer Globalisierung", welche mit der ersten Erdumseglung 1522 auf die theologisch-metaphysische folgt und der zeitgenössischen telekommunikativen Globalisierung vorangeht. Andererseits steht Sloterdijks

metaphorischer Stil zur Diskussion, der Erzählen und Philosophieren "geschwätzig" verknüpft. Sein Diskurs spricht nicht über Bilder und Metaphern, sondern strategisch durch sie: Metapher und Rhetorik ersetzen nachgerade Begriff und Analyse.

ドイツ文学特殊演習Ⅱ

Peter Sloterdijk : Metaphorik der Globalisierung

教授 フュルンケース, ヨーゼフ

授業科目の内容 :

Nicht erst seit der vollständigen Publikation der dreibändigen "Sphärologie" der "Blasen", "Globen" und "Schäume" ist Peter Sloterdijk, geb.1947, Ästhetik-Professor in Karlsruhe und Wien, der meistdiskutierte "neue" Philosoph in Deutschland. Man kann vom intellektuellen Medienphänomen Sloterdijk sprechen, das sich transversal im akademischen Hörsaal, im exquisiten Tagungshotel, Verlagshaus, Presse-Büro und Fernseh-Studio manifestiert (z.B. "Philosophisches Quartett" im ZDF). Diesseits der "alten" Geschichtsphilosophien bietet Sloterdijks dreibändiges Hauptwerk der "Sphären" nun nichts weniger als eine "neue" Erzählung der ganzen Menschheitsgeschichte. Es geht um eine morphologisch-immunologische Extraversionsgeschichte, die vom intimen Minimum, dem exklusiven Raum der dualen Blase, zum imperialen Maximum, dem inklusiven Rundkosmos des Globus, fortschreitet, um sich schließlich in unsere (biotechnologisch bestimmte!) Gegenwart der polysphärischen Welten und luftigen Schäume zu zerstreuen. In der kapitalistisch entfalteten Endphase der Globalisierung schlägt universelle Inklusivität unvermeidlich in multiple Exklusivitäten um, wie Sloterdijks Schlüsselmetapher des Treibhauses und seiner insularen Komfortsphäre zeigt: Der Londoner Kristallpalast, Ort der ersten Weltausstellung 1851, ist Sloterdijks ausdrucksstärkste Metapher für den "Weltinnenraum des Kapitals".

Im Mittelpunkt des Seminars steht einerseits Sloterdijks makrosphärologische Theorie der Globalisierung. D.h. ihre Rede von "terrestrischer Globalisierung", welche mit der ersten Erdumseglung 1522 auf die theologisch-metaphysische folgt und der zeitgenössischen telekommunikativen Globalisierung vorangeht. Andererseits steht Sloterdijks metaphorischer Stil zur Diskussion, der Erzählen und Philosophieren "geschwätzig" verknüpft. Sein Diskurs spricht nicht über Bilder und Metaphern, sondern strategisch durch sie: Metapher und Rhetorik ersetzen nachgerade Begriff und Analyse.

ドイツ文学特殊演習Ⅲ（春学期）

講師 渡邊直樹

授業科目の内容：

Jacob Katz : Mendelssohn und die Mendelssohnschüler im Bannkreis der Religionskritik

Wolfenbüttler Studien zur Aufklärung 11. Heidelberg 1989. S. 197-205.

上記テキストを読みながら18世紀ベルリンにおけるドイツ啓蒙主義とユダヤ啓蒙主義の関係についてメンデルスゾーン、レッシング、ミヒャエーリス、ドームらの批評を中心に考察します。

ドイツ文学特殊講習Ⅳ（秋学期）

講師 渡邊直樹

授業科目の内容：

Michael Maurer: Verbürgerlichung oder Akkulturation? Zur Situation deutscher Juden zwischen Moses Mendelssohn und David Friedländer

Musik und Ästhetik im Berlin Moses Mendelssohns. Hrsg. v. Anselm Gerhard. Tübingen 1999. S.27 - 56.

上記テキストを中心に読みながらドイツ啓蒙主義時代のユダヤ人を取り巻く状況について考察します。

ドイツ文学特殊演習Ⅴ（春学期）

ベンヤミンの旅行のテキスト

教授 大宮勘一郎

授業科目の内容：

Walter Benjamin (1892-1940) は、不断の旅行者でもあった。その彼が訪れた様々な都市や場所についての中期テキストを細かく読んでゆく。

ドイツ文学特殊演習Ⅵ（秋学期）

ベンヤミンの旅行のテキスト

教授 大宮勘一郎

授業科目の内容：

Walter Benjamin (1892-1940) は、不断の旅行者でもあった。その彼が訪れた様々な都市や場所についての中期テキストを細かく読んでゆく。(ドイツ文学特殊演習Ⅴと継続した内容)

ドイツ語学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 中山豊

授業科目の内容：

ドイツ語学に関する最近の研究論文を講読します。具体的な内容については参加者と相談の上決定します。

ドイツ語学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 中山豊

授業科目の内容：

ドイツ語学に関する最近の研究論文を講読します。具体的な内容については参加者と相談の上決定します。

仏文学専攻

中世仏語仏文学特殊研究Ⅰ（春学期）

言語研究

文学部 教授 川口順二

授業科目の内容：

文献解読, 学会発表準備, 博士論文準備。

中世仏語仏文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

言語研究

文学部 教授 川口順二

授業科目の内容：

文献解読, 学会発表準備, 博士論文準備。

近代仏文学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 小倉孝誠

授業科目の内容：

取りあげるテーマとテキストは、受講生と相談のうえ決定します。

近代仏文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 小倉孝誠

授業科目の内容：

取りあげるテーマとテキストは、受講生と相談のうえ決定します。

近代仏文学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

百科全書研究

教授 鷲見洋一

授業科目の内容：

Leca-Tsiomis : *Ecrire I'* Encyclopédie を読む。

近代仏文学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

百科全書研究

教授 鷲見洋一

授業科目の内容：

Leca-Tsiomis : *Ecrire I'* Encyclopédie 講読を続ける。

現代仏文学特殊研究Ⅰ（春学期）

フランス現代小説研究

教授 宮 林 寛

授業科目の内容：

1945年以降の小説をとりあげる予定ですが、授業の進め方については履修者と相談のうえ決定したいと思います。

現代仏文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

フランス現代小説研究

教授 宮 林 寛

授業科目の内容：

春学期と同じ。

現代仏文学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

プルーストとマラルメ

教授 牛 場 暁 夫

授業科目の内容：

「プルーストとマラルメ」

論叢集「Marcel Proust 5」（レットル・モデルヌ ミナール社）に今年掲載された上記の仏語論文の執筆までの過程について語ります。

いかに発想が得られたか、先行研究に敬意を払いつつどうそれを引用したか、テキストや書簡や草稿や他の研究をどう扱ったか、時代背景をどう考慮したか、またレフェリー付の学術雑誌で論文がどう評価されたか、などについて話します。

現代仏文学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

プルーストとマラルメ

教授 牛 場 暁 夫

授業科目の内容：

国際シンポジウムで発表し、プルースト研究の代表的研究論叢『Marcel Proust 6』に掲載された上記論文について論じたい。

この研究が形を取るまでのプロセスを追いつつ、どのように資料を集めたか、どのように分析したか、先行研究をどう使ったか、実証研究だけに終わらせないための視野をどう獲得したか、またどのような形で発表したか、などについてくわしく話したい。

文学研究全般になんらかのヒントが提供できれば幸いである。

仏語学特殊研究Ⅰ（春学期）

Dissertation littéraire

訪問助教授（招聘） ブランクール, ヴァンサン

授業科目の内容：

Ce cours sera consacré à la pratique de la dissertation

littéraire. Au long du semestre, sera proposée aux étudiants une série de dissertations qui permettront d'aborder les grandes problématiques de littérature générale (qu'est-ce que lire? le réalisme, l'auteur, les genres...). Une attention particulière sera accordée aux aspects techniques de l'exercice.

仏語学特殊研究Ⅱ（秋学期）

Dissertation littéraire

訪問助教授（招聘） ブランクール, ヴァンサン

授業科目の内容：

Ce cours sera consacré à la pratique de la dissertation littéraire. Au long du semestre, sera proposée aux étudiants une série de dissertations qui permettront d'aborder les grandes problématiques de littérature générale (qu'est-ce que lire? le réalisme, l'auteur, les genres...). Une attention particulière sera accordée aux aspects techniques de l'exercice.

図書館・情報学専攻

情報学特殊研究Ⅰ（春学期）

学術コミュニケーションに関する研究指導

教授 倉 田 敬 子

授業科目の内容：

学術コミュニケーションに関する博士論文指導を行う。

情報学特殊研究Ⅱ（秋学期）

学術コミュニケーションに関する研究指導

教授 倉 田 敬 子

授業科目の内容：

学術コミュニケーションに関する博士論文指導を行う。

情報学特殊研究Ⅲ（春学期）

抄読会

教授（有期） 三 浦 逸 雄

授業科目の内容：

参加者がそれぞれの研究関心に基づいて図書館情報学分野の最新の学術論文一点を選び、論文の要旨を紹介し、論評を加える。その上で、各報告に対して参加者全員で討議する。毎回3人程度を予定している。

情報学特殊研究Ⅳ（秋学期）

抄読会

教授（有期） 三浦逸雄

授業科目の内容：

参加者がそれぞれの研究関心に基づいて図書館情報学分野の最新の学術論文一点を選び、論文の要旨を紹介し、論評を加える。その上で、各報告に対して参加者全員で討議する。毎回3人程度を予定している。

情報学特殊研究Ⅴ（春学期）

教授 田村俊作

授業科目の内容：

図書館情報サービスに関する諸問題の検討と、論文作成の指導を行う。なお、本科目は「情報資源管理特殊講義演習ⅠA」との併設である。

情報学特殊研究Ⅵ（秋学期）

教授 田村俊作

授業科目の内容：

「情報学特殊研究Ⅴ」に引き続き、図書館情報サービスに関する諸問題の検討と、論文作成の指導を行う。なお、本科目は「情報資源管理特殊講義演習ⅡA」との併設である。

情報学特殊研究Ⅶ（春学期）

抄読会

教授 倉田敬子

授業科目の内容：

毎回3人程度の受講生に図書館情報学分野の最新の論文に関して読んできたものを発表してもらい、出席者全員で討論を行う。なお、本科目は「情報資源管理特殊講義演習Ⅲ」との併設である。

情報学特殊研究Ⅷ（秋学期）

抄読会

教授 倉田敬子

授業科目の内容：

毎回3人程度の受講生に図書館情報学分野の最新の論文に関して読んできたものを発表してもらい、出席者全員で討論を行う。なお、本科目は「情報資源管理特殊講義演習Ⅳ」との併設である。

情報メディア特殊研究Ⅰ（春学期）

休講

情報メディア特殊研究Ⅱ（秋学期）

休講

情報メディア特殊研究Ⅲ（春学期）

教授 田村俊作

授業科目の内容：

図書館情報サービスに関連する諸問題の検討と、論文作成の指導を行う。

情報メディア特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 田村俊作

授業科目の内容：

「情報メディア特殊研究Ⅲ」に引き続き、図書館情報サービスに関連する諸問題の検討と、論文作成の指導を行う。

情報メディア特殊研究Ⅴ（春学期）

学術コミュニケーションに関する研究指導

教授 倉田敬子

授業科目の内容：

学術コミュニケーションに関する博士論文指導を行う。

情報メディア特殊研究Ⅵ（秋学期）

学術コミュニケーションに関する研究指導

教授 倉田敬子

授業科目の内容：

学術コミュニケーションに関する博士論文指導を行う。

情報検索特殊研究Ⅰ（春学期）

名誉教授 細野公男

授業科目の内容：

情報検索およびデジタルライブラリーの発展に大きな影響を及ぼすと思われる理論や情報環境を取り上げます。

情報検索特殊研究Ⅱ（秋学期）

名誉教授 細野公男

授業科目の内容：

「情報検索特殊研究Ⅰ」と同様です。

情報検索特殊研究Ⅲ（春学期）

休講

情報検索特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 田村俊作

授業科目の内容：

三田メディアセンターとの連携の下に、図書館の経営・サービスに関する特定の問題を、実習を交え実際に即して研究するインターシップ科目である。

情報検索特殊研究Ⅴ（春学期）

休講

情報検索特殊研究Ⅵ（春学期）

休 講

情報システム特殊研究Ⅰ（春学期）

アーカイブズ学と図書館・情報学

名誉教授 高 山 正 也

授業科目の内容：

アーカイブズ論，特に記録連続特論の形式過程をたどり，その理論的特質と公文書館運営上の問題点との関係を中心に研究する。

情報システム特殊研究Ⅱ（秋学期）

アーカイブズ学と図書館・情報学

名誉教授 高 山 正 也

授業科目の内容：

日本におけるアーカイブ，公文書館の実態を実態調査・把握し，その問題点を究明する。

情報システム特殊研究Ⅲ（春学期）

教 授 糸 賀 雅 児

授業科目の内容：

博士論文の執筆に向けて，テーマの選択，研究の進め方，論文執筆の技術的な助言などを，逐次行っていきます。

情報システム特殊研究Ⅳ（秋学期）

教 授 糸 賀 雅 児

授業科目の内容：

博士論文の執筆に向けて，テーマの選択，研究の進め方，論文執筆の技術的な助言などを，逐次行っていきます。

情報システム特殊研究Ⅴ（春学期）

博士論文の研究指導

教 授 糸 賀 雅 児

授業科目の内容：

博士論文の執筆に向けて，テーマの選択，研究の進め方，論文執筆の技術的な助言などを，逐次行っていきます。

情報システム特殊研究Ⅵ（秋学期）

博士論文の研究指導

教 授 糸 賀 雅 児

授業科目の内容：

博士論文の執筆に向けて，テーマの選択，研究の進め方，論文執筆の技術的な助言などを，逐次行っていきます。

慶應義塾大学国際センター 在外研修プログラム

全学部および研究科に在籍している学生を対象に、夏季および春季休業中に海外で在外研修プログラムを開講しています。

これは、外国語による講義およびディスカッションのほか、大学内の寮生活などを初めとする多彩な諸活動を通して、さまざまな異文化交流を体験することで、国際性豊かな学生を育成することを目的としています。

短期間に質の高い充実した内容が盛り込まれていますので、海外生活体験をしたい方、外国語によるコミュニケーション能力向上を期待する方、将来長期の留学を考えている方などにとって、ふさわしい講座といえるでしょう。

形態は原則として、往復とも大学手配の航空便による団体旅行形式で、本学の教職員が同行する講座もあります。

また、現地への出発前には事前研修を実施します。(事後研修を実施する場合があります。)

なお、プログラムは、自然災害、戦争、航空機等交通機関にかかわる事故並びに前記以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する可能性があることをあらかじめご了承ください。

問合せ先 三田国際センター

URL: <http://www.ic.keio.ac.jp/j-index.html> 詳細や変更は、随時ホームページ等で発表します。

ガイダンス 4月4日(火) 藤沢 Ω12教室 16:10~17:40 4月6日(木) 矢上 14-201教室 13:00~14:30
4月5日(水) 三田 519教室 13:00~14:30 4月6日(木) 日吉 J11教室 17:00~18:30

夏季講座募集期間: 4月12日(水)、13日(木) 一次合格発表: 4月20日(木)

面接審査: 4月22日(土) 夏季講座選考結果発表: 4月28日(金)(予定)

① 慶應義塾大学 — ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座

ケンブリッジ大学は、オックスフォード大学と並ぶ英国の名門校で、美しいキャンパスは勉学に最適な環境にあります。

授業は英語による講義、ケンブリッジ大学在籍生を交えてのディスカッション、エッセイの作成・提出を中心としており、ケンブリッジ大学の教員が指導にあたります。

[現地研修期間]

2006年8月7日(月)~9月6日(水)(予定) 5月~7月に三田キャンパスにて事前研修を2回程度行います。

[開講予定科目] ※6科目の中から3科目を選択して履修。

English Literature, History of Art, Ancient Greece and Western Civilization, Astronomy: Unveiling the Universe, The Science of Chaos, Evolution and Behavior (Zoology).

[研修内容]

講義(午前)、ケンブリッジ大生(TA: Teaching Assistant)を交えてのディスカッション(午後)。エッセイ作成・提出(週末)。

[単位数]

4単位 ※本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

[募集人数] 60名

② 慶應義塾大学 — ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

ウィリアム・アンド・メアリー大学は、米国東海岸ヴァージニア州ウィリアムズバーグにあり、教育・研究で高い評価を得ている州立大学です。創立は1693年で、アメリカではハーバード大学について古い歴史を誇っています。

本講座は、毎年定められるテーマに沿った英語による講義、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション等で構成されています。また、大学内での寮生活や、講演会、ワシントンDC近郊の家庭でのホームステイ等を通じ、さまざまな異文化交流を体験することができます。

[現地研修期間]

2006年7月28日(金)~8月15日(火)(予定) 4月下旬より事前研修(6回程度)、帰国後には事後研修(2回程度)を行います。

[研修内容]

ウィリアム・アンド・メアリー大学の教員による講義および質疑応答、ダイアログクラス、ウィリアム・アンド・メアリー大生をまじえてのグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション、ワシントンDC近郊の家庭でのホームステイなど。

[単位数]

4単位 ※本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

[募集人数] 40名

③ 慶應義塾大学 — ワシントン大学夏季講座

ワシントン大学はアメリカ北西部ワシントン州シアトルにある 1861 年に創立した歴史のある学校で、ワシントン州最大の大学です。豊かな自然に恵まれたキャンパスはとても広大で美しく、緑が多い環境の中で落ちついて学業に専念することができます。

「環境」を多面的な視点から学ぶ講義・ワークショップとディスカッションのほか、フィールドトリップ、ワシントン大学の学外施設を利用した実地自然体験宿泊旅行などをバランスよく配置しています。

なお、この講座には APRU (Association of Pacific Rim Universities, 環太平洋大学協会) 加盟大学から数名が参加する予定です。

[現地研修期間]

2006 年 8 月 19 日～9 月 9 日 (予定) 5 月～7 月に事前研修を 2 回程度行います。

[研修内容]

講義/ワークショップ, ディスカッション, フィールドワーク, プレゼンテーション

体験宿泊旅行: レニア山, エコロジーウォーク (森林学), フライデー・ハーバー・ラボ (海洋学)

[開講科目例 (2005 年度実績)]

Urban issues and environmental concerns, Marine Conservation, fisheries, aquaculture, Biodiversity and the Urban Populace

[単位数]

4 単位 ※本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

[募集人数] 30 名

④ 慶應義塾大学 — パリ政治学院春季講座

パリ政治学院は、フランスのエリート養成機関『グランゼコール』の 1 つで、フランス現大統領のシラク氏をはじめ、歴代の政界・財界の著名人の母校として大変有名です。

本講座は、加盟国の増大により拡大する EU の政治・社会・財政・文化の問題のみならず、EU 対アジアや EU 対米国の関係など、様々なテーマを取り扱う非常に中身の濃いプログラムになっています。

プログラム期間中に、各自が決めた研究テーマに沿ってエッセイを書き、プログラム修了時には、パリ政治学院からディプロマが授与されます。また、最終週にはベルギーの首都ブリュッセルにある EU の諸機関を実際に訪問し、EU の組織に対する理解を深める機会が設けられています。

講義はすべて英語で行われますが、午後にはフランス語の授業もありますので、2 カ国語を同時にマスターできるのもこの講座の魅力となっています。

プログラムの詳細は、11 月ごろ国際センターホームページで発表します。

[現地研修 2005 年度参考] 2006 年 2 月 19 日 (パリ) ~ 2006 年 3 月 18 日

[講義内容 2005 年度参考]

1. "The History of Europe: Once upon a time..."
2. "An introduction to European Institutions"*
3. "European public Space and Democracy"*
4. "National political parties and Europe: are they European?"
5. "The values of the European(s)"
6. "The latest EU enlargement: transition processes and successes of the integraion of formerly Socialist countries"
7. "The Challenges of a Common Immigration Policy"*
8. "Joining the EU: is Turkey specific?"
9. "European welfare states"
10. "Is there a European capitalism?"
11. "The growth performances of European economies"
12. "Monetary governance in Europe"
13. "Fiscal governance in Europe"
14. "Public services in Europe"
15. "US/EU conflicts of values and/or conflicts of interest"*
16. "The challenges of a European security policy"*
17. "Europe and the Middle East Conflict"*
18. "Ageing and generational equality in Europe"

単位取得: 4 単位 (卒業に必要な単位として認められることがあります。ただし、次年度春学期設置科目として認定の為、参加時に最終学年の場合は対象外となります。)

定 員: 30 名 (うち 10 名は上智大学生)

国際センター設置講座

国際研究講座ならびに日本研究講座受講希望者へ

国際センターでは、外国および日本の文化や社会、国際関係を理解するための英語による講座を開講しています。本年度国際研究講座で取り扱う国／地域は、米国、カナダ、オーストラリア、アジア、ラテンアメリカにおよび、EU 関係の講座も開講します。一方日本研究講座では、政治、経済、産業、文学、芸術、思想など幅広い側面から日本を探求します。

海外からの外国人留学生と共に英語で学ぶ授業としてユニークなものであり、学問を通しての国際交流の場として日本人学生の積極的な参加を歓迎します。

なお、本講座の履修単位の取り扱いは各学部・研究科により異なりますので、所属する学部・研究科の履修案内に従ってください。

1. 対象 大学学部生、大学院生、ならびに別科生（原則として新入生を除く）
2. 単位 各科目 2 単位
(なお、医学部・医学研究科および法務研究科ではすべての授業科目が履修の対象となりません)
3. 手続方法
履修申告をしてください。国際センターに出向く必要はありません。
学部・大学院が設置主体の科目については、学部・大学院の登録番号を使用してください。

所属する学部・研究科で履修対象とならない場合は、三田、日吉の国際センターで相談してください。
4. 受講料 無料
5. 掲示 休講などの連絡事項は、三田の国際センター掲示板に掲示されます。

国際研究講座 (INTERNATIONAL STUDIES)

東南アジア世界の諸相

(春学期) (Spring)

WORLD OF SOUTHEAST ASIA

野村 亨

総合政策学部教授

Toru Nomura

Professor, Faculty of Policy Management

Sub Title:

Understanding Contemporary & Historical Aspects

Course Description:

In this class, students are exposed to contemporary as well as historical aspect of Southeast Asia. The information acquired in this lecture will surely be quite useful for those who want to be engaged in busines in this fast-developing region.

Text Books:

None. Handouts will be given from time to time.

Reference Books:

Several books will be suggested during the class.

Class Schedule per week:

1. Orientation
2. What is SEA ?
3. SEA & Japan
4. SEA & European Power
5. Nature and Climate of SEA
6. Languages of SEA
7. Music of SEA
8. Politics of SEA
9. Other aspects of SEA

Please note that above order may change with short notice. For further information, please ask the professor directly.

Message to those taking this Course:

Students are recommended to bring along a map of Asia and / or Southeast Asia in every session.

Classroom rules will be indicated at the first session.

Grading Methods:

In class Exams, Attendance, Participation

Questions, Requests:

Should be forwarded to : nomura@sfc.keio.ac.jp

No petition on scores will be acceptable.

異文化と自己理解

(春学期) (Spring)

CULTURE AND THE UNCONSCIOUS

ショールズ, ジョセフ

国際センター講師 (立教大学助教授)

Joseph Shaules

Lecturer, International Center (Associate Professor, Rikkyo University)

Sub Title:

Looking for the hidden roots of cultural difference

Course Description:

Culture has two sides, a visible side — food, clothing, architecture — and a hidden side of unconscious beliefs, values and assumptions. In this course we will learn the story of the discovery of hidden culture. We will explore culture's unconscious influence over us, and see how hidden cultural difference creates conflict in relationships and communication. This will involve learning hidden patterns of cultural difference related to things like: time, personal space, cooperation, independence, fairness, equality, emotion. Students will discuss their intercultural experiences, share their opinions and give presentations. The ultimate goal of this course is a deeper self-understanding.

Text Books:

Handouts to be supplied by the teacher.

Reference Books:

- 1) Different Realities — Adventures in intercultural communication, by Shaules & Abe, published by Nan'un-do.
- 2) Riding the Waves of Culture, by Trompenaars and Hampden-Turner, published by McGraw Hill

Class Schedule per week:

1. Class introduction
2. The discovery of hidden culture — Mead, Sapir & Whorf, Hall

3. A model of hidden culture — The onion model.
4. Student presentations
5. Cultural in human relations — independence and cooperation
6. Culture, emotion and self-expression — How we show feelings
7. Culture and status — Who is important and why ?
8. Student presentations
9. Culture and gender — Gender separate vs. gender similar
10. Different modes of time — polychronic and monochronic
11. Student presentations
12. Final class

Message to those taking this Course:

This course is designed for students who have an interest in understanding people. An important part of our identity and values comes from how we were raised — in particular, the hidden values and assumptions of our culture. To understand this hidden side of ourselves, we must examine not only cultural difference, but our own personality. There will be lectures, discussion, and students presentations.

Grading:

Grades will be based on attendance, in-class presentations and a short final exam.

オーストラリア政治の今日的課題

(春学期) (Spring)

CURRENT ISSUES IN AUSTRALIAN POLITICS

テリー, レス

国際センター講師 (ビクトリア工科大学文学部助教授)

Leslie Terry

Lecturer International Center (Senior Lecturer, Faculty of Arts, School of Social Sciences, Victoria University of Technology)

Course Description:

This offering will explore the changing face of government in contemporary Australia. Students will be introduced to the basic structures and workings of this country's political culture, the nature of its political parties and lobby groups, as well as the key debates in current government policy. A major focus of this unit will be to highlight the impact of the recent shift from post-1945 social-welfare policies to market-driven forms of governance in the 1990s. Central to the course will be a discussion of the 'public' versus the 'private' forms of citizenship in Australia. Students will be introduced to a range of current debates around multiculturalism, innovations in education and changing industrial relations. The course will use a variety of sources including current material from the media to provide students with the opportunity to compare issues of governance in Australia and Japan.

Class Schedule per week:

- Week 1 Lecture and discussion: Introduction <Articles>
- Week 2 Lecture and discussion: Key issues in Australian government <Articles, charts demographic material>
- Week 3 Video: *The Castles* or *The Bootman*: The Australian state in transition <Video>
- Week 4 Lecture/presentation: Governing the Australian citizen 1 (Social democracy) <Articles>
- Week 5 Lecture/presentation: Governing the Australian citizen 2 (Liberalism and Neo-Liberalism) <Readings, articles>
- Week 6 Lecture/presentation: Oppositional Social Movements and political parties <Readings, articles>
- Week 7 Film: *Looking for Alibrandi*: Governing Cultural identities and ethnic difference <Readings, articles>
- Week 8 Lecture/presentation: Multiculturalism and its future <Readings, articles>
- Week 9 Lecture/presentation: Managing the population: debates on the immigration (refugees, ageing population) <Articles, readings>
- Week 10 Lecture/presentation: Shaping the citizen: debates in education <Articles, readings>
- Week 11 Lecture/presentation: Changing working life in Australia <Readings, articles>
- Week 12 Lecture and discussion: Overview of the issues <Notes and readings>
- Week 13 Test and Evaluation

Grading Methods:

Exam, Report, Attendance, Participation, Other

世界政治におけるラテンアメリカ

(春学期) (Spring)

LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS

アントリネス, マリオ

国際センター講師

Mario Antolinez

Lecturer, International Center

Course Description:

The countries of Latin America and the Caribbean form a vast and complex part of the Western Hemisphere. Although the strategic geopolitical relevance of the region has been recognized, Latin American values and attitudes regarding politics, business and life in general remain profoundly misunderstood, if not totally unknown by many. Not surprisingly, what people think they know about the region is based on

unfair stereotypes and generalizations generated by some dramatic event covered by the world media.

Thus, the main objective of this course is to foster a greater understanding of the region's realities. The course is designed as a multidisciplinary study focusing on Latin American politics, economics and foreign policy, and it is divided in two parts. Part I deals with the main features of Latin America as a region, while Part II consists mainly of a country-by-country approach.

Text Books:

Hillman Richard, "Understanding Contemporary Latin America". Lynne Rienner Publishers, 2001.

Reference Books:

- Atkins Pope, "Latin America in the International Political System". Westview Press, 1995.
Black Knippers Jan, "Latin America: Its Problems and Its Promise". Westview Press, 1998.
Calvert Peter, "The International Politics of Latin America". Manchester University Press, 1994.
Cortes Roberto, "The Latin American Economies". Holmes & Meir, 1985.
Child Jack, "Geopolitics and Conflict in South America". Praeger, 1985.
Lael Richard, "Arrogant Diplomacy". Scholarly Resources, 1987.
Levine Donrel, "Religion and Politics in Latin America". Princeton University Press, 1981.
Lowenthal Abraham, "Partners in Conflict: The United States and Latin America". Johns Hopkins University Press, 1990.
Molineu Harold, "U.S Policy toward Latin America: From Regionalism to Globalism", Westview Press, 1990.
Peeler John, "Latin American Democracies". University of North Carolina Press, 1983.
Rosenberg Mark, "Americas: An Anthology". Oxford University Press, 1992.
Smith Peter, "Modern Latin America". Oxford University Press, 1997.
Tokatlian Juan, "Teoria y Practica de la Politica Exterior Latinoamericana", 1983.
Wesson Robert, "U.S. Influence in Latin American in the 1980's. Praeger.

Class Schedule per week:

PART I

- Session 1: Introduction
Session 2: The Actors
Session 3: The Inter-American System
Session 4: Latin American Integration and Association
Session 5: Economic Outlook
Session 6: International Relations
Session 7: Latin America and the United States

PART II

- Session 8: Mexico and Brazil: The Regional Giants
Session 9: Cuba: The Socialist Way
Session 10: The Andean Region: Breakdown and Recovery
Session 11: The Southern Cone: Authoritarianism and Democracy
Session 12: Central America: Dictatorship and Revolution
The Caribbean: Colonies and Micro-states
Session 13: Final Exam

Grading:

The course is organized as a combination of lecture and seminar, and will be conducted in English. Performance will be evaluated on the basis of attendance (30%), class participation (20%), oral presentation (20%) and a final exam (30%).

現代の国際問題と国連の役割

(春学期) (Spring)

CONTEMPORARY GLOBAL ISSUES AND THE ROLE OF THE UNITED NATIONS

マリク, ラビンダー 国際センター講師 (元国連大学学長室長)

Rabinder N. Malik Lecturer, International Center (Former Executive Officer, Office of the Rector, United Nations University)

Sub-title:

Multi-disciplinary approach to the study of major global issues that confront the world community in the 21st century, and the role of the United Nations and International Organizations in addressing these issues.

Course Description:

A critical review and assessment will be undertaken of the origin and present condition of the major global issues and problems and how these are being addressed by the national governments and the international community. Special attention will be paid to the role of the United Nations and other International Organizations as a tool of global governance in addressing these issues. We shall also explore ideas and concepts of peace and security, human rights, coexistence among peoples of different cultures and other critical global issues such as poverty eradication, environmental degradation, aging society and gender issues.

The objective of the course, which is suitable for students from all faculties, is to enable the students to gain a better understanding of the world around them and about the role of the United Nations so that they are able to evaluate current and future international trends and to

formulate their own well thought-out opinions based on facts. It should help enhance their trans-cultural literacy and competence and enable them to interact with confidence with peoples of different cultural backgrounds and orientations in an interdependent and interlinked world. Group discussions will be an important part of the course, which will be conducted in English.

Text Books:

No specific text books. Photocopied handouts will be distributed as appropriate and relevant. Students will be encouraged to get into the habit of reading a daily newspaper or a weekly magazine and catch the news on radio and television so that they can participate actively and meaningfully in the discussion of contemporary issues. Group discussions and assignments will rely heavily on material obtained from such sources.

Reference Books:

- (1) Charter of the United Nations, UN, New York
 - (2) UN Millennium Declaration, Resolution 55/2, UN General Assembly, 55th Session, Sept. 2000
 - (3) A More Secure World: Our Shared Responsibility; Report of the High-Level Panel on Threats, Challenges and Change, UN, December 2004
 - (4) In Larger Freedom: Towards Development, Security and Human Rights for All, UN Secretary-General, April 2005
 - (5) Relevant publications, reports and documents issued by the United Nations and United Nations University
 - (6) Newspaper articles and journals related to the topics covered by the course
- (Some of the above documents can be accessed through the website <http://www.un.org>)

Class Schedule per week:

- Week 1:* INTRODUCTION TO THE COURSE AND OVERVIEW OF THE CURRENT GLOBAL SCENARIO
Week 2: GLOBAL INTERCONNECTEDNESS AND NEED FOR INTERNATIONAL COOPERATION
Week 3: THE UNITED NATIONS AND ITS ORGANS (UNITED NATIONS CHARTER)
Week 4: THE UNITED NATIONS AND ITS ORGANS (Continued)
Week 5: OTHER INTERNATIONAL AND REGIONAL ORGANIZATIONS
Week 6: INTERNATIONAL PEACE AND SECURITY
Week 7: SOCIAL AND ECONOMIC DEVELOPMENT (MILLENNIUM DEVELOPMENT GOALS)
Week 8: GLOBAL ENVIRONMENTAL SUSTAINABILITY
Week 9: HUMAN RIGHTS (UNIVERSAL DECLARATION OF HUMAN RIGHTS)
Week 10: WOMEN AND DEVELOPMENT
Week 11: AGING SOCIETY
Week 12: REFUGEES AND MIGRATION
Week 13: FINAL REPORTS AND EVALUATION

Message to those taking this Course:

This course is good for those who wish to improve their ability to communicate in English and be able to discuss about international issues with confidence. Regular attendance and active participation in the class discussions will be important. Students should do some prior reading or internet search on the topics under discussion as I would expect students to make comments, ask questions and speak freely in the class.

Grading Method:

- (1) There will be no examination but all students will be expected to write a final report based on readings, lectures and discussions covered during the period.
- (2) Participation in group discussions and individual assignments will also be considered in grading.
- (3) Attendance will be an important part of the consideration for grading.

Requests, Questions:

If students have any questions or problems in the course, they should feel free to talk to me before or after the class or send me an email at: rabindermalik@hotmail.com

I look forward to working with you this semester!

国際人権法

(春学期) (Spring)

INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW

細谷明子

国際センター講師

Akiko Hosotani

Lecturer, International Center

Sub Title:

Issues, procedures, and advocacy strategies regarding the promotion and protection of human rights worldwide

Subject of the class:

Students will study five different aspects of international human rights including:

- (1) Procedures for implementing international human rights involving state reporting to treaty bodies; individual complaints; thematic, country rapporteurs, and other U.N. emergency procedures for dealing with gross violations; humanitarian intervention; criminal prosecution and procedures for compensating victims; diplomatic intervention; state v. state complaints; litigation in domestic courts; the work of nongovernmental organizations; etc.
- (2) Major international institutions including the human rights treaty bodies; the U.N. Commission on Human Rights and its Sub-Commission on the Promotion and Protection of Human Rights; the U.N. Security Council; international criminal tribunals; the International Criminal

- Court; U.N. field operations authorized by the U.N. Security Council or under the authority of the U.N. High Commissioner for Human Rights; the Inter-American Commission on and Court of Human Rights; the European Court of Human Rights and other parts of the European human rights system; the U.N. High Commissioner for Refugees; and the International Labor Organization
- (3) Human rights situations in various countries such as South Africa, Iran, Myanmar, East Timor, Kosovo, Cambodia, former Yugoslavia, the Democratic Republic of Congo, Japan, the United States, Europe, Sudan, Ghana, and India
 - (4) Substantive human rights problems related to the rights of the child, economic rights, the right to development, torture and other ill-treatment, minority rights, the right to a free and fair election, human rights in armed conflict, crimes against humanity, arbitrary killing, indigenous rights, self-determination, discrimination against women, the rights of refugees, etc.
 - (5) Learning methods such as advising a client, role-playing, the dialogue methods, drafting, and advocacy in litigation

The principal book:

David Weissbrodt, Joan Fitzpatrick, and Frank Newman, International Human Rights: Law, Policy and Process (3rd ed. 2001) and supplement Selected International Human Rights Instruments and Bibliography for Research on International Human Rights Law

Assignments:

Assignments are listed below as to each class session:

- Apr. 12: Preface and Chapter 1: Introduction to International Human Rights Law and Drafting Human Rights Treaties
- Apr. 19: Chapter 4: Ratification and Implementation of Treaties; the Covenant on Economic, Social, and Cultural Rights
- Apr. 26: Chapter 5: State Reporting under International Human Rights Treaties; Cultural Relativism
- May 10: Chapter 6: What U.N. Charter-Based Procedures are Available for Violation of Human Rights ?
- May 17: Chapter 7: Humanitarian Intervention
- May 24: Chapter 8: Can Human Rights Violation Be Held Accountable ?; Guest speaker, or; Documentary, Long Night's Journey into Day (South African Truth Commission)
- May 31: Chapter 9: International Human Rights Fact-Finding
Fact-Finding role play, or Guest Speaker to be announced
- Jun. 7: Chapter 10: How Can the Government Influence Respect for Human Rights in Other Countries ?
- Jun. 14: Chapter 11: Inter-American Human Rights System; the Organization of African Unity
- Jun. 21: Chapter 12: European Human Rights System
- Jun. 28: Chapter 13: Domestic Remedies for Human Rights Violations; Enforcing International Human Rights in Japan's Courts, Legislature and Administration
- Jul. 5: Chapter 15: Refugee and Asylum Law; Jurisprudence of Human Rights; Cultural Relativism
- Jul.12: Questions & Answers for reviewing the exam

Comment on the Class:

The class encourages students to analyze case situation and to evaluate the most effective methods to prevent human rights violations. Because of the evolving nature of the laws and issues in this field, students can participate as strategists and investigators.

Grading Policy:

Students will receive their grade for the course based on (1) class attendance (10%), (2) significant contribution to class discussion (10%), (3) an essay (30%), and (4) a final Exam (50%).

Office Hours:

Wednesday, 1-3 p.m. or by appointment

アフリカン イシューズ：アフリカにおける近代と危機の意味

(春学期) (Spring)

AFRICAN ISSUES

近藤英俊

国際センター講師（関西外国語大学助教授）

Hidetoshi Kondo

Lecturer, International Center (Associate Professor, Kansai Gaidai University)

Sub Title:

The Challenge of Communities — Beyond Postcolonial Situation

Course Description:

Children, who are emaciated with protruding bellies and fly-infested faces, are crying for food, or worse, already motionless in their mothers' arms. For many, such a shocking scene is typically associated with Africa. This popular imagery has its origin in mass media that are often sensationalistic as to African coverage. The truth is that Africa is the continent of wonderfully rich and diverse cultures, where people live their vibrant everyday life. Yet, from this, it does not immediately follow that Africa is a trouble-free region. Just as Japan and other industrial countries have many social problems, Africa does have critical issues to be pursued.

This course is intended to explore some of the major problems that Africa is currently facing. This year we will focus on problems and possibilities associated with communities in contemporary Africa. From political conflicts to development projects, many of social issues seem to have increasingly been revolving around communities in Africa over the last few decades. The saliency of communities seems to have much to do with so called postcolonial situation in which the decline of state power has contributed to the activation of various communal ties and there exists complex flow of plural cultures and identities. But communities here does not necessarily subscribe to the conventional view of closed social groups. They harbour contradictory features: some are fluid, ephemeral and borderless while others are exclusive, sustainable and

concerned with boundary.

Using wide range of academic disciplines, we will examine: (1) theoretical issues on communities, (2) the features of communities and their changes in the light of postcolonial situation in Africa, (3) relationships between conflicts and communities, and (4) relationships between development and communities. The course attempts to highlight not only despair but also hope that African communities promise.

Text Books:

Texts will be distributed in due course.

Reference Books:

References will be suggested in due course. However the following will be included:

1. Trager, L. 2001 *Yoruba Hometowns*. Linne Tienner
2. 野元美佐 2005 『アフリカ都市の民族誌』明石書店
3. 松田素二 1996 『都市を飼い慣らす』河出書房新社
4. Kondo, H. 2003. 'Illness in Between'. *Japanese Review of Cultural Anthropology* 4

Class Schedule:

- I. Introduction: Communities in Postcolonial Africa (1 session)
- II. The Making and Unmaking of Communities (4 sessions)
 1. Communities without Boundary
 2. Invention of Kingdom
 3. Plural and Shifting Identities
- III. Conflicts, Identity Politics and Communities (4 sessions)
 1. Instrumental Ethnicity vs Cultural Tradition
 2. Politics over Autochthony
 3. Religious Fundamentalism and the Youth
 4. Crises of Trust and Identities
- IV. Development and Communities (4 sessions)
 1. Voluntary and Saving Associations
 2. Elite and Local Development
 3. International Organizations, State and Communities in the arena of Development

Message to those taking this Course:

The course comprises lectures and class works. For class works, students are required to read and summarise a part of books or articles (minimum 30 pages per week) before attending the class. In the class, students will discuss their readings in a small group and then present it in front of all the rest. This is by no means an easy course!

Grading Methods:

Assessment is based on active participation in class works and an essay (3000 words) submitted at the end of the term.

グローバルビジネスにおける革新と戦略

(春学期) (Spring)

INNOVATION AND STRATEGY IN GLOBAL BUSINESS

トビン, ロバート I. 商学部教授

Robert I. Tobin

Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course examines successful innovations in global organizations-including market-changing products, inventive approaches to leadership and work, synergy between technology and product development, and the crafting, implementing and executing of business strategy. Ideas, customers, leadership, technology, markets, and talent are all part of the mix when companies innovate and craft business strategy—and will be examined in this course.

Students will develop the skills and tools that are critical for inventing and utilizing new business concepts, re-inventing old ones, and making innovation part of their lives.

The course will be conducted seminar -style with lecture-discussions, student group presentations, case studies, video segments, experiential class activities, and research assignments.

Text Books:

- Leading the Revolution by Gary Hamel
- Supplementary Reading Materials and Case Studies
- Additional Book To Be Assigned

Reference Books:

Students are encouraged to read related materials in The Asian Wall Street Journal, Business Week, and Fast Company and to watch related business television broadcasts.

Class Schedule per week:

List of Topics:

- Introduction: Time of Change & Innovation

- Trends In International Business Leadership /and Strategy
 - Encouraging Ideas / Innovation
 - What to Do About Decaying Strategy
 - How to Become A Global Innovator
 - New Market Expansion and Entry
 - U.S. ,China, Thailand, Japan
 - Global Leaders/Global Partnerships
 - A look at Global Leaders
 - Global Companies/Working Overseas
 - Impact and Meaning of Anti-Globalization Forces
 - Creativity in Leadership
 - Future of International Business
- Additional information about this course available at www.tobinkeio.com

Message to those taking this Course:

A challenging, innovative course designed to encourage you to think in new, innovative ways. Be prepared for a challenging, rigorous course. This course attracts a large number of Keio's top students from every faculty and exchange students from around the world. No business background is necessary. There is substantial opportunity for student interaction and collaboration.

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

Grading:

Evaluation based on successful completion of assignments and projects, participation and on-time attendance, and an examination. In the event of unavoidable absence, please contact another student for assignments and be prepared for the next class. All assignments must be typed and no late papers are accepted.

Questions, Requests:

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

Open to enrolled undergraduate and graduate students only.

現代ロシア研究

(春学期) (Spring)

UNDERSTANDING RUSSIA

ナコルチェフスキー, アンドロイ

文学部助教授

Andrei Nakortchevski

Associate Professor, Faculty of Letters

Course Description:

The main purpose of this course is an attempt to understand contemporary Russia, to understand people who live in this still somewhat enigmatic land in the context of its own history of contacts with other nations. This course will not be a standard course in history and culture. We will talk more about things which usually remain unsaid in academic papers — about how average Russians live, what they like and dislike, what they value and what they hate. We will try to comprehend a legendary “enigmatic soul” of Russians, to enter theirs inner world and look at it from within. We will also discuss general features of unique Russian civilization developed geographically and culturally between East and West. We will try to understand Russia escaping any distortions as best we can, using a lot of video materials as illustrations and sometimes as a base for discussion.

What does it mean to be a Russian? This will be the main question to which we will try to find an answer during these classes.

Class Schedule:

1. Introduction
2. The starting point of Russian history: the problem of Kievan Rus heritage
3. Orthodox Christianity: its origin and role in Russian history
4. Traditional Moscovia and imperial Russia: choices of Alexander Nevski and Peter The Great
5. Russia and Europe: Slaphophiles and Westernisers
6. Ukraine: the alternative model of development
7. Russian classical literature: main features and ideas
8. Russian Idea: utopia or self-indulgence
9. 19th century failed modernization and 1917 Revolution
10. New empire: the socialist experiment
11. Perestroika: new possibilities or disaster?
12. Future of Russia in a geopolitical perspective

Grading Methods:

Presentation and participation

AMERICAN STUDIES

ウィリアムス, ムケーシュ 国際センター講師

Mukesh K. Williams Lecturer International Center

Sub Title:

American History, Culture and Foreign Policy

Course Description:

Rationale: After the collapse of the Soviet Union in 1991 the United States emerged as the most important nation in the world. Every nation has some kind of relationship with the United States, which is either profitable or unprofitable. No nation can ignore the United States or fail to understand American history, culture and foreign policy. Most nations therefore include American Studies within their academic, bureaucratic and administrative orientation. Since the nineteenth century nation states especially America have tried to define key words and ideas relating to freedom, welfare, civil rights, sovereignty, representation, democracy and religion to create a composite intellectual and political culture. The American Studies Program will introduce students to the inter-disciplinary study of American history, culture and foreign policy and help them to understand how Americans and non-Americans think about America.

Course Outline: The course will introduce 4 modules, each module containing a big idea namely:

1. Nation and Narration: constructs the Pocahontas story/myth; human arrival in North America; Native American life; the Americas, West Africa and Europe on the eve of contact; American industrial heritage; the work of Samuel Slater in the late eighteenth and early nineteenth centuries in Pawtucket in constructing industrial America.
2. Immigration and Cultural Change: 'Old' and 'New' immigration; the world of the immigrants; a new working class; the limits of mobility and ethnic diversity; the Chinese Exclusion Act; new forms of leisure and mass entertainment; the American Dream; 1965 Immigration Policy; multiculturalism and identity politics.
3. National and International Identities: Reconstructing World War II, American neutrality and the road to war; post-war economic boom, the rise of consumer society; the crabgrass frontier; the Baby Boom; the birth of television and the influence of advertising; roles of women and *The Feminine Mystique*; the Korean War; the arms race; the Red Scare and McCarthyism; the early civil rights movement; teen rebellion and rock'n roll; the media and Vietnam War; rise of CNN.
4. American Foreign Policy—Neutrality to Involvement (1865-1917); Early American isolationism, moral foreign policy; postwar naval/air supremacy (1920-2004), manifest destiny, American unilateralism, America as the policeman of the world, clash of civilization and war on terror.

The course will help students to confront the contradictions and inherent tensions in the American narrative without the false hope of an easy solution. We will not fail to discuss democratic aspirations, concepts of justice, American solidarity/Christian and Islamic divide and evolving nations of national identity. Along the way we would also question the methods and perspectives by which we study our subject by asking some of the following questions:

- a) How do Americans think of themselves as a nation and the rest of the world? And how do people from other nations think about America? (Samuel Huntington, *The Clash of Civilization*; radical evil/Christian good; liberal/democratic frameworks—Richard Bernstein, *Radical Evil*)
- b) How is space constructed in the lives of individuals in America? How changes brought in by pre-industrial, industrial and post-industrial societies reconstituted the lives of people in the U.S.? (Vertical/horizontal expansion; notions of bigness/assertion; David Reisman, *The Lonely Crowd*; national parks—European signatures/Native American erasures—Yosemite and Yellowstone National Park)
- c) What are the popular methods of understanding the culture and society of America? (Clifford Geertz and others)
- d) How do we imagine the past and its effects on social and cultural representation? (Hayden White, Stuart Hall and David Hollinger)
- e) How do the concepts of American unilateralism and manifest destiny define American foreign policy?
- f) Is the rise of the modern West a pure or impure concept? (Chris Bayly and Bernal)

Aims: The students will get an opportunity to:

1. acquire presentation and negotiation skills
2. learn new concepts, methods and vocabulary
3. understand stereotypes of knowledge, reason/critical thinking, culture, gender and politics (bias, manipulation, prejudice, discrimination and hegemony)
4. synthesize diverse opinions and perspectives from within and outside America
5. develop skills to write/think purposefully and strategically
6. acquire the habit to pursue knowledge independently and scientifically

Text Books:

<TEXTBOOK> Howard Zinn, *A People's History of the United States 1492-Present (Perennial Classics)*, (New York: Harper Perennial, 2003); Price 12.89 USD.

<REFERENCE BOOK> David Colbert ed., *Eyewitness o America: 500 Years of American History in the Words of Those Who Saw it Happen*, (New York: Vintage, 1998); Price 12.21 USD.

Reference Book:

Short selections from the following books and essays:

Richard J. Bernstein, *Radical Evil: A Philosophical Interrogation*, (Cambridge: Polity Press, 2002)

The New Constellation: Ethical-Political Horizons of Modernity/Postmodernity, rpt.,1998; (Cambridge, Massachusetts: The MIT Press, 1992).

Julia Kristeva, *Nations Without Nationalism*, (New York: Columbia University Press, 1993)

Samuel Huntington, *The Clash of Civilization and the Remaking of World Order*, (New York: Touchstone, 1997).

Clifford Geertz, *The Interpretation of Culture*, (New York: Basic Books: 1973).

Available Light: Anthropological Reflections on Philosophical Topics, (Princeton: Princeton University Press, 2000).

Todd Gitlin, *The Twilight of Common Dreams: Why America is Wracked By Culture Wars*, New York: Henry Holt & Company, 1995).

David A. Hollinger, *Postethnic America*, (New York: Basic Books, 1995).

Giles Gunn, "Introduction: Globalizing Literary Studies," *The Modern Language Association of America*, 2001, pp. 16-31.

Rober Young, *White Mythologies: Writing History and the West*, rpt 2003; (London: Routledge, 1990).

Tzvetan Todorov, *The Conquest of America: The Question of the Other*, (Norman: The University of Oklahoma Press, 1999).

Stuart Hall, *Representation: Cultural Representations and Signifying Practices*, (London: Sage, 1997).

David Reisman, *The Lonely Crowd*, (New Haven: Yale University Press, 2001).

Werner Sollors ed., *Theories of Ethnicity: A Classical Reader*, (London: Macmillan Press, Ltd., 1996).

Charles Taylor, *Multiculturalism: Examining the Politics of Recognition*, (Princeton: Princeton University Press, 1994).

Class Schedule per week:

- 1st Week: Shopping
- 2nd Week: Introduction to the course, handouts, a short reading list; Imagining the nation—European and Native American ideas. Extract from Todorov's *The Conquest of America*; Sollors, *Theories of Ethnicity*; de Tocqueville, *Democracy in America*,
- 3rd Week: 3 Worlds Meet—Europe, West Africa and Native Indian—Video Script. Disney imagining Pocahontas—multicultural, racial (anti-British and anti-Indian) and feminist issues
- 4th Week: Immigration and Cultural Change, video; OMD Directive 15. Immigrant writers such as Saul Bellow/Malamud Isaac Singer/Anzia Yezeriska, Toshio Mori, Hisaye Yamamoto, John Okada, Jhumpa Lahiri, Amy Tan et. al. Handout: Giles Gunn, "Globalizing Literary Studies."
- 5th Week: A brief discussion of topics of presentation such as European pioneers, Native American concept of land/music/family life/politics, immigrants/ multiculturalism/working class life in big cities (Reisman, *The Lonely Crowd*); personal is political, civil rights movement—Malcolm X/Martin Luther King/FBI; Japanese Americans/Internment camps/loyalties etc. Choose topics for presentation.
- 6th Week: Make small groups (about 2/3 students) to discuss presentation topics followed by question-and-answer discussion session. Summing up—representation of social and political reality. Create a format for presentation/outline.
- 7th Week: World Wars I and II/Postwar America. Extracts from Gitlin and Hollinger; Show all three videos (if time permits).
- 8th Week: Readings from speeches of Malcolm X and Martin Luther King Jr.. A discussion of Harlem and the First Abyssinian Church, New York; Handout from Stuart Hall, *Representation*; Taylor and Appiah, *Multiculturalism*.
- 9th Week: American Foreign Policy: Show video US and the World (1865-1917); extract from Huntington's *The Clash of Civilization*.
- 10th Week: Henry Kissinger and others on American Foreign Policy
- 11th Week: End-Semester Presentation and 4-page final report
- 12th Week: End-Semester Presentation and 4-page final report
- 13th Week: End-Semester Presentation for latecomers/course evaluation

Message to those taking this Course:

Please read the handouts and textual material at home so that you are better prepared to discuss topics in class more enthusiastically and creatively.

Grading Methods:

1. End-Semester Class research-based presentation in class (60% credit)
2. End-semester 4-page report on the topic chosen for presentation (20 % credit), homework based on the text/supplementary material (10% credit)
3. Attendance,Participasion 10 % credit

現代中国社会

(春学期) (Spring)

CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY

ファーラー, グラシア

国際センター講師

Gracia Liu Farrer

Lecturer, International Center

Course Description:

This course surveys the post-1978 Chinese society, focusing on social issues under the market reform and conditions of increasingly globalized economy. China's transition to a market-oriented society has effected fundamental changes in the lives of its citizens. This class covers topics such as regional economic disparities, changing patterns of employment and unemployment, gender inequality, and both internal

and international migration. We will ask: How are women and men faring differently in China's new labor market and workplaces? Are rural peasants and the emerging underclass of urban laid-off workers being left behind by market transition? How are minorities faring in China's transition? How does the emerging digital divide play into the dichotomies of east-west and urban-rural in China? What is the plight of millions of "floaters" migrating into China's cities, with minimal legal rights and protections? How has the one-child policy affected women, children, and society in China? The objectives of the course are 1) to offer exposure to a broad overview of social issues in contemporary China, and 2) to familiarize students with available resources for learning about Chinese society. The class will combine lectures, academic readings, narrative accounts, films, and discussions.

Text Books:

Wenfang Tang and William L. Parish.2000. *Chinese Urban Life under Reform: The Changing Social Contract*. University of California Press.

Deborah Davis.2002. *The Consumer Revolution in Urban China*. University of California Press.

Electronic copies of *China Quarterly*, *Journal of Contemporary China*, and other social science journals that would be sent to student via email.

Reference Books:

Solinger, Dorothy J. 1999. *Contesting Citizenship in Urban China: Peasant Migrants, the State, and the Logic of the Market*. Berkeley: University of California Press.

Class Schedule per week:

Week 1. Class Orientation

1. Introduction of the course
2. Collect topics of interests
3. Brief introduction of pre-1949 Chinese history

Week 2. Mao, social movements and the transformation of Chinese society- overview of China between 1949-1978

1. Brief review of the political campaigns and social changes that transformed the Chinese society in the 1950s,1960s and 1970s
2. The rural and urban divide
3. Social mobility

Week 3/4. The State and Society in Post-Reform China

1. The changing social structure: 1978 to present
2. The work-unit system and the organized dependency
3. The rise of the individual and the decline of collectivism

Week 5/6. Reforms and Urban Social Change

1. The impacts of market economy on urban space
2. Growth and unemployment
3. Changing patterns of consumption

Week 7. Mid-term

Week 8. The plight of Rural Population

1. Economic restructuring and rural poverty
2. The development of rural economy
3. The problem of social welfare

Week 9. The Internal Rural Urban Migration

1. The floating population and the social problems

Week 10. Women in Post-reform China

1. Women and Urban Socio-Economic Change
2. Women in Rural Development

Week 11. Family Planning and One Child Policy

Week 12. The Changing Popular Culture

Week 13. Out-migration and Transnationalism

Grading Methods:

1. Exam: One mid-term exam 25% and one final exam 25%
2. Reports: One 10-page research paper on one specific issue area covered in the course. 25%
3. Class Participation : 25%

ドイツ文化と社会

(秋学期) (Fall)

GERMAN CULTURE AND SOCIETY

ワニェク, ヤクリーン

国際センター講師

Jacqueline Waniek

Lecturer International Center

Sub Title:

Introduction to German culture, educational and political system, and historical challenges

Course Description:

The objective of this course is an introduction to the history, social, political and educational systems of Germany. Emphasis will be placed on

contemporary public issues such as the German reunification, Germany's role in the international community and Germany's aging society. By means of discussions, lectures, reading, writing and class presentations, students will reflect the German national character with that of contemporary Japanese.

Text Books:

O'Dochartaigh, P. (2004). *Germany Since 1945 (Studies in Contemporary History)*. New York: Palgrave Macmillan.
<http://www.deutschland.de/home.php>

Reference Books:

Flippo, H. (2002). *When in Germany, Do as the Germans Do*. McGraw-Hill

Class Schedule per week:

1. Introduction
 2. Demographic data, geography, climate
 3. History of Germany
 4. Challenges through German reunification
 5. Germany and Europe
 6. Social structure
 7. Demographic changes
 8. Political System
 9. Educational System
 10. Science and Technology
 11. Culture and Traditions 1
 12. Culture and Traditions 2
- Final class

Message to those taking this Course:

Students are strongly encouraged to contribute to the class by active participation in group work, and discussions.

Grading Methods:

1. Exam (Final Exam 30%)
2. Reports (none)
3. Attendance, Participation (regular attendance 50%)
4. Other (group project presentation 20%)

比較映画論:映画における歴史の表象

(秋学期) (Fall)

VISIONS OF THE PAST: REPRESENTING HISTORY ON FILM

エインジ, マイケル W.

経済学部助教授

Michael W. Ainge

Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

Films about the past are often dismissed by historians as trifles. In this course, we will consider the conventions of various styles of representing history on film, including American forms such as Hollywood Historical Drama and Documentary, as well as other styles from other countries. Close readings of historical texts and of the filmed versions of those events will provide a window into the strengths and limitations of both media. We will consider whether representing the historical past on film necessitates simplification, distortion and/or falsification of the facts? How about the case of post-colonial societies struggling to retrieve lost or obscured histories? How does film effect memory, both collective and personal? These and other questions will constitute the core of our discussions.

Text Books:

Readings on the periods and/or episodes depicted in the films, as well as on the historical film. Copies will be distributed in class

Class Schedule per week:

Unit & Dates	Topic(s)Film Title	Readings
1. Sept.25	Introduction: Representing History in Text and on Film	
2. Oct.2-16	Hollywood Styles I: The Documentary	<i>Hearts & Minds</i> (ハーツ・アンド・マインズ) (USA, 1975)
3. Oct.23-30	Hollywood Styles II: The Historical Drama	<i>The Last Samurai</i> (ラスト・サムライ) (USA, 2003)
4. Nov.6-13	Non-Hollywood Styles I: Tropicalism	<i>Quilombo</i> (キロンボ) (Brazil, 1984)
5. Nov.27-Dec.4	Non-Hollywood Styles II: Griot	<i>Ceddo</i> (チェド) (Senegal, 1978)
6. Dec.11-18	Anti-Hollywood Styles I: Post-modernism	<i>Walker</i> (ウォーカー) (UK, 1987)
7. Jan.8-15	Anti-Hollywood Styles II: Personal Essay	<i>Sans Soleil</i> (サン・ソレイユ) (France, 1982)

Grading Methods:

1. Reports (**Short essays, 10%; Final Paper 50%**)
2. Attendance, Participation (**40%**)

BUILDING THE GLOBAL VILLAGE

フリードマン デビッド 環境情報学部教授

David Freedman

Professor, Faculty of Environmental Information

Course Description:

[HTTP:// WWW.SFC.KEIO.AC.JP/SOUTHAFRICA/](http://www.sfc.keio.ac.jp/southafrica/)

In an increasingly connected world, there are no specialty areas. Integration into a growing global economy encompasses both economic and trans-economic issues. At the Davos World Economic Forum 2001, the term “culturnomics” was coined to define how various intellectual disciplines need to combine in order to offer a fuller world view. This is course will be an introduction for students interested in issues affecting global governance and Africa. Through a series of lectures offered by ambassadors and embassy officials from the S.A.D.C. group, (<http://www.mbendi.co.za/orsadc.htm>) students will explore the variety of links diplomatic, educational, economic and cultural that tie Japan to contemporary Africa.

The course will focus the geo-political area of southern Africa, and the issues that such regions face as they plan seek to integrate their local economies and to connect to the “global village.” Speakers from the various embassies of the S.A.D.C. group will be invited to speak on the theme of global economy, culture and change and the impact of Japanese policies within the region.

As the countries of sub-Saharan Africa attempt to formulate policies in areas such as HIV care and education, sustainable development, conflict management and the growth of open societies, these policies connect with similar policies and issues around the world. Japan has made aid for African nations and support for the New Partnership for Africa's Development a major part of its international policy. Two years ago at the third Tokyo International Conference on African Development Japanese Prime Minister Junichiro Koizumi pledged \$1 billion for education and health care in Africa making Japan one of the major aid donors for Africa. This government interest has led to a variety of efforts to make the connections between southern Africa and Japan more multi-dimensional, and include both large-scale and small scale investment, tourism and educational connections and N.G.O. endeavors. (http://www.ajf.gr.jp/old/english/ajf_update.htm)

Each student will be expected to join a study group that will focus one of the African countries represented by the speakers. The groups will research and present on the ties and programs between their focus country and Japan. As a final project, each group will present a tentative plan to further develop the connections between Japan and their research country.

Class schedule per week:

- Class 1: Introduction and Organization (all students planning to register must choose a study group on this day.)
- Class 2: A Short History of Africa / form country research groups
- Class 3: The economic consequences of Colonialism in Africa
- Class 4: TICAD / Japanese aid and large-scale investment projects – their value and impact in S.A.D.C.
- Class 5: Japan/ Africa tourism eco and main-stream / cultural and economic impact
- Class 6: mid-term, project check
- Class 7: Alternative models of small-scale investment (crafts and culture as export items)
- Class 8: N.G.O.s / education and other “cultural” contacts as components of Japan / Africa economic ties
- Class 9: Symposium prep
- Class 10: Evaluation of the symposium and some thoughts for the future
- Class 11-13 student presentations and final paper

Grading:

As this is a lecture class attendance will be an important part of the grade. If a student is absent for 3 classes without an official excuse his/her grade will be lowered one level. If more than 4 class are missed, the student cannot pass the class. Along with the group work and presentation, each student will be expected to hand in a 3-4 page paper (single space, 12pt font separate bibliography) on the last day of class. The paper will focus on one aspect of Japan/Africa relations covered in the course.

Resources:

Although there is no text, the following sites are required “surfing” for all students

<http://www.gca-cma.org/>

<http://www.southafrica.info/>

<http://allafrica.com/>

<http://www.mbendi.co.za/orsadc.htm> * this site is required viewing before the second meeting!

African Health Resources

<http://www.sul.stanford.edu/depts/ssrg/africa/health.html>

[HTTP://WWW.LOVELIFE.CH/STOPAIDS.PHP](http://WWW.LOVELIFE.CH/STOPAIDS.PHP)

[HTTP://WWW.MALIDOMA.COM/MALIDOMA/](http://WWW.MALIDOMA.COM/MALIDOMA/)

SADC Symposium 2005

<http://sadcsympo.sfc.keio.ac.jp/>

Note:

The exact schedule of speakers and participating embassies will be announced at the first class.

カナダという国とカナダの国際的な役割

(秋学期) (Fall)

CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE

イエローリーズ, ジェームズ

国際センター講師 (カナダ日本連盟日本代表)

James Yellowlees

Lecturer, International Center (Director-Japan, Canadian Education Alliance)

Sub Title:

Canada's Vast Potential

Course Description:

We will learn about the various key aspects of Canada as a nation, including the history, economy, society and international role of Canada. It is an interactive class so participants will be expected to contribute each class.

Text Books:

None, will be using handouts

Reference Books:

None, will be using handouts

Class Schedule per week:

1. Introduction to Canada/What are Your Impressions of Canada ?
2. Canada's International Reputation and Role
3. Canadian Politics
4. Decentralized Canada
5. Canadian History
6. Contemporary Canada
7. The Canadian Economy
8. Canadian Business
9. Canadian Society
10. Comparisons Between Canada, Japan and America
11. About First Nations/Inuit People
12. About Canadian Culture- Multi-culturalism
13. Quebec
14. Prepare for Reports

Message to those taking this Course:

Canada is a very interesting nation that has a lot of potential. If you are interested in learning more about Canada, please consider taking this course.

Grading Methods:

1. Reports (A five page written Report on one aspect of Canadian Politics, Economy, Society or Cultures)
2. Attendance, Participation

文化・文化適応とアイデンティティ

(秋学期) (Fall)

CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY

横川真理子

国際センター講師

Mariko Muro Yokokawa

Lecturer, International Center

Sub Title:

文化がコミュニケーションと相互理解に与える影響

How communication and understanding are affected by culture

Course Description:

This course examines the impact of cultural values and beliefs, the process of cultural adjustment, the formation of cultural identity, and the relationship between language and culture. Third Culture Kids (Global Nomads) and returnees will be studied along with other topics related to culture, cultural adjustment, and communication across cultures.

In addition to the readings, students will be given opportunities to discuss critical incidents on instances of cultural misunderstanding, do role plays, as well as do presentations on ethnographic studies of their choice. The instructor will provide basic guidelines on how to conduct ethnographic (observational) research.

Text Books:

Text to be announced . Other materials to be handed out in class.

Reference Books:

- Faith Edise and Nina Sichel (Eds.). *Unrooted Childhoods: Memoirs of Growing up Global*. Intercultural Press, 2004.
- Richard Brislin and Tomoko Yoshida. *Intercultural Communication Training: An Introduction*. Sage Publications, Inc., 1994.
- Ruth Van Reken and David Pollock. *The Third Culture Kid Experience*. Intercultural Press, 2001.

Class Schedule per week:

1. Introduction: What is culture? Cultures, subcultures, values, and culture learning
2. Truth or belief? Beliefs, faiths, and differences in values
3. What's happening to me?—Models of cultural adjustment
4. How do I deal with this?—Culture shock and coping
5. Who am I? Where do I come from? Culture and Identity. TCK and Global Nomad Identity (2 sessions)
6. Is this really home? Re-entry, re-learning culture, and re-defining identity (Case of returnees)
7. Am I what I speak? Language, culture, and identity (Sapir/Whorf; BICS/CALP hypotheses)
8. Presentations on ethnographic studies (3-4 sessions depending on enrollment)
9. Analysis of critical incidents and role plays

Message to those taking this Course:

Japanese returnees and international students are both welcome. The instructor is herself a returnee and Global Nomad educated at international schools in Afghanistan and Egypt, and has done her doctoral research on Japanese children abroad. Active participation and contribution by the students is crucial.

Grading Methods:

1. Reports (Ethnographic Study)
2. Attendance, Participation (Prompt arrival, full attendance, and active participation obligatory)
3. Other (Presentations and comments on presentations)

Questions, Requests:

Students are encouraged to ask questions during class, as this generates good discussions.

国際関係

(秋学期) (Fall)

INTERNATIONAL RELATIONS

セット, アフターブ

慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所教授

Aftab Seth

Professor, Keio University Global Security Research Center

Sub Title:

Public Speaking / Debate / Art of Conversation, etc.

Course Description:

The course will seek to expose students to the multidimensional nature of international interaction – including debate and literature

1. The course will focus on the importance of communication in the conduct of international relations at all levels; governments, NGOs, Multi-National Corporations, multilateral organizations and at the level of artists, journalists and academicians.
2. The course will include the art of public speaking, social intercourse, the technique of debate, the appreciation of poetry and literature and the importance of a multicultural approach to international affairs.
3. The course will be designed as an interactive one with students, encouraged to actively participating in all the activities described in the proceeding paragraph.

Text Books:

None

Reference Books:

None

Class Schedule per week:

1. Communication in its various aspects – an overview
2. The art of conversation
3. Negotiation – its techniques and strategies
4. Debate – its forms and techniques
5. Drama as a vehicle of views
6. Music as communication
7. Art as a universal communicator
8. Poetry – appreciation, recitation, as communication
9. Silence – its uses as communication
10. Inter-cultural communication – the pitfalls and rewards
11. A diplomat as a communicator
12. A politician as a communicator
13. Examination

Message to those taking this Course:

Those interested in learning about communication may attend.

Grading Methods:

1. Exam(in class exam)
2. Attendance, Participasion

開発と社会変容

(秋学期) (Fall)

DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE

倉沢 愛子

経済学部教授

Aiko Kurasawa

Professor, Faculty of Economics

Sub Title:

Effect of Development Policy and Social Change at Grass-roots Community in Indonesia

Course Description:

I will describe social changes brought by rapid and heavy development policy, taking a case of Indonesia. My analysis is based on field research in two sites (one urban and another rural) where I have been watching since 1996. I will focus on changes on such aspects as human relations within the community, flow of information and changes in communication mode, religious piety, life-style etc. I will show you video which I recorded at the research sites.

Through this course first of all I want you to get clear image on people's life in a relatively "unknown" world, and so doing, to reconsider such questions as what is "development" and what is "prosperity. Does economic development really bring you prosperity and happiness? Critical analysis and evaluation are most welcome.

Text Books:

give you hand-out

Reference Books:

倉沢愛子『ジャカルタ路地裏フィールドノート』中央公論新社 2001年

Class Schedule per week:

- (1) Introduction on Indonesia
- (2) Suharto's development policy and foreign aid (national level analysis)
- (3) Development policy in economic sector
- (4) Development policy in health sector (2 times)
- (5) Development policy in education
- (6) Neighborhood Association and Control of people
- (7) Increased flow of Information
- (8) Strengthening of Muslim belief (2 times)
- (9) Emergence of new urban middle class
- (10) Globalization and flow of pop culture
- (11) Definition of "prosperity"

Message to those taking this Course:

Read several books on developing countries in Southeast Asia

Grading Methods:

Reports (4-5 pages (A4) of essay), Attendance, Participasion (requires 70% attendance)

アジア諸国におけるビジネスマネジメント

(秋学期) (Fall)

BUSINESS MANAGEMENT IN ASIAN COUNTRIES

トビン, ロバート I.

商学部教授

Robert I. Tobin

Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course focuses on strengthening your understanding of the major issues and challenges involved in the leadership of businesses in Asia. There will be a special focus on business strategy and the styles of management of firms headquartered in Japan, North America and Europe.

Among the topics will be the unique political, economic, social and cultural influences on managing Asian operations, issues related to corporate governance and ownership, entrepreneurship and strategy.

The course will be conducted seminar-style with presentations and discussions based on assigned readings, case studies, video segments, projects, experiential class activities, case studies and research assignments.

Text Books:

Text TBA

Additional assigned articles, case studies and supplementary readings

Reference Books:

Students are encouraged to read related materials in The Wall Street Journal, Business Week, and The Economist and to watch related television broadcasts.

Class Schedule per week:

Introduction
How to Succeed in Asian Markets
Asian Market Leaders
Hybrid Management Styles
Leading Foreign Firms Successfully
Local Company and Country Trends
Country Information Presentations
Pan-Asia Strategy
Case Studies: Challenges of Joint Ventures and Blending Style
Political and Economic Risks in Asia
Executive Development and HR
Challenges in Asia
Competition with Family Businesses
Business in Frontier Markets
Company Presentations
Additional information about this course available at www.tobinkeio.com

Message to those taking this Course:

A challenging, innovative course that examines the business approaches of countries in this region. Students call this an eye-opening course. Be prepared for a challenging, rigorous course. This course attracts a large number of Keio's top students from every faculty and exchange students from around the world. No background in business is required. There is substantial opportunity for student interaction and collaboration.

Evaluations:

Evaluation based on successful completion of assignments and projects, participation and on-time attendance, and an examination. In the event of unavoidable absence, please contact another student for assignments and be prepared for the next class. All assignments must be typed and no late papers are accepted.

Questions, Requests:

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.
Open to enrolled undergraduate and graduate students only.

国際開発協力論

(秋学期) (Fall)

INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION

後藤一美

国際センター講師 (法政大学教授)

Kazumi Goto

Lecturer, International Center, (Professor of International Cooperation, Faculty of Law, Hosei University)

Course description:

The twenty-first century is an era of global governance. The realm of contemporary international relations has seen the commencement of new political attempts to gradually reform existing systems in complex governance with different players and multi-tiered networks for the creation of a convivial global society, in which the common values of peace, prosperity and stability are pluralistically shared, overcoming the risks of asymmetry and tit-for-tat sequences. In this new political initiative towards an unknown world, there are some critical challenges, including the pursuit of public goals in the international community and of effective measures to reach them. In the new world of international development cooperation, aid donors and aid recipients have different dreams yet lie in the same bed with a dynamic and tense relationship. By reviewing frontline efforts in international development cooperation with a view towards sustainable growth and poverty reduction from the perspective of cooperation policies, this course is intended to provide some basic foundations and applications for the management of international development cooperation with students that are interested in the main issues of poverty and development in the developing regions, and that wish to be involved in the world of international development cooperation in the future. Several guest speakers shall be invited from international aid agencies.

Text Books:

Textbook is not used in particular. Resume and list of reading materials will be available during the course and via e-mail.

Reference Books:

- David Arase, Japan's Development Aid: An International Comparison (Contemporary Japan), Routledge, 2005.
- David Arase (ed.), Japan's Foreign Aid: Old Continuities and New Directions, Routledge, 2005.
- Ramesh Thakur, Andrew F. Cooper, John English (eds.), International Commissions and the Power of Ideas, United Nations University Press, 2005.
- Anthony Payne, Global Politics Of Unequal Development, Palgrave Macmillan, 2005.
- Jeffrey D. Sachs, The End Of Poverty: Economic Possibilities for Our time, The Earth Institute: Columbia University, 2005.

- Report of the UN Secretary-General, In Larger Freedom: Towards Development, Security and Human Rights for All, United Nations, 2005. <<http://www.un.org/largerfreedom/>>
- Report of the UN Millennium Project (Jeffrey D. Sachs, Director), Investing in Development: A Practical Plan to Achieve the Millennium Development Goals, United Nations, 2005. <<http://www.unmillenniumproject.org/>>
- Report of the Secretary-General's High-level Panel, A More Secure World: Our Shared Responsibility, Department of Public Information, United Nations, 2004. <<http://www.un.org/secureworld/>>
- Margaret P. Karns, Karen A. Mingst, International Organizations: The Politics and Processes of Global Governance, Lynne Rienner Pub, 2004.
- Michael Edwards, Future Positive: International Cooperation in the 21st Century, Stylus Pub Llc, 2004.
- John Keane, Global Civil Society ?, Cambridge University Press, 2003.
- Akitoshi Miyashita, Limits to Power: Asymmetric Dependence and Japanese Foreign Aid Policy, Rowman & Littlefield Pub Inc, 2003.
- John Degenbol-Martinussen and Poul Engberg-Pedersen, Aid: Understanding International Development Cooperation, Palgrave-Macmillan, 2003.
- Finn Tarp, Foreign Aid and Development: Lessons Learned and Directions for the Future (Routledge Studies in Development Economics), Routledge, 2000.
- 後藤一美・大野泉・渡辺利夫（編著）『日本の国際開発協力』＜シリーズ国際開発：第4巻＞日本評論社，2005年。
- 後藤一美（監修）『国際協力用語集』＜第3版＞，国際開発ジャーナル社，2004年。

Class Schedule per week:

- 第1回： Orientation
- 第2回～第3回： Introduction to international development cooperation
- 第4回～第6回： Major issues (Part 1: Theory)
- 第7回～第9回： Major issues (Part 2: Practice)
- 第10回～第12回： Major issues (Part 3: Actor)
- 第13回： Prospects of international development cooperation

Message to those taking this Course:

Active participation in class discussions is required.

Grading Methods:

Some short essays are requested to be submitted during the course. Evaluation will be made, based on the final report (five pages of A4 size) submitted at the end of the course, with the following criteria: originality; logic; and persuasiveness.

Questions, Requests:

Should you have any inquiries, feel free to contact with the following address:<k-goto@i.hosei.ac.jp>

現代インド事情

(秋学期) (Fall)

INDIA TODAY

西村祐子

国際センター講師（駒澤大学教授）

Yuko Nishimura

Lecturer, International Center (Professor, Komazawa University)

セツト, アフターブ

慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所教授

Aftab Seth

Professor, Keio University Global Security Research Center

Sub Title:

The Indian Middle Class : Where are they from and where are they going ?

Course Description:

This course is aimed at describing India through the eye of 'the middle class': In this course, participants will learn where India's new middle class come from, how they are different from the 'traditional middle class'. How globalization influences Indian new middle class, etc. We will study caste, class, kinship, and gender from the post-modern perspective. We will learn the cultural difference between the North and the South, similarities and differences between Indian middle class and other Asian counterparts. We will also cover issues surrounding 'dowry' problems in India. We will discuss these issues in the class and students are encouraged to study issues from cross-cultural perspective. Essay writing and discussion will also focus on understanding the modernity and Asia.

Textbooks:

Appadurai, A. 1996 Modernity at Large, Univ. of Minnesota Press.

Das, G. 2002 India Unbound, Oxford Univ. Press. (In the class, a few websites will be also suggested).

Reference Books:

J. Nehru 1946 The Discovery of India, Oxford Univ. Press.

Varma, P. 1996 The Great Indian Middle Class, Penguin Books.

Y. Nishimura 1998 Gender, Kinship, and Womanhood in South India, Oxford Univ. Press.

Breckenridge, C. 1995 Consuming Modernity, Univ. of Minnesota.

Robinson, R. & Goodman, D. 1996 The New Rich in Asia, Routledge.

Class Schedule per week (The order of topics may change):

Each class will have 60-minute-lecture and 30-minute-discussion.

1. Introduction to India Today: What is Modernity ?
2. British Raj and the appearance of India's middle class.
3. Brahmo Samaj and Arya Samaj.: the West and the Other
4. Emergence of the Independence Movement and the Middle Class: What is the Congress ?
5. The Middle Class in Power: Industrialization and India
6. Kinship and Marriage: What is Kulinism ? Emergence of 'Dowry'
7. Family Law and Gender : Property Rights, Dowry, and Marriage in Post colonial India
8. Shar Bano and Nisha Sharma : Women, property rights, Marriage, and Divorce.
9. Migrating Indians: Case Study of Kerala.
10. Economic Liberation and the 'New Middle class' : who are they ?
11. The Middle Class women vs. Working Class Women: what is the difference ?
12. Modernity and the New Middle Class in Asia: People and Migration.
13. Epilogue: Globalization and the Indians : Can the New Middle Class save India ?

Message to those taking this Course:

You will be asked to do three short reports during the session (about 1000 words each), and a 3000 word final report at the end of the course. You may participate in a trip to South India in mid Feb. for 2 weeks (this is not part of the course work and is completely optional).

Grading Methods:

Reports (60%)

Attendance, Participation (40%)

Questions, Requests:

Please ask questions during the discussion. Or if you have further questions, you may email: yukon@b1b2.org (you must mention your name and student ID in the subject column. Otherwise, my 'spam' filter may delete your message before I see it).

EU - JAPAN ECONOMIC RELATIONS

(秋学期) (Fall)

嘉治 佐保子

経済学部教授

Kaji, Sahoko

Professor, Faculty of Economics

林 秀毅

経済学部非常勤講師

Hayashi, Hideki

Part-time Lecturer, Faculty of Economics

Course Description:

This course is offered in English. The goal is to broaden and deepen students' knowledge in EU-Japan relations, with emphasis on the economic aspects. Each lecture will be based on different chapters of Gilson (2000) and additional materials as necessary. Powerpoint will be used for exposition. Students are expected to participate actively with questions and comments.

At the end of each lecture, the topic to be discussed the following week will be announced. A set of questions related to that topic will also be given out. Students must write a report on one of the questions and submit it at the beginning of the next lecture. By writing this weekly report, students are to familiarise themselves with the next topic before coming to the lecture.

Text Books:

Julie Gilson, (2000) 'Japan and the European Union. A Partnership for the Twenty-First Century', Palgrave Macmillan, 2000. (Several Copies of the text are on reserve at the library.)

For lighter reading, students can turn to Kaji, Hama and Rice (1999) "The Xenophobe's Guide to the Japanese," Oval Books.

References:

Kaji, Hama and Rice, "The Xenophobe's Guide to the Japanese," Oval Books, 1999.

Class Schedule (Subject to change):

- Chapter 1 Introduction: Assessing Bilateral Relations (1)
- Chapter 2 Developing Cooperation 1950s - 80s (2)
- Chapter 3 Japan and its Changing Views of Japan (3, 4)
- Chapter 4 European Integration and Changing Views of Japan (5, 6)
- Chapter 5 The 1990s and a New Era in Japan-EU Relations (7, 8)
- Chapter 6 Cooperation in Regional Forums (9, 10)
- Chapter 7 Addressing Global Agendas (11, 12)
- Chapter 8 Conclusions: A partnership for the Twenty-first Century (13)

Message to Those Taking This Course:

Knowledge of other European languages is welcome, but not essential.

Evaluation:

End-of-term essay (on any related topic), weekly reports, class participation.

Questions and consultation:

Anytime during the class, also by e-mail.

HISTORY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY POLICY

ルイス, ジョナサン 商学部非常勤講師 (一橋大学助教授)

Jonathan Lewis

Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce (Associate Professor, Hitotsubashi University)

Course Description:

This course investigates the aims, effectiveness and unexpected consequences of science and technology policies around the world. It focuses the roles of the states, in promoting and regulating scientific research and technological development.

In previous years I have talked in Japanese for the first half of each class and English for the second half, but will adjust this to fit students preferences.

Reference Books:

- Mani, S. (2002). Government, innovation, and technology policy: an international comparative analysis. Cheltenham, UK; Northampton, MA, Edward Elger Pub.
- Rogers, E. M. (2003). Diffusion of innovations. New York, Free Press.
- Neufeld, M. J. (1995). The rocket and the reich; Peenemünde and the coming of the ballistic missile era. New York, Free Press.
- Dyson, G. (2001). Project Orion: the true story of the atomic spaceship. New York, Henry Holt and Co.
- McCurdy, H. E. (1990). The space station decision: incremental politics and technological choice. Baltimore, Johns Hopkins University Press.
- Broad, W. J. (1997). The universe below: discovering the secrets of the deep sea. New York, Simon & Schuster.
- 加藤弘一 著『電腦社会の日本語』文春新書, 2000
- Lessig, L. (2004). Free culture: how big media uses technology and the law to lock down culture and control creativity. New York, Penguin Press.
- Weber, S. (2004). The success of open source. Cambridge, MA, Harvard University Press.
- Thomas, D. (2002). Hacker culture. Minneapolis, University of Minnesota Press.
- Etzkowitz, H. (2002). MIT and the rise of entrepreneurial science. London; New York, Routledge.

Class Schedule per week:

1. オリエンテーション
2. 技術政策の概要
3. イノベーションと技術普及論
4. 宇宙ロケットの開発史
5. プロジェクト・オライオン (原子力ロケット)
6. 国際宇宙ステーション
7. 海洋研究
8. 規格の役割。文字コードを例に
9. 著作権制度
10. オープン・ソース・ソフトウェア
11. コンピュータセキュリティ
12. 科学技術政策と大学
13. まとめ

Evaluation:

授業内試験の結果による評価 (in-class examination)

Inquiries:

jonathan_lewis@mac.com

SEMINAR: LECTURE OF ETHICS 1

樽井 正義	文学部教授
Masayoshi Tarui	Professor, Faculty of Letters
エアトル, ヴォルフガング	文学部助教授
Ertl, Wolfgang	Associate Professor, Faculty of Letters

Sub Title:

Virtue ethics

Course Description:

The Movement of virtue ethics was initiated in the 1950s to correct the shortcomings of the then dominant strands of ethics, namely (what was taken to be) Kantian deontology and Utilitarian consequentialism. As an alternative, the virtue ethicists, inspired by the works of ancient philosophers, claimed to offer different accounts of morality, putting the emphasis on notions such as character and emotions.

This turned out to be very productive in that it led to a reconsideration of the standard classification of ethical theories and to a reinterpretation of the philosophers at issue. As far as Kant's moral philosophy was concerned, this led to a far more nuanced reading.

Moreover, the followers of virtue ethics triggered investigations on topics which have for a long time been neglected in moral philosophy.

We will closely follow Rosalind Hursthouse's book, which gives a very reliable overview of the relevant debates connected to virtue ethics, but we will also look into primary sources (such as Kant's *Grundlegung* and Aristotle's *Nicomachean Ethics*).

In addition to this, the seminar is meant to provide the opportunity to graduate students for presenting their own work in the field of ethics.

Text:

Rosalind Hursthouse: On Virtue Ethics. Oxford et al.: OUP 1999

GRADUATE SEMINAR ON EUROPEAN INTEGRATION

田中俊郎	ジャン・モネ チェア教授
Toshiro Tanaka	Professor, Jean Monnet Chair
細谷雄一	法学部助教授
Yuichi Hosoya	Associate Professor, Faculty of Law

Course Description:

The European Union strives to establish a new order in Europe. While the EU attempts to deepen its construction through the Maastricht Treaty, the Amsterdam Treaty, the Nice Treaty and the Treaty establishing a Constitution for Europe, it has enlarged its scope to South and East, from 15 to 25 member states on May 1 2004.

This year, the seminar will focus on the enlargement and the deepening of the EU, trying to shed more lights on the historical development, to analyze its problems and outline future perspectives on the subject.

Course Schedule (Subject to Change):

1. Official Language: English
2. Presentation by students and discussion to follow.
3. Special guests will be invited from the European Commission, Embassies of the member states and acceding countries in Japan, and researchers including professor from "Science Po" in Paris will be invited.

Evaluation:

Each student will be expected to give oral presentations and join in discussion during the semester. Each student is also expected to submit a term paper by the end of the semester (Length: 15 double-spaced typewritten pages including footnotes.)

Inquiries:

Call Extension 23462 for appointment.

Accounting

伊藤 眞	商学部教授
Makoto Ito	Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:International Accounting Standard and International Financial Reporting Standard

International Accounting Standards (IASs) issued by the International Accounting Standards Committee (IASC), and International Financial Reporting Standards (IFRSs) issued by International Accounting Standards Board (IASB), which is

restructured from IASC, have been making their presence felt around the world recent years. IASB has been and is continuing to study accounting issues and prepare new IFRSs and improve IASs.

Some multinational enterprises, whose headquarters are located in Europe, have been preparing their consolidated financial statements in compliance with IFRSs (including IASs) for purpose of cross-boarder security offerings and listings on foreign securities offering.

All enterprises, which are domiciled and listed in the European Union, are required to report in accordance with IFRSs from year 2005. Many countries introduces IFRSs for their listed enterprises on are taking steps to harmonize their national accounting standards with IFRSs with some modifications to allow for local environment.

In this course, we will study the brief history of IASs, IASC and IASB, Framework for the Preparation and Presentation of Financial Statements, and some significant accounting standards, such as IAS2 "Inventory", IAS11 "Construction contracts" and IAS39 "Financial Instruments: Recognition and Measurement", which will be compared with the US Generally Accepted Accounting Principles (US GAAP) and Japanese GAAP, when necessary.

After the first session of introduction to IFRSs, each student will be assigned in advance to report on a Standard, followed by discussion, case studies and my supplementary explanation or comments.

Text:

International Financial Reporting Standards 2005, IASB

金融特論

(秋学期) (Fall)

ADVANCED STUDY OF FINANCE

深尾光洋

商学部教授

Mitsuhiro Fukao

Professor, Faculty of Business and Commerce

Sub Title:

Corporate Governance and Financial System

Course Description:

The governance structure of limited liability companies that stipulates the relationship among the management, stockholders, creditors, employees, suppliers and customers is important in determining the performance of the economy. Although the OECD countries are generally characterized as market economies, there are considerable differences among these countries in the organizational structure of the economy.

One of the major aims of this course is to understand the institutional differences in corporate-governance structures of companies in major industrial countries including the United States, Japan, Germany, France and the United Kingdom. The differences in the corporate-governance structure have a number of implications for the performance of companies. For example, the cost of capital and the effective use of human resources would be affected by this structure.

In recent years, the deepening international integration of economic activities has heightened awareness of cross-country differences in corporate-governance structure and putting strong pressures for convergence in some aspects of corporate governance systems. The course will also survey these trends.

1. General Concept

Fukao, Mitsuhiro, *Financial Integration, Corporate Governance, and the Performance of Multinational Companies*, Brookings, 1995.

2. Hostile Takeovers

Scheifer, Andrei, and Lawrence H. Summers, "Breach of Trust in Hostile Takeovers", in *Corporate Takeovers: Causes and Consequences*, edited by Alan J. Auerbach, University of Chicago Press, 1988.

Roe, Mark J. "Takeover Politics", in *Dear Decade*, edited by M. Blair, 1993.

3. Elements of Governance

Kaplan, Steven N., "Top Executive Rewards and Firm Performance: A Comparison of Japan and the United States," *JPE*, Vol. 102, No.3, June 1994

Christine Pochet, "Corporate Governance and Bankruptcy: a Comparative Study", IAE de Toulouse working paper 2002-152, June 2002.

Bank of Japan, "The Japanese Employment System," Bank of Japan Quarterly Bulletin, May 1994.

Black, Bernard, "Creating Strong Stock Market by Protecting Outside Shareholders," remarks at OECD/KDI conference on Corporate Governance in Asia: A Comparative Perspective, Seoul, March 3-5, 1999.

Newbury, Robert W., Rachel Leahy, Annick Siegl and Stacey Burke, *Board Practices 2000*, IRRC, 2000.

William C. Powers, Jr., Raymond S. Troubh, and Herbert S. Winokur, Jr., "Report of Investigation by the special investigative committee of the board of directors of Enron corp.," February, 2002.

4. Financial System

Fukao, Mitsuhiro, "Japanese Financial Instability and Weaknesses in the Corporate Governance Structure," Seoul

Journal of Economics, Vol.11, No.4, 1998.

Fukao, Mitsuhiro, "Barriers to Financial Restructuring: Japanese Banking and Life-Insurance Industries," paper for a NBER conference on "Structural Impediments to Growth in Japan" on March 18-19, 2002.

Evaluation:

Grading will be based on the term paper and class participation. The topic of the term paper has to be related to the content of the class. For example: Comparison of governance structures among some countries, Governance structure of government owned companies and private companies, Issues related to bankruptcy procedures, Security exchange law and governance system, Incentive mechanism for directors, Banking problems and deposit insurance system.

Text:

Fukao, Mitsuhiro, *Financial Integration, Corporate Governance, and the Performance of Multinational Companies*, Brookings, 1995.

Reference Books:

See above.

国際経済

(秋学期) (Fall)

International Economy

小島明

商学研究科教授

Akira Kojima

Professor, Graduate School of Business and Commerce

Course Description:

The class covers various international economic policy issues including trade, Investment (foreign direct investment), foreign exchange policy, WTO process, FTAs (Free Trade Agreements), regional integration, competitiveness issue, economic development strategy and so on.

Students will be put in the very front line of policy debate of international economy. Real voices of policy makers, business leaders and scholars will often be given to the students through recorded tapes and videos. As I have good many chances to participate in many important international policy debates, the student can be given the chance of sharing such experiences of mine. Practical, as well as theoretical approach will be introduced.

Texts:

"Globalization and its Discontent", Joseph E. Stiglitz, Norton, 2002

METI "White Paper on International Trade" 2004, 2005 (This document can be accessed through METI web site, both in Japanese and English.)

Recommended Readings:

Various analytical reports and document of IMF, World Bank and other institutions are recommended as required.

日本研究講座 (Japanese Studies)

異文化コミュニケーション1 ―日本のコミュニケーションパターンから見た場合―

(春学期) (Spring)

INTERCULTURAL COMMUNICATION 1

手塚千鶴子

国際センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, International Center

Sub title:

Seen from Japanese communication patterns

Course Description:

This course has three interrelated purposes. The first is to help students learn some essential elements of Japanese psychology and culture, and their implications for communication patterns of Japanese people both among themselves and in intercultural settings. The second is to help students to examine both difficulties/challenges and excitements/joys of intercultural communication by learning key concepts and issues of intercultural communication. The third is to facilitate both Japanese and international students' on-going intercultural communication both by increasing self-awareness of how their respective cultures affect their communication patterns and by arranging them to learn to work together successfully on group projects which will serve as testing grounds for their intercultural communication.

Text Books:

No designated textbook and handouts will be distributed.

Recommended Readings:

Japanese culture and behavior: selected readings by Takie Lebra & William Lebra

Japanese patterns of behavior by Takie Sugiyama Leba

An introduction to intercultural communication by John C. Condon & Fathi Yousef

Intercultural communication :a reader (6th edition) by L.A.Samovar & R.E.Peter

Class Schedule:

1. Orientation and quiz on the impact of globalization on Japan
2. Conformity pressure vs. individualism in Japanese culture: a case study of Toko Shinoda, a female artist
3. What puzzles you about Japanese culture and society ? and Orientation to Group Projects
4. Understanding Japanese culture through examining mother-child relationship pictures and How to have good intercultural communication in class
5. Culture as mental software, functions of culture, and culture and communication
6. Amai psychology: prototype of Amai and definition of Amai
7. How Amai psychology and an emphasis on Wa gets translated into Japanese communication patterns: Sashi, Enryo and Honne vs. Tatemaie
8. How to overcome difficulties in intercultural communication: attribution, empathy and ethnocentrism
9. Preparation for Group Project
10. The Concept of Sunao and its implications for Japanese communication patterns: conflict avoidance, readiness to compliance ?, and open-mind
11. Comparing concepts of self between individualistic cultures and collectivistic cultures and its implications for intercultural communication between the two
12. Group project presentation 1
13. Group project presentation 2 and Wrap-up

Message to Those Taking This Course:

You are strongly encouraged to do risk-taking by sharing your opinions and feelings. Thus contributing to class by active participation in pair-work, group work and class discussion is a must, as the instructor believes that students learn a great deal from their classmates. As group projects, a major source for students' satisfaction, take so much time and energy in and outside of class, students' commitment is essential here. And your input to make this class better and interesting is always welcome by the instructor.

Evaluation:

To be based on the combination of Reports and Attendance and Class participation including oral presentation.

Questions and Requests:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

英国と米国のマスコミに描かれた日本

(春学期) (Spring)

JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION

キンモンズ, アール H.

国際センター講師 (大正大学教授)

Earl H. Kinmonth

Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

Description:

This course examines foreign (primarily Anglo-American) views of Japan, both contemporary and historical. Materials used and discussed

range from Hollywood films to academic works by Ivy League professors. Knowing the common and often highly distorted images of Japan and the Japanese, both positive and negative, presented in foreign mass media and popular culture is important to both Japanese and foreign students. These images have been and continue to be significant in Japan's diplomatic and economic relations with other countries. Moreover, the mechanisms that distort the foreign view of Japan also work to distort the Japanese view of foreign countries. Teaching students how to recognize distorted images of foreign countries and peoples is a major goal of this course.

Format:

Lectures supplemented by visual materials including extracts from Hollywood films and contemporary television news coverage. Students who are unsure of their English comprehension should feel free to record the lectures or ask questions in Japanese.

Readings:

No textbook is used. A general bibliography of influential foreign writing on Japan will be distributed. Significant writing pertaining to each topic will be introduced and discussed in the lectures.

Lecture Topics:

Because the instructor encourages student comment and discussion and because topics of special interest may appear in the foreign media during the term, the number of sessions and the specific topic for each session may vary somewhat from the list below.

- 1 Japan ? Who's Japan ? When ? Where ?
- 2 Cool Japan(1) - Japanese Pop Culture in Europe and America
- 3 Cool Japan(2) - Japanese Pop Culture in Europe and America
- 4 Cruel Japan(1) - The Legacy of War in America and Asia
- 5 Cruel Japan(2) -The Legacy of War in America and Asia
- 6 Sick Japan -Japanese Social Problems Seen from Afar
- 7 Concrete Japan - The Japanese Natural Environment
- 8 Gung Ho Japan - Japan as Number One
- 9 Frightening Japan -The Rising Sun Threatens America
- 10 Sexy Japan - Japanese Women and Sex in the Foreign Imagination
- 11 Sneaky Japan(1) - Pearl Harbor and Its Legacy
- 12 Sneaky Japan(2) -Pearl Harbor and Its Legacy
- 13 Japan ? - Where is the Real Japan ?

Grading and Required Work:

Students will be expected to write one short paper on some aspect the foreign image of Japan or the Japanese image of something foreign. There will be a final examination for the course based on the lectures. In principle the paper (report) and final examination are each weighted fifty percent but in the case of students who miss lectures because of job hunting or those with special language problems, a different weighting may be agreed upon in consultation with the instructor. The examination will be based on the lectures, video materials, and handouts. Students will be free to consult their notes or copies of the handouts during the examination. Electronic and paper dictionaries are also permitted.

Course home page:

<http://www2.gol.com/users/ehk/keio>

Email for the instrukter:

ehk@gol.com or e_kinmonth@mail.tais.ac.jp

源氏物語への道

(春学期) (Spring)

THE TRAIL OF GENJI

アーマー, アンドルー

文学部教授

Andrew Armour

Professor, Faculty of Letters

Course Description:

Written a thousand years ago, *The Tale of Genji* has won international fame as “the world’s first novel”. Partly because of this distinction, it is apt to be viewed as an isolated phenomenon, almost an aberration. In an attempt to correct such a perspective, this course will trace the roots of this Heian masterpiece, introducing the major extant works that preceded it. The focus is on literature, but political and cultural developments will also be covered in order to throw light on the historical background and mental atmosphere of the period.

Text Books:

Instructions and materials are provided on the class website (www.armour.cc/genji.htm).

Recommended Readings:

A list of reference works and useful links are available on-line.

Class Schedule (Subject to change):

A detailed list of the works covered in this course is available on the class website.

On completion of this lecture course, students should:

1. Be familiar with the major works of poetry, prose and drama in the period covered;
2. Comprehend the major literary currents in the period covered and be able to identify the importance of the major works in the development of these currents;

3. Be familiar with the major figures in Japanese literary history (including commentators and critics) and their achievements;
4. Appreciate the cultural background (including religious aspects) of the works covered and, where necessary, the political events that form a backdrop to the literature;
5. Be familiar with the reception of Japanese literature in the West.

In the last few weeks of the course, those students requiring a grade will have an opportunity to report on a reading and research project of their own choosing.

Message to Those Taking This Course:

The course assumes that the student has a working knowledge of English. Prior knowledge of Japanese literature is not required, though it is desirable. Naturally some familiarity with the Japanese language, spoken and written, is an advantage.

Evaluation:

Grading is primarily based on the student's research project, presented to the class (using PowerPoint) according to a published schedule; a Q&A session will follow each presentation and a student's responses are taken into consideration in the grading process. Overseas students who want their credits to be transferred to their home university are advised to present their research results in the form of an academic paper, complete with notes and bibliography. Naturally, regular attendance is important in order to receive a passing grade; the International Center requires that a record be kept.

日本の経営

(春学期) (Spring)

JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS

梅津光弘

商学部助教授

Mitsuhiro Umezu

Associate Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

Goal:

In this course, we will analyse contemporary Japanese society and business from an ethical perspective.

Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized management and globally acceptable norms for future international business. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese Style Management which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable.

Method:

First, I will highlight the historical and theoretical aspects fundamental to analyzing Japanese society and business from an ethical perspective. Then I will assign you to read short cases which describe recent incidents that have caused public controversy both in Japan and elsewhere.

Texts:

Reischauer, E.O. The Japanese Today: Change and Continuity. The Belknap Press of Harvard University Press, 1988.

Handouts

Recommended Reading:

TBA

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction: Geography, Climate and Demography of Japan
2. Historical Orientation of Japan.
3. Interpretation of Contemporary Japanese Society 1
4. Interpretations of Contemporary Japanese Society 2
5. Interpretations of Contemporary Japanese Society 3
6. Midterm Exam.
7. Government and Business Interface
8. Japanese Corporate Governance
9. Ethical Issues in Japanese Workplace 1
10. Ethical Issues in Japanese Workplace 2
11. Japanese Business in Transition 1: Community
12. Japanese Business in Transition 2: Environment
13. Final Exam.

Message to Those Taking This Course:

This is a course for international students who want to learn about the fundamentals of Japanese society and business. It is necessary for you to have advanced-level English discussion skills. Through this discussion, I hope you will deepen your understanding of Japanese society and business, and develop cultural insights that help in dealing with practical issues in an international setting.

Evaluation:

Mid-Term Examination (TBA) 30%, Final Exam/ Project (TBA) 40%, Class Participation 20%, Home work 10%

Sub title:

Conflict Management

Course Description:

This course is designed to explore how Japanese manage interpersonal conflict both among themselves as well as in interaction with foreigners, and its implications for Japanese society which is becoming more multicultural in this accelerated globalization age. Though a Western notion of conflict claims that conflict is inevitable yet not necessarily bad, the Japanese society has been described to believe in its self-image as a conflict-free society and to abhor and avoid interpersonal conflicts as any cost. With this apparent contrast in mind, students will learn characteristics of Japanese conflict management strategies, their cultural and social psychological background, and the challenges for both Japanese and foreigners in trying to creatively deal with intercultural conflicts. And students will be asked to take some psychological measures related to conflict for self-understanding.

Text Book:

No designated textbook and handouts will be distributed.

References:

Conflict in Japan edited by Ellis Krauss, Thomas Rohren, and Patricia G.Steinhoff, University of Hawaii Press, 1990.

Japanese Culture and Society: model of interpretation edited by Kreiner and Olscheleger, Monographien 12, Deutschen Institute fur Japanstudien der Philipp-Franz-von-Siebold-Stiftung, 1996.

Das Wesen von Naikan: the essence of NAIKAN 内観の本質 edited by Prof. Akira Ishii/Shaku Yoko JOseh Hartl (Hrsg.), altes Wissen, neue Wege, 2000. (a book in German, English and Japanese)

Class schedule:

1. Orientation and test-taking on conflict management style
2. Harmony Model vs. Conflict Model of Japanese Society and orientation to writing conflict episode journal
3. Non-confrontational Strategies of Conflict Management: Bullying in Japanese Schools 1
4. Non-confrontational Strategies of Conflict Management: Bullying in Japanese Schools 2
5. Non-confrontational Strategies of Conflict Management: *Karoushi* and *Gaman*
6. Japanese cultural values underlying non-confrontational strategies
7. How Japanese express anger
8. Cross cultural comparison of conflict management between U.S.A. and Japan
9. A case study of intercultural conflict around the *Ehimemaru* incident
10. Intercultural conflicts between Japanese teachers and int'l students
11. Japanese conflict management seen from a perspective of a bicultural writer, Kyouko Mori.
12. How to make use of anger creatively
13. Wrap-up session

Messages to those students taking this course:

Students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion. Students are expected to complete reading assignment before coming to class.

Evaluation:

To be based on the combination of reports, attendance, and participation.

Questions and Requests:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp

Sub Title:

Japanese Writers, Poets, Artists, Filmmakers and Cartoonists Under the Wartime State

Course Description:

The course will examine a variety of cultural artefacts (essays, short stories, novels, films, comics, etc) produced in Japan during the 1930s and 1940s and related, either directly or indirectly to the wars first in China and later in the Pacific. The course will focus on discovering the workings of, and relationship between, propaganda, nationalism, imperialism, colonialism, censorship, interpretive strategies, and the creative imagination.

Text Books:

- John W. Dower, *War Without Mercy: Race & Power in the Pacific War* (New York: Pantheon Books, 1986), 2000円.
- Samuel Hideo Yamashita, *Leaves from an Autumn of Emergencies: Selections from the Wartime Diaries of Ordinary Japanese* (Honolulu: University of Hawaii Press, 2005), 2500円.
- Ishikawa Tatsuz, *Soldiers Alive*, trans by Zeljko Cipris (Honolulu: University of Hawaii Press, 2003), 2500円.
- Handouts

Class Schedule per week:

- 1 COURSE INTRODUCTION
Instructor & student introductions, course expectations, grading policy, etc.
FIRST IMPRESSIONS
Students react to painting by Fujita Tsugeharu, poem by Takamura Kotaro, short story excerpt from Dazai Osamu
- 2 THE LIBERAL ROOTS OF THE RADICAL RIGHT (1920s)
Students read Nakano Shigeharu, "The House in the Village"
Lecture on Kobayashi Takiji, Hayashi Fusao, and the "tenko" (conversion) movement.
- 3 "HOME IS WHERE THE HEART IS" (1930s)
Students read Kobayashi Hideo, "Literature of the Lost Home"
Lecture on the "furusato" boom and reactions to modernity in the works of Kawabata Yasunari and Sakaguchi Ango
- 4 THE DELICATE DANCE OF WRITERS AND THE STATE (2 sessions)
Students read Ishikawa Tatsuzo, *Soldiers Alive*
Lecture on censorship and comparison with Hino Ashihei's "Soldier Trilogy"
- 5 "THE EMPIRE IS MUSIC TO MY EARS": A GRAMMAR OF *GUNKA*
Students read Ishikawa Jun, "Mars' Song"
In class we listen to various *gunka* (military songs); lecture on the role of music and composers in representing the state.
- 6 "PURE AND SIMPLE": PROPAGANDA THEMES AND VENUES (2 sessions)
Students read John Dower, *War Without Mercy*
Lecture on themes in, and function of propaganda; comparison with Barak Kushner, *The Thought War: Japanese Imperial Propaganda*.
- 7 "THIS IS NO LAUGHING MATTER—OR IS IT?": CARTOONISTS AND THE WAR
Students read Sodei Rinjiro, "The Double Conversion of a Cartoonist: The Case of Kato Etsuro"
Lecture on the evolution of Tagawa Suiho, *Stray Blackie* (田河水泡/「のらくろ」) and the role of manga in normalizing the war.
- 8 THE EVERYDAY AND THE EXTRAORDINARY: WARTIME DIARIES
Students read Yamashita, *An Autumn of Emergencies*
Lecture on everyday life in wartime Japan, comparison of writer and average citizen diaries
- 9 RECYCLED HEROES
Students read excerpts from Yoshikawa Eiji, *Miyamoto Musashi*
In class watch clips of wartime film version of Mizoguchi's *Genroku Chushingura*; lecture on the heroes appearing in wartime propaganda.
- 10 THE "NINE GODS OF WAR" IN FICTION, FILM, AND JOURNALISM
Students read Sakaguchi Ango, "Pearls" and Dorsey, "Literary Tropes, Rhetorical Looping, and the Nine Gods of War: 'Fascist Proclivities' Made Real"
In class watch clips from Tasaka Tomosaka, *The Navy*; lecture on the Nine Gods of War phenomenon.
- 11 SUMMARY: CREATIVITY IN A TIME OF WAR

Message to those taking this Course:

War, suicide bombers, propaganda, surprise attacks, nationalism, the West vs. the non-West. These are all very much a part of our world today, and they were very much a part of it in the 1930s and 1940s. All students willing to explore and discuss these issues in the context of Japan's modern history are welcome. A field trip to the Yasukuni Shrine and museum will be part of the course.

Grading Methods:

1. Reports (2 two-page responses for 25%; 1 eight-page essay for 40%)
2. Attendance, Participation 35%

近代日本の対外交流史

(秋学期) (Fall)

MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD

太田昭子

法学部教授

Akiko Ohta

Professor, Faculty of Law

Course Description:

The course aims to provide an introductory and comprehensive view of the history of diplomatic and cultural relations between Japan and the World in the latter half of the nineteenth century and early twentieth century. A basic knowledge of Japanese history is desirable, but no previous knowledge of this particular subject will be assumed. A small amount of reading will be expected each week.

Textbooks:

No specific textbook will be used.

Recommended Readings:

The reading list will be given at the beginning of the term.

Class Schedule (Subject to change):

1. Japan and the World before the Opening of Japan (2 lectures): General introduction and the reappraisal of the Seclusion Policy
2. The Opening of Japan and international society in the 1850s and 1860s
3. The First Treaty with the West and the subsequent treaties(2 lectures): the analysis of the U.S.-Japanese Treaty of Peace and Amity will be included
4. Japanese Visits Abroad (2 lectures): the evaluation of the cultural and diplomatic significance of the Japanese visits abroad (official missions / official students / stowaways and castaways)
5. Japanese perception of the West, changing attitudes and feelings in the 1860s (1 lecture)
6. Western perception of Japan in the 1850s and 1860s (1 lecture)
7. The significance of the Iwakura Mission (1~2 lectures)
8. Development of Japanese Nationalism in the Meiji Era (2 lectures): comparative analysis of several primary sources
- ☆ Optional excursion to the Yokohama Archives of History may be included in the programme.

Evaluation:

Students are expected to make a short report on a research project of their own choosing and hand in a term paper of about 3,000 words (about five pages, A4, double space) by the end of the term, and take the final examination.

Volunteers for a mini-presentation (about 10-15 minutes) on the topics related to the lecture are most welcome. (Details will be explained in class.)

異文化コミュニケーション2 ―異文化接触における日本人のアイデンティティー

(秋学期) (Fall)

INTERCULTURAL COMMUNICATION 2

手塚千鶴子

国際センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, International Center

Sub title:

Identity of Japanese Sojourners

Course Description:

The first purpose is to help students learn how Japanese people have been experiencing exciting as well as confusing encounters with cultures different from their own and how such cross cultural encounters in and outside of Japan have been affecting their sense of identity and communication styles as an individual (and as people) from the times of Japan's First Opening to the world in the late Edo Period up to the present from the three perspectives: history, cultural adjustment, and intercultural communication, utilizing case studies. The second purpose is to help both Japanese and international students who are brought together to Mita campus by the globalization and internationalization to make best use of this class to communicate effectively through discussion and other student-centered activities.

Text Books:

No designated textbook and handouts will be distributed.

References:

Tsuda Umeko and Women's Education in Japan by Barbara Ross, Yale Univ Press, 1992.

The White Plum: a biography of Ume Tsuda by Yoshiko Furuki, Weatherhiesel, 1991.

Intercultural Communication: reader 5th ed., Larry Samovar and Richard E Porter, Wadsworth Publishing Company, 1989.

Japanese Culture and Behavior (revised edition) ed.by Takie Sugiyama Lebra and William Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1986.

Japanese Patterns of behavior ed by Takie Sugiyama Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1976.

Exploring Japaneseness: on Japanese Enactments of Culture and Consciousness ed by Ray

Course schedule:

1. Orientation to the course
2. A brief historical review of Japan's encounter with the outside world as an island nation up to the late Edo Period
3. Japan's attitude towards the West after the First Opening of Japan with an emphasis on absorbing the Western civilization
4. Japan's endeavor to modernize herself in comparison with Korea and China
5. A case study of Umeko Tsuda 1: a successful sojourn in America
6. A case study of Umeko Tsuda 2: many years of struggle adjusting back to Japan
7. Cross cultural adjustment1: culture as mental softwear, stages of cross cultural adjustment, and facilitating factors of cross cultural adjustment
8. A case study of Paris Syndrome or Double Suicide in Los Angeles: overadjustment and challenges for Japanese sojourners
9. A case study of a Malaysian woman married to a Japanese: cultural identity
10. Identity: ego identity, personal identity, and social identity, process of identity formation, and issues of identity fluctuation in cross cultural adjustment
11. A case of Jiro, a Japanese returnee who spent 6 years in U.S.A.: formulation and transformation of cultural identity and adjustment issue

back in Japan

12. A case study of Masao Miyamoto adjusting back to Japan in the Showa Period in comparison with Umeko Tsuda in the Meiji Period:
13. Wrap-up: Challenge for both Japanese and non-Japanese in the globalizing world

Messages to students:

Those students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion.

Evaluation:

To be based on combination of Reports and Attendance and Class Participation.

Questions and Requests:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp

日本キリスト教史

(秋学期) (Fall)

CHRISTIANITY IN JAPANESE HISTORY

ポールハチエット, ヘレン 経済学部教授

Helen Ballhatchet Professor, Faculty of Economics

Sub Title:

A case study of cross-cultural contact

Course Description:

Christianity in Japan presents us with a number of paradoxes. For example, although the majority of Japanese today choose Christian-style weddings, the actual number of Christians amounts to less than one per cent of the total population (as opposed to 25 per cent in its close cultural neighbour, South Korea). This 'failure' contrasts with the relatively greater growth of Christianity in the late sixteenth and early seventeenth centuries, even though the total number of missionaries was much smaller and the linguistic and logistical barriers greater. Perhaps the greatest paradox occurred after Christianity was virtually eliminated through an increasingly severe campaign of persecution from 1614 onwards. Small groups in isolated communities succeeded in preserving recognisably Christian beliefs and practices. However, many of these groups refused to accept the authority of Roman Catholic missionaries when they returned to Japan in the second half of the nineteenth century.

In the course we will consider these and other issues, using a combination of primary and secondary materials. By studying the activities and ideas of missionaries, Japanese Christians, and Japanese who did not become Christian, student will gain general understanding of the dynamics of cross-cultural contact. They will also learn about the nature of history through interpreting primary materials and studying different approaches to the history of Christianity in Japan.

Recommended Reading:

There will be a selection of assigned readings for each class. Students will find it useful to start the course with a basic knowledge of Japanese history, Japanese religion, and Christianity. All suggestions for reading will be displayed on my web site (<http://web.hc.keio.ac.jp/~hjb/>).

Class Schedule (Subject to change) :

1. Orientation and overview: Religion and history
2. The view from the present: Religion in Japan and images of Christianity
3. From Xavier to Hideyoshi (1549-1598): (1) The background and the initial encounter
4. From Xavier to Hideyoshi (1549-1598): (2) Missionary approaches to the Japanese
5. From Xavier to Hideyoshi (1549-1598): (3) Japanese approaches to Christianity
6. Tokugawa Japan (1600-1868): (1) Government policies towards Christianity
7. Tokugawa Japan (1600-1868): (2) Christianity underground
8. Early Meiji Japan (1868-1888): Christianity and Western civilization
9. From mid-Meiji to the end of World War II (1889-1945): (1) Christianity and the dilemma of patriotism
10. From mid-Meiji to the end of World War II (1889-1945): (2) Christianity in a Japanese context
11. The second half of the twentieth century: (1) Christianity and Japanese democracy
12. The second half of the twentieth century: (2) Christianity in a Japanese context
13. Concluding remarks: Religion and history revisited

Message to those taking this Course:

I hope to attract students from a variety of backgrounds. This is because the course will gain from the combined viewpoints of people from areas which have sent Christianity missionaries to Japan, such as Portugal and the United States, and of people from areas which have played host to Christian missionaries, both in Asia (including Japan itself) and elsewhere.

I will expect students to attend all classes, on time, to do the assigned readings, and to participate in class presentations and discussions. Sessions will be organised into a combination of formal lectures and interactive seminars.

Grading Methods:

1. Oral presentations (30%)
2. Reports (At least one short and one long) (50%)
3. Attendance and Participation (20%)

Questions, Requests:

Students wishing to ask a question or arrange an appointment should talk to me before or after classes, or send an e-mail. My e-mail address is given on my web site (<http://web.hc.keio.ac.jp/~hjb/>).

多民族社会としての日本

(秋学期) (Fall)

MULTIETHNIC JAPAN

柏崎千佳子

経済学部助教授

Chikako Kashiwazaki

Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course introduces students to 'multiethnic Japan'. Although Japanese society is often portrayed as ethnically homogeneous, its members include diverse groups of people such as the Ainu, Okinawans, *zainichi* Koreans, and various 'newcomer' foreign residents. In this course, students will learn about minority groups in Japan and their relations with the majority 'Japanese' population. The goal of this course is to acquire basic knowledge and analytic tools to discuss issues concerning ethnic relations in Japan and elsewhere.

Texts:

Reading materials consist of excerpts from a variety of sources and will be provided by the instructor.

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction
2. Is Japan ethnically/culturally homogeneous ?
3. Theories of ethnic relations
4. *Zainichi* Koreans: past and present
5. *Zainichi* Koreans: identity formation
6. Nikkei-Brazilians
7. Visa overstayers
8. "Foreign brides"
9. People from buraku
10. The Ainu
11. Okinawans
12. Presentations on the final project
13. Summary — Rethinking Japanese society

Message to Those Taking This Course:

The class is conducted entirely in English. Much of class activity is devoted to oral presentations and discussion. Students are expected to read the assigned materials beforehand and to participate actively in the class.

Evaluation:

Evaluation will be based on participation in classroom discussion (20%), presentations (20%), and reading/writing assignments including a short essay and a term paper of 1,800+words (60%).

政策決定, 歴史的記憶, 人種から見る明治期日本外交

(秋学期) (Fall)

JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA:DECISION-MAKING, HISTORICAL MEMORY AND RACE

飯倉 章

国際センター講師 (城西国際大学教授)

Akira Iikura

Lecturer, International Center (Professor, Josai International University)

Sub Title:

Decision-making, historical memory and race

Course Description:

This course aims to examine Japanese diplomacy in the Meiji era from diverse angles and provide students with some new perspectives on the historical events in the period such as the triple intervention, the Anglo-Japanese alliance, and the Russo-Japanese War. Students will gain an understanding of Japanese diplomacy in the Meiji era and learn how to analyze historical events through decision-making theories, historical memory, and the concept of race.

Text Books:

No textbook will be used. Handouts will be given as reading assignments.

Reference Books:

Recommended readings will be suggested in the course of the lecture.

Class Schedule per week:

1. Introduction to the course and decision-makers in the Meiji era
2. The trauma of Japanese diplomacy: unequal treaties, the triple intervention and the Portsmouth treaty
3. The Yellow Peril and its influence on Japanese foreign relations

4. The Anglo-Japanese alliance and the question of race
5. The lessons of the Anglo-Japanese alliance: Is an alliance with an “Anglo-Saxon” state reliable ?
6. Was the war evadable or inevitable ? : perception and misperception of Japanese decision-makers before the Russo-Japanese war
7. The Russo-Japanese war as an icon in historical memory
8. Wrong lessons from the “success” of the war and the “defeat” in diplomacy
9. Explaining the Russo-Japanese war through the application of Graham Allison’s decision-making theories
10. The changing views of Japan during the Russo-Japanese war: Japan from protégé to world power
11. The wars and leaders in the Meiji era that live in Japanese culture

Message to those taking this Course:

The lecturer will put special emphasis on the Russo-Japanese war of 1904–05 by showing some new scholarly works, popular history and commemorative articles on the war that appear mainly during the years 2004 and 2005, the hundredth anniversary of the war. The lecturer will illustrate the lecture by using slides and videotapes.

Grading Methods:

A short term paper on one of designated questions and a final essay will be assigned. Attendance and class participation will be particularly important.

日本の文学

(秋学期) (Fall)

JAPANESE LITERATURE

アーマー, アンドルー

文学部教授

Andrew Armour

Professor, Faculty of Letters

Course Description:

This course is intended to cover the history of Japanese literature from earliest times up to the modern era. Starting with the writing system, we will trace the conspicuous developments in poetry, prose and drama through the Nara, Heian, Kamakura, Muromachi and Edo periods. Included are such works as the *Manyōshū*, *Genji monogatari*, *Heike monogatari*, *Oku-no-hosomichi* and *Sonezaki shinjū*.

Texts:

Instructions and materials are provided on the class website (www.armour.cc/jlit.htm).

References:

A list of reference works and useful links are available on-line.

Class Schedule (Subject to change):

A detailed list of the works covered in this course is available on the class website.

On completion of this lecture course, students should:

1. Understand how the Japanese writing system developed, how it came to be used to compose works of literature, the problems it poses, and how the modern reader can decipher a manuscript such as that of *Genji monogatari*;
2. Be familiar with the major works of poetry, prose and drama in the period covered;
3. Comprehend the major literary currents in the period covered and be able to identify the importance of the major works in the development of these currents;
4. Be familiar with the major figures in Japanese literary history (including commentators and critics) and their achievements;
5. Appreciate the cultural background (including religious aspects) of the works covered and, where necessary, the political events that form a backdrop to the literature;
6. Be familiar with the reception of Japanese literature in the West.

In the last few weeks of the course, those students requiring a grade will have an opportunity to report on a reading and research project of their own choosing.

Messages to Those Taking This Course:

The course assumes that the student has a working knowledge of English. Prior knowledge of Japanese literature is not required, though it is desirable. Naturally some familiarity with the Japanese language, spoken and written, is an advantage.

Evaluation:

Grading is primarily based on the student’s research project, presented to the class (using PowerPoint) according to a published schedule; a Q&A session will follow each presentation and a student’s responses are taken into consideration in the grading process. Overseas students who want their credits to be transferred to their home university are advised to present their research results in the form of an academic paper, complete with notes and bibliography. Naturally, regular attendance is important in order to receive a passing grade; the International Center requires that a record be kept.

TWENTIETH-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION: COMPARATIVE READINGS

レイサイド, ジェイムス 法学部教授

James Raeside

Professor, Faculty of Law

Course Description:

In these classes we will attempt to elucidate something of the distinctive nature of Japanese fiction writing by comparative close reading of Japanese texts with those by Western (European and American) writers. Evidence of influence and assimilation may be observable from West to East, particularly in the early years of the 20th century, but in all cases we will attempt to identify both what is distinctive, and what the different literary traditions have in common. By close reading and comparative analysis we should be afforded some useful insights into Japanese prose fiction writing—particularly that of the short story—and perhaps into literature as a whole.

Each class will focus on a pair of texts: one by a Japanese and one by a Western writer. The texts chosen will be relatively short, wherever possible complete short stories. All texts will be discussed on the basis of their English language translation, although students who are able to read the originals are welcome to add this knowledge to the discussion. In any case, it is imperative to the functioning of the class that all participants make time to read the set texts beforehand. Only those who have made this effort will be able to participate usefully in the discussion. Those who do not feel their English ability is adequate to reading several pages of English each week should not take this class.

The texts will be read in roughly chronological order, starting the first decade of the 20th century and ending with the last.

Text Books:

Since the texts will be taken from various sources **photocopies** will be used. However, given the likely volume of paper, students may be charged at 10 yen per page.

Reference Books:

The Oxford Book of Japanese Short Stories. Ed. Theodore Goossen.

The Showa Anthology: Modern Japanese Short Stories, 1961-1984. Ed Van C Gessel & Tomone Matsumoto.

Weekly Class Schedule:

The following list should be considered provisional, and students are welcome to request inclusion of other authors in whom they are particularly interested. Japanese names are given without macrons.

- Week One: Orientation
- Week Two: Mori Ogai
- Week Three: Nagai Kafu
- Week Four: Muro Saisei
- Week Five: Hayashi Fumiko
- Week Six: Noma Hiroshi
- Week Seven: Ibuse Masuji
- Week Eight: Kawabata Yasunari
- Week Nine: Mishima Yuko
- Week Ten: Tanizaki Junichiro
- Week Eleven: Tsushima Yuko
- Week Twelve: Oe Kenzaburo
- Week Thirteen: Murakami Haruki

Instructors Comments for Prospective Students:

Please take to heart the final comments in the course description regarding the need to read texts in advance.

Grading Method:

Class Participation (Including Attendance) 50%

Final Report (3,000—3,500 words) 50%

THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE

ノッター, デビッド 経済学部助教授

David Notter

Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

In this course we will examine the family in historical and sociological perspective. The emphasis will be on “modern” family arrangements in nineteenth- and twentieth-century America, but some consideration will also be given to the family in Japan and Europe, and modern family arrangements will also be compared and contrasted with traditional family arrangements. The course will be organized thematically in accordance with the stages of the life course: childhood; adolescence; marriage; and old age.

Text Books:

Family: The Making of an Idea, an Institution, and a Controversy in American Culture by Betty G. Farrell

Class Schedule per week:

- Class 1: The Emergence of the Modern Family, Part I
- Class 2: The Emergence of the Modern Family, Part II
- Class 3: Class Discussion: Childhood
- Class 4: The "Invention" of Childhood
- Class 5: Childhood and Parenthood in American History
- Class 6: Class Discussion: Adolescence and Sexuality
- Class 7: Adolescence in Historical Perspective
- Class 8: Sexuality and the Family: 1600-1900
- Class 9: Class Discussion: Marriage
- Class 10: Modern Courtship and the Ideology of Romantic Love
- Class 11: Marriage and Divorce
- Class 12: Class Discussion: Old Age and Generational Relations
- Class 13: The Collapse of the Modern Family

Grading Method:

Evaluation will be based on attendance, participation in formal class discussions, and essays.

国際経営比較：日米企業を中心に

(秋学期) (Fall)

INTERNATIONAL COMPARISON OF MANAGEMENT SYSTEMS

吉田文一

国際センター講師 (産能大学教授)

Fumikazu Yoshida

Lecturer, International Center (Professor, Sanno University)

Sub Title:

Pros and Cons of Japanese and American Management Systems

Course Description:

This course aims to clarify the differences between the Japanese management system and the American system. Over the last two decades, the appraisal of Japanese management has fallen sharply from a high level during the 1980s, while the evaluation of American management has risen equally sharply. In particular, in the "post-bubble" period in Japan, there is a strong tendency to criticise the domestic management system, and praise American-style management nationwide. This raises a major question: how can the appraisal of a well-established management system change so uncritically in a stable and peaceful society? We will discuss this issue in order to understand the significance of management systems. Based on this understanding, we examine the current issues that both systems face today.

Text Books:

No particular textbook will be used.

Reference Books:

Appropriate readings will be suggested in conjunction with the lectures.

Class Schedule per week (Subject to change):

1. Introduction to the course
2. Multinational Corporations, the main subject of the course
3. Preconditions for Japanese management system
4. Lifetime employment system (1) advantages and disadvantages
5. Lifetime employment system (2) subsystems and international comparison
6. Seniority system
7. Top management and Decision making process
8. Case study of a Japanese company in the USA (video)
9. Discussion based on the above video
10. Corporate philosophy and underlying strategy
11. Current issues of Japanese and American systems (1) employment system
12. Current issues of Japanese and American systems (2) organisation
13. Concluding remarks

Message to those taking this Course:

Students are strongly encouraged to contribute to the class by actively participating in class discussions.

Based upon the lecturer's international management experience, including 12 years of overseas assignments, many cases of international transactions and negotiations will be provided to make this course more realistic, and to broaden students' understanding of global business.

Grading Methods:

Grading will be based on attendance, class participation, and a short term paper.

STRUCTURE, POLICIES AND ETHOS OF THE JAPANESE ECONOMIC SYSTEM

伊藤 規子

商学部助教授

Noriko Ito

Associate Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description :

This course aims to help participants to understand the Japanese economic system with its heavy Government involvement, specific company customs (which seemed to have worked fine during the high growth era), vested interests and social norms/behaviours. The sessions will (A) cover parts of the text book, '*Arthritic Japan*' which is useful in explaining the postwar Japanese economic system and the problems and some changes the Japanese have been facing recently, (B) involve students with some group discussions/presentations on some themes with additional journal articles, (C) show several illustrative videos and (D) have at least two special one-off guest speakers who will talk about their experiences in dealing with the Japanese bureaucratic approach/regulations/other barriers in the Japanese trade environment (all speeches will be given in English). The lecturer may sometimes explain several concepts/theories from the microeconomics' point of view whenever necessary to make it easy for the non-economics based student to understand the textbook and articles. The articles used in the sessions are most likely to be from *The Economist*, *The Japan Times* and *Japan Spotlight*.

Text Books :

- * some chapters from Edward, J. Lincoln, *Arthritic Japan: the slow pace of economic reform*, Brookings, 2001. (distributed by the lecturer)
(Now available in Japanese translation (translated by the lecturer herself) (Nippon-hyoron-sha, 2004) with the title "*Soredemo-Nippon-wa-Kawarenai*")
- * some parts from David Flath, *The Japanese Economy*, Oxford University Press, 2000.

Reference material :

Additional materials (journal articles) will be provided and documentary videos will be shown and discussed.

Class Schedule per week :

These are indicative, and may be changed dependent on (A) the availability of guest-speakers and their proposed subject matter and (B) matters of current Japanese and international interest:

1. overview and announcements (video session included)
2. introduction to the postwar system (video session and summary of chapter 2 of *Arthritic Japan*)
3. horizontal Keiretsu and corporate governance issues (presentation/discussion or a guest speaker)
4. vertical Keiretsu and other forms of vertical controls (presentation/discussion included)
5. labour markets (presentation/discussion included)
6. video session on a typical "Japanese corporate culture"
7. education issues (video and/or discussion)
8. 'industrial policy' and protectionism (discussion included)
9. a guest speaker on Japanese regulations/government interventions
10. Japanese government (both central and local and the relationship between them)
11. rent-seeking mechanisms and political overview (video included)
12. a guest speaker on the subject of entering the Japanese market
13. pressure for changes and current structural reform topics

Message to those taking this Course :

The students who will attend this course do not need to have more than a basic knowledge of economics, but they are expected to have a general interest in the Japanese economy in all its aspects. Quite often the lecturer will give the students copies of journal articles as supplementary materials. The students will discuss these during the sessions. Sometimes the lecturer will ask the students to submit specific essays based on some of these articles or the videos shown in the lectures. There will be an end-of-term essay to submit.

Grading Methods :

1. Reports (essays)
2. student presentations
3. attendance (minimum requirement for attending at least 8 sessions)

Questions, Requests :

Lecturer's email : noriko @fbc.keio.ac.jp

Japanese Psychology in Contemporary Japan (2)

手塚千鶴子

国際センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, International Center

Sub title:

'*Amae*' Reconsidered

Course description:

This course is designed to reconsider comprehensively the concept of 'Amae' which was first introduced as a key concept for understanding Japanese psychology by Dr. Doi, as the Japanese society itself has undergone a considerable change under the influence of the globalization since then, and because there has been the accumulated theoretical, speculative or empirical research including cross cultural one which shows the existence of *Amae* outside of Japan. Therefore, this course will explore answers to the following questions: 1) is *Amae* still a key concept for understanding Japanese psychology ?, 2) how the expression and satisfaction of *Amae needs* is transformed in contemporary Japan, 3) to what extent and in what form *Amae* is found among people across cultures, and 4) what kind of challenges and/or benefits this Japanese concept can give to those people who do not find the exact equivalent in their mother tongues.

Text Books:

No designated textbook and handouts will be distributed.

References:

The Anatomy of Dependence by Takeo Doi, Kodansha International, 1973.

The Anatomy of Self by Takeo Doi, Kodansha International, 1986.

Dependency and Japanese Socialization by Frank A. Johnson, New York University Press, 1993.

Course schedule:

1. Orientation to the course and the drawing task of "my relationship with my mother in my childhood"
2. Multiple definitions of *Amae*
3. Understanding *Amae* through visual images: comparison of 'Peanuts' and 'Doraemon'
4. Healthy *Amae* Interaction: mutuality and reciprocity in Japanese social relationships
5. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese companies
6. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese families seen through empirical research
7. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese families seen through children's drawings of meals and HTP test
8. Cross cultural empirical research on *Amae*
9. An American expatriate's response to *Amae* interaction in Japan
10. *Amae* in cross cultural counseling cases in Japan ..
11. Functions of healthy *Amae*: social support ?
12. *Amae* and Aggression from cross cultural perspectives
13. What do foreigners gain by learning about the concept of *Amae* contribute to peoples and wrap-up session.

Messages to those students taking this course:

Students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion. Students are expected to complete reading assignment before coming to class.

Grading methods:

To be based on the combination of reports, attendance, and participation

Questions and Requests:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

美術を「よむ」—日本美術史入門

(秋学期) (Fall)

INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN

河合正朝

文学部教授

Masatomo Kawai

Professor, Faculty of Letters

村井則子

国際センター講師

Noriko Murai

Lecturer, International Center

Sub Title:

Introduction to Modern Japanese Art and Visual Culture

Course Description:

This course explores the history of Japanese art from the mid-nineteenth century to the present. Visual culture has played a central role in providing the modern Japan with a cultural, social, and psychological identity. We will study the significance of modernity and modernism in different media including painting, sculpture, photography, and architecture. We will also consider issues related to gender, imperialism, and commodity consumption in the context of visual representation.

Readings:

There are no textbooks for the course. A *Source Book* containing all required readings for the course will be available for purchase.

Course Schedule:

1. Introduction: Overview of the Course
2. Constructing "Japanese Art"
READING: Christine Guth, "From Temple to Tearoom," in *Art, Tea, and Industry* (1993).
3. From Edo to Meiji

- READING: Ellen Conant, "Tradition in Transition, 1868-1890," in *Nihonga* (1995).
4. Okakura Kakuzō and the Aesthetic Ideology of Asia
READING: Excerpts from Okakura Kakuzō, *The Ideals of the East* (1903)
 5. Body and the Nude
READING: Norman Bryson, "Westernizing Bodies: Women, Art, and Power in Meiji *Yōga*," in *Gender and Power* (2003).
 6. Urban Spectacle and the Modernist Vision
READING: Miriam Silverberg, "The Modern Girls as Militant," in *Recreating Japanese Women* (1991).
 7. The Colonial Gaze: Representing Otherness in Imperial Japan
READING: Kim Hyeslin, "Images of Women in National Art Exhibitions during the Korean Colonial Period," in *Gender and Power* (2003)
 8. Visual Culture of Wartime and Occupied Japan
 9. Action and Expression: the Gutai Association
READING: Sinichiro Osaki, "Body and Place: Action in Postwar Art in Japan," in *Out of Actions* (1998).
 10. "Anti-Art" in the 60s
READING: Alexandra Munroe, "Morphology of Revenge: The Yomiuri Independent Artists and Social Protest Tendencies in the 1960s," in *Japanese Art After 1945* (1994).
 11. The Postwar Unconscious: Performance and Photography
READING: Susan Klein, "The Butō Aesthetic and a Selection of Techniques," in *Ankoku Butō* (1988).
 12. Architecture and the Public Space
READING: Kenneth Frampton, "Twilight Gloom to Self-Enclosed Modernity: Five Japanese Architects," in *Tokyo: Form and Spirit* (1986).
 13. Image in the Age of Digital Manipulation: the 90s and beyond
READING: Norman Bryson, "Morimura: 3 READINGS," in *Morimura Yasumasa* (1996)

Bibliography:

Bibliography will be distributed on the first day of instruction.

Requirements:

1. Two short papers (4-5 double-spaced pages) based on museum visits
2. One group field trip to a museum in the area to take place on the weekend
3. Regular attendance and active participation in class discussion

Grading Methods:

The student's performance in the course will be evaluated primarily based on the two short paper assignments. Regular attendance is also mandatory, and active participation in class discussion will also be reflected in the final grade.

日本の宗教：救済の探求

(秋学期) (Fall)

RELIGIONS IN JAPAN: IN SEARCH OF SALVATION

ナコルチェフスキー, アンドロイ 文学部助教授

Andrei Nakortchevski Associate Professor, Faculty of Letters

Course Description:

In this course I would like to introduce main religious teachings existed in Japan from old times and up to our days. For the reason the name of the course is specified purposely as "Religions in Japan" and not as "Japanese Religions." Otherwise we have to limit our discourse to the only genuine Japanese religion — Shinto and maybe some eclectic so called "new religions", and forget about Buddhism or Christianity.

Each of these religions will be presented in three aspects: dogmatic (the only exception will be done for Christianity and I will accent the peculiarity of a perception of this religion in Japan), historical and cultural. Dogmatic aspect means an introduction to the core postulates and their transformation over time. Historical aspect allows us to trace a destiny of a religious teaching in Japanese history, and cultural aspect implies a study of influences to and interactions with other spheres of cultural activities — art, literature, science, etc.

Besides the above mentioned aspects, the fourth theme, namely religion's promise to solve the individual's existential and social problems, will be constantly touched on in this course. From these theme derives the subtitle — "In Search of Salvation." Especially this aspect becomes important when we deliberate "new religions", including the notorious Aum Shinrikyo in particular.

About half of the lectures will be devoted to Buddhism as the most philosophically profound and variable teaching, but I would like to introduce not only institutionalized religion as Buddhism, Shinto, Christianity, as well as Taoism and Confucianism to some extension, but also the most interesting so called folk religions, for example, tradition of shugendou (mountain asceticism), different variants of shamanic practices, etc.

Class Schedule:

1. Introduction
2. Shinto
3. Visiting a Shinto shrine
4. Buddhism in general
5. Heian Buddhism: Tendai and Shingon Schools
6. Visiting a Shinto school temple
7. Kamakura Buddhism: Zen and Pure Land Schools

8. Visiting a Pure Land school temple
9. Tokugawa period: Confucianism and formation of the national religion
10. Visiting a Confucian shrine
11. New Religions
12. Visiting a shrine

Grading methods:

Report and participation

日本経済の展望

(秋学期) (Fall)

ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN

市川博也

国際センター講師 (上智大学教授)

Hiroya Ichikawa

Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)

Course Description:

An advanced applied course of economics concerning the contemporary Japanese economy. The course will examine the roots of the instability of the present financial system and critically examine the Japan Model, which once was used to explain the success of the Japanese economy in the postwar period. This examination includes discussion of the legacy of wartime control and debates over the East Asia Miracle. Problems related to the aging population, social security, the burden of government debt, competition policy, deregulation (including the financial big bang), corporate governance, government-business relations, trade disputes, foreign direct investment, ODA policy, environmental issues, and the role of Japan in the world will be discussed. Students are required to read economic and financial news every day for class discussion.

Text Books:

Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy" University of Tokyo Press, 1995

Class Schedule per week:

1. Introduction
Identify major economic problems facing Japanese economy.
2. Discuss Paul Krugman "The Myth of Asia's Miracle" *Foreign Affairs*, November/December 1994.
3. Discuss Takahusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy," chapter 2. "Reform and Reconstruction" University of Tokyo Press. 1995.
4. Discuss chapter 3 "Rapid Growth" in Takahusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy"
5. Discuss "The Mechanism and Policies of Growth"
See Nakamura chapter 4.
6. Discuss the dual structure: Labor, Small Business, and Agriculture" Richard Katz, "Japanese Phoenix-the long road to economic Revival", M.E. Sharp. 2003.
chapter 3 "Overcoming the dual economy — backward sectors are the key to Japan's revival".
chapter 4 "Overcoming Anorexia — the labours Sisyphus —"
See Nakamura chapter 5.
7. Discuss "The End of Rapid Growth" See Nakamura Chapter 6.
8. Discuss Japanese Economy and International Environment
Richard Katz, chapter 9 "Globalization — the Linchpin of Reform—"
chapter 11 "Foreign Direct Investment — A Sea Change —".
See Nakamura chapter 7.
9. Discuss "The Collapse of the Bubble Economy" Thomas F. Cargill, Michael M. Hutchinson, Takatoshi Ito, "The political Economy of Japanese monetary Policy,"
chapter 5 "The Bubble Economy and its Collapse"
chapter 6 "Asset-Price Deflation: Nonperforming Loans, Jusen Companies, and Regulatory Inertia." The MIT Press. 1997
Richard Katz, chapter 12. "Financial integration — The Iceberg Cracks —".
See also Nakamura chapter 8.
10. Restoring Japan's Economic Growth
chapter 1 "Diagnosis: Macroeconomic Mistakes, Not Structural Stagnation"
chapter 2 "Fiscal Policy Works When it is tried".
chapter 3 "The Short and Long of Fiscal Policy" in Adam S. Posen, Restoring Japan's Economic Growth, Institute for International Economics, 1998.
Richard Katz, chapter 6 "Fiscal dilemmas," chapter 7 "Monetary magic bullets are blanks", chapter 8 "Japan cannot export its way out".
Richard Katz, chapter 13 "What is structural reform?" chapter 14 "Financial reform" chapter 15 "Corporate Reform-No competitiveness without more competition".
11. Discuss Financial and International Risks and Inflation Target.
Chapter 4. "Mounting Downside Risks: Financial and International"
Chapter 6. Recognizing a mistake, not blaming a model" in Adam S Posen.

12. Can Japan Compete ?
Chapter 2. “Challenging the Japanese Government Model”
Chapter 3. “ Rethinking Japanese Management”,
Chapter 5. “ How Japan can Move Forward: The Agenda for Government”
Chapter 6. “Transforming the Japanese Company” Michael E. Porter, Hiroataka Takeuchi & Mariko Sakakibara, “Can Japan Compete ?”
Macmillan Press Ltd. 2000
Richard Katz, chapter 16 “Competition policy — Not enough competition, even less policy”.
13. Deregulation and state enterprises, Tax reform Richard Katz, chapter 18 “deregulation and state enterprises — The Moment is Clear, the destination is not.”
Chapter 19. “Tax Reform — Don’t Exacerbate Anorexia”.

Message to Those Taking This Course:

Basic knowledge of Microeconomics & Macroeconomics prerequisite.

High proficiency in English required: TOEFL (PB) 550+ (CB) 213+

Evaluation:

Class Participation (Active Discussion) + Essay + Term Examination

ジャパニーズ・エコノミー

(春学期) (Spring)

JAPANESE ECONOMY

小島 明

商学研究科教授

Akira Kojima

Professor, Graduate School of Business and Commerce

Course Description:

Japan’s Economic Performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective. Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate, demographic change, system reforms are all discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst specialist through Video and Tapes etc.

Text Books:

METI “White Paper on International Trade,” 2004, 2005

Recommended Readings:

“Japan’s Policy Trap — Dollars, Deflation and the Crisis of Japanese Finance”, by Akio Mikuni and R. Taggart Murphy. (Brookings Institution Press, 2002)

“Balance Sheet Recession — Japan’s Struggle with Uncharted Economics and its global implications”, by Richard C, Koo, 2003 John Wiley & Sons Pte Ltd.

Various reports, working papers by Government, International organizations (IMF, OECD etc.) and by scholars are recommended as needed.

Message to Those Taking This Course:

Active participation by students strongly desired.

Evaluation:

Report and in-class exam

Term report and occasional reports

Active participation to discussion

吉野 直行	経済学部教授
Naoyuki Yoshino	Professor, Faculty of Economics
嘉治 佐保子	経済学部教授
Sahoko Kaji	Professor, Faculty of Economics

Course Outline:

This course is offered to undergraduate students participating in the PCP programme, as well as to Master's level graduate students. The aim is to train the students to apply economic theory, econometric techniques and economic institution to the analysis of real world economic problems. We put particular emphasis on the Japanese economy. Students must have solid backgrounds in macroeconomics, theories of money and banking and public finance.

Topics to be covered:

1. Historical trends in Japanese monetary policy and economic fluctuations
2. Flow of Funds Table of the Japanese economy (Government Sector, Financial Sector, Firm Sector, Household Sector)
3. Japanese monetary policy, asset-price inflation and subsequent recession
4. Japanese fiscal policy, budget deficit and public debt
5. Japanese Industrial policy, tax policy and fiscal investment policy
6. Japanese capital markets (bond and equity markets)
7. Failures and restructuring of Japanese banks
8. The aging population and its impact on the Japanese economy
9. Privatization of Postal Savings and the Japanese financial market
10. The Asian financial crisis: cause and consequences
11. Exchange rate regimes and the optimal exchange rate system in Asia
12. Effectiveness of public works in Japan and Revenue Bonds
13. Central and Local Governments in Japan
14. Policy-making and the incentive mechanism in Japan

References:

1. Yoshiro, Naoyuki and Seiritsu Ogura (1988) 'The Tax System and the Fiscal Investment and Loan Programme', Chapter 6 in Komiya, Okuno and Suzumura eds. *Industrial Policy of Japan*, Academic Press
2. Yoshino, Naoyuki et. al. (2000) 'Eigo de Yomu Nihon no Kinyu' (Economic Issues of Contemporary Japan), Yuhikaku publishing
3. Yoshino, Naoyuki and Eisuke Sakakibara (2002) 'The Current State of the Japanese Economy and Remedies', *Asian Economic Papers*, vol.1, No.2, pp.110-26
4. Yoshino, Naoyuki and Thomas Cargill (2003) *Postal Saving and Fiscal Investment in Japan*, Oxford University Press
5. Takatoshi Ito (1992) *The Japanese Economy*, MIT press
6. For lighter reading on Japan, student may turn to Kaji, Hama, and Rice (1999) *The Xenophobe's Guide to the Japanese*, Oval Books, 3.99 pounds.

More references will be given during the lecture.

Grade:

Final examination 70%, Class participation 30%

ドゥウルフ, チャールズ	理工学部教授
Charles De Wolf	Professor, Faculty of Science and Technology

Sub Title:

Science in Cross-Cultural Perspective

Course Description:

The leitmotif of this course is the question of how our perceptions of and approaches to science are influenced both by the Zeitgeist and by the particular culture in which we have grown up. How, for example, is the "evolution controversy" in America a peculiarly "American" phenomenon? How is it that Japanese scientists and engineers appear to be (on the whole) remarkably indifferent to ideological issues? Other topics include :(1) what is a proper or possible subject of scientific inquiry. To what extent, for example, can the study of language be considered "scientific"? (2) What is the appropriate role of scientists in

matters political and social? In addition to the primary goals discussed above, it is hoped that this course will enable non-Japanese students to have a better understanding of Japanese history and culture through a cross-cultural approach to the philosophy of science. Students are strongly encouraged to participate actively, discussion being preferred to "lecturing."

Textbook:

Materials to be distributed by instructor

Reference Material:

To be announced

Lesson Plan:

1. Words for science: the concept of science in historical and cultural perspective
2. "Hard sciences" vs. "Soft sciences"
3. Linguistic science I: an historical overview
4. Linguistic science II: How "scientific" is linguistics?
5. Science and culture
6. Science and ideology
7. Science vs. scientism
8. The evolution debate in cross-cultural perspective
9. Science in Japan: an historical overview
10. Science and technology; science vs. technology
11. The role of the scientist in society: a cross-cultural perspective
12. Loose ends

デジタルメディア・コンテンツ（DMC）統合研究機構設置講座

デジタルメディア・コンテンツ統合研究機構（DMC機構）は、2004年7月に文部科学省科学技術振興調整費の戦略的研究拠点育成プログラムに採択され、設立された組織です。デジタルコンテンツの創造と流通を通して環境の整備と大学のシステム改革・制度改革を行い、社会の流れを変えることを目的としています。

設立後の1年間でDMC機構は、（1）研究員の年俸を50%増減まで変動可能とする年俸制の制定、（2）海外在住の研究員の任用、（3）高度な技術を持つ技術専門職を登用するための専門員制度の導入など、いくつかの制度改革を行いました。教育環境においては、学生が動画を使ったレポートを提出する時代を想定し、コンテンツと表現力が重視される時代を慶應義塾が先導できるよう、メディア環境を対応させていくことを目指しています。そして来たるべき“コンテンツの時代”において、シナリオを持ったコンテンツの創造と流通ができるように、各キャンパスにデジタルコンテンツ工房と呼ばれる拠点を設置しました。

またDMC機構は、北米・欧州・アジアにもいくつかの拠点を整備しています。世界中の多くの連携機関との共同研究を行なうことで、国際的研究活動も展開します。海外拠点においては、国際的な人材育成を目指した国際インターンシップ制度の導入も検討中です。デジタルコンテンツは分野・領域を問わず必要とされる異分野が融合されたものであります。総合大学として、国際的人材が育成できる教育プログラムの検討も進めていきます。

各キャンパスの工房では、コンテンツ作成を可能にする設備とサービスが展開されています。一人一人が快適にデジタルコンテンツを作成し、安心して利用できるようなメディア環境を整備することで、デジタルコンテンツがより身近な存在になることを願っています。そしてコンテンツの利用が、また別の新しいコンテンツの創造につながるようなサイクルを生み出すシステムへ成長させていきたいと思えます。

ネットワーク環境、デジタル環境がめまぐるしく進歩していく中で、デジタルコンテンツの世界には無限の可能性があります。しかし、デジタルコンテンツに関する著作権の問題やセキュリティ（安全性）の確保など、まだまだ課題もたくさんあります。それらの課題に取り組み、実験的試みを繰り返しながら、社会に貢献できる研究成果を生み出すための体制を築きたいと考えています。

DMC機構は研究体制の再編や制度改革を繰り返しながら5年間のプロジェクトを通して大きな研究成果をあげるとともに、科学技術振興調整費による支援終了後の組織の財政的自立を視野にいれ、知の創造と流通を通じた社会貢献と国際社会への人材の創出を目指します。

本年度は次ページ以降の3講座を開設いたします。

「DMC 産業論」(金 正勲)

2006 年度 春学期 木 3 限

2 単位

カテゴリ：(大学院)

開講場所：三田キャンパス

授業形態：講義と討論

1. 主題と目標 / 授業の手法など

知識社会の深化や創造社会への移行に伴い、デジタルメディア・コンテンツ (DMC) 産業への関心が近年急速に高まっている。コンテンツのデジタル化、ネットワークの IP 化・ブロードバンド化の急速な進展は、既存のコンテンツとメディアの垂直統合構造を崩壊させ、同一コンテンツのメディアを跨ぐシームレスな流通を可能にした。中でも、iTunes などに見られる音楽・映像コンテンツのネット配信、放送番組コンテンツのネット配信、デジタルシネマ、オンライン広告、オンラインジャーナリズム、モバイルコンテンツ流通、といったようないわゆるデジタルコンテンツのネットワーク流通が次世代の日本経済を担う中核部門として注目されている。しかし、デジタルコンテンツのネットワーク流通を巡っては、解決を要する様々な技術的・商業的・社会的・政策的問題が山積しており、これらの問題を議論・分析するための知識・人的基盤は十分に構築されていない現状にある。上記の問題意識の下に、本講座では日本のデジタルメディア・コンテンツ産業の現状と今後の行方を、学際的な立場に立ち、研究・実務の両面から検討することを目的とする。本講義は、講義、ゲストレクチャー、そして討論によって構成される。

2. 教材・参考文献

毎回の授業においてハンドアウトを配布する。とくに教科書のような教材は用いないが、この授業の参考になる文献やリソースについては、第 1 回目に紹介する。それ以外にも必要があれば、適宜紹介する。

3. 授業計画

第 1 回 オリエンテーション

- ・概要説明 (全体の構成, 達成目標と運営方針, 成績評価の基準)

第 2 回 メディア融合時代のコンテンツ産業 - 価値連鎖の変容を中心に

- ・講師によるレクチャー

第 3 回 音楽産業 - 音楽のネット配信を中心に

- ・ゲスト (株式会社・よん・なな・みゅーじっく) によるレクチャーと討論

第 4 回 放送産業 - 放送番組のネット配信を中心に

- ・ゲスト (TBS) によるレクチャーと討論

第 5 回 映画産業 - デジタルシネマを中心に

- ・ゲスト (慶應 DMC) によるレクチャーと討論

第 6 回 出版産業 - 電子出版とオンラインジャーナリズム, ブログを中心に

- ・ゲスト (日経メディアラボ) によるレクチャーと討論

第 7 回 検索エンジン産業 - 次世代検索エンジンのビジネスモデルを中心に

- ・ゲスト (Google Japan) によるレクチャーと討論

第 8 回 キャラクター産業 - キャラクターの多メディア展開を中心に

- ・ゲスト（小学館）によるレクチャーと討論

第9回 レンタル産業－ ネット時代の連絡産業の在り方を中心に

- ・ゲスト（CCC）によるレクチャーと討論

第10回 アートマネジメント産業－ ネット時代のアートマネジメントを中心に

- ・ゲスト（慶應DMC）によるレクチャーと討論

第11回 コンテンツ政策－ デジタルコンテンツ産業振興策を中心に

- ・ゲスト（内閣官房知的財産戦略推進事務局）によるレクチャーと討論

第12回 創造立国に向けて－ ポップカルチャーと創造立国を中心に

- ・ゲスト（スタンフォード日本センター）によるレクチャーと討論

第13回 全体のまとめ

4. 提出課題・試験・成績評価の方法など

出席（30%）

レポート（70%）

5. 履修上の注意・その他

諸事情によりゲストの変更可能性有り

6. 前提となる知識（科目名等）

なし

7. 履修者数制限（予定人数および制限方法）

履修人数を制限しない。

8. 授業 URL

なし

9. 学生が準備するソフト・機材

なし

10. 授業に関する連絡先

kim@dmc.keio.ac.jp

「DMC 創造経済演習」(金 正勲)

2006 年度 秋学期 木 5 限

2 単位

カテゴリ： (大学院)

開講場所：三田キャンパス

授業形態：ディスカッション

1. 目的・内容

本演習は、知識情報社会の次の社会経済ステージとして最近注目される創造経済 (Creative Economy) について、その歴史的な文脈を踏まえ、学際的な観点から考察を行うことを目的とする。授業はその週の Readings を事前に読むことを前提に、ディスカッション形式で進める。受講者は、Readings に関し 3 回にわたる synthesis papers を作成することで創造経済に関する自分独自の視点を構築する。

2. 授業形式・形態

輪読とディスカッション

3. 授業スケジュール

下記の文献を輪読し、Synthesis Papers を作成することによって、創造経済の多面的な側面について理解を深める。

第 1 回 オリエンテーション

概要説明 (全体の構成, 達成目標と運営方針, 成績評価の基準)

第 2 回 システムとコントロール

Required Reading:

- James Beniger(1986) - Control Revolution

Optional Readings:

- Lewis Mumford(1963) - Technics and Civilization

- Michel Foucault(1977) - Discipline and Punish

第 3 回 市場, 企業組織, ネットワーク

Required Reading:

- Walter Powell(1989) - Neither Market nor Hierarchy: Network Forms of Organization

Optional Readings:

- Henry Mintzberg(1979) - The Essence of Structure

- Ronald Coase(1937) - The Nature of the Firm

第 4 回 情報化社会

Required Reading:

- Daniel Bell(1973) - The Coming of Post-Industrial Society

Optional Readings:

- Fritz Machlup (1962) - The Production and Distribution of Knowledge in the United States

- Peter Drucker(1995) - Post-Capitalist Society

第 5 回 創造経済 I

Required Reading:

- John Howkins(2001) - The Creative Economy

Optional Readings:

- Joseph Pine III & James Gilmore(1998) - The Experience Economy
- Daniel Pink(2005) - A Whole New Mind: Moving from the Information Age to the Conceptual Age

第6回 創造産業 I

Required Reading:

- Richard Caves(2000) - Creative Industries

Optional Readings:

- Tom Peters(2005) - Design(Tom Peters Essentials)
- DCMS(2001) - Creative Industries Mapping Document

第7回 創造産業 II

Required Reading:

- John Hartley(2005) - Creative Industries

Optional Readings:

- Carl Shapiro and Hal Varian(1998) - Information Rules
- Terry Flew(2002) - Beyond Ad Hockery: Defining Creative Industries

第8回 創造性

Required Reading:

- Mihaly Csikszentmihalyi(2000) - Creativity

Optional Readings:

- Robert Sternberg(1999) - Handbook of Creativity
- Paul Romer(1993) - Ideas and Things

第9回 創造階層 I

Required Reading:

- Richard Florida(2002) - The Rise of Creative Class

Optional Readings:

- Thomas Friedman(2005) - The World Is Flat
- David Brooks(2000) - Bobos in Paradise

第10回 創造産業政策

Required Reading:

- John Howkins(2002) - The Mayor`s Commission on Creative Industries

Optional Readings:

- Shalini Venturrelli(2002) - From the Information Economy to the Creative Economy
- Stuart Cunningham(2004) - The Creative Industries After Cultural Policy

第11回 研究発表 I

第12回 研究発表 II

第13回 全体のまとめ

4. 評価方法

- ① Class Discussion への貢献度 (25%)
- ② Synthesis Paper I (20%)
- ③ Synthesis Paper II (20%)
- ④ Mega-Synthesis Paper と研究発表 (35%)

5. 履修条件

英語の文献がある程度のスピードで読めること。

6. 受入予定人数

15 人程度

7. 最低受入人数を超えた場合の選考方法

履修希望者が上限を大きく上回る場合には面接を行う。

8. 参考文献

3 を参照

9. 関連プロジェクト

なし

10. 課題

Readings に関する Synthesis Papers と研究発表

11. 連絡先

kim@dmc.keio.ac.jp

12. 研究室ホームページ

なし

13. 来期の研究プロジェクトのテーマ予定

なし

「DMC エンタテインメント・コンテンツ・プロデュース論」(稲蔭 正彦・岸 博幸)

2006 年度 春学期 木 6 限

2 単位

カテゴリ： (大学院)

開講場所：SFC・三田キャンパス

授業形態：講義

1. 主題と目標 / 授業の手法など

我が国は、知的財産立国を目指しており、コンテンツは其中で重要な役割を期待されている。しかし、20 世紀型のコンテンツジャンル及びそのビジネスモデルは、国際競争力において優位な立場にない。このような状況の中で、メディアデザインプログラムでは、21 世紀型コンテンツジャンルの開拓とそのビジネスモデルの提言を行なう研究活動を行なっている。本授業は、大学院科目として設置し、ユビキタス社会における新しいコンテンツジャンルの可能性を探り、プロデュースをしていくために必要な要素を学ぶ。プロジェクトマネジメント、法務、財務、マーケティングをはじめ、最先端デジタル技術やネットワーク技術を活用したコンテンツビジネスについて考えていく。

本授業では、エンタテインメント・コンテンツ・ビジネスの理解に不可欠な基礎知識、日米欧におけるこれらビジネスの実体と問題点、デジタル技術等の最新の技術動向等を理解した上で、既存のビジネスの改善や新しいビジネスモデルの構築に関する実践的な提案を出来る能力を養成する。

本年度の授業は、1学期を通してコンテンツ企画を行っていき、そのプロセスにおいて数回のプレゼンテーションとディスカッションを実施する。

2. 教材・参考文献

Entertainment Industry Economics : A Guide for Financial Analysis, Harold L. Vogel Cambridge Univ Press ISBN: 0-521-79264-9

コンテンツプロデュース機能の基盤強化に関する調査研究

http://www.meti.go.jp/policy/media_contents/

3. 授業計画

第1回 プロデューサー論

本授業のオーバービューとして、授業の概要説明を行う。その後、政策、表現、技術の重要性を説明した上で、エンタテインメント・コンテンツのプロデューサーに不可欠な資質や、商品開発、リクープ等の基礎的な知識についての整理を行う。

第2回 エンタテインメント・コンテンツの広がり

アニメや音楽等の現代文化以外のエンタテインメント・コンテンツの中でも、特に今後重要性が高まると予想される伝統文化や地方の文化等について、現状及び将来展望を概観するとともに、プロデュースのあり方を論じる。さらに、21世紀における新しいエンタテインメントコンテンツ領域の可能性をライフスタイルの観点から考察する。

第3回 プロジェクト・ケーススタディ

この授業でのケース・スタディの対象となる4つのエンタテインメント・コンテンツのプロジェクト案を紹介し、学生のグループ分けを行うとともに、担当のプロジェクトを決める。

第4回 コンテンツ・プロデュースの基礎

コンテンツのプロデュースに必要な最低限の知識、例えば、法務・財務、マーケティング等について、オーバービューを行う。

第5回 企画プレゼンテーション

提示された課題に対するプロデュースの企画案のプレゼンテーションを行うとともに、それに基づくディスカッションを行い、更なる論点を掘り下げていく。

第6回 コンテンツの発掘、見極め方

プロデューサーにとって、コンテンツの原石を発掘しその可能性を見極めることは重要である。プロデューサーのコンテンツに対する目利きのポイントを紹介する。

第7回 (6月2日) プロジェクトプレゼン (グループ単位)

提示された課題に対するプロデュースの企画案のプレゼンテーションを行うとともに、それに基づくディスカッションを行う。

第8回 (6月9日) IT政策、コンテンツ政策の方向性

政府のIT政策、コンテンツ政策の現状と問題点を分析し、通信と放送の融合の方向性や、21世紀の日本におけるコンテンツの重要性等についての理解を深める。

第9回 (6月16日) コンテンツネットワーク流通

提示された課題に対するプロデュースの企画案のプレゼンテーションを行うとともに、それに基づくディスカッションを行う。

第10回(6月23日)プロジェクトプレゼン(グループ単位)

提示された課題に対するプロデュースの企画案の改訂版のプレゼンテーションを行うとともに、それに基づくディスカッションを行い、企画の完成に向けた詰めを行う。

第11回(6月30日)プロジェクトマネジメント

提示された課題に対するプロデュースの企画案のプレゼンテーションを行うとともに、それに基づくディスカッションを行う。

第12回 ゲストスピーカー

著名なコンテンツ・プロデューサーを招き、新たなコンテンツの潮流や、コンテンツ・プロデュースの実際等についての議論を行う。

第13回 最終プレゼンテーション

提示された課題に対するプロデュースの最終提案をプレゼンテーションする。

4. 提出課題・試験・成績評価の方法など

コンテンツ企画の課題発表と企画書による成績評価

5. 履修上の注意・その他

履修制限を行わないが、政策・メディア研究科設置デジタルエンタテインメントプロデュース論(今年度からはエンタテインメントストラテジー)の履修者または同等の知識を有するものが望ましい。

6. 前提となる知識(科目名等)

なし

7. 履修者数制限(予定人数および制限方法)

履修人数を制限しない。

8. 授業 URL

なし

9. 学生が準備するソフト・機材

なし

10. 授業に関する連絡先

inakage@sfc.keio.ac.jp

他大学大学院との相互科目履修に関する協定

慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程および学習院大学大学院人文科学研究科博士前期課程における相互科目履修に関する協定書

昭和48年12月1日締結
平成14年11月1日改正

記

第1条 両研究科の学生は、昭和49年4月より、相互に相手側研究科設置科目を修士課程または博士前期課程在学中に計8単位を限度として履修することができる。

第2条 第1条に該当する学生は大学院交流学生と称する。

第3条 第1条に規定する履修科目については、受入側研究科はその学則にもとづいて成績を評価し、単位を認定して相手側研究科に通知する。相手側研究科は修士課程または博士前期課程の単位としてこれを認めるものとする。

第4条 相手側研究科の設置科目を履修する学生は自己の属する研究科指導教員の承認をうけ、かつ相手側研究科の担当教員の許可をうけなければならない。ただし、担当教員は学生数その他の都合からこれを許可しないことがある。

第5条 本制度の運用について協議の必要を生じた時は、直ちに両研究科間で協議し、常に円滑な運用と将来の発展に努力するものとする。

第6条 本制度は昭和47年度および48年度を試行期間として、昭和47年4月より実施してきたものであるが、昭和49年4月より正規に発足させるものである。

第7条 本制度に関する内規は別に定める。

附 則

この協定は昭和48年12月1日から施行する。

附 則 (平成14年11月1日)

この協定は平成15年4月1日から施行する。

以 上

慶應義塾大学大学院文学研究科および早稲田大学大学院文学研究科の修士課程における相互科目履修に関する協定書

昭和48年12月1日締結
平成14年11月1日改正

記

第1条 両研究科の学生は、昭和49年4月より、相互に相手側研究科設置科目を修士課程在学中に計8単位を限度として履修することができる。

第2条 第1条に該当する学生は大学院交流学生と称する。

第3条 第1条に規定する履修科目については、受入側研究科はその学則にもとづいて成績を評価し、単位を認定して相手側研究科に通知する。相手側研究科は修士課程の単位としてこれを認めるものとする。

第4条 相手側研究科の設置科目を履修する学生は自己の属する研究科指導教員の承認をうけ、かつ相手側研究科の担当教

員の許可をうけなければならない。ただし、担当教員は学生数その他の都合からこれを許可しないことがある。

第5条 本制度の運用について協議の必要を生じた時は、直ちに両研究科間で協議し、常に円滑な運用と将来の発展に努力するものとする。

第6条 本制度は昭和47年度および48年度を試行期間として、昭和47年4月より実施してきたものであるが、昭和49年4月より正規に発足させるものである。

第7条 本制度に関する内規は別に定める。

附 則

この協定は昭和48年12月1日から施行する。

附 則 (平成14年11月1日)

この協定は平成15年4月1日から施行する。

以 上

(単位互換協定)

慶應義塾大学大学院文学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科の学生交流に関する協定書

慶應義塾大学大学院文学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科は、教育の一層の充実を目指して、両大学大学院研究科の学生が受入大学大学院研究科の授業科目を履修することについて協定を締結する。

(受 入)

第1条 両大学大学院研究科は、受入大学大学院研究科の授業科目の履修および単位の修得を希望する学生を、相互に受け入れることができる。

2 学生を受け入れるための手続は、別に定める。

(受入学生の身分)

第2条 両大学大学院研究科は、前条によって受け入れる学生を交流学生と称する。

(学生数)

第3条 当該年度の交流学生数は、原則として両大学大学院研究科双方同数とする。

(履修期間)

第4条 交流学生の履修期間は、当該学生の履修科目の設置期間とする。

(履修科目の範囲および単位数)

第5条 交流学生が履修できる授業科目および単位数は、別に定める。

(履修方法・単位の授与・成績評価等)

第6条 交流学生の履修方法、単位の授与および成績評価等については、受入大学の大学院研究科の定めるところによる。

2 交流学生が修得した単位の認定に関わる事項は、当該学生の所属する大学の大学院研究科が定めるところによる。

(学費等)

第7条 交流学生の学費等は、相互に徴収しないものとする。

(覚 書)

第8条 本協定書の実施に必要な事項について定めるために、覚書を締結する。

(その他)

第9条 本協定書は、双方の署名によって発効し、2003年4月1日より実施する。ただし、発効日より3年を経過した後に見直しを行う。

2002年12月1日

慶應義塾大学大学院文学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科の学生交流に関する覚書

慶應義塾大学大学院文学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科は、「慶應義塾大学大学院文学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科の学生交流に関する協定書」(2002年12月1日付)に基づき本覚書を締結する。

1. 対象者

両大学大学院研究科に在学する修士課程正規学生を対象とする。

2. 申請および承認手続

交流学生として科目の履修を希望する学生は、所定の申請手続をとり、所属大学大学院研究科の指導教員の承認を受け、受入大学の大学院研究科の履修希望科目担当教員の許可を得るものとする。

3. 履修可能科目および単位数

(1) 交流学生が履修できる授業科目は、学生を受け入れる大学の大学院研究科が定め、それぞれ相手大学の大学院研究科へ通知する。

(2) 交流学生が履修できる単位数の上限は、在学中8単位とする。

4. 施設利用の便宜

交流学生が履修に必要な施設・設備の利用については、便宜を供与する。

5. 学費等

協定第7条の学費の内訳は、授業料・施設費・演習料・実験実習費等とする。

6. その他

本覚書に定めるもののほか、本協定の実施に関し必要な事項は、両大学大学院研究科の協議によって定める。

2002年12月1日

慶應義塾大学大学院文学研究科※哲学専攻(哲学・倫理学分野)および上智大学大学院哲学研究科における大学院特別聴講生制度に関する協定

※平成13年度新生より哲学専攻が哲学・倫理学専攻に改組されました。

1. 慶應義塾大学大学院文学研究科※哲学専攻(哲学・倫理学分野)および上智大学大学院哲学研究科に在籍する学生が、研究上の必要により相手側研究科設置の授業科目の履修を希望する場合、所属研究科の定める範囲内で履修することができる。

2. 第1項に該当する学生は大学院特別聴講生と称する。

3. 定められた手続を経て、相手側研究科生の履修申込みを受けたときは、当該研究科は正規の授業に支障のないかぎり、履修を許可する。

4. 履修が許可された科目については、受入側研究科は相手側

研究科の学則に基づいて、成績を評価し、単位を認定して相手側研究科に通知する。相手側研究科は修士課程の単位としてこれを認めるものとする。但し、後期博士課程の学生については、聴講のみとし、単位・成績の認定は行わないこととする。

5. 本制度に関する諸手続は別に定める。

6. 本制度に関する内規は別に定める。

7. 本制度の実施に関する変更は両研究科間の協議により行うものとする。

附 則

本制度は1995年4月1日より施行する。

大学院特別聴講生制度に関する諸手続について

1. 大学院特別聴講生届(所属大学の学事担当部署にあり)に必要な事項を記入して、指導教員の承認をうける。次に相手校に赴き、講義担当者の当該授業に出席して承認を受けた後、相手校学事担当部署へ提出すること。

2. 履修が許可された場合、指定の期間内に各学事担当部署窓口にて特別聴講生届用紙本人控と引換えに特別聴講生証を交付する。

3. 相手校の授業科目の履修を希望する場合は、履修決定以前の聴講の段階でも必ず講義担当者の許可を得ること。

4. 万一、履修を途中でやめるようなときは、速やかに講義担当者、相手校学事担当部署および所属大学の学事担当部署に連絡すること。

5. 相手校の授業に関する連絡事項は、所属大学に掲示することで充分注意すること。

関係規程抜粋

文学研究科在籍者に特に関わりの深い規程について抜粋してありますので、履修要項と合わせて参照してください。なお、大学院学則については、入学時に配付する慶應義塾大学大学院学則を参照してください。

〈1 学 位〉

- 1-1 学位規程（抜粋）
- 1-2 学位の授与に関する内規

〈2 奨 学 金〉

- 2-1 大学院奨学規程
- 2-2 小泉信三記念大学院特別奨学金規程
- 2-3 小泉信三記念大学院特別奨学金規程細則

〈3 授業料減免〉

- 3-1 授業料等減免規程
- 3-2 留学期間中の学費の取り扱いに関する規程

〈4 そ の 他〉

- 4-1 大学院在学期間延長者取扱い内規
- 4-2 大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学科
その他の学費に関する取扱い内規

学位請求論文製本表紙見本

1 学 位

1-1 学位規程（抜粋）

昭和31年2月17日制定
※以降改正あり

第1条（目的） 本規程は、慶應義塾大学学部学則（大正9年5月5日制定）及び慶應義塾大学大学院学則（大正9年5月5日制定）に規定するもののほか、慶應義塾大学が授与する学位について必要な事項を定めることを目的とする。

第2条（学位） 本大学において授与する学位は次の通りとする。

1 学 士

文 学 部

人文社会学科

哲学専攻	学士（哲学）
倫理学専攻	学士（哲学）
美学美術史学専攻	学士（美学）
日本史学専攻	学士（史学）
東洋史学専攻	学士（史学）
西洋史学専攻	学士（史学）
民族学考古学専攻	学士（史学）
国文学専攻	学士（文学）
中国文学専攻	学士（文学）
英米文学専攻	学士（文学）
独文学専攻	学士（文学）
仏文学専攻	学士（文学）
図書館・情報学専攻	学士（図書館・情報学）
社会学専攻	学士（人間関係学）
心理学専攻	学士（人間関係学）
教育学専攻	学士（人間関係学）
人間科学専攻	学士（人間関係学）

経済学部

学士（経済学）

法 学 部

学士（法学）

商 学 部

学士（商学）

医 学 部

学士（医学）

理工学部

機械工学科	学士（工学）
電子工学科	学士（工学）
応用化学科	学士（工学）
物理情報工学科	学士（工学）
管理工学科	学士（工学）
数理科学科	
数学専攻	学士（理学）
統計学専攻	学士（工学）
物理学科	学士（理学）
化学科	学士（理学）
システムデザイン工学科	学士（工学）
情報工学科	学士（工学）
生命情報科	学士（理学）又は 学士（工学）
総合政策学部	学士（総合政策学）
環境情報学部	学士（環境情報学）
看護医療学部	学士（看護学）

2 修 士

文学研究科

哲学・倫理学専攻	修士（哲学）
----------	--------

美学美術史学専攻	修士（美学）
史学専攻	修士（史学）
国文学専攻	修士（文学）
中国文学専攻	修士（文学）
英米文学専攻	修士（文学）
独文学専攻	修士（文学）
仏文学専攻	修士（文学）
図書館・情報学専攻	修士（図書館・情報学）
経済学研究科	修士（経済学）
法学研究科	修士（法学）
社会学研究科	
社会学専攻	修士（社会学）
心理学専攻	修士（心理学）
教育学専攻	修士（教育学）
商学研究科	修士（商学）
医学研究科	
医科学専攻	修士（医科学）
理工学研究科	
基礎理工学専攻	修士（理学）又は 修士（工学）
総合デザイン工学専攻	修士（理学）又は 修士（工学）
開放環境科学専攻	修士（工学）
経営管理研究科	修士（経営学）
政策・メディア研究科	
政策・メディア専攻	修士（政策・メディア）
健康マネジメント研究科	
看護・医療・スポーツ マネジメント専攻	修士（看護学）又は 修士（健康マネジメント学）

3 博 士

文学研究科

哲学・倫理学専攻	博士（哲学）
美学美術史学専攻	博士（美学）
史学専攻	博士（史学）
国文学専攻	博士（文学）
中国文学専攻	博士（文学）
英米文学専攻	博士（文学）
独文学専攻	博士（文学）
仏文学専攻	博士（文学）
図書館・情報学専攻	博士（図書館・情報学）
経済学研究科	博士（経済学）
法学研究科	博士（法学）
社会学研究科	
社会学専攻	博士（社会学）
心理学専攻	博士（心理学）
教育学専攻	博士（教育学）
商学研究科	博士（商学）
医学研究科	博士（医学）
理工学研究科	
基礎理工学専攻	博士（理学）又は 博士（工学）
総合デザイン工学専攻	博士（理学）又は 博士（工学）
開放環境科学専攻	博士（工学）
経営管理研究科	博士（経営学）
政策・メディア研究科	
政策・メディア専攻	博士（政策・メディア）

4 専門職学位

法務研究科

法務専攻

法務博士（専門職）

② 前項第3号に定めるほか博士（学術）の学位を授与することができる。

③ 第5条に定める者には、学位論文を提出した研究科に応じ第1項第3号の学位を授与する。

第2条の2（学士学位の授与要件） 学士の学位は、大学を卒業した者に与えられる。

第3条（修士学位の授与要件） 修士の学位は、大学院前期博士課程を修了した者に与えられる。

第4条（課程による博士学位の授与要件） 博士の学位は、大学院博士課程を修了した者に与えられる。

第5条（論文による博士学位の授与要件） 博士の学位は、研究科委員会の承認を得て学位論文を提出して論文の審査に合格し、かつ大学院博士課程の修了者と同等以上の学識があることを確認（以下「学識の確認」という）された者に与えられる。

第5条の2（専門職学位の授与要件） 専門職学位は、専門職大学院の課程を修了した者に与えられる。

第6条（学識の確認の特例） ① 大学院博士課程における教育課程を終え、学位論文を提出しないで退学した者のうち、退学の日から起算して研究科委員会が定める年限以内に論文による博士学位を申請した者については、研究科委員会が適当と認めた場合、学識の確認の一部若しくはすべてを行わないことができる。

② 学位論文以外の業績及び経歴の審査によって、研究科委員会が学識の確認の一部若しくはすべてを行う必要がないと認めた場合には、当該審査をもって学識の確認の一部若しくはすべてに代えることができる。

第7条（課程による学位の申請） ① 第3条の規定に基づき修士学位を申請する者は、学位論文3部を指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。

② 第4条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。

第8条（論文による学位の申請） 第5条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、その申請する学位の種類を指定して、学長に提出しなければならない。

第9条（審査料） 第5条の規定に基づき博士学位を申請する者に対する審査料は、次の通りとする。

- | | |
|--------------------------------------|----------|
| 1 本大学大学院博士課程の教育課程を終え学位論文を提出しないで退学した者 | 50,000円 |
| 2 本大学学士又は修士の学位を与えられた者で前号の定め以外の者 | 70,000円 |
| 3 前2号のいずれにも該当しない者 | 100,000円 |
| 4 本塾専任教職員である者 | 20,000円 |
- （医学研究科については40,000円）

第10条（審査並びに期間） ① 修士及び博士の学位論文の審査並びにこれに関連する試験等の合否は、当該研究科委員会が判定する。

② 博士の学位論文の審査並びにこれに関連する試験及び学識の確認等は、論文受理後1年以内に終了するものとする。

第11条（審査委員会） 研究科委員会は、学位論文の審査並びにこれに関連する試験等を行うために、関係指導教授及び関連科目担当教授2名以上から成る審査委員会（主査及び副査）

を設置しこれに当たらせる。ただし、必要がある場合は助教授又は専任講師・講師（非常勤）等を特に審査委員会に加えることができる。

第12条（審査結果の報告・判定方法） ① 審査委員会は、論文審査の要旨並びに試験の成績等を記録して研究科委員会に報告し、かつ、その意見を開陳する。

② 研究科委員会は、委員の3分の2以上の出席により成立し、その3分の2以上の賛同をもって学位論文の審査並びに試験の合否を決定する。

③ 前項の議決は、無記名投票をもって行う。

第13条（学位授与） ① 修士または博士の学位は研究科委員会において学位論文の審査並びに試験に合格した者に対し、学長は当該研究科委員会の報告に基づき学位を授与する。

② 専門職学位は、当該研究科の修了要件を満たした者に対し、学長が当該研究科委員会の報告に基づき授与する。

第14条（学位論文要旨の公表） 本大学は博士の学位を授与したとき、当該博士の学位を授与した日から3月以内にその論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を公表する。

第15条（学位論文の公表） 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位の授与を受けた日から1年以内にその論文を印刷公表し「慶應義塾大学審査学位論文」と明記するものとする。ただし、学位の授与を受ける前にすでに印刷公表したときはこの限りではない。

第16条（学位の表示） 学位の授与を受けた者が学位の名称を用いるときは、学位の後にこれを授与した本大学名を「（慶應義塾大学）」と付記するものとする。

第17条（学位の取消） 不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき、又は学位を得た者がその名誉を汚辱する行為があったときは、当該研究科委員会及び大学院委員会の議を経てその学位を取消すものとする。

第18条（学位記及び書類） 学位記及び学位授与申請関係書類の様式は、別表1から別表5までの通りとする。

第19条（規程の改廃） この規程の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。ただし、第2条第1項第1号及び第2条の2については大学評議会の議を経てこれを行う。

[以下省略]

1-2 学位の授与に関する内規

昭和59年3月16日制定

平成12年5月16日改正

第1条 慶應義塾大学学位規程第13条（学位授与）に関する取扱いは、この内規の定めるところによる。

第2条 論文博士の学位授与及び博士課程単位修得退学者で再入学しない者に対する課程博士の学位授与に関しては、次の通り行うものとする。

1 学位授与日は、研究科委員会の議決日とする。

2 研究科委員会が学位論文審査合格を議決した日以降、「学位取得証明書」を発行できるものとする。

3 学位の授与手続きは、次の通りとする。

イ 研究科委員会の合否判定議決に基づき、研究科委員長はその結果を速やかに学長に報告する。

ロ 学長は、研究科委員長の報告に基づき合格者に学位を授与する。

4 学位記は、学位授与式において授与する。

第3条 修士の学位授与及び博士課程に在学している者に対する課程博士の学位授与に関しては、前第2条第3号と同様の手続きを経て当該年度末（3月23日）をもって学位を授与する。

② 前項の規定にかかわらず、修士課程においてあらかじめ研究科委員会の承認を得て、学位論文を提出締切期日までに提出せず次年度も引続き在学している者が、研究科委員会の特に認めた期日までに学位論文を提出し課程修了を認定された場合には、春学期末日をもって学位を授与することができる。

③ 第1項の規定にかかわらず、後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）に在学する者で、大学院学則第109条第3項のただし書（医学研究科については同条第4項のただし書）の適用を受け、春学期末日をもって課程修了を認定された場合には、当該春学期末日をもって学位を授与することができる。

④ 前項の規定にかかわらず後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）に在学する者で、大学院学則第109条第3項のただし書（医学研究科については同条第4項のただし書）の適用を受け、在学する年度途中において特に課程修了を認定された場合には、認定された日をもって学位を授与することができる。

⑤ 第1項の規定にかかわらず、「大学院在学期間延長者取扱い内規」により在学する者が、春学期末日をもって課程修了を認定された場合には、当該第1学期末日をもって学位を授与することができる。

⑥ 前項の規定にかかわらず、「大学院在学期間延長者取扱い内規」により在学する者が、在学する年度途中において、特に課程修了を認定された場合には、認定された日をもって学位を授与することができる。

⑦ 学位記は、学位授与式において授与する。

第4条 学長は、学位を授与した者の氏名その他必要事項を取りまとめて、年2回大学院委員会の各委員に報告しなければならない。

第5条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

附 則（平成8年3月8日）

第1条 この内規は、平成12年4月1日から実施する。

第2条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

2 奨学金

2-1 大学院奨学規程

平成2年4月13日制定

平成6年2月4日改正

平成10年4月21日改正

平成17年6月3日改正

第1章 総 則

第1条（根拠） 慶應義塾大学は、慶應義塾大学大学院学則（大正9年5月5日制定。以下「大学院学則」という。）第16節奨学制度に基づき、貸費及び給費の奨学制度を置く。

第2条（奨学金の種類・金額） ① 奨学金の種類は、次の通りとする。

1 貸費奨学金（無利子） 修士課程（前期博士課程）学生対象（但し、外国人留学生を除く。）

2 給費奨学金 後期博士課程（以下「博士課程」という。）学生、医学研究科博士課程学生、私費外国人留学生対象

② 前項に定める奨学金の年額は、次の通りとする。

1 文、経済、法、社会、商学研究科 400,000円

2 医学、経営管理研究科 600,000円

3 理工学、政策・メディア研究科 500,000円

第2章 貸費生

第3条（資格） 貸費生の資格は、大学院修士課程の学生（但し、外国人留学生を除く。）とし、次の条件を備えていなければならない。

1 研究の意欲を持ち、経済的に修学が困難であること。

2 学業成績・人物共に優秀で健康であること。

3 原則として、修士課程1年生であること。

第4条（期間） 貸費の期間は、大学院学則に定める修士課程標準修業年限の2か年とする。但し、修士課程2年生が貸費生に採用された場合は、1か年とする。

第5条（申請） 貸費を受けようとする者は、所定の申請書に学業成績証明書、健康診断書及び連帯保証人等の所得証明書を添えて、学生総合センターに申請するものとする。

第6条（選考） 貸費生は、第3条の条件により選考する。

第7条（決定） 前条による選考は、別に定める大学院奨学委員会（以下「委員会」という。）において行い、塾長がこれを決定する。

第8条（家計急変者に対する救済措置等） 天災その他の災害及び家計支持者の死亡、失職等のため家計が急激に変化し、学費の納入が困難になった者等若干名については、第3条第3号の規定にかかわらず、貸費生として追加採用することができる。

第9条（誓約書） 貸費生として決定された者は、所定の誓約書を連帯保証人と連署の上、学生総合センターに提出しなければならない。

第10条（身分等変更の届出） 貸費生は、次の各号に該当する場合は、直ちに学生総合センターに届け出なければならない。但し、本人の病氣・死亡などの場合は、連帯保証人が代わって届け出なければならない。

1 休学、留学、就学、退学

2 本人及び連帯保証人の氏名、住所、その他重要事項の変更

第11条（貸与の休止） 委員会は、貸費生が休学・留学した場合、その間貸費生の資格を休止することができる。

第12条（貸与の復活） 前条の規定により貸費生の資格を休止された者が、休止の理由となったものが消滅した場合、委員会は、申請により貸与を復活することができる。但し、休止された時から3か年を経過したときは、この限りではない。

第13条（失格） 委員会が次の各号により不適格と認めた場合、貸費生はその資格を失う。

1 大学院学則に基づく退学、停学の場合

2 申請書及び提出書類の記載内容に虚偽があった場合

3 正当な理由がなく第10条に定める届け出を怠った場合

4 その他貸費生として不適当と認められた場合

第14条（貸与の辞退） 貸費生は、いつでも貸与を辞退することができる。この場合には、連帯保証人と連署の届出書を、学生総合センターに提出しなければならない。

第15条（貸与金借用証書の提出） 貸費生が次の各号に該当する場合は、貸与金借用証書に貸与金返還総額等を記載し、連

帯保証人及び保証人と連署の上、学生総合センターに提出しなければならない。連帯保証人及び保証人の使用する印鑑については、印鑑証明を必要とする。

- 1 貸与期間が満了した場合
- 2 貸与を期間中に辞退した場合
- 3 第13条による失格の場合

第16条（貸与金の返還） ① 貸与金の返還は、原則として貸与が終了した年の12月から毎年1回の年賦とし、貸与年数の4倍の年数以内に全額を返還するものとする。但し、貸与金はいつでも繰り上げ返還することができる。

② 第13条による失格者については、貸与金の全額を直ちに返還しなければならない。

第17条（返還猶予） ① 貸費生であった者が次の各号に該当する場合には、委員会は、本人の申請により貸与金の返還を猶予することができる。

- 1 災害又は疾病により返済が困難となった場合
- 2 貸与期間終了後、引き続き修士課程に在学している場合
- 3 修士課程修了後、博士課程進学を目指している場合

② 前項の規定にかかわらず、委員会は、その理由が相当であると認めるときは、申請により貸与金の返還を猶予することができる。

③ 返還猶予期間は1か年とするが、返還猶予の理由が存続する場合は、第1項第3号に基づく場合を除いて、申請により1年ごとに延長することができる。但し、原則として3か年を越えて延長することはできない。

第18条（返還免除） ① 貸費生であった者が次の各号に該当する場合には、委員会は、本人又は連帯保証人の申請により、貸与金の全部又は一部の返還を免除することができる。

- 1 博士課程に進学し、学位を取得した場合、あるいは博士課程に3か年以上在学して所定の単位を取得し退学した場合。但し、博士課程を途中で退学した者については免除を認めない。
- 2 貸与金返還完了前に死亡した場合。この場合には、連帯保証人又は相続人は、死亡時から6か月以内に、貸与金返還免除申請書を、死亡診断書又は戸籍抄本を添えて、学生総合センターに提出しなければならない。

② 前項の規定にかかわらず、委員会は、その理由が相当であると認めるときは、申請により貸与金の全部又は一部の返還を免除することができる。

第3章 給費生

第19条（資格） 給費生の資格は、大学院博士課程学生及び私費外国人留学生とし、次の条件を備えていなければならない。

- 1 研究の意欲を持ち、経済的に修学が困難であること。
- 2 学業成績・人物共に優秀で健康であること。

第20条（期間） 給費の期間は、1か年とする。引き続き給費を希望する場合、再申請は妨げないが、3か年（医学研究科は4か年）を超えて給費を受けることはできない。

第21条（申請） 給費を受けようとする者は、所定の申請書に、学業成績証明書、健康診断書及び連帯保証人等の所得証明書を添えて、学生総合センターに申請するものとする。

第22条（選考） 給費生は、第19条の条件により選考する。

第23条（決定） 前条による選考は、委員会において行い、塾長がこれを決定する。

第24条（身分等変更の届出） 給費生は、次の各号に該当する場合は、直ちに学生総合センターに届け出なければならない。但し、本人の病気・死亡などの場合は、連帯保証人が代わって届け出なければならない。

- 1 休学、留学、退学
- 2 本人及び連帯保証人の氏名、住所、その他重要事項の変更

第25条（失格） 委員会が次の各号により不適格と認めた場合、給費生はその資格を失う。

- 1 大学院学則に基づく休学、退学、停学の場合
- 2 申請書及び提出書類の記載内容に虚偽があった場合
- 3 正当な理由がなく第24条に定める届け出を怠った場合
- 4 その他給費生として不適格と認められた場合

第26条（返還） ① 給費生が前条の規定により給費生としての資格を失った場合は、既にその年度に給付された金額の全部又は一部を返還しなければならない。委員会は、この場合の返還方法を、審査の上定める。

② 前項の規定にかかわらず、次の各号に該当する場合は、委員会は、申請により既に給付された奨学金の全部又は一部の返還を免除することができる。

- 1 死亡した場合
- 2 第25条第1号の規定により、給費生として資格を失った場合

第27条（事務） 本制度の運営事務は、学生総合センターの所管とする。

第28条（規定の改廃） この規程の改廃は、委員会の議を経て、塾長がこれを行う。

附 則

① この規程は、平成3年4月1日から施行し、平成3年度大学院課程入学者から適用する。

② この規程の制定により、昭和52年4月12日制定、同年4月1日施行の慶應義塾大学大学院奨学規程は、これを旧・慶應義塾大学大学院奨学規程とする。

③ 平成3年3月31日以前の課程入学者については、旧・慶應義塾大学大学院奨学規程を適用する。

附 則（平成6年2月4日）

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附 則（平成10年4月21日）

① この規程は、平成10年4月1日から施行する。

② 平成3年3月31日以前の課程入学者については、旧・慶應義塾大学大学院奨学規程を適用する。

③ 平成10年4月1日以後の修士課程（前期博士課程）第1学年入学者については、本規程第3条から第18条を適用しない。

④ 平成10年4月1日以後の修士課程（前期博士課程）入学者を、本規程第2条第1項第2号及び第19条の対象に加えるものとする。

附 則（平成17年6月3日）

この規程は、平成17年6月3日から施行する。

2-2 小泉信三記念大学院特別奨学金規程

昭和52年4月12日制定

昭和54年7月27日改正

平成14年5月1日改正

平成16年3月15日改正

第1条 小泉信三記念奨学金規程（昭和52年4月12日制定）第2条第1号に基づき、研究者の養成を目的として大学院に特別奨学金による奨学研究生を置く。

第2条 奨学研究生は、学部第4学年に在学し大学院への進学を志願する学生、または大学院に在学する学生の中から、これを選考する。

第3条 奨学研究生の選考は、各研究科委員会の推薦により、小泉基金運営委員会の議を経て学長がこれを決定する。

第4条 奨学研究生には特別奨学金として、月額30,000円を給付し、その期間は1年とする。ただし、審査の上、この期間を更新することができる。

第5条 この特別奨学金規程に関する事務は、研究支援センター本部が担当する。

第6条 この規程に関する細則は別に定める。

付 則

① この規程は、昭和52年4月1日から施行する。

② 現行小泉信三記念大学院特別奨学金規程は旧・小泉信三記念大学院特別奨学金規程とする。

付 則（昭和54年7月27日）

この規程は、昭和54年9月1日から施行する。

附 則（平成14年5月1日）

この規程は、平成14年5月1日から施行する。

附 則（平成16年3月15日）

この規程は、平成16年3月15日から施行する。

支給した奨学金の全部もしくは一部を返還させることがある。

1 この奨学金設定の趣旨に反し、かつ塾生としての本分もとる行為があった場合

2 提出書類に虚偽の記載をした場合

3 正当な理由なく第5条に定める届け出を怠った場合

第7条 奨学研究生が退学した場合は、給付を打ち切るものとする。

付 則

① この細則は、昭和52年4月1日から施行する。

② 現行小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則は旧・小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則（昭和43年3月26日制定）とする。

付 則（昭和54年7月27日）

この細則は、昭和54年9月1日から施行する。

附 則（平成14年5月1日）

この細則は、平成14年5月1日から施行する。

附 則（平成16年3月15日）

この細則は、平成16年3月15日から施行する。

2-3 小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則

昭和52年4月12日制定

昭和54年7月27日改正

平成14年5月1日改正

平成16年3月15日改正

第1条 小泉基金運営委員会委員長は、毎年奨学研究生を公募する。

第2条 奨学研究生は、大学院に在学し、次に掲げる各号の条件を備えていなければならない。

- 1 学業成績・人物共に優秀であること
- 2 将来、研究者たり得る資質ありと認められること
- 3 健康であること

第3条 奨学研究生を志望する者は、次の書類を整えて、保証人連署の上、研究支援センター本部に提出しなければならない。

- 1 願 書
- 2 履歴書
- 3 成績証明書 大学学部1年から申請時までの成績証明書
- 4 健康診断書

第4条 各研究科委員会は、奨学研究生を志望した者について審議し、順位を付して小泉基金運営委員会に推薦しなければならない。

第5条 奨学研究生は、次の理由により身分に変更を生じた場合は、保証人連署の上、直ちに学長に届け出なければならない。

- 1 休学・復学・退学
- 2 本人及び保証人の身分・住所その他重要事項の変更。ただし、本人が病気・死亡等の場合は、保証人が代って届け出なければならない。

第6条 小泉基金運営委員会が、次の理由により不適格と認められた場合は、奨学研究生としての資格を失うものとし、すでに

3 授業料減免

3-1 授業料等減免規程

平成元年7月18日制定

平成11年11月26日改正

平成14年7月12日改正

平成16年7月27日改正

第1条（目的） 慶應義塾大学は、疾病・傷害によって授業を長期にわたり休学している学部学生並びに大学院生で、経済上授業料等（大学院にあっては在学科等、以下授業料等という。）の納入が著しく困難な学生に対し、審査のうえ、一定の期間授業料等を減免することが出来る。

第2条（対象） ① 減免を受けようとする者は、1年以上の長期にわたり入院又は通院している者並びに自宅療養をしている者で、休学の2年目以降の者でなければならない。

② 母国において兵役に就くために休学する者。この場合に限り1年目から減免する。

③ 法務研究科（法科大学院）については別に定める。

第3条（申請） 前条に該当する者が減免を申請する場合は、所定の申請書に休学許可書、診断書並びに家計支持者の所得を証明する書類を添えて、学生総合センター長に提出しなければならない。

第4条（減免額） ① 減免を認められた者の減免額は、文科系学部・同大学院研究科については授業料等の半額、医学部・同大学院研究科、理工学部・同大学院研究科、総合政策学部、環境情報学部、大学院政策・メディア研究科及び看護医療学部については授業料等の半額及び実験実習費の半額とする。なお、経済学研究科、法学部政治学科、理工学研究科、総合政策学部、環境情報学部、大学院政策・メディア研究科及び看護医療学部は、休学期間が6か月毎のため減免額も半年分の半額とする。

② 正課又は課外活動中の事故による傷害で休学している場合、その事由を斟酌し、減免額を全額とすることができる。

③ 母国において兵役義務により休学する場合は、当該休学期間の授業料等の全額を免除する。

第5条（審査） 第1条による審査は、大学学部生については大学奨学委員会、大学院生については大学院奨学委員会が行い、塾長が決定する。

第6条（減免の取消し） 休学者が虚偽の申請その他不正の方法で減免を受けた場合には、減免の措置を取り消すとともに、既に減免を受けた授業料等の全部又は一部を納入させることが出来る。

第7条（就学の届出） 休学者が就学した時は、速やかに書面をもってその旨学生総合センター長に届け出なければならない。

第8条（規程の改廃） この規程の改廃は、大学奨学委員会並びに大学院奨学委員会の議を経て、塾長が決定する。

第9条（所管） この規程の運営事務は、学生総合センターの所管とする。

附 則

この規程は、平成2年4月1日から施行する。

附 則（平成11年11月26日）

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附 則（平成14年7月12日）

この規程は、平成14年8月1日から施行する。

附 則（平成16年7月27日）

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

3-2 留学期間中の学費の取り扱いに関する規程

平成元年5月23日制定

平成12年5月30日改正

第1条 慶應義塾大学学部学則（大正9年5月5日制定）第153条及び慶應義塾大学大学院学則（大正9年5月5日制定）第124条により外国の大学に留学する学生（以下留学生という。）の学費に関する取り扱いは、この規程の定めるところによる。

第2条 留学期間中の学費の取り扱いは、次の通りとする。

1 留学の始まる日（以下留学開始日という。）の属する年度の学費は納入するものとする。但し、留学の奨励を図るため、別に定めるところにより、留学に要する経費の一部を補助することがある。

2 留学の延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して1年6か月以上2年以内（医学研究科博士課程は2年6か月以上3年以内）の場合は、留学開始日から1年（医学研究科博士課程は2年）を経過した日の属する年度の授業料（在学科）及び実験実習費の半額を免除する。

3 留学の再延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して2年6か月以上3年以内（医学研究科博士課程は3年6か月以上4年以内）の場合は、留学開始日から2年（医学研究科博士課程は3年）を経過した日の属する年度の授業料（在学科）及び実験実習費の半額を免除する。

第3条 留学生が留学の許可を取り消された場合は、その間に免除した学費の一部又は全額を納入させることがある。

第4条 この規程の適用に当たり疑義を生じた場合は、その都度塾長が決定する。

第5条 この規程の改廃は、塾長がこれを決定する。

附 則

① この規程は、平成2年4月1日から施行する。

② この規程の制定により、昭和56年5月12日制定、同年4月1日施行の留学期間中の学費の取り扱いに関する規程は、これを旧・留学期間中の学費の取り扱いに関する規程とする。

③ この規程は、留学開始日が平成2年4月1日以降の者に適用する。

④ この規程の施行前、既に留学を許可され留学している者の学費については、旧・留学期間中の学費の取り扱いに関する規程を適用する。

附 則（平成12年5月30日）

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

4 その他

4-1 大学院在学期間延長者取扱い内規

昭和59年3月16日制定

第1条 本塾大学大学院後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）において、当該課程修了要件のうち学位論文の審査並びに最終試験を除き所定の教育課程を終えた後、引続き博士學位取得のため在学する者の取扱いは、この内規の定めるところによる。

第2条 在学期間延長を希望する者は、指導教授の許可を得て研究科委員会に「在学期間延長許可願」を提出し、承認を得なければならない。

第3条 研究科委員会は、研究継続の必要性等在学を延長する充分な理由があると認め、かつ教育並びに研究に支障のない場合、大学院学則第128条に定める在学最長年限を超えない範囲で引続き1年間（4月1日～翌年3月31日）の在学を許可できるものとする。

第4条 在学期間延長者が延長期間終了後も引続き在学を希望するときには、新たに「在学期間延長許可願」を提出し、研究科委員会の承認を得なければならない。

第5条 学則定員その他の理由から延長が認められない場合は、大学院学則第153条に定める研究生として受け入れることができる。

付 則

第1条 この内規は、昭和59年4月1日から施行する。

第2条 この内規は、昭和58年度以降に医学研究科博士課程に入学した者並びに昭和60年度以降に後期博士課程に入学又は進学した者に適用する。

第3条 付則第2条の規定にかかわらず、博士課程所定単位修得退学者に対して課程による学位論文提出年限を「博士学位に関する内規」に沿って定めている研究科に在学する者については、昭和59年4月1日からこの内規を適用することができる。

第4条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

4-2 大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学科その他の学費に関する取扱い内規

昭和59年3月30日制定

平成8年3月8日改正

第1条 本塾大学大学院において「学位の授与に関する内規」第3条第2項若しくは第3項により第1学期末日をもって課程修了する者の学費は、次の通りとする。

- 1 在学科（毎年）
大学院学則第131条に定める金額の2分の1に相当する額
- 2 施設設備費（毎年）
大学院学則第131条に定める金額
- 3 実験実習費（毎年）
大学院学則第132条に定める金額

第2条 本塾大学大学院後期博士課程（医学研究科にあつては博士課程）において「大学院在学期間延長者取扱い内規」による在学期間延長者の学費は、次の通りとする。

- 1 在学科（毎年）
大学院学則第131条に定める金額の4分の3
- 2 施設設備費（毎年）
免除
- 3 実験実習費（毎年）
大学院学則第132条に定める金額

② 在学期間延長者が「学位の授与に関する内規」第3条第4項および第5項により年度途中の日をもって課程修了する場合の在学科は、その課程修了の日が第1学期末日までの者に限り前項に定める金額の2分の1に相当する額。

第3条 「大学院在学期間延長者取扱い内規」第5条による研究生は、大学院学則第153条第2項に定める登録料を免除し、初年度に限り選考料を徴収しない。

附 則

第1条 この内規は、平成8年4月1日から施行する。

第2条 この内規の修士課程に係る本則第1条については、昭和59年4月1日から適用する。

第3条 この内規の後期博士課程（医学研究科にあつては博士課程）に係る本則第2条及び第3条については、昭和58年度以降に医学研究科博士課程に入学した者並びに昭和60年度以降に後期博士課程に入学又は進学した者に適用する。

② 前項の規定にかかわらず、博士課程所定単位修得退学者に対して課程による学位論文提出期限を「博士学位に関する内規」に沿って定めている研究科に在学する者については、昭和59年4月1日からこの内規を適用することができる。

第4条 この内規の改廃は、塾長が決定する。

学位請求論文製本表紙見本

(1) 表紙

○○論文 平成○年度（20○○）	
<table border="1" style="width: 80%; margin: auto;"> <tr> <td style="text-align: center; padding: 10px;"> 論 題 </td> </tr> </table>	論 題
論 題	
慶應義塾大学 大学院 文学研究科 ○○○ 専攻 ○○○ 分野	
<table border="1" style="width: 80%; margin: auto;"> <tr> <td style="text-align: center; padding: 10px;"> 氏 名 </td> </tr> </table>	氏 名
氏 名	

※ 「○○○ 分野」の記載は、史学専攻のみ

(2) 背表紙

	} 1.0 cm
20○○	
	} 1.0 cm
○ ○ 論文	
	} 1.0 cm
論	
題	
氏	
名	
	} 5.0 ~ 6.0 cm

塾生、保護者・保証人の方々にかかわる個人情報の取扱い

- 1 義塾の学生・生徒・児童等の主な個人情報は、次のとおりです。
 - ① 塾生本人の氏名・住所・電話番号・生年月日・出身校等
 - ② 保護者・保証人の氏名・住所・電話番号（自宅および緊急連絡先）・本人との続柄等
 - ③ 塾生等の学籍・成績・健康診断・在学中のその他の活動履歴情報，寄付金・慶應カードの申し込みデータなど

- 2 個人情報を取り扱うに当たっては，あらかじめ利用目的を特定し，明示いたします。特定した利用目的以外には利用しません。また，利用目的を変更する場合は，本人に通知するか，義塾のホームページへの掲載，所定掲示板への掲示等により公表いたします。

- 3 個人情報は，以下の諸業務遂行のために利用します。
 - ① 入学手続および学事に関する管理，連絡および手続
 - ② 学生生活全般に関する管理，連絡および手続
 - ③ 大学内の施設・設備利用に関する管理，連絡および手続
 - ④ 寄付金，維持会・慶應カードの募集等に関する書類発送およびその他の連絡
 - ⑤ 本人および保護者・保証人に送付する各種書類の発送
 - ⑥ 卒業後の刊行物の発送，評議員選挙および寄付金・維持会・慶應カードの募集等に関する各種書類送付とこれらに付随する事項

- 4 上記3の業務のうち，一部の業務を慶應義塾から当該業務の委託を受けた受託業者において行います。業務委託に当たり，受託業者に対して委託した業務を遂行するために必要となる範囲で，個人情報を提供することがあります。

- 5 三田会または同窓会から要請があったときは，当該三田会または同窓会に所属する者の個人情報を当該組織の活動に必要な範囲で提供することがあります。

- 6 慶應義塾は，上記3～5の利用目的の他には，特にお断りする場合を除いて個人情報を利用もしくは第三者への提供をいたしません。ただし，法律上開示すべき義務を負う場合や，塾生本人または第三者の生命，身体，財産その他の権利利益を保護するために必要であると判断できる場合，その他緊急の必要があり個別の承諾を得ることができない場合には，例外的に第三者に個人情報を提供することがあります。

- 7 慶應義塾の個人情報保護に関する規程は，URL (<http://www.keio.ac.jp/kojinjoho/kojinjoho-toriatukai>) でご覧頂くことができます。

三田キャンパス構内マップ

